

糸島市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
調査結果報告書

令和8年3月
糸 島 市

目 次

I. 調査の概要及び回答者特性	1
1 調査実施の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の対象と調査地域	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査期間	1
(5) 調査項目	1
(6) 回収状況	2
(7) 調査結果利用上の留意事項	2
2 日常生活圏域について	3
3 回答者の基本属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢構成	7
(3) 住まいの状況	7
(4) 要介護度	8
(5) 生活機能低下者の該当状況	8
(6) 日常生活圏域の状況	11
4 家族や生活状況について	13
(1) 家族構成	13
(2) 介護・介助の必要度合い	14
(3) 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）	15
(4) 主に介護・介助を受けている人（複数回答）	17
(5) 現在の暮らしの経済的状況	20
II. 調査結果	21
1 生活機能	21
(1) 運動器	21
(2) 閉じこもり	23
(3) 転倒	31
(4) 栄養	33
(5) 口腔機能	37
(6) 認知症	41
(7) 虚弱	43
(8) 生活機能の低下状況	46
2 日常生活	48
(1) 手段的自立度（IADL）低下者	48
(2) 社会参加者	50
(3) 友人・知人と会う頻度	57
(4) この1か月に会った友人・知人の数	58
(5) よく会う友人・知人との関係（複数回答）	59
(6) うつ傾向	62
3 健康・疾病	66

(1) 主観的健康感（あなたの健康状態）	66
(2) 有病率（現在、治療中または後遺症のある病気）（複数回答）	68
4 生活習慣	71
(1) 肥満	71
(2) 飲酒の頻度	73
(3) 喫煙の頻度	74
(4) 毎日の歯磨き実施	75
(5) 歯の本数と入れ歯の利用状況	76
(6) 歯の噛み合わせの良さ	77
(7) 毎日の入れ歯の手入れ実施状況	78
5 介護・介護予防	79
(1) 普段の生活における介護・介助の必要性	79
(2) 介護が必要になった際の意向	81
(3) フレイルの認知状況	83
(4) 介護予防を目的とした事業への参加経験有無	84
(5) 参加したことがある事業（複数回答）	86
(6) どのような効果があったと思うか（複数回答）	89
(7) 健康維持や介護予防について知りたいこと（複数回答）	92
(8) 健康維持や介護予防に役立つ情報の入手手段（複数回答）	95
(9) 耳の聞こえに関して	98
(10) 補聴器の所持状況	100
(11) 補聴器の使用状況	101
(12) 補聴器を使っていない理由	102
6 相談・支援	104
(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手（複数回答）	104
(2) 地域包括支援センターの認知度	106
(3) 高齢化に対応するために望まれる活動・体制（3つまで回答）	107
(4) 自分や家族に認知症の症状があるか	109
(5) 認知症に関する相談窓口の認知度	110
(6) 知っている認知症相談窓口（複数回答）	112
(7) 認知症になったとき相談や支援を受けたいか	115
7 地域社会への参加等に関する意識	117
(1) 趣味の有無	117
(2) 生きがいの有無	118
(3) 現在、感じている生きがい（喜びや楽しみ）の程度	119
(4) 生きがいを感じるとき（複数回答）	121
(5) 自主的に行われている活動への参加意向（複数回答）	123
(6) 自主的に行われている活動に参加するためのきっかけ（複数回答）	125
(7) 参加したい団体や組織（複数回答）	127
(8) 地域の奉仕活動に参加するための条件（複数回答）	129
(9) 健康づくり活動や趣味のグループに参加者として参加したいか	131
(10) 健康づくり活動や趣味のグループに企画・運営（お世話役）として参加したいか	132
(11) あなたができる地域支援や協力（複数回答）	133
8 就労	135

(1) 現在の就労状況.....	135
(2) 就労形態（複数回答）	136
(3) 引退した年齢	138
(4) 求職状況	139
9 移動（外出）支援	140
(1) 外出する上で困っていること（複数回答）	140
(2) 車を運転できない理由	143
(3) 一番近いバス停や駅までの距離	145
(4) 住民どうしの移動支援についての利用意向	147
(5) 住民どうしの移動支援を利用したい場面（複数回答）	149
10 居住支援	152
(1) 住まいに関する困りごと	152
(2) 住まいに関する困りごとの内容（複数回答）	154
(3) 転居したいができない理由	157
(4) あると良い居住支援（複数回答）	158
11 終活支援	161
(1) 成年後見制度の認知度	161
(2) 亡くなった後の諸手続きをしてくれる人の有無	163
(3) 終活について検討していること（複数回答）	165
(4) あると良い終活支援（複数回答）	168
(5) 人生の最期を過ごしたい場所（複数回答）	170
Ⅲ. 日常生活圏域の特性	172
1 前原東圏域の特性	172
(1) 圏域全体の特性	172
(2) 小学校区ごとの特性	173
2 前原西圏域の特性	176
(1) 圏域全体の特性	176
(2) 小学校区ごとの特性	177
3 前原圏域の特性	180
(1) 圏域全体の特性	180
(2) 小学校区ごとの特性	181
4 二丈圏域の特性	184
(1) 圏域全体の特性	184
(2) 小学校区ごとの特性	185
5 志摩圏域の特性	188
(1) 圏域全体の特性	188
(2) 小学校区ごとの特性	189

I 調査概要及び回答者特性

I

調査概要及び回答者特性

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

本調査は、高齢者の生活状況や健康状態、社会参加に関する意識などを把握し、健康寿命の延伸に向けた健康づくり・生きがいくりの取組への個別的な支援に活用します。

また、日常生活圏域ごとの特性から地域課題を把握して、今後の保健福祉行政に活かすとともに「糸島市高齢者保健福祉計画・第10期（令和9年度～11年度）介護保険 事業計画」を策定する際の基礎資料とします。

(2) 調査の対象と調査地域

調査対象：令和7年10月31日現在市内に居住する65歳以上の高齢者5,000人
（要介護認定者を除く）

調査地域：市内全域（日常生活圏域5圏域）

(3) 調査方法

配布：郵送

回収：郵送または各校区コミュニティセンター、健康福祉センターあごら・ふれあい、介護予防センターはつらつ館に設置の回収箱に投函

(4) 調査期間

令和7年11月21日（金）～ 令和7年12月22日（月）

(5) 調査項目

- ・家族や生活状況について
- ・からだを動かすことについて
- ・食えることについて
- ・毎日の生活について
- ・地域での活動について
- ・就労について
- ・たすけあいについて
- ・健康について
- ・認知症にかかる相談窓口の把握について
- ・介護予防について
- ・地域での支援・高齢者福祉サービスについて
- ・地域社会への参加等に関する意識について
- ・移動（外出）支援について
- ・居住支援について
- ・終活支援について

(6) 回収状況

圏域名	配布数	回収数	回収率
前原東	1,327	823	62.0%
前原西	1,268	776	61.2%
前原	734	456	62.1%
二丈	753	448	59.5%
志摩	918	544	59.3%
合計（有効回答）	5,000	3,047	60.9%
記載不備（無効回答）	—	31	—
総 数	5,000	3,078	61.6%

要介護度別	配布数	回収数	回収率
一般高齢者	4,608	2,828	61.4%
事業対象者	34	18	52.9%
要支援	358	211	56.1%
要支援 1	167	93	55.7%
要支援 2	191	108	56.5%
合計（有効回答）	5,000	3,047	60.9%
記載不備（無効回答）	—	31	—
総 数	5,000	3,078	61.6%

(7) 調査結果利用上の留意事項

- ・文章や表、グラフ中の回答割合（相対度数）は百分比のポイント以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがあります。
- ・2つ以上の回答を求めた（複数回答）質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超えます。
- ・数表等に記載された「N」は、回答割合算出上の基数（回答者数）を示しており、回答の割合はNを分母とした回答割合です。
- ・前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出しています。
- ・文中では選択肢（変数）を「 」で示しています。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがあります。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示しています。
- ・無回答を除いてクロス集計した結果の回答割合（相対度数）は、無回答を含む単純集結果の割合（相対度数）と一致していない場合があります。
- ・本調査結果において、基数（回答者数）が少ないものについては、その結果は参考程度に留め、分析コメントを省略する場合があります。

2 日常生活圏域について

本市では、5つの日常生活圏域を設定しており、各圏域の地域包括支援センターを中核として、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に行い、生活支援・介護予防の一体的な支援と地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

調査結果は、日常生活圏域ごとに、高齢者の個別のニーズを集約し、地域課題を抽出します。



項目	内容	
総人口	104,098 人	
高齢者人口	31,716 人（前期高齢者 14,278 人 / 後期高齢者 17,438 人）	
高齢化率	30.5%（前期高齢者 13.7% / 後期高齢者 16.8%）	
総世帯数	47,421 世帯	
認定者数	5,033 人（うち第1号被保険者 4,959 人）	
	要支援1・2認定者	1,785 人（うち1号 1,754 人）
	要介護1～5認定者	3,248 人（うち1号 3,205 人）
認定率	15.8%（第1号被保険者）	
地域包括支援センター		5 か所

（令和7年9月末現在）

【前原東圏域】

単位：人、％

小学校区	総人口	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢 化率
波多江	12,550	1,477	1,986	3,463	27.6
東風	10,010	1,021	1,141	2,162	21.6
怡土	6,874	1,226	1,540	2,766	40.2
合 計	29,434	3,724	4,667	8,391	28.5

(令和7年9月末現在)

糸島市前原東地域包括支援センター
 【波多江・東風・怡土校区担当】
 住所：潤 1-22-1
 市健康福祉センターあごら内



【前原西圏域】

単位：人、％

小学校区	総人口	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢 化率
前原	12,388	1,578	1,612	3,190	25.8
南風	8,282	967	1,071	2,038	24.6
加布里	7,495	1,154	1,510	2,664	35.5
合 計	28,165	3,699	4,193	7,892	28.0

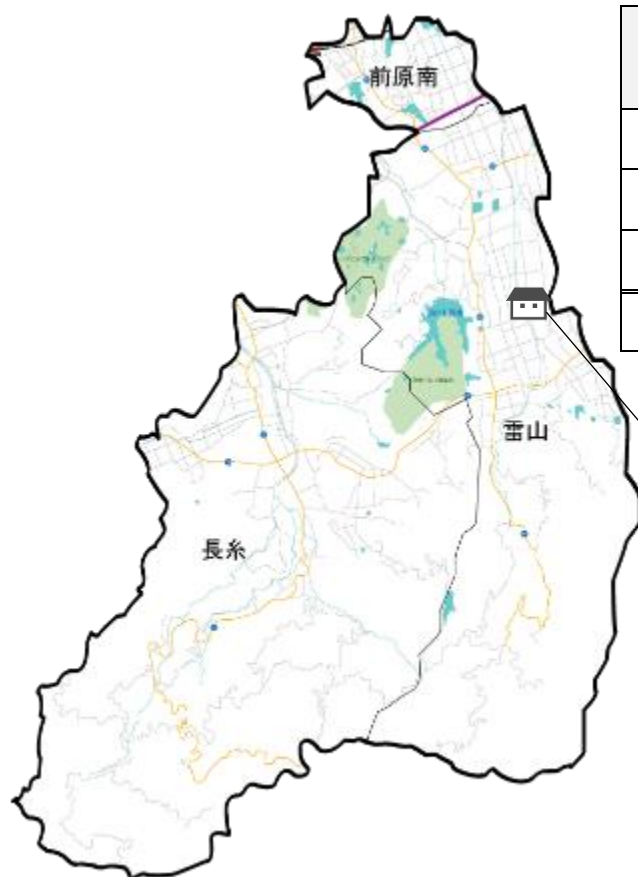
(令和7年9月末現在)



糸島市前原西地域包括支援センター
 【前原・南風・加布里校区担当】
 住所：富 508-4
 特別養護老人ホーム富の里内

【前原圏域】

単 位：人、%



小学校区	総人口	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢 化率
前原南	11,330	1,209	1,549	2,758	24.3
長糸	1,820	318	384	702	38.6
雷山	4,023	540	680	1,220	30.3
合 計	17,173	2,067	2,613	4,680	27.3

(令和7年9月末現在)

糸島市前原地域包括支援センター
 【前原南・長糸・雷山校区担当】
 住所：高上 171
 特別養護老人ホームマイネスハウス内

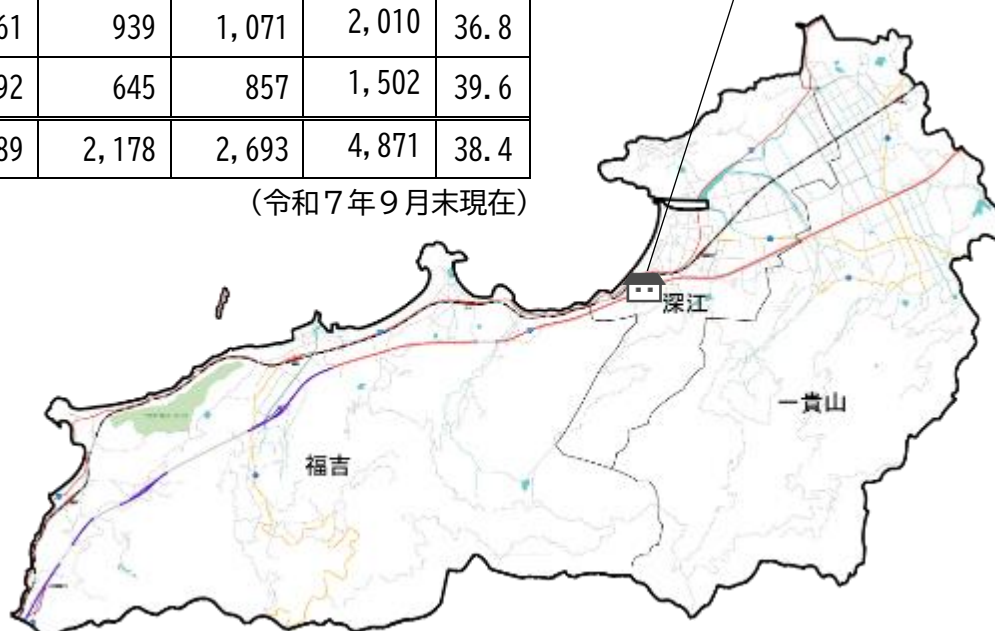
【二丈圏域】

単位：人、%

小学校区	総人口	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢 化率
一貴山	3,436	594	765	1,359	39.6
深江	5,461	939	1,071	2,010	36.8
福吉	3,792	645	857	1,502	39.6
合 計	12,689	2,178	2,693	4,871	38.4

(令和7年9月末現在)

糸島市二丈地域包括支援センター
 【一貴山・深江・福吉校区担当】
 住所：二丈深江 1293-1
 市高齢者福祉施設二丈苑内

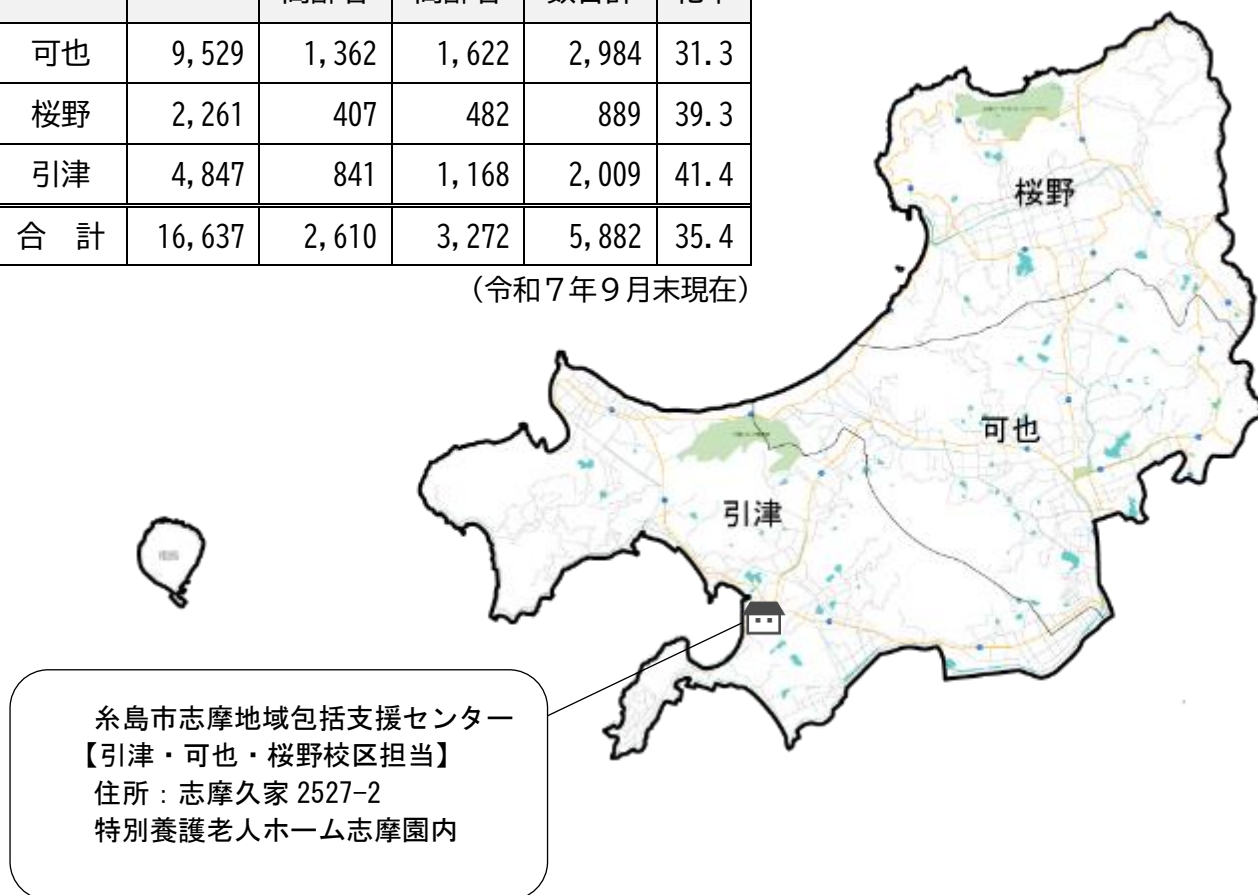


【志摩圏域】

単位：人、％

小学校区	総人口	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢 化率
可也	9,529	1,362	1,622	2,984	31.3
桜野	2,261	407	482	889	39.3
引津	4,847	841	1,168	2,009	41.4
合 計	16,637	2,610	3,272	5,882	35.4

(令和7年9月末現在)

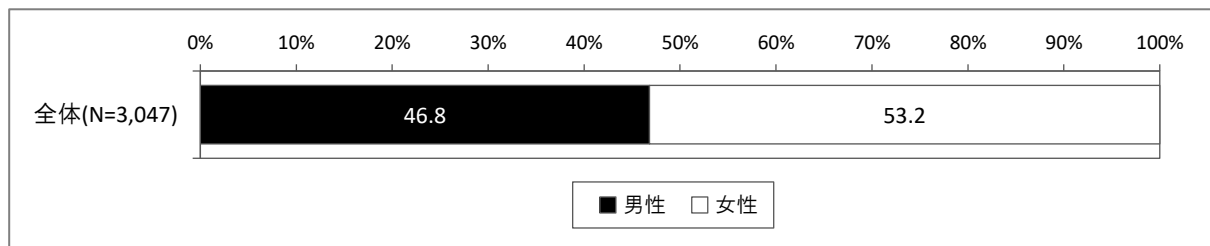


3 回答者の基本属性

(1) 性別

【市全体】

回答者の性別をみると「男性」の割合が46.8%、「女性」の割合が53.2%となっている。

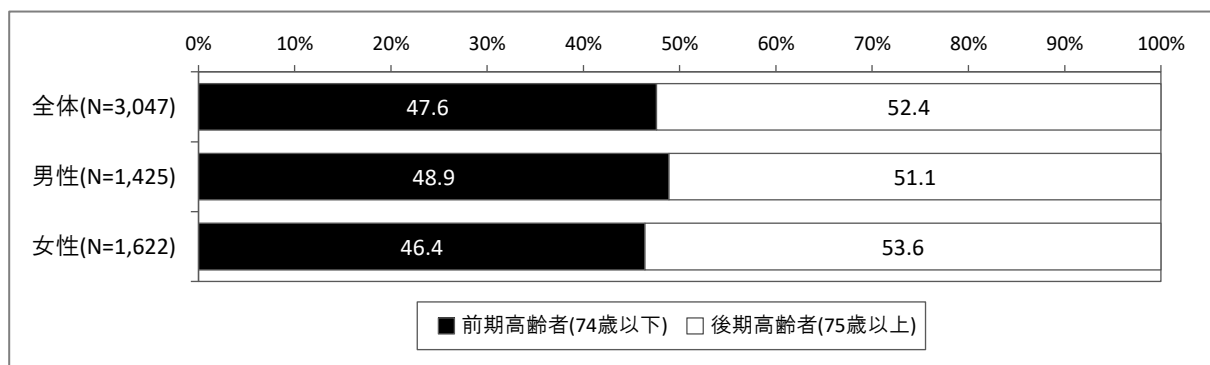


(2) 年齢構成

【市全体・性別】

市全体でみると、「前期高齢者（74歳以下）」の割合が47.6%、「後期高齢者（75歳以上）」の割合が52.4%となっている。

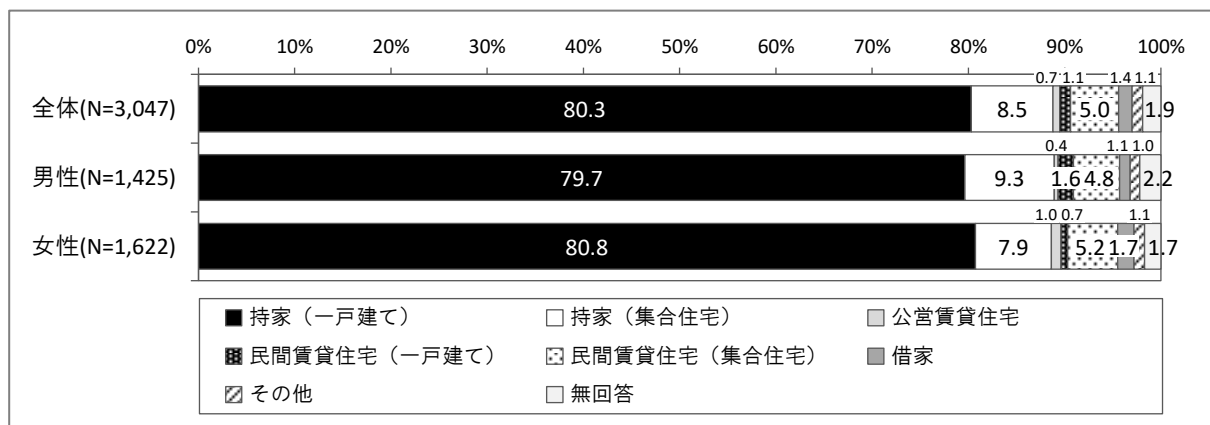
性別に年齢構成をみると、女性の「75歳以上」の割合は男性よりやや高く、53.6%となっている。



(3) 住まいの状況

【市全体・性別】

市全体でみると、「持家（一戸建て）」の割合が最も高く 80.3%となっており、次いで「持家（集合住宅）」が8.5%となっている。

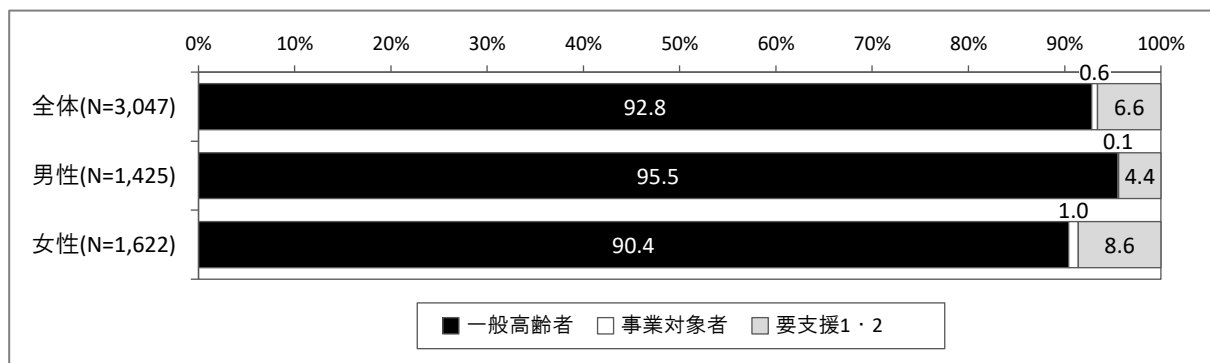


(4) 要介護度

【市全体・性別】

市全体でみると、いずれの属性においても「一般高齢者」が大半を占めている。

性別にみると、男性の「要支援1・2」の割合は4.4%であるのに対し、女性では8.6%であり、女性の割合の方が高くなっている。



(5) 生活機能低下者の該当状況

【市全体・性別・性年代別】

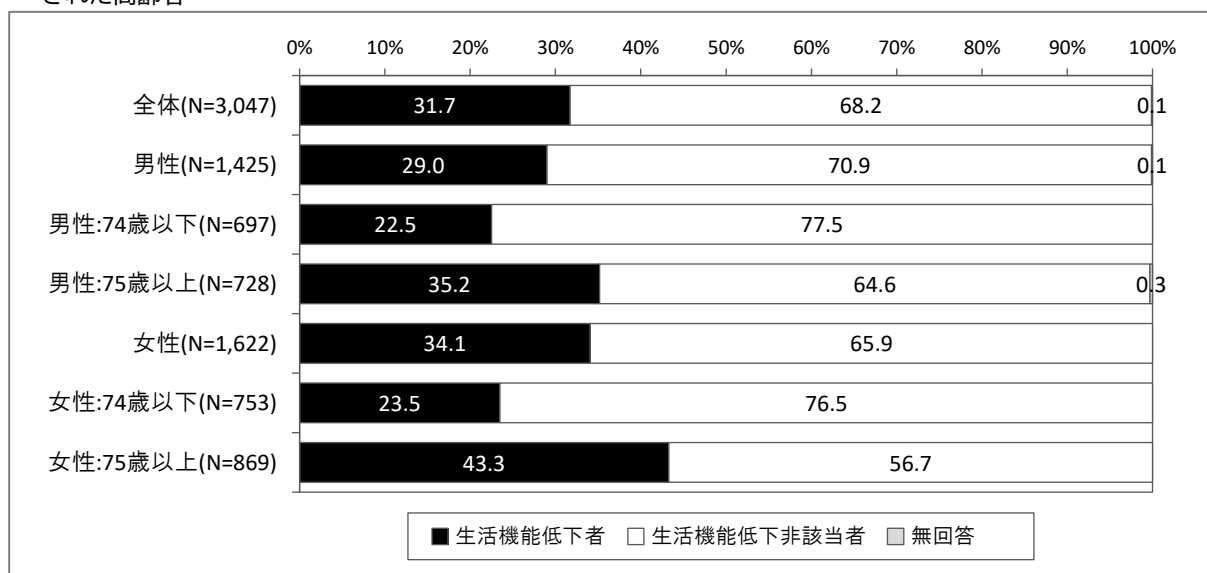
生活機能低下者(※1)の該当状況をみると、市全体での「生活機能低下者」の割合は31.7%、「生活機能低下非該当者(※2)」の割合は68.2%となっている。

性別にみると男性は29.0%、女性は34.1%となっている。

性年代別にみると、74歳以下の年代では男性は22.5%、女性は23.5%となっており大きな差はないものの、75歳以上の年代において、男性は35.2%、女性は43.3%となっており、男性と比較して女性の割合の増加傾向はより顕著になっている。

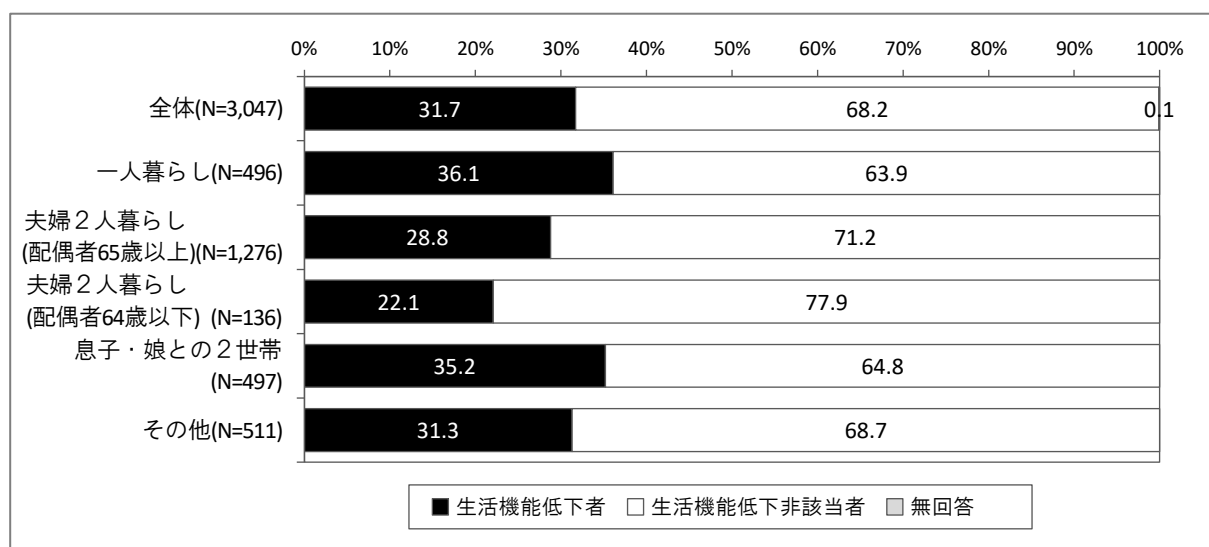
(※1) 生活機能低下者…将来、介護が必要となるおそれの高い状態にある高齢者

(※2) 生活機能低下非該当者…現段階では、生活機能(運動器、栄養、口腔機能、虚弱)のいずれにも問題がないと判定された高齢者



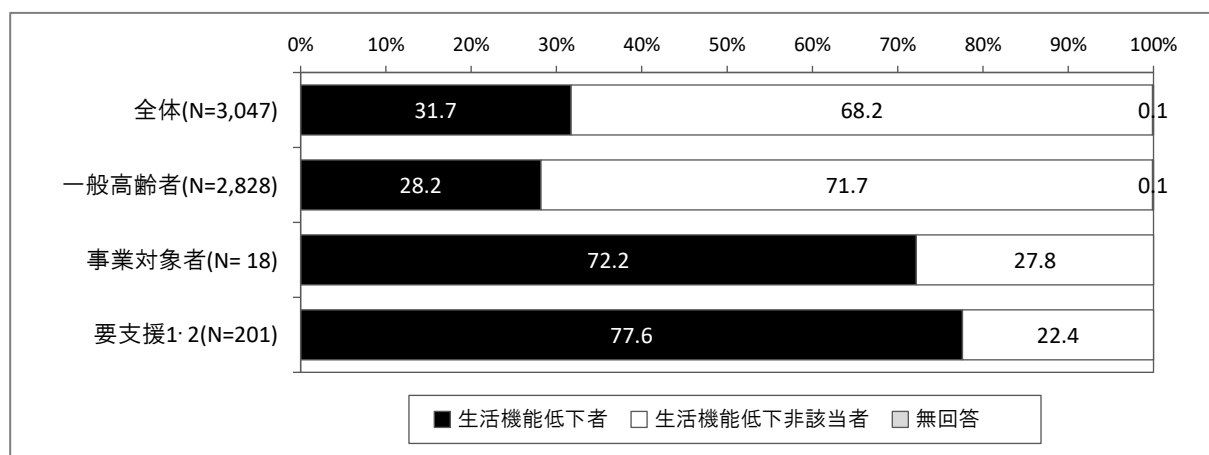
【家族構成別】

家族構成別にみると、「生活機能低下者」の割合は一人暮らしで 36.1%、次いで息子・娘との 2 世帯で 35.2% となっている。



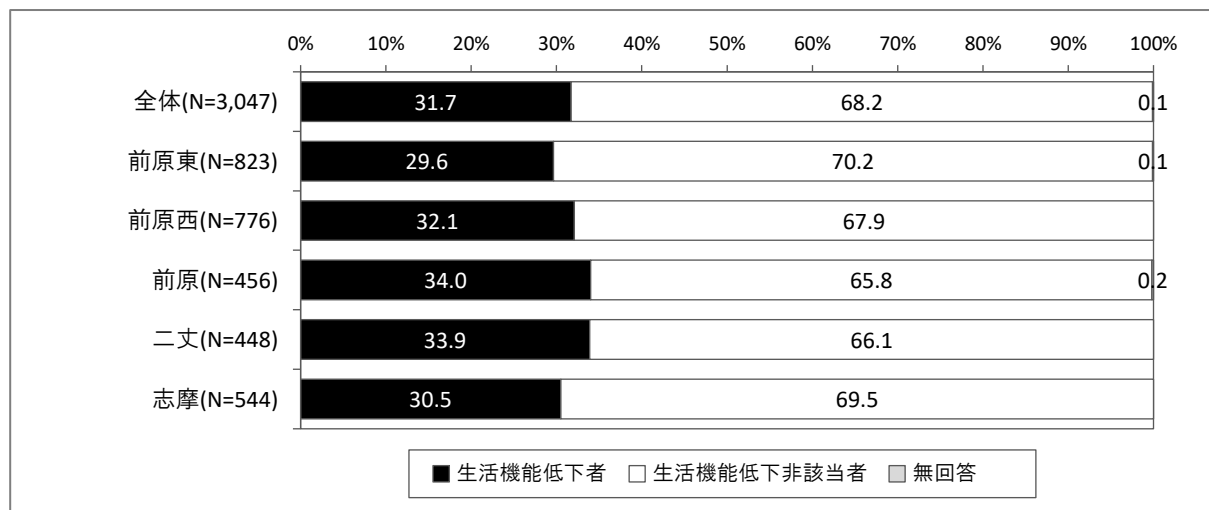
【要介護度別】

要介護度別にみると、「生活機能低下者」の割合には大きな差がある。一般高齢者（事業対象者でも要支援 1・2 認定も受けていない高齢者）では「生活機能低下者」の割合が 28.2%であるのに対し、要支援 1・2 では 77.6%にも上っている。



【圏域別】

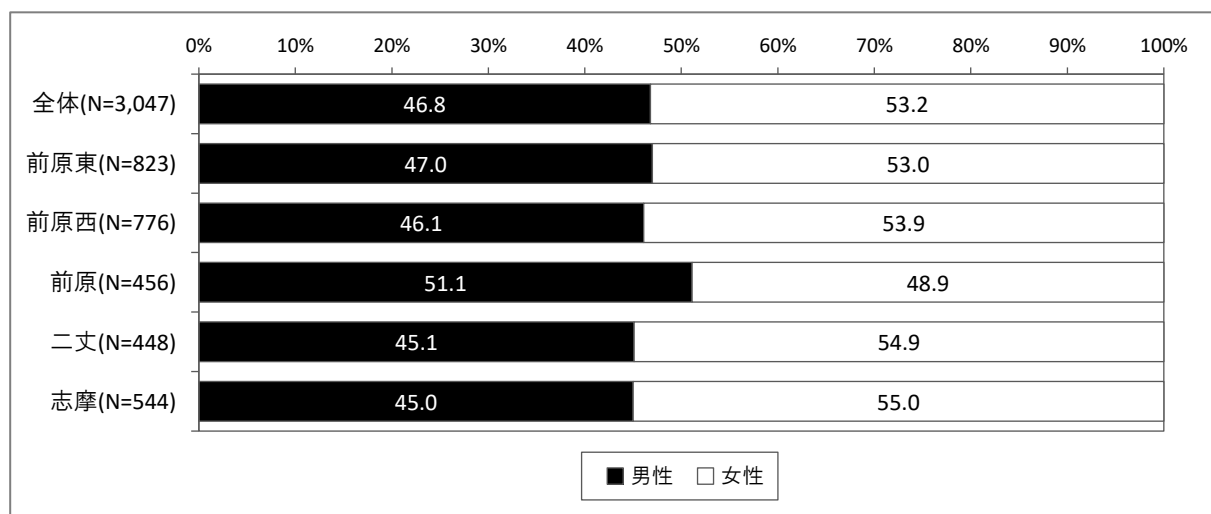
圏域別にみると、「生活機能低下者」の割合は前原圏域で 34.0%、次いで二丈圏域で 33.9%となっている。



(6) 日常生活圏域の状況

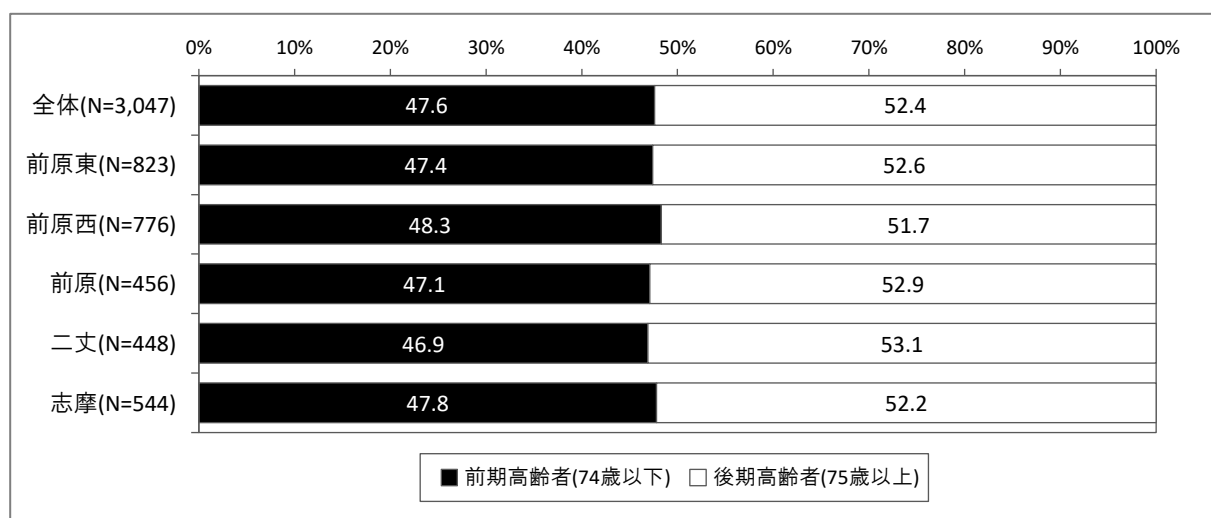
【圏域別×性別】

性別を圏域別にみると、前原圏域を除いたすべての日常生活圏域において「男性」の割合が40%台、「女性」の割合が50%台となっている。



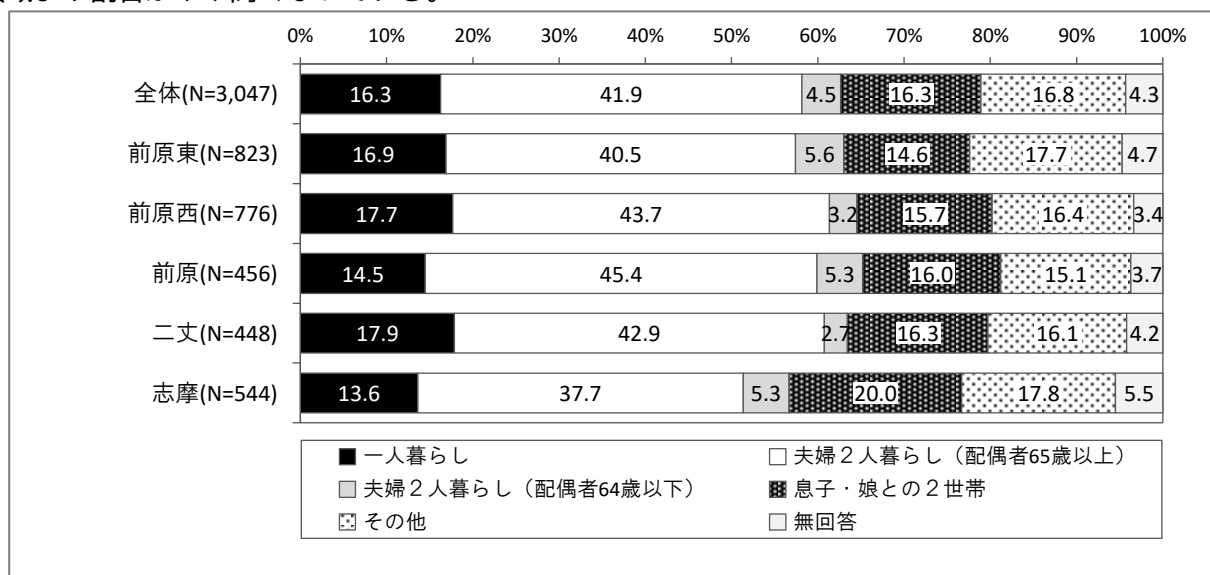
【圏域別×年代】

年代構成を圏域別にみると、すべての日常生活圏域において「前期高齢者（74歳以下）」の割合が40%台、「後期高齢者（75歳以上）」の割合が50%台となっている。



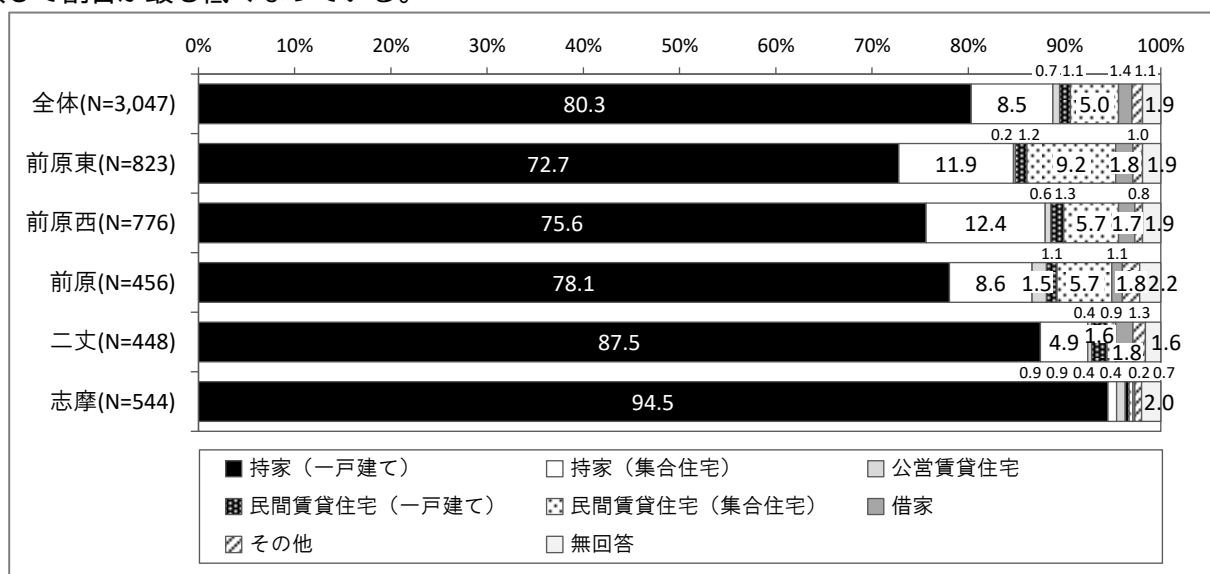
【圏域別×家族構成】

家族構成を圏域別にみると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合は前原圏域が 45.4%と最も高くなっているが、「一人暮らし」は 14.5%と最も低くなっている。また「息子・娘との2世帯」は志摩圏域が 20.0%と他圏域より割合がやや高くなっている。



【圏域別×住まいの状況】

住まいの状況を圏域別にみると、「持家（一戸建て）」の割合は志摩圏域が 94.5%、二丈圏域が 87.5%で市全体と比較して高くなっている。また前原東圏域においては、「持家（一戸建て）」の割合が 72.7%と他圏域と比較して割合が最も低くなっている。



4 家族や生活状況について

(1) 家族構成

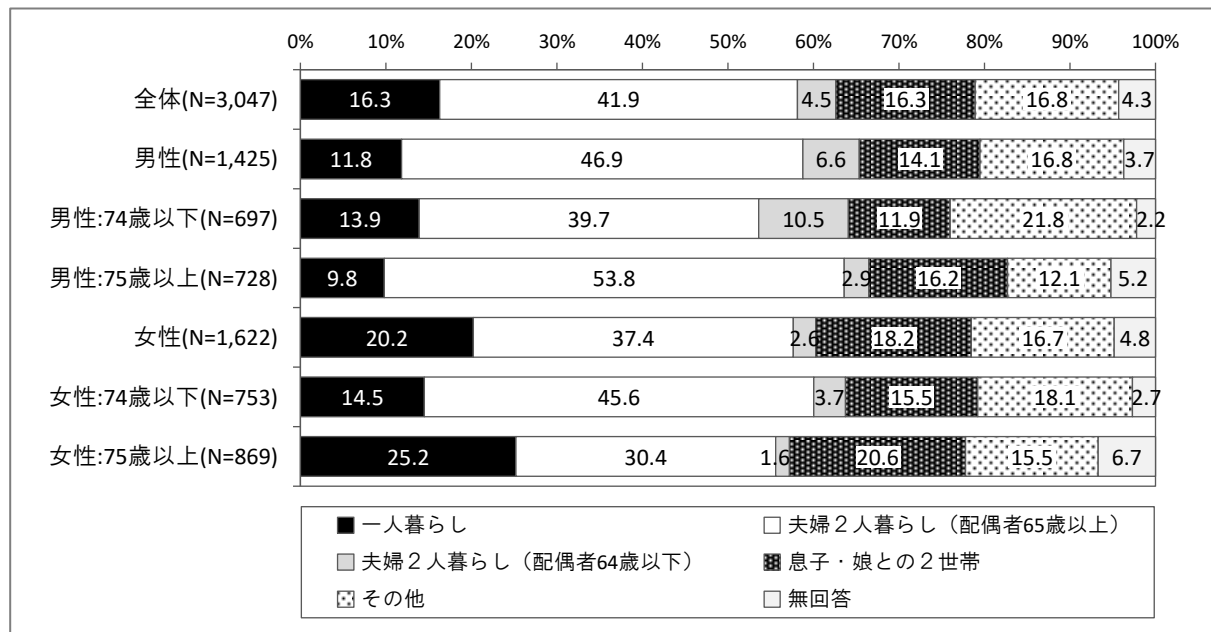
【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合が 41.9%で最も高くなっている。

性別にみると、「一人暮らし」の割合は男性が 11.8%に対して、女性は 20.2%と高くなっている。

性年代別にみると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合は男性 75 歳以上が 53.8%で最も高くなっている。一方、女性 75 歳以上は「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 30.4%で他の属性と比較して割合が低くなっている。

いずれの属性においても「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合が最も高くなっている。



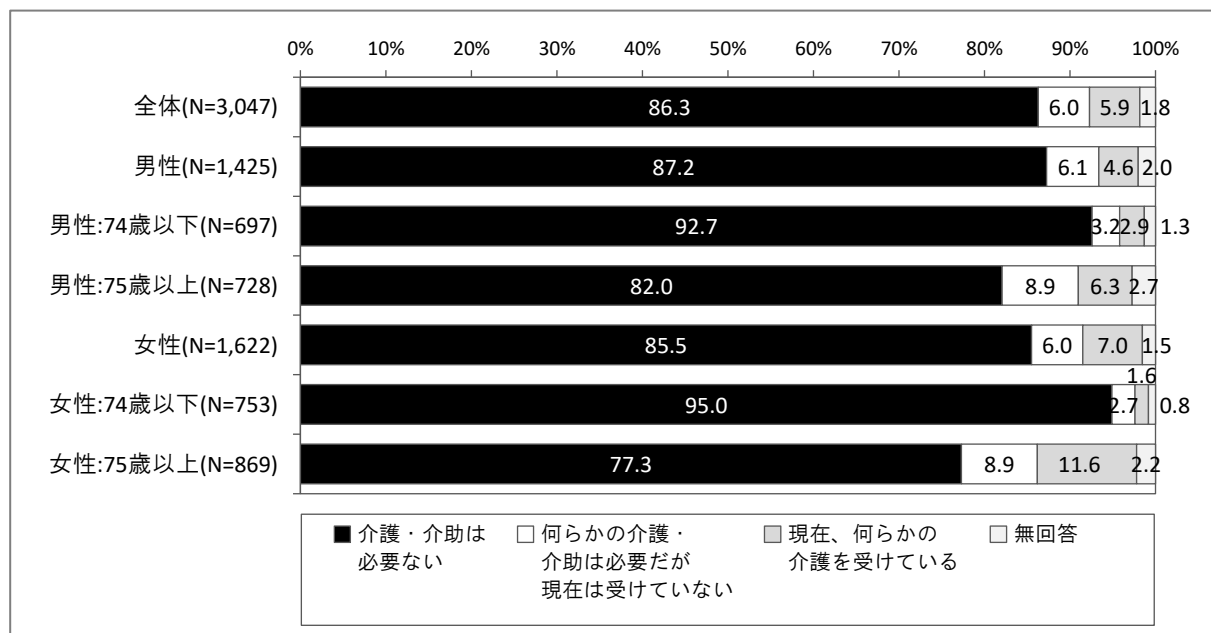
(2) 介護・介助の必要度合い

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、「介護・介助は必要ない」の割合が86.3%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.0%、「現在、何らかの介護を受けている」が5.9%となっている。

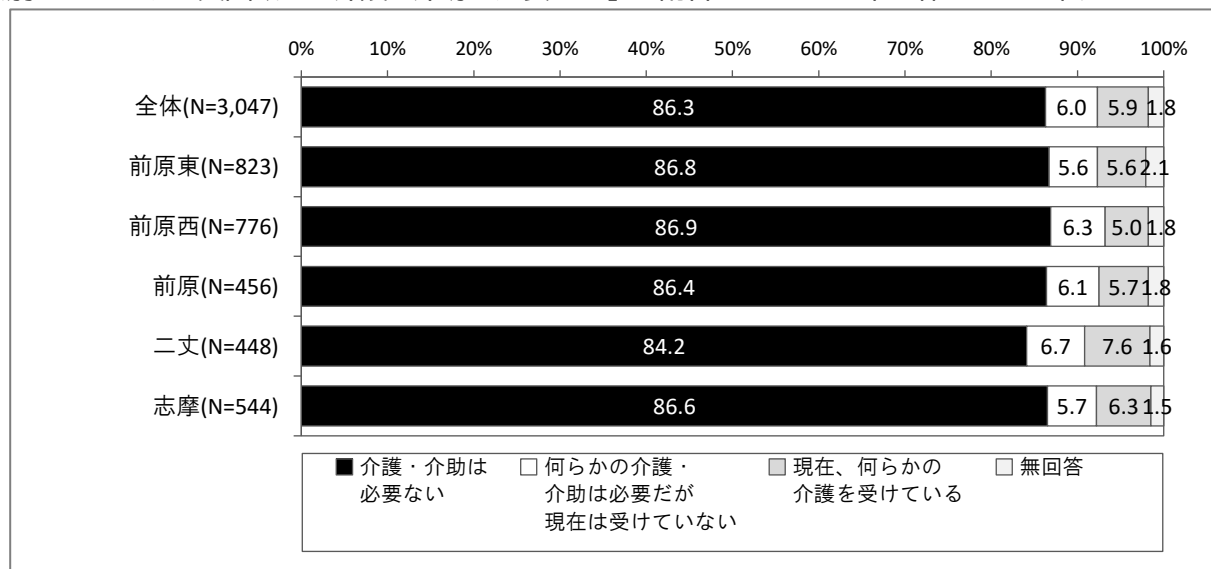
性別にみると、男性は「介護・介助は必要ない」の割合が87.2%で、女性は85.5%となっている。

性年代別にみると、男女ともに75歳以上で「介護・介助は必要ない」の割合が74歳以下と比較して低くなっており、特に女性は男性よりも大きく低下している。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域で「介護・介助は必要ない」の割合が84.2%と市全体よりやや低くなっている。

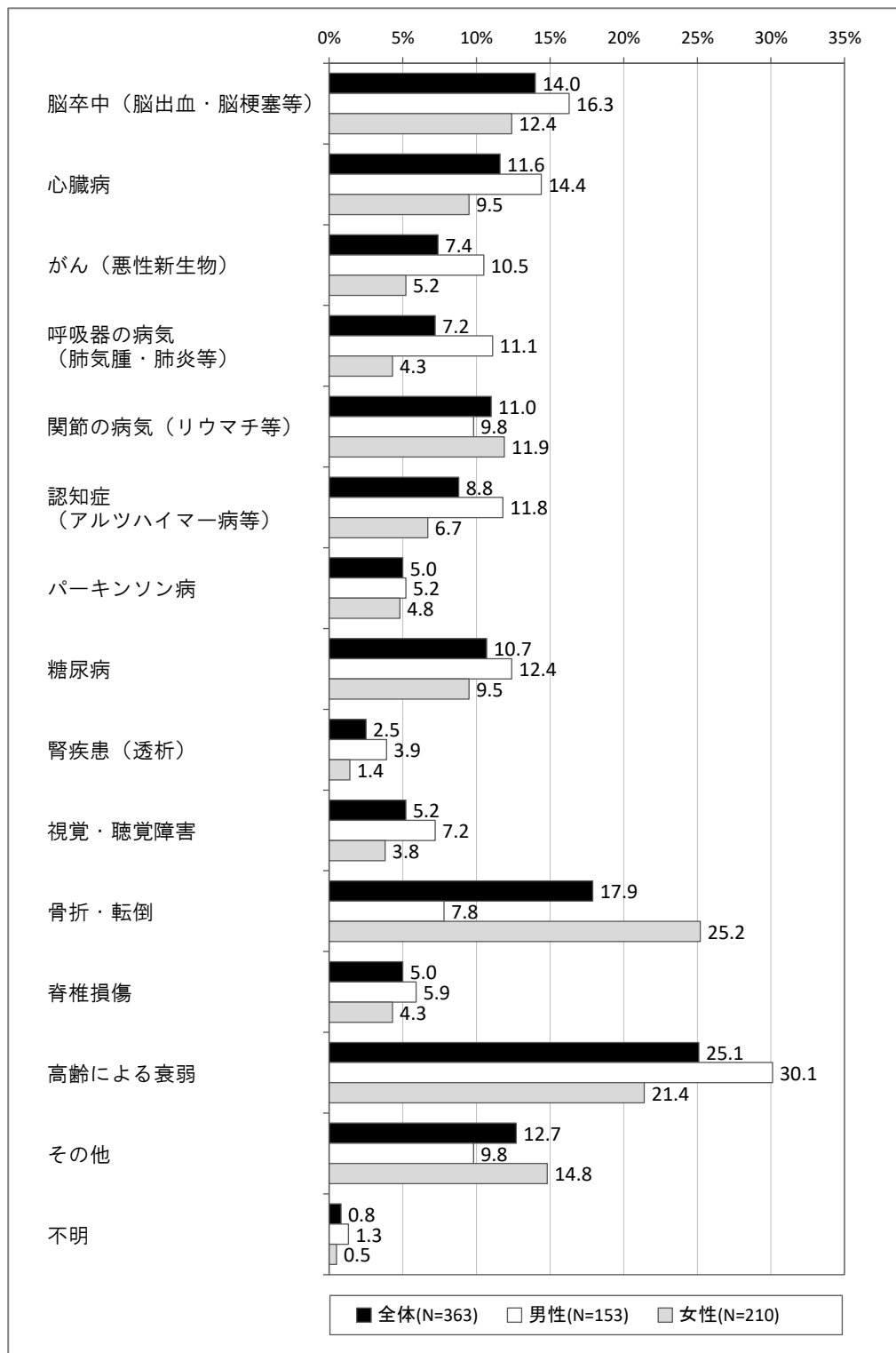


(3) 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）

【市全体・性別】

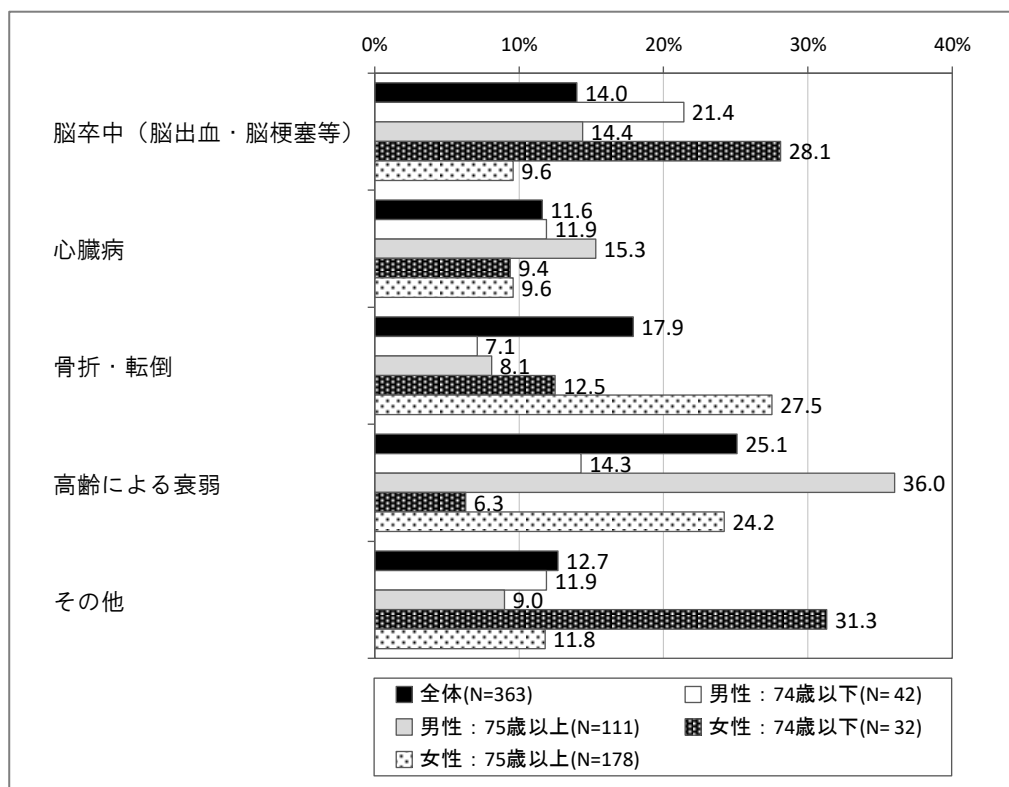
市全体でみると、「高齢による衰弱」の割合が25.1%で最も高くなっており、次いで「骨折・転倒」が17.9%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が14.0%となっている。

性別にみると「骨折・転倒」の割合は男性が7.8%であるのに対し、女性は25.2%と高くなっている。一方、「高齢による衰弱」の割合は男性が30.1%であるのに対し、女性は21.4%と低くなっている。



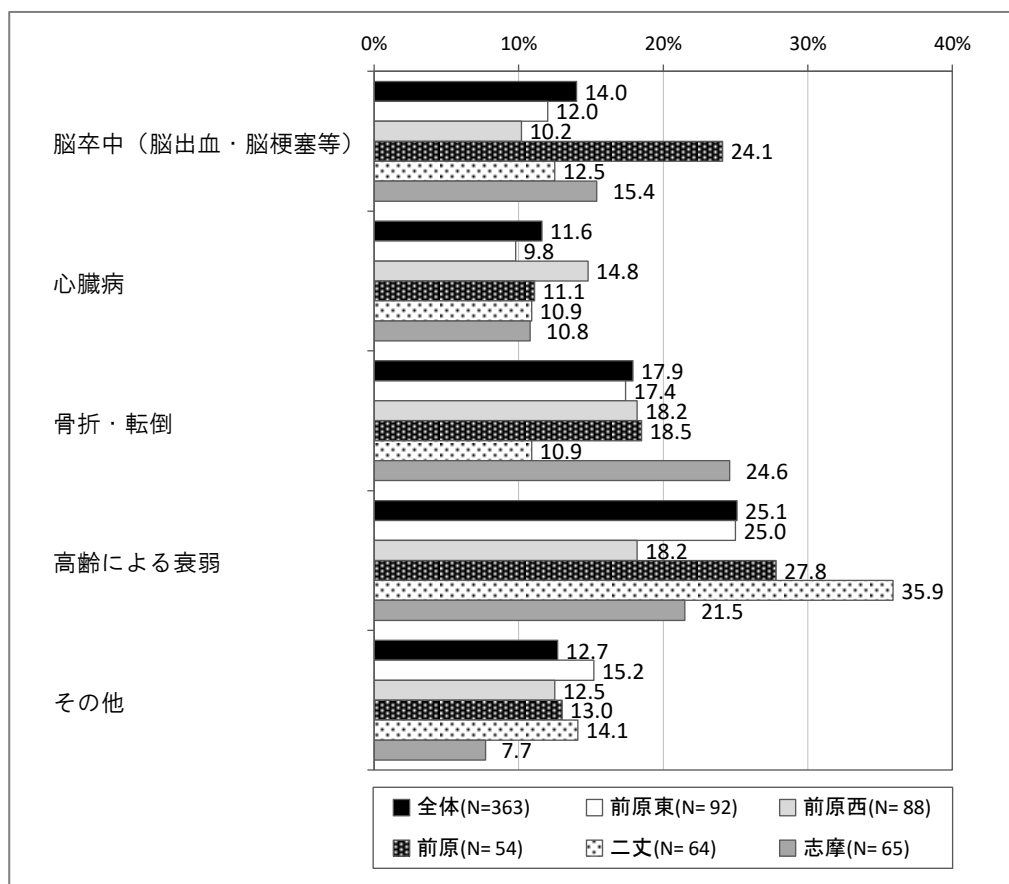
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「高齢による衰弱」の割合は男女ともに75歳以上において、74歳以下と比較して高くなっている。また、「骨折・転倒」の割合は女性75歳以上で他の性年代と比較して顕著に高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、前原圏域では、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が24.1%と他圏域よりも高い。二丈圏域では、「高齢による衰弱」の割合が35.9%と他圏域と比較して高くなっており、「骨折・転倒」の割合が10.9%と他圏域と比較して低くなっている。

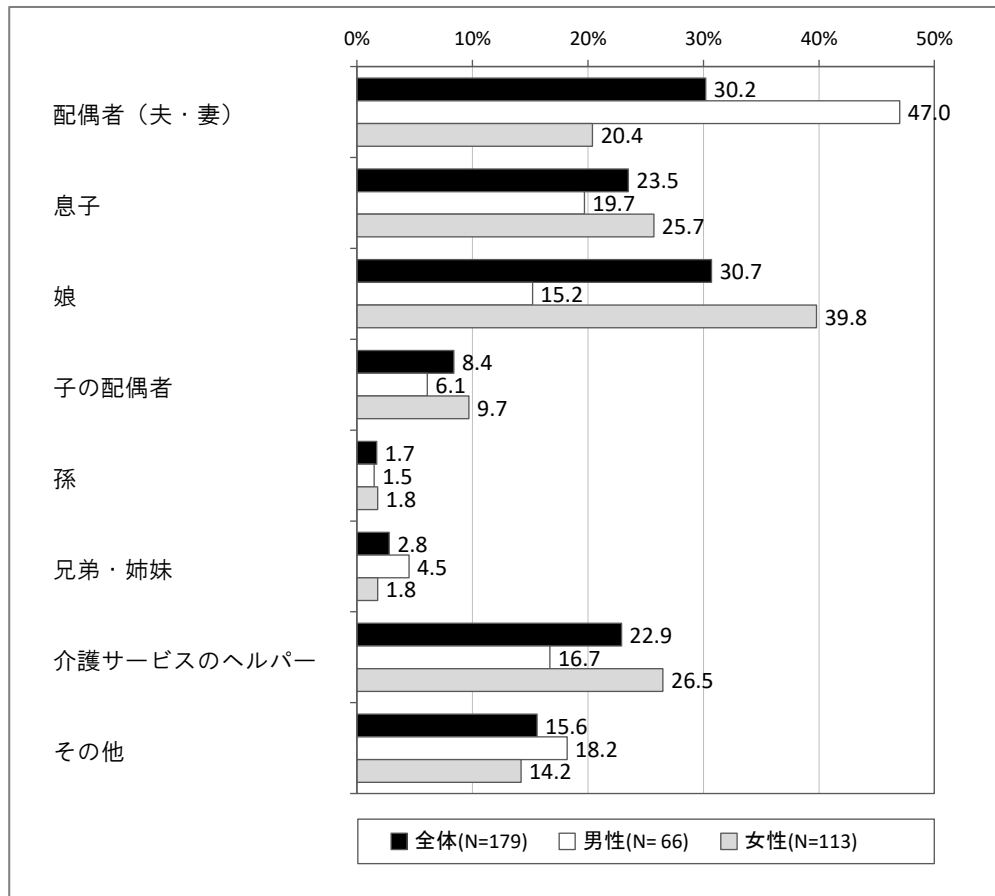


(4) 主に介護・介助を受けている人（複数回答）

【市全体・性別】

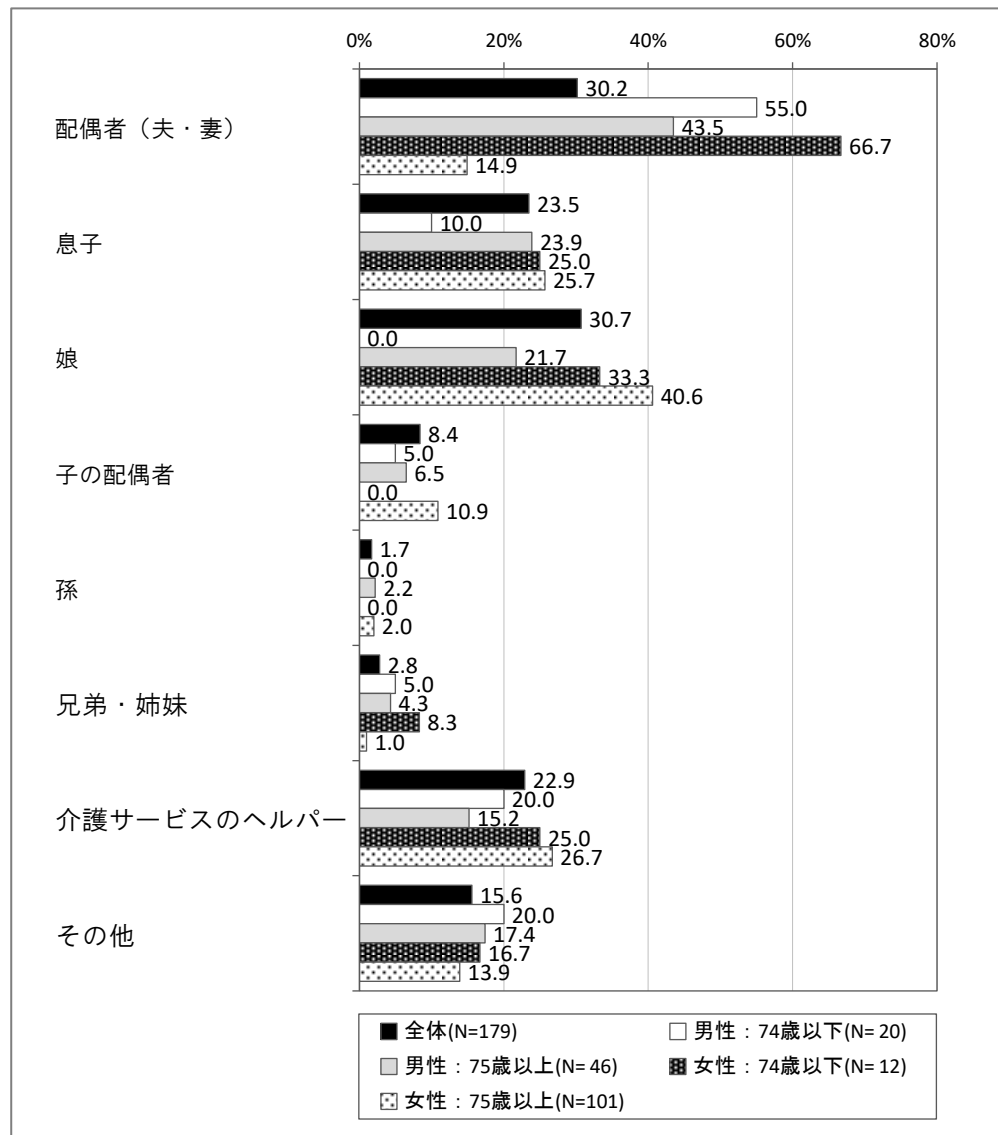
市全体でみると、「娘」の割合が30.7%で最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が30.2%、「息子」が23.5%と続いている。

性別にみると、「娘」の割合は女性が39.8%、男性が15.2%と女性の方が高くなっている。また、「配偶者（夫・妻）」の割合は男性が47.0%、女性が20.4%と、女性より男性が高くなっている。一方「介護サービスのヘルパー」の割合は、男性より女性の方が高い。



【性年代別】

性年代別にみると、「娘」の割合は女性 75 歳以上が 40.6%であるのに対し、男性の 75 歳以上は 21.7%と低くなっている。「配偶者（夫・妻）」の割合は、女性 75 歳以上が 14.9%であるのに対し、男性 75 歳以上は 43.5%と高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

以下の分析は回答者数が少ないため、参考程度にとどめる。

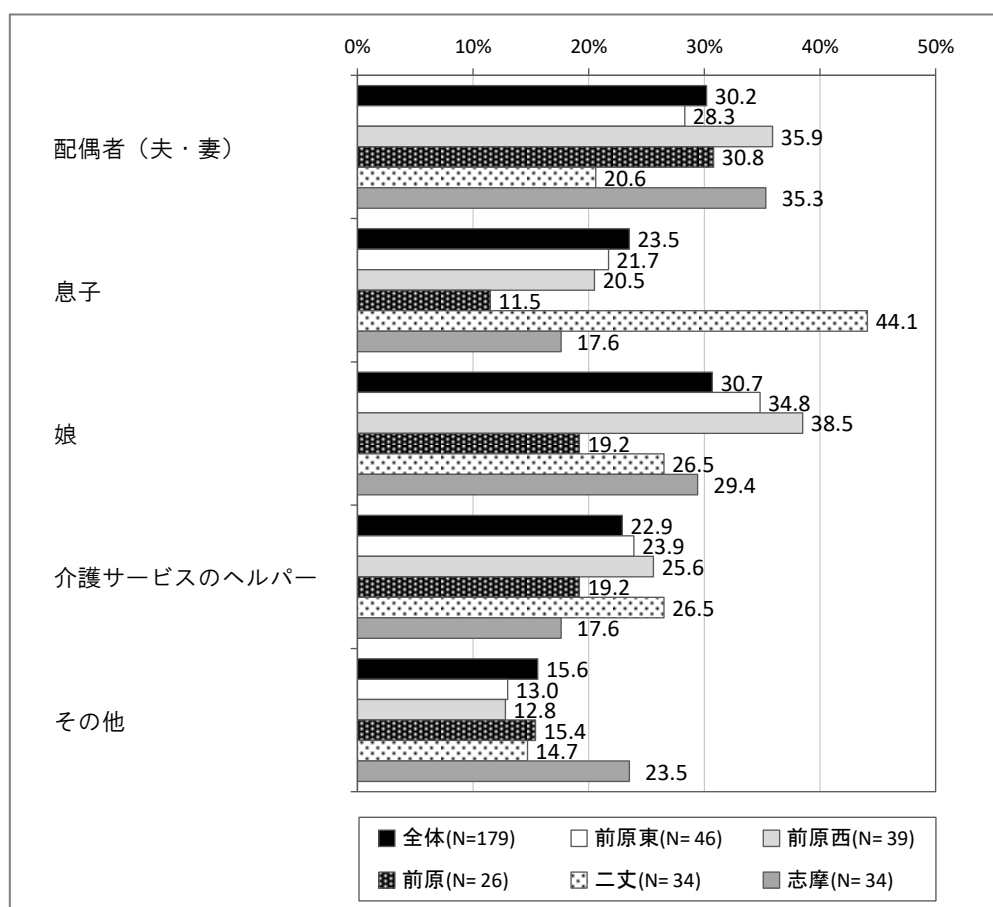
前原東圏域は「娘」と「介護サービスのヘルパー」の割合が市全体よりも高く、「配偶者（夫・妻）」と「息子」の割合は低くなっている。

前原西圏域は、他圏域と比較し「配偶者（夫・妻）」の割合が35.9%、「娘」の割合が38.5%と最も高くなっている。

前原圏域は、「配偶者（夫・妻）」の割合が30.8%市全体よりもやや高くなっている。一方で他圏域と比較し「息子」の割合が11.5%、「娘」の割合が19.2%と最も低くなっている。

二丈圏域は「息子」の割合が44.1%と他圏域と比較し、最も高くなっている。一方「配偶者（夫・妻）」の割合は20.6%と他圏域と比較し最も低くなっている。

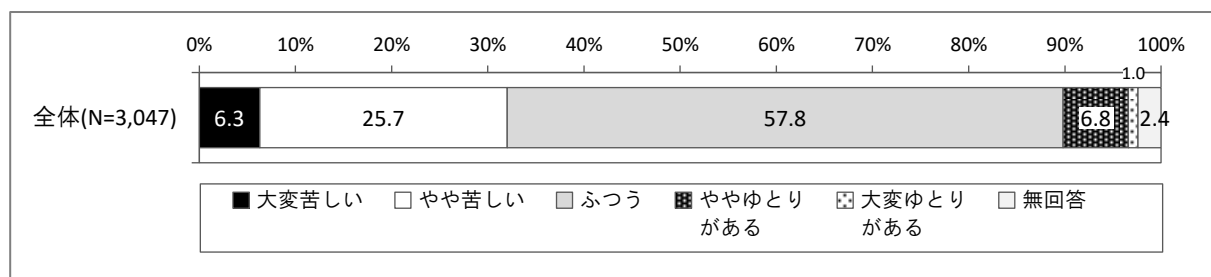
志摩圏域は「配偶者（夫・妻）」の割合が35.3%と市全体より高くなっている。



(5) 現在の暮らしの経済的状況

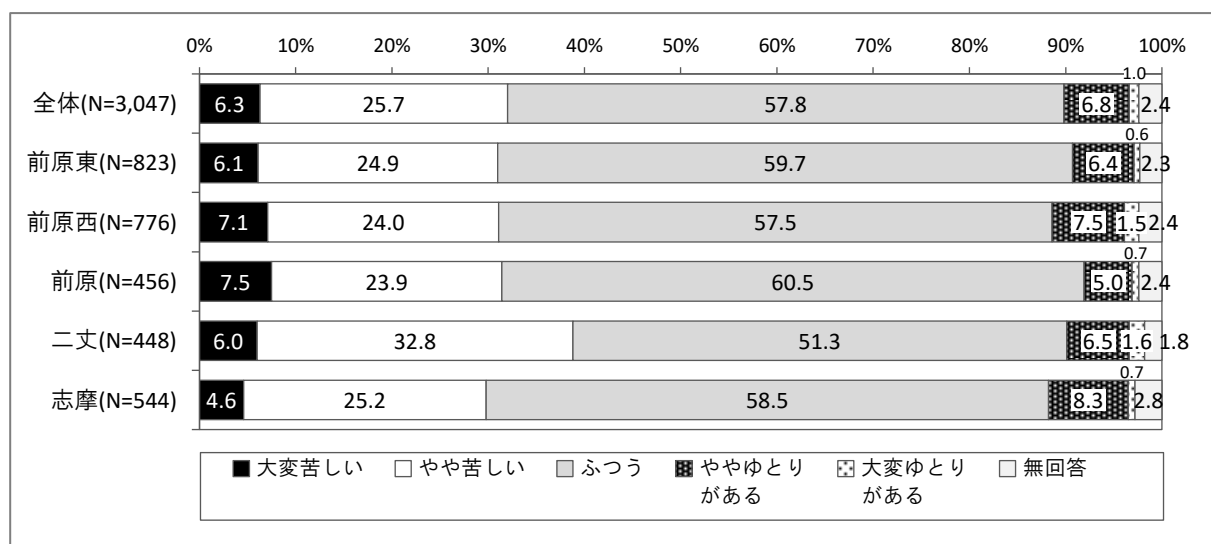
【市全体】

市全体でみると、「ふつう」の割合が 57.8%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 25.7%、「大変苦しい」が 6.3%である。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合は 32.0%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた割合は 7.8%となっている。

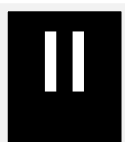


【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域では「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合は 38.8%と、他圏域と比較して最も高くなっている。また、「ふつう」の割合は二丈圏域が 51.3%と、他圏域と比較し最も低くなっている。



Ⅱ 調査結果



調査結果

1 生活機能

(1) 運動器

以下の設問のうち3問以上、該当する選択肢が回答された場合に、運動器機能が低下していると判定される。

【運動器の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2(3)	15 分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2(4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある
問 2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

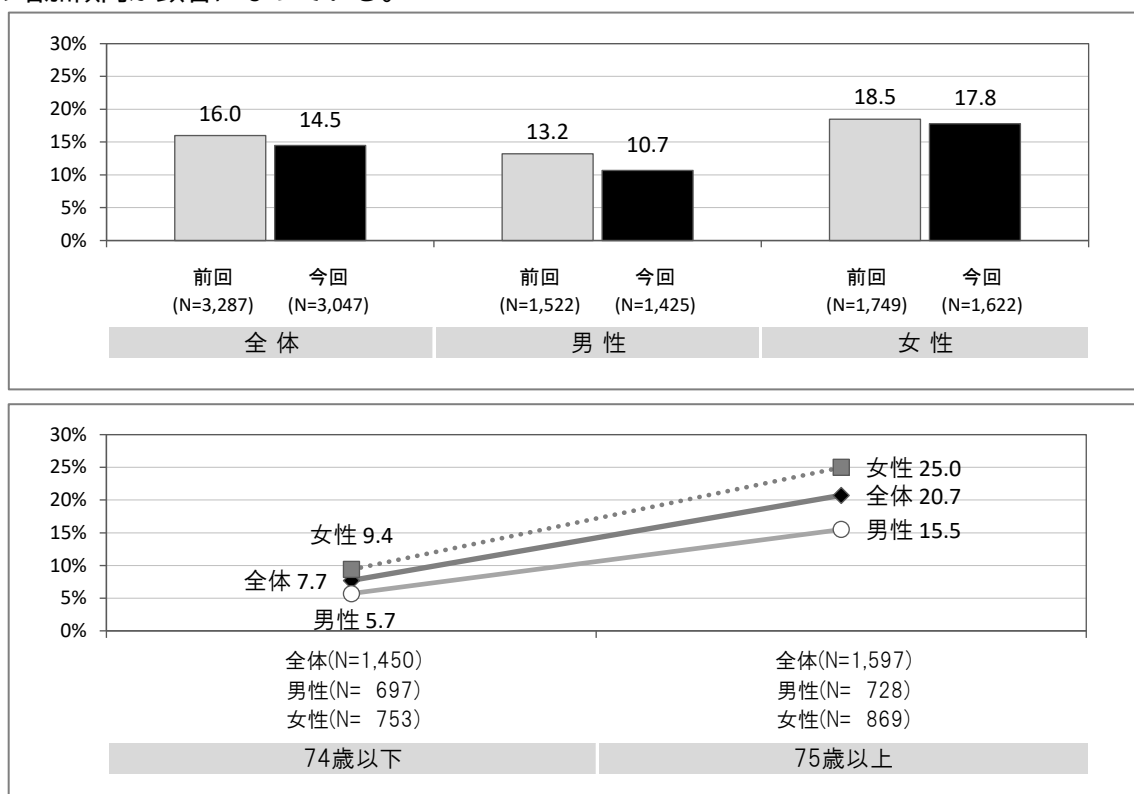
① 運動器機能低下リスク保有者の割合

【市全体・性別・性年代別】

リスク保有者の割合は、市全体で 14.5%となっており、前回調査結果と比較すると、1.5 ポイント低下している。

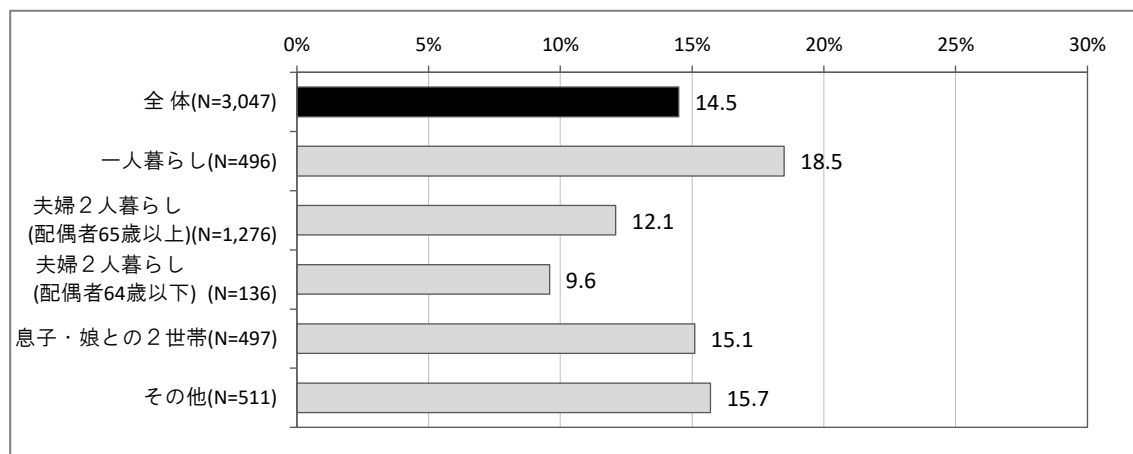
性別にみると、男性は 10.7%、女性は 17.8%である。リスク保有者の割合は、女性の方が高くなっている。

性年代別にみると、年代が上がるほど、リスク保有者の割合は増加し、特に女性は男性と比較しリスク保有者の割合の増加傾向が顕著になっている。



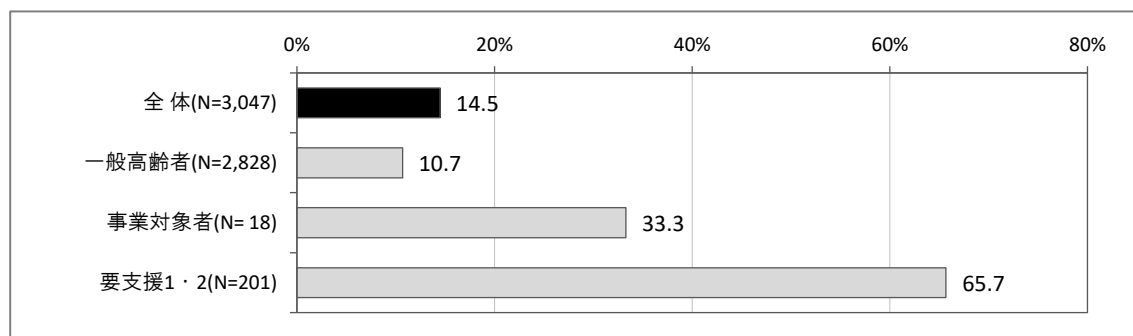
【家族構成別】

家族構成別にみると、一人暮らしが 18.5%、息子・娘との 2 世帯が 15.1%、その他が 15.7%となっており、それぞれ市全体よりも割合が高くなっている。一方、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）は 9.6%と最もリスク保有者の割合が低くなっている。



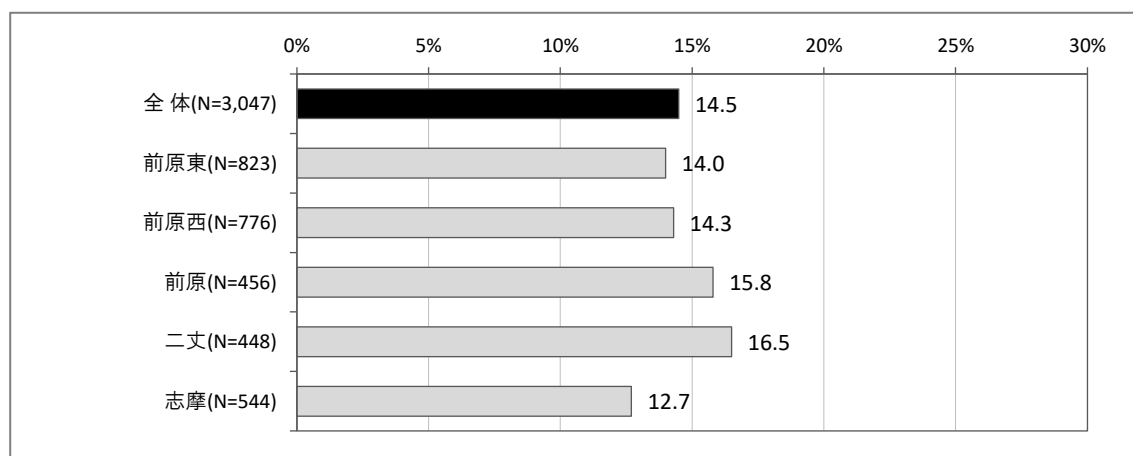
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援 1・2 は 65.7%と市全体より明確に割合が高くなっており、要支援 1・2 の多くが運動器機能低下に該当する。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域が 16.5%、前原圏域が 15.8%と、市全体の 14.5%より割合が高くなっている。



(2) 閉じこもり

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、閉じこもり傾向にあると判定される。

【閉じこもりの評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

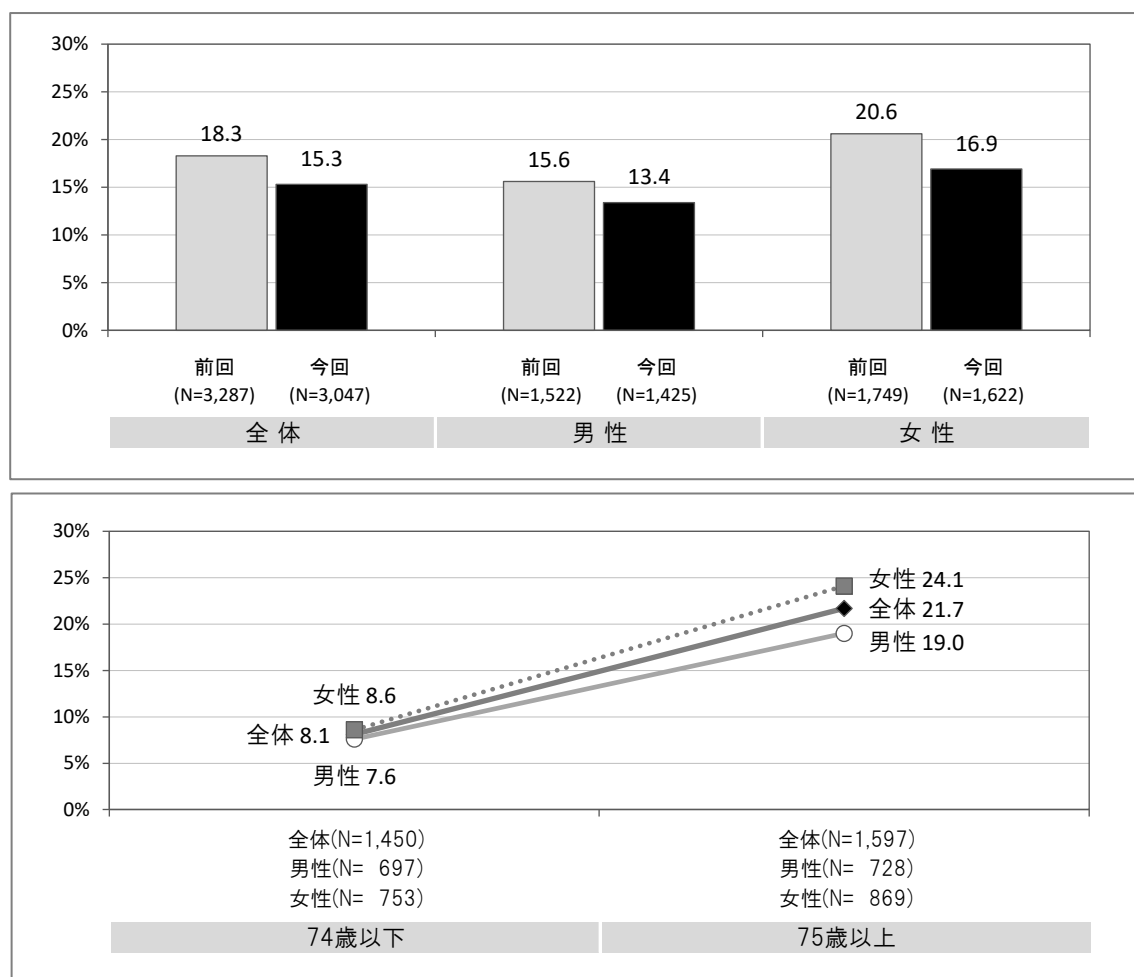
① 閉じこもり傾向のある高齢者の割合

【市全体・性別・性年代別】

閉じこもり傾向のある高齢者の割合は、市全体で 15.3% となっており、前回調査結果と比較して、3.0 ポイント低くなっている。

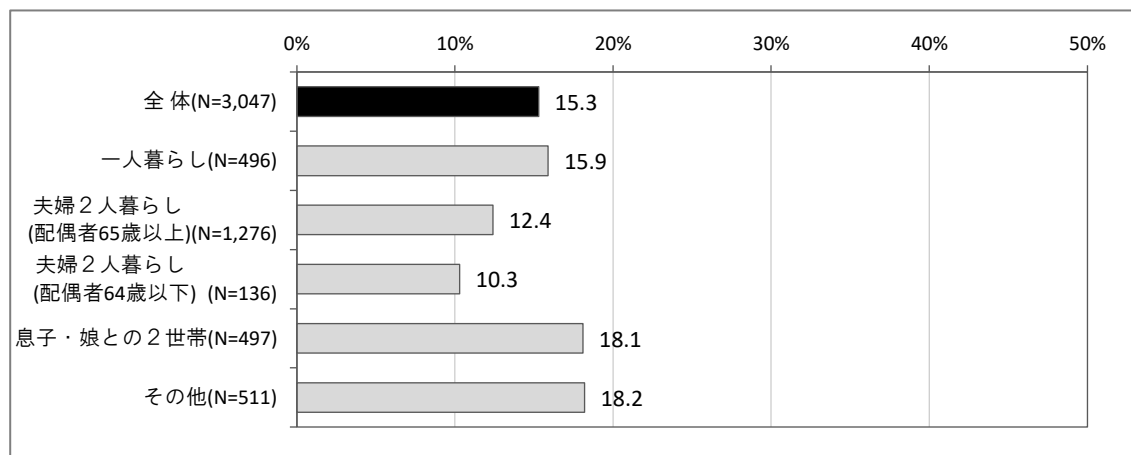
性別にみると、男性は 13.4%、女性は 16.9% と、女性の割合の方が高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて、割合は高くなっており、女性 75 歳以上の割合が最も高く 24.1% となっている。



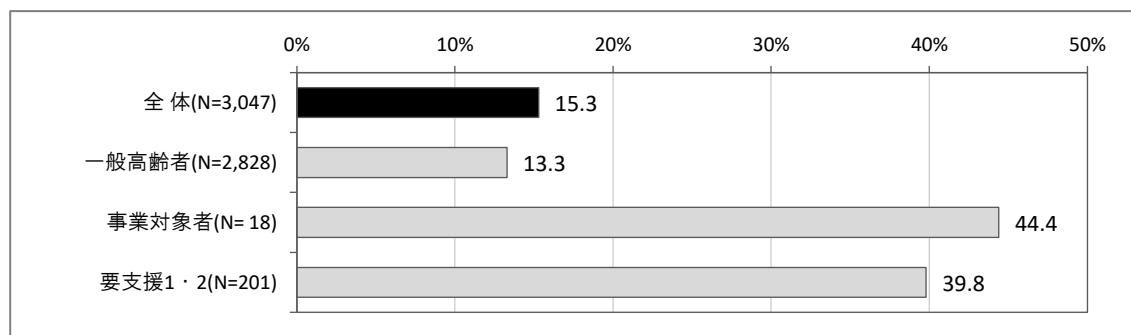
【家族構成別】

家族構成別にみると、一人暮らしが 15.9%、息子・娘と 2 世帯が 18.1%、その他が 18.2% で市全体を超えてやや高くなっており、閉じこもりの傾向のある高齢者の割合が高くなっている。一方、市全体よりも低く、閉じこもり傾向にある高齢者が比較的少ないのは夫婦 2 人暮らし世帯で、夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 12.4%、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）が 10.3% となっている。



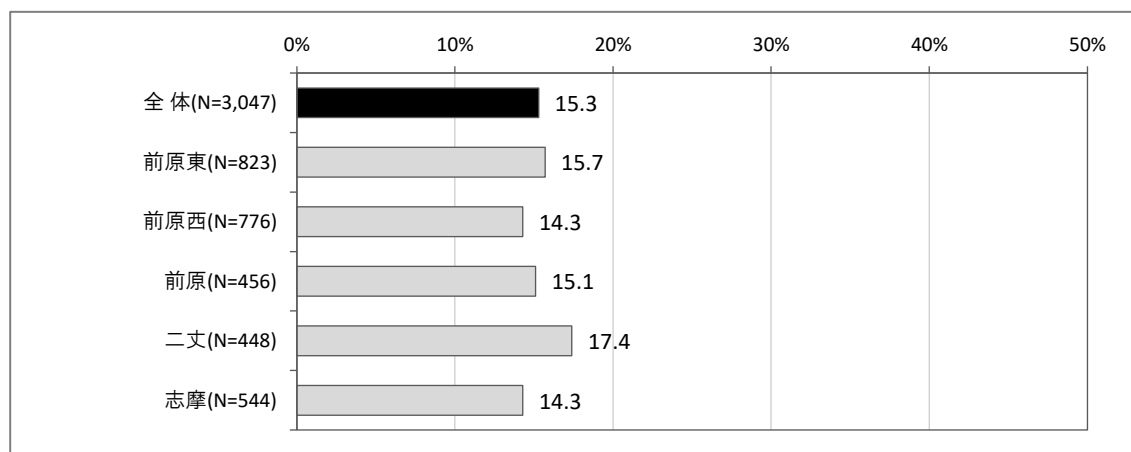
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援 1・2 で 39.8% と市全体より明確に高くなっている。一般高齢者 13.3% とは 25 ポイント以上の差がある。



【圏域別】

圏域別にみると、市全体の 15.3% よりも割合が高い圏域は前原東圏域で 15.7%、二丈圏域で 17.4% となっている。一方、市全体よりも割合が低いのは前原西圏域で 14.3%、前原圏域で 15.1%、志摩圏域で 14.3% となっている。



② 昨年と比べた外出回数の増減

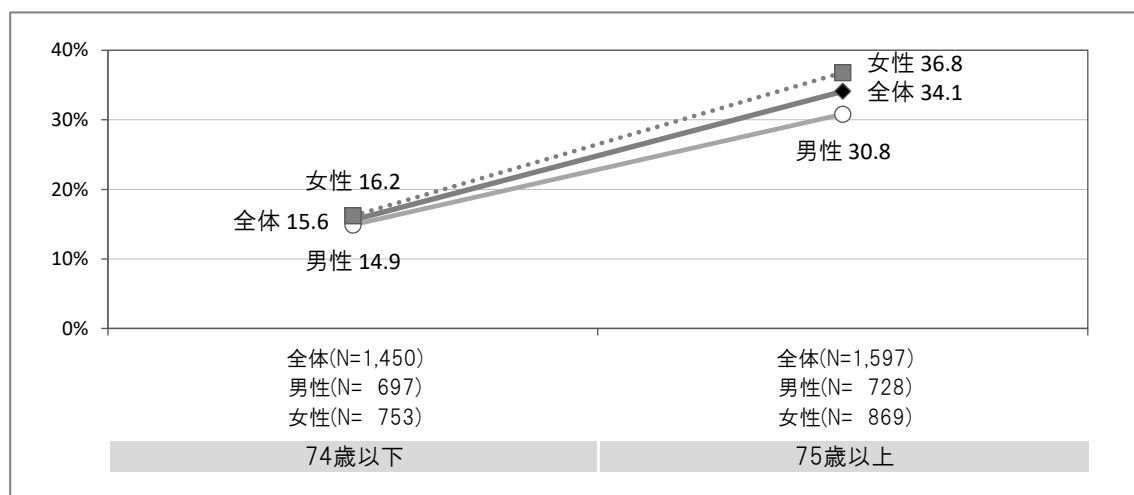
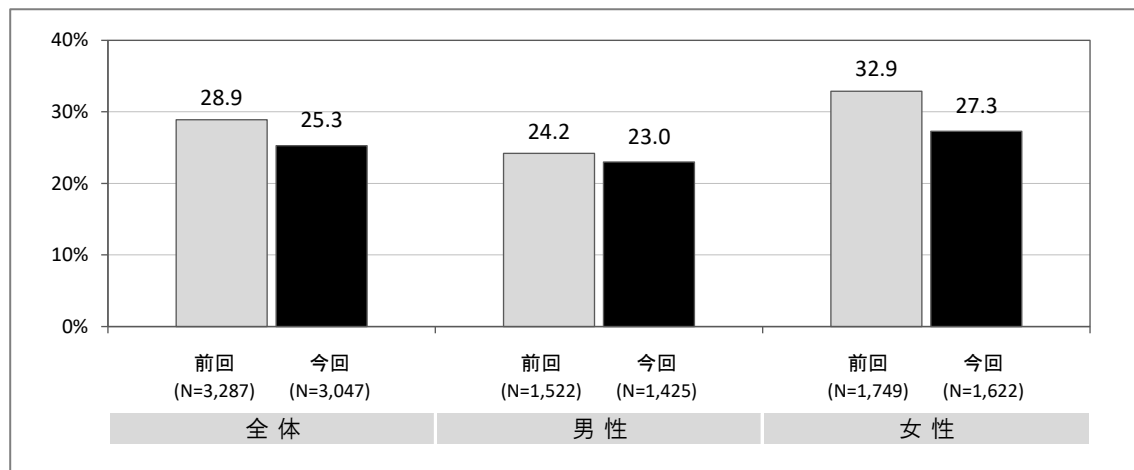
昨年と比べた外出回数の増減について尋ねた。

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると『減っている（「とても減っている」＋「減っている」）』の割合は、市全体で 25.3%となっている。

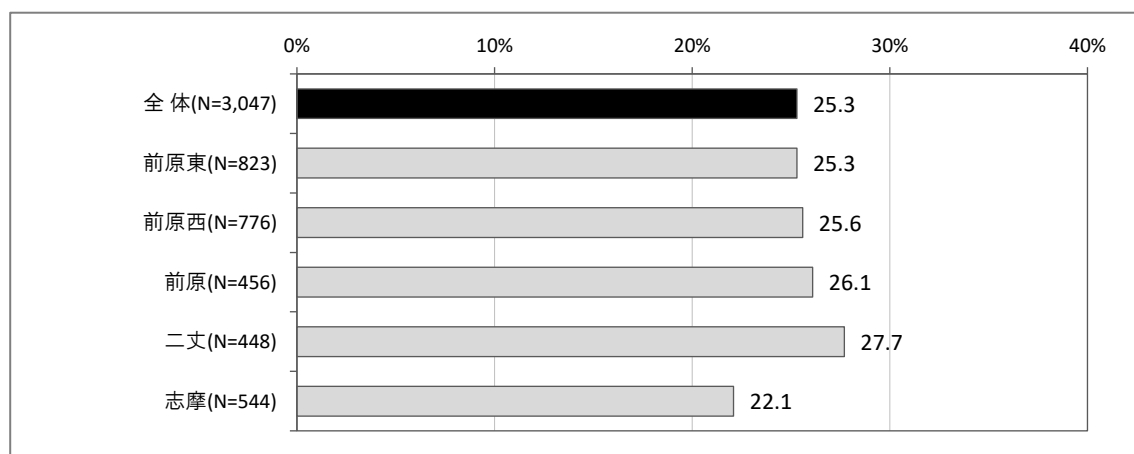
性別にみると女性は 7.3%、男性は 23.0%となっており、女性は男性よりも外出回数が減少した人の割合が高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど、割合は低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、『減っている（「とても減っている」＋「減っている」）』の割合は二丈圏域が最も高く 27.7%となっている。一方、『減っている』の割合が最も低いのは志摩圏域で 22.1%となっている。



③ 外出控え

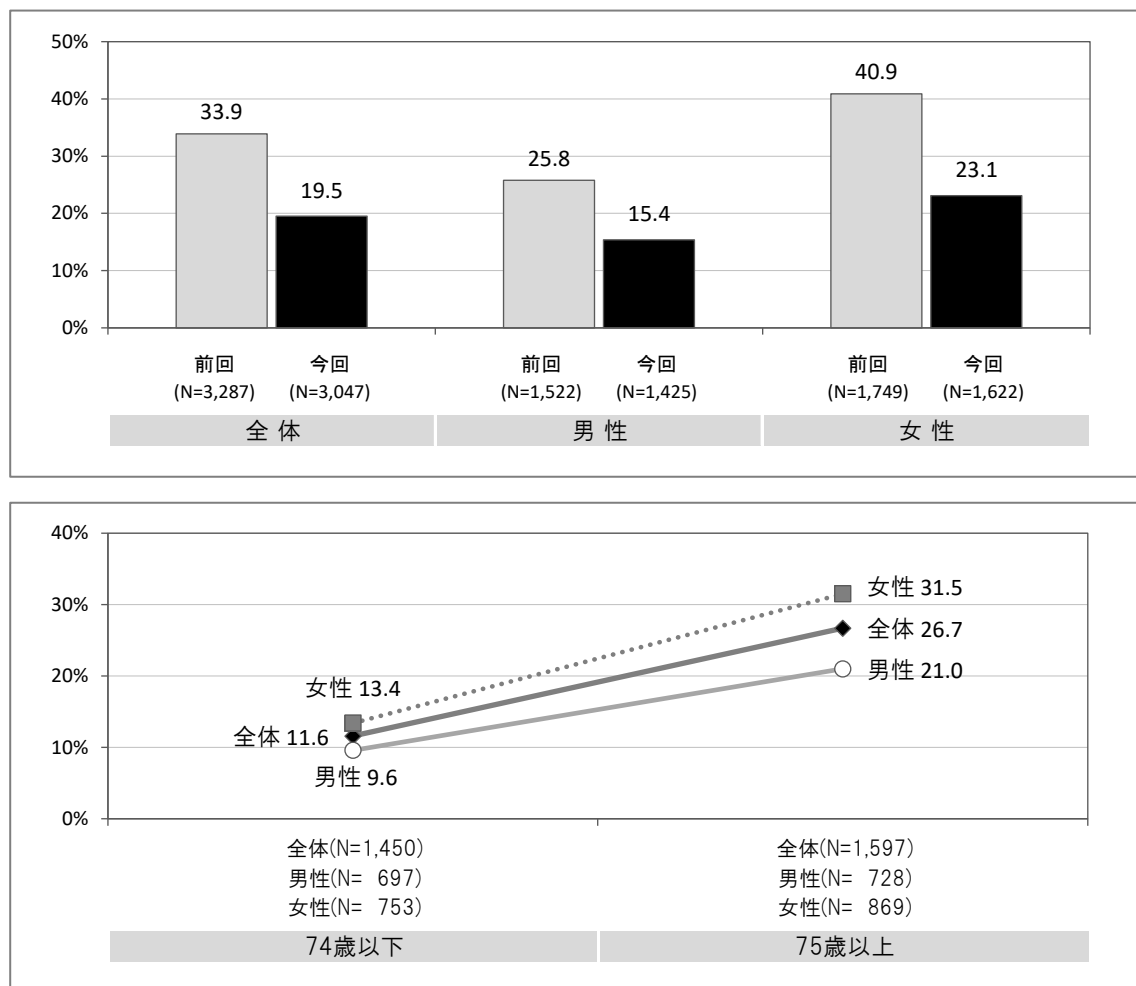
外出を控えているかについて尋ねた。

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、19.5%が「はい（外出を控えている）」と回答している。

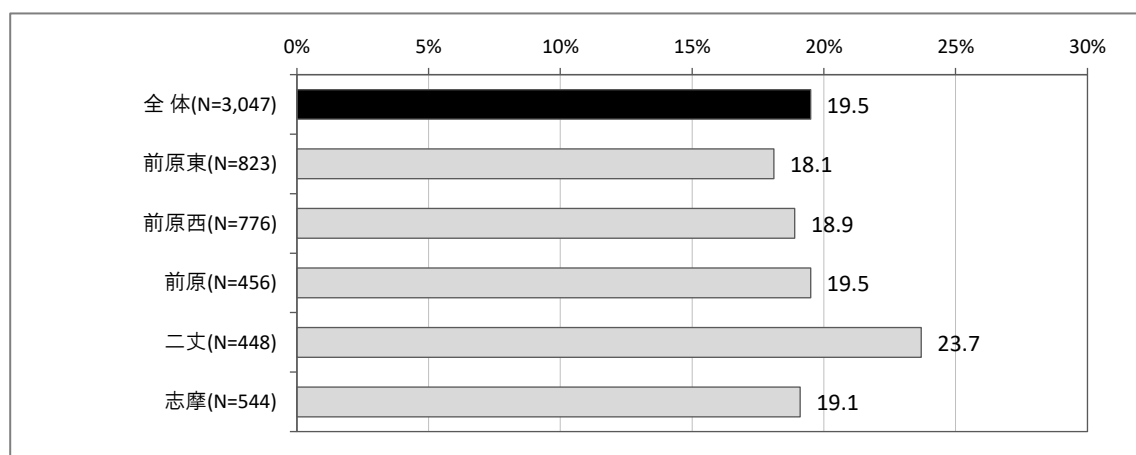
性別にみると、女性の割合が高く、男性が15.4%であるのに対し、女性は23.1%と高くなっている。

性年代別にみると、年代が上がるほど、割合は高くなっており、女性は男性と比較して増加傾向が顕著になっている（女性74歳以下は13.4%、女性75歳以上は31.5%）。



【圏域別】

圏域別にみると、「はい（外出を控えている）」と回答した割合が最も高いのは二丈圏域で23.7%となっている。一方、「はい（外出を控えている）」と回答した割合が最も低いのは前原東圏域で18.1%となっている。



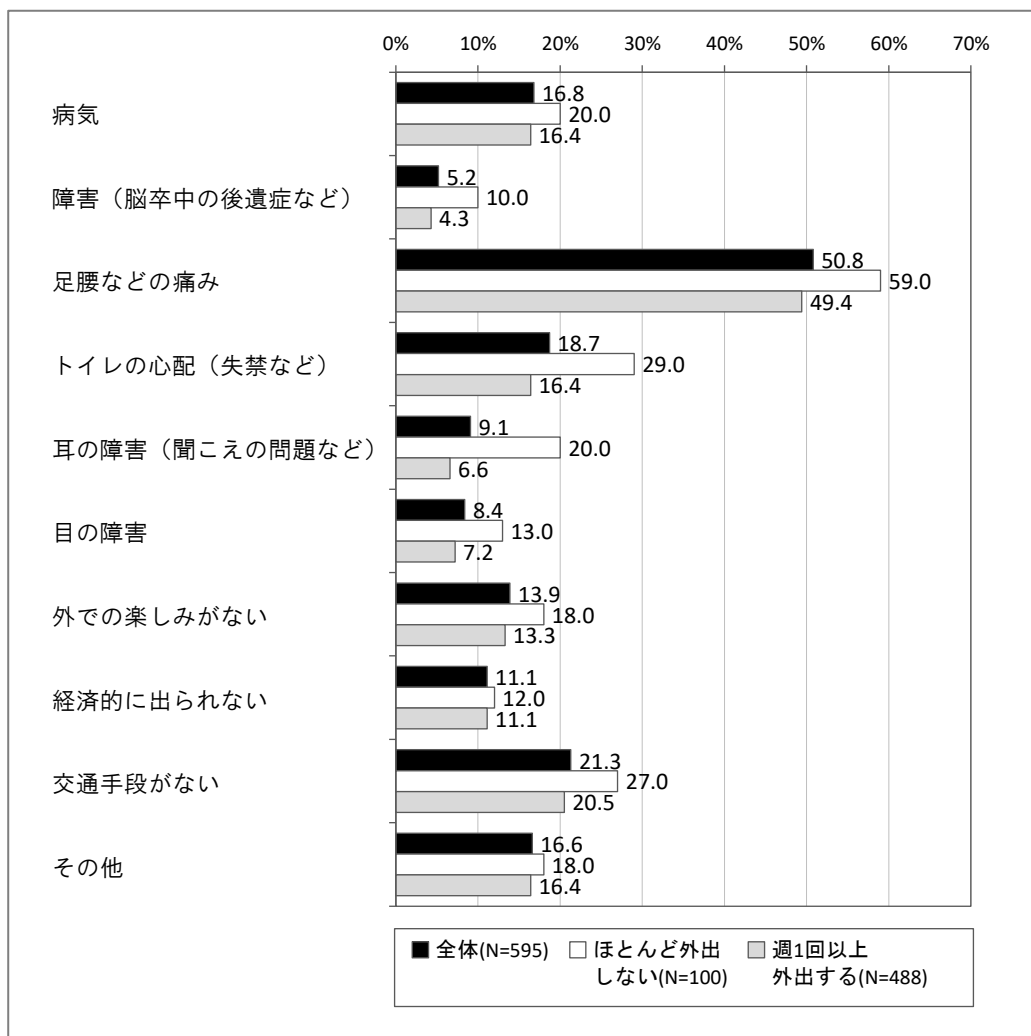
④ 外出を控えている理由（複数回答）

前問にて「はい（外出を控えている）」と回答した方に対し、外出を控えている理由を尋ねた。

【市全体・外出状況別】

市全体でみると、「足腰などの痛み」の割合が最も高く 50.8%、次いで「交通手段がない」が 21.3%、「トイレの心配（失禁など）」が 18.7%である。

ほとんど外出しない人と週一回以上外出する人の比較では、ほとんど外出しない人はすべての理由で割合が市全体よりも高くなっている。



【性別・性年代別】

性別にみると、女性では「外での楽しみがない」の割合が 10.1%であるのに対し、男性は 20.5%と高くなっている。

性年代別にみると、「足腰などの痛み」の割合は女性 75 歳以上で 57.7%と他の性年代と比較して最も高くなっている。

【圏域別】

圏域別にみると、前原西圏域は「足腰などの痛み」の割合が 58.5%で他圏域と比較して最も高く、市全体より5ポイント以上高くなっている。志摩圏域は「足腰などの痛み」の割合が 41.3%で市全体と比較して9ポイント以上低くなっている。

上段：％、下段：件													
区分		調査数	病気	（障害） （脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配 （失禁など）	耳の障害 （聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全 体		100.0 595	16.8 100	5.2 31	50.8 302	18.7 111	9.1 54	8.4 50	13.9 83	11.1 66	21.3 127	16.6 99	3.2 19
性年代別	男性	100.0 220	19.5 43	7.7 17	47.3 104	23.2 51	11.4 25	10.0 22	20.5 45	13.2 29	19.1 42	12.3 27	2.7 6
	男性：74歳以下	100.0 67	31.3 21	11.9 8	41.8 28	25.4 17	6.0 4	7.5 5	20.9 14	23.9 16	10.4 7	9.0 6	0.0 0
	男性：75歳以上	100.0 153	14.4 22	5.9 9	49.7 76	22.2 34	13.7 21	11.1 17	20.3 31	8.5 13	22.9 35	13.7 21	3.9 6
	女性	100.0 375	15.2 57	3.7 14	52.8 198	16.0 60	7.7 29	7.5 28	10.1 38	9.9 37	22.7 85	19.2 72	3.5 13
	女性：74歳以下	100.0 101	15.8 16	4.0 4	39.6 40	12.9 13	2.0 2	9.9 10	15.8 16	16.8 17	17.8 18	24.8 25	5.0 5
	女性：75歳以上	100.0 274	15.0 41	3.6 10	57.7 158	17.2 47	9.9 27	6.6 18	8.0 22	7.3 20	24.5 67	17.2 47	2.9 8
日常生活圏域別	前原東	100.0 149	17.4 26	4.7 7	52.3 78	19.5 29	10.7 16	10.7 16	12.8 19	10.1 15	22.1 33	19.5 29	2.7 4
	前原西	100.0 147	15.6 23	4.1 6	58.5 86	19.7 29	9.5 14	8.2 12	17.7 26	8.8 13	22.4 33	9.5 14	2.7 4
	前原	100.0 89	20.2 18	9.0 8	43.8 39	21.3 19	7.9 7	6.7 6	11.2 10	14.6 13	23.6 21	13.5 12	0.0 0
	二丈	100.0 106	17.0 18	4.7 5	52.8 56	17.0 18	12.3 13	12.3 13	12.3 13	11.3 12	18.9 20	24.5 26	1.9 2
	志摩	100.0 104	14.4 15	4.8 5	41.3 43	15.4 16	3.8 4	2.9 3	14.4 15	12.5 13	19.2 20	17.3 18	8.7 9

調査数30件以上かつ全体より5ポイント以上高い項目

調査数30件以上かつ全体より5ポイント以上低い項目

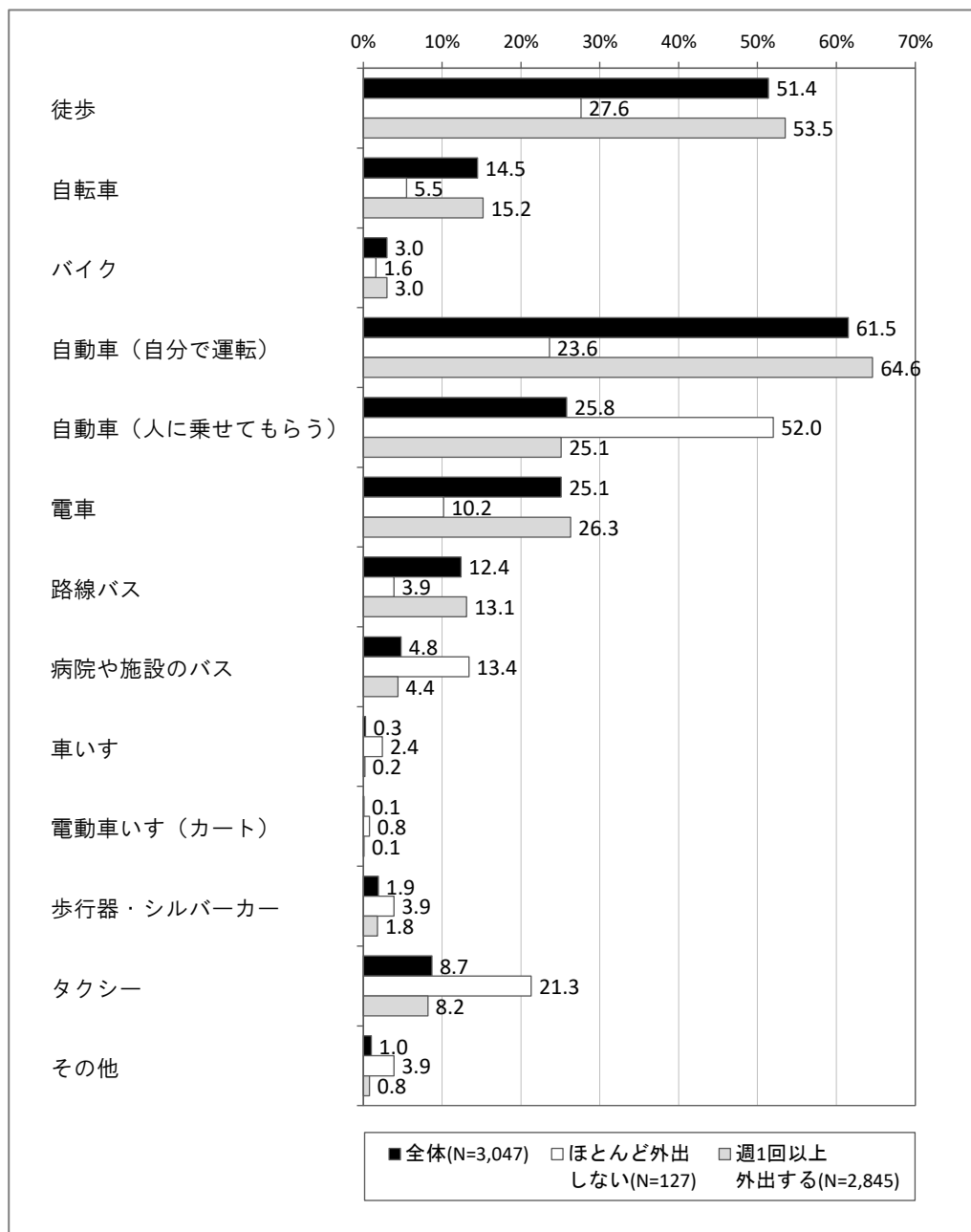
⑤ 外出する際の移動手段（複数回答）

外出する際の移動手段について尋ねた。

【市全体・外出状況別】

市全体でみると、外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」の割合が最も高く 61.5%、次いで「徒歩」が 51.4%、「自動車（人に乗せてもらう）」が 25.8%となっている。

ほとんど外出しない人と週一回以上外出する人の比較では、ほとんど外出しない人は「自動車（人に乗せてもらう）」(52.0%)、「タクシー」(21.3%)、「病院や施設のバス」(13.4%) などが市全体よりも高くなっている。



【性別・性年代別】

性別にみると、「自動車（自分で運転）」の割合は男性が75.5%、女性が49.3%となっており、男性の方が高くなっている。反対に「自動車（人に乗せてもらう）」の割合は女性が37.2%、男性が12.8%で女性の方が高くなっている。女性は「電車」（27.1%）、「路線バス」（15.1%）、「タクシー」（11.6%）などでも男性より高くなっている。

性年代別にみると多くの項目において年代が上がるほど、割合が高くなっていることが確認できる。特に「自動車（人に乗せてもらう）」や「病院や施設のバス」、「タクシー」などはその傾向が顕著である。一方、年代が上がると割合が低くなるのは「自動車（自分で運転）」である。男性は75歳以上でも市全体の平均程度の人が自分で運転する傾向にあるものの、女性は75歳以上の年代で低くなり32.3%となっている。

【圏域別】

圏域別にみると、前原西圏域は「徒歩」の割合が61.7%と他圏域と比較して最も高くなっており、市全体の51.4%と比較して10ポイントほど高くなっている。一方、志摩圏域は「徒歩」（39.5%）、「電車」（14.3%）の割合が他圏域と比較して最も低くなっている。

区分		調査数	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	（人に乗せてもらう）自動車	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全 体		100.0 3,047	51.4 1,566	14.5 441	3.0 90	61.5 1,875	25.8 785	25.1 764	12.4 379	4.8 145	0.3 8	0.1 4	1.9 58	8.7 264	1.0 29	2.6 78
性年代別	男性	100.0 1,425	50.8 724	17.9 255	4.9 70	75.5 1,076	12.8 182	22.7 324	9.4 134	2.0 29	0.3 4	0.1 2	0.5 7	5.3 76	0.5 7	3.0 43
	男性：74歳以下	100.0 697	52.9 369	17.1 119	7.3 51	84.5 589	8.9 62	24.8 173	8.3 58	0.1 1	0.4 3	0.0 0	0.1 1	3.0 21	0.7 5	3.2 22
	男性：75歳以上	100.0 728	48.8 355	18.7 136	2.6 19	66.9 487	16.5 120	20.7 151	10.4 76	3.8 28	0.1 1	0.3 2	0.8 6	7.6 55	0.3 2	2.9 21
	女性	100.0 1,622	51.9 842	11.5 186	1.2 20	49.3 799	37.2 603	27.1 440	15.1 245	7.2 116	0.2 4	0.1 2	3.1 51	11.6 188	1.4 22	2.2 35
	女性：74歳以下	100.0 753	50.9 383	11.8 89	1.5 11	68.8 518	29.3 221	30.1 227	13.3 100	1.1 8	0.1 1	0.0 0	0.5 4	4.4 33	0.7 5	2.1 16
	女性：75歳以上	100.0 869	52.8 459	11.2 97	1.0 9	32.3 281	44.0 382	24.5 213	16.7 145	12.4 108	0.3 3	0.2 2	5.4 47	17.8 155	2.0 17	2.2 19
日常生活圏域別	前原東	100.0 823	53.7 442	18.8 155	3.0 25	59.1 486	27.5 226	27.3 225	10.3 85	5.3 44	0.2 2	0.1 1	2.3 19	9.8 81	0.7 6	3.0 25
	前原西	100.0 776	61.7 479	16.9 131	2.3 18	57.5 446	28.2 219	31.7 246	15.5 120	3.9 30	0.3 2	0.0 0	1.5 12	10.1 78	1.0 8	1.8 14
	前原	100.0 456	50.2 229	11.2 51	3.1 14	62.5 285	22.1 101	20.0 91	10.1 46	2.9 13	0.2 1	0.2 1	1.8 8	7.2 33	2.2 10	3.7 17
	二丈	100.0 448	44.9 201	10.9 49	2.2 10	65.0 291	25.2 113	27.7 124	4.5 20	5.6 25	0.4 2	0.0 0	1.8 8	5.8 26	0.2 1	1.6 7
	志摩	100.0 544	39.5 215	10.1 55	4.2 23	67.5 367	23.2 126	14.3 78	19.9 108	6.1 33	0.2 1	0.4 2	2.0 11	8.5 46	0.7 4	2.8 15

上段：％、下段：件

■ 調査数30件以上かつ全体より5ポイント以上高い項目

■ 調査数30件以上かつ全体より5ポイント以上低い項目

(3) 転倒

以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、転倒リスクがあると判定される。

【転倒リスクの評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある

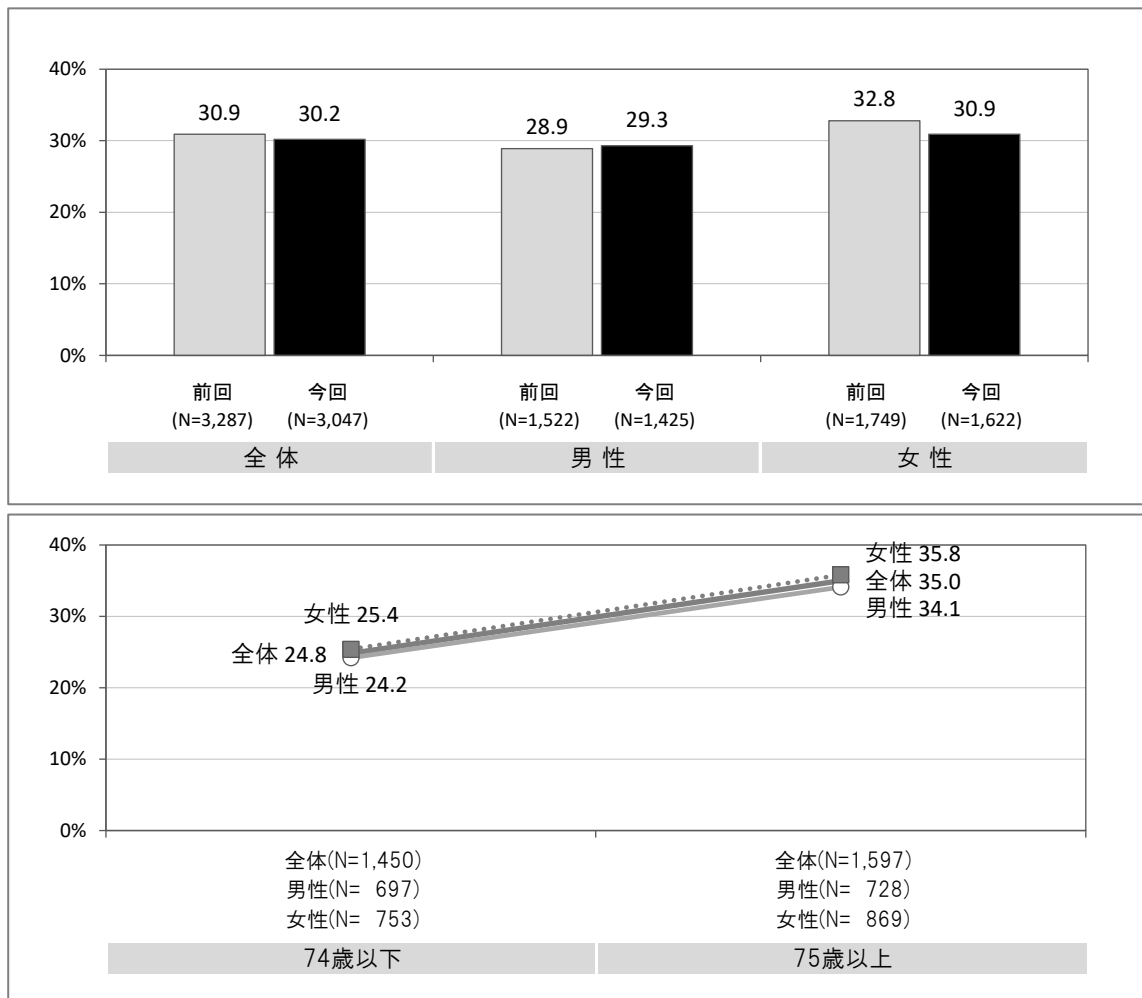
① 転倒リスク保有者の割合

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、リスク保有者の割合は 30.2%となっている。

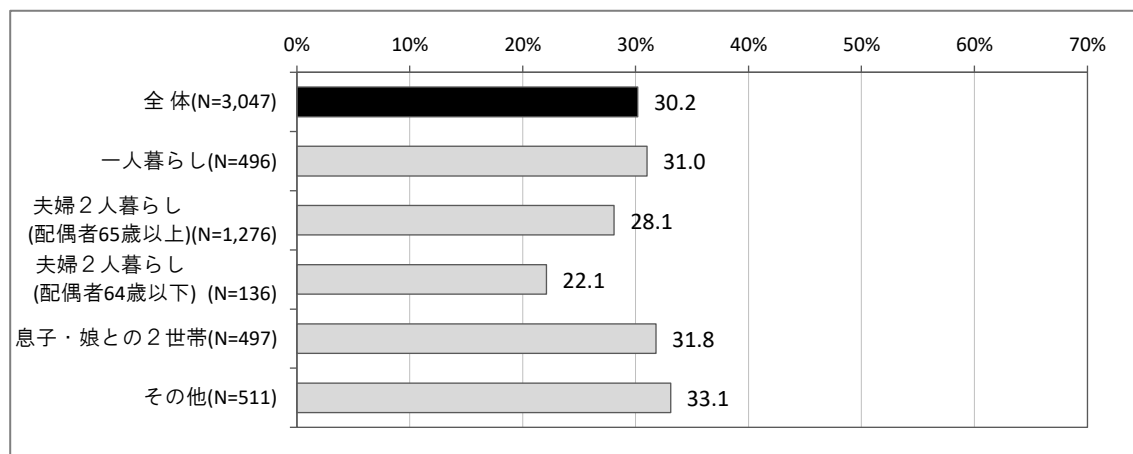
性別にみると、男性で 29.3%、女性で 30.9%となっており、女性の転倒リスクがやや高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど割合は高くなり、最も高いのは女性 75 歳以上で 35.8%となっている。



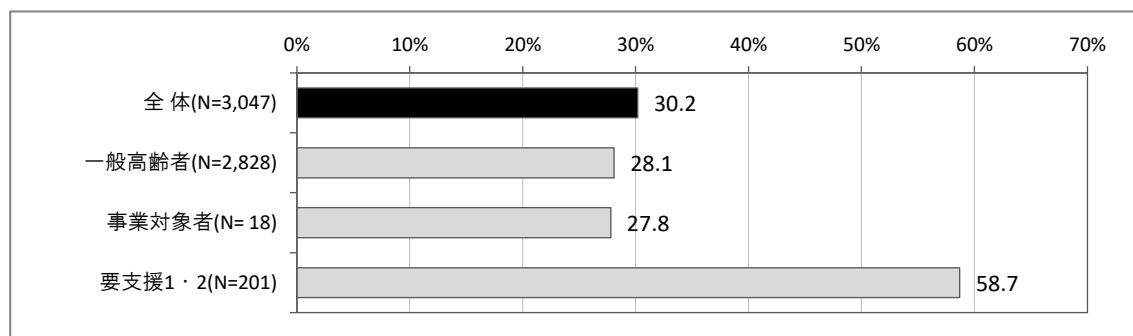
【家族構成別】

家族構成別にみると、その他の割合が 33.1%で最も高く、次いで息子・娘との2世帯で 31.8%、一人暮らしで 31.0%である。一方、転倒リスクが市全体よりも低いのは「夫婦2人暮らし」世帯であり、配偶者 65 歳以上で 28.1%、配偶者 64 歳以下で 22.1%となっている。



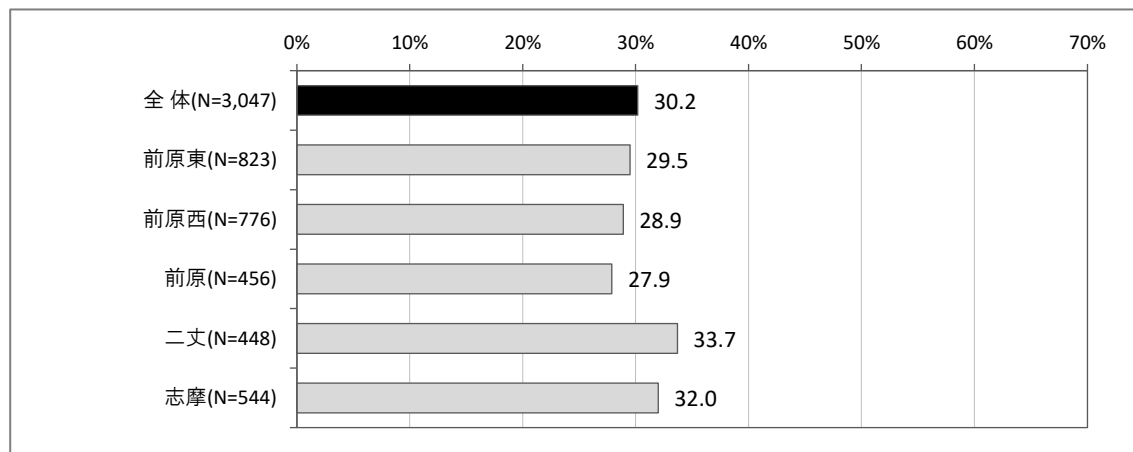
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2の割合が最も高く 58.7%となっている。最も割合が高い要支援1・2と、最も低い一般高齢者とでは 30 ポイントほどの差がある。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域の割合が最も高く 33.7%となっており、次いで志摩圏域が 32.0%となっている。一方、市全体よりも低いのは前原東圏域で 29.5%、前原西圏域で 28.9%、前原圏域で 27.9%となっている。



(4) 栄養

① 低栄養が疑われる高齢者の割合

身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が18.5以下の場合に低栄養が疑われる高齢者として判定される。

【低栄養が疑われる高齢者の評価・分析方法】

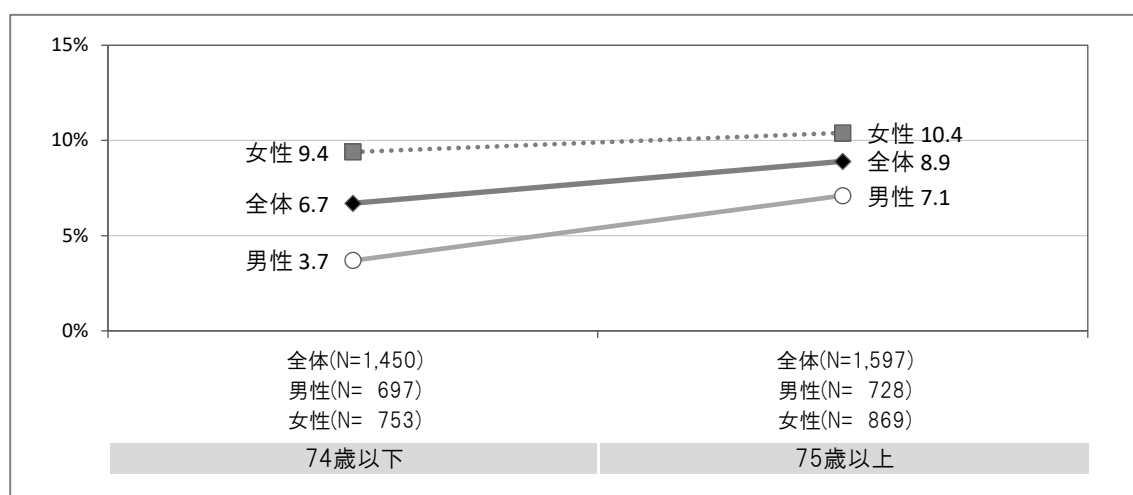
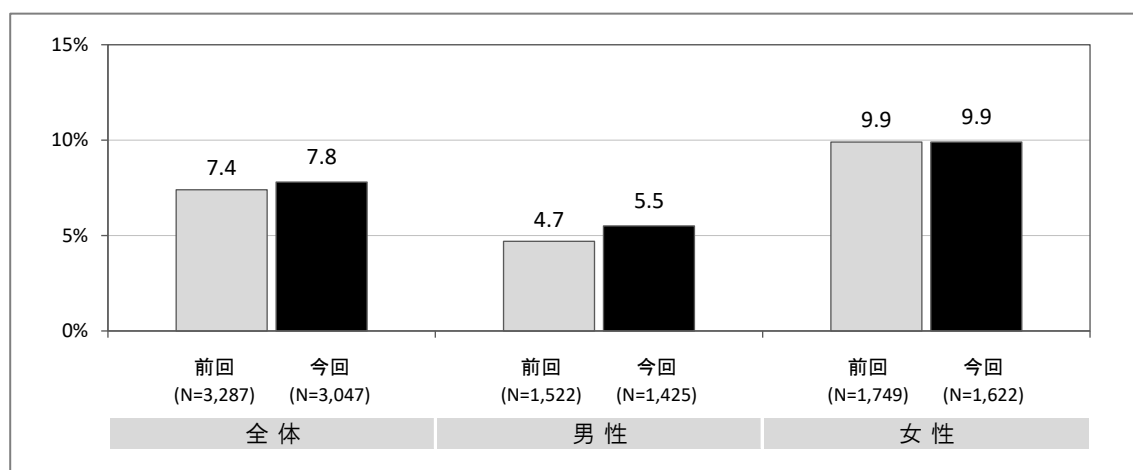
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問3(1)	身長・体重	BMIが18.5以下

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、低栄養が疑われる高齢者の割合は7.8%である。

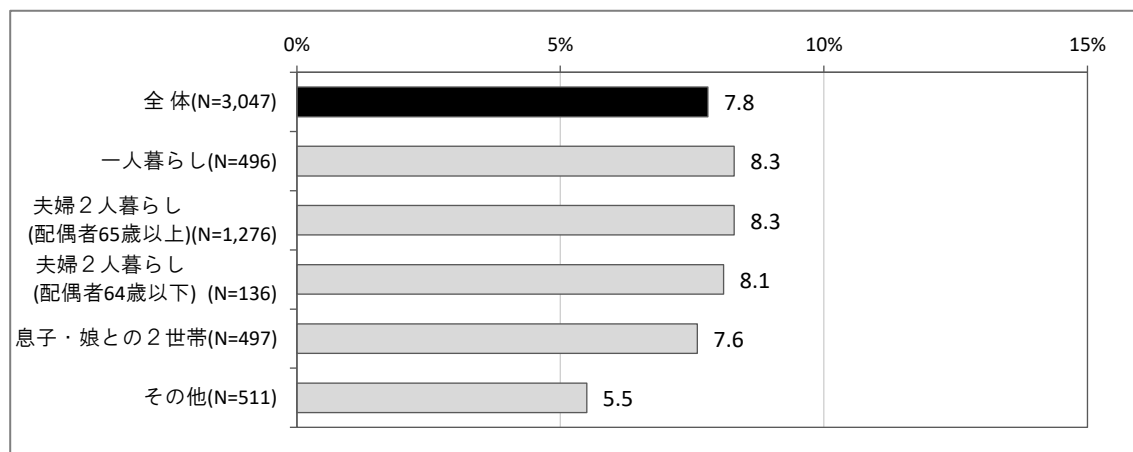
性別にみると男性が5.5%、女性が9.9%となっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっており、女性75歳以上が最も高く10.4%となっている。



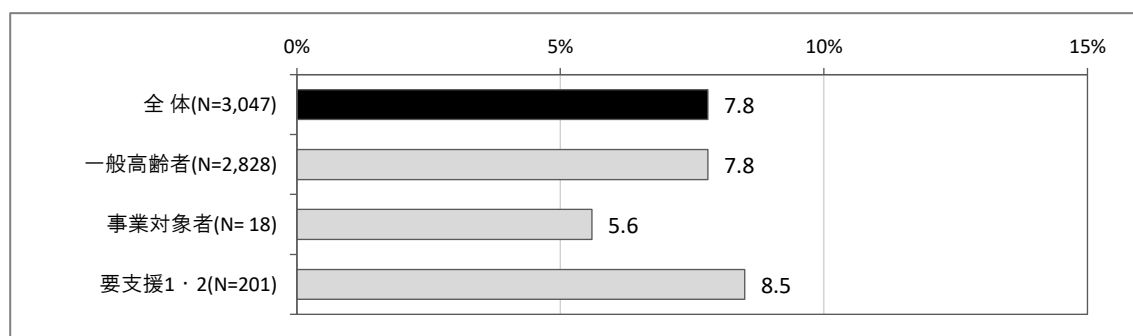
【家族構成別】

家族構成別にみると、一人暮らしと夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）の割合がともに 8.3%で市全体と比較して高くなっており、次いで夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）で 8.1%となっている。一方、市全体よりも割合が低いのは「息子・娘との２世帯」で 7.6%、「その他」で 5.5%となっている。



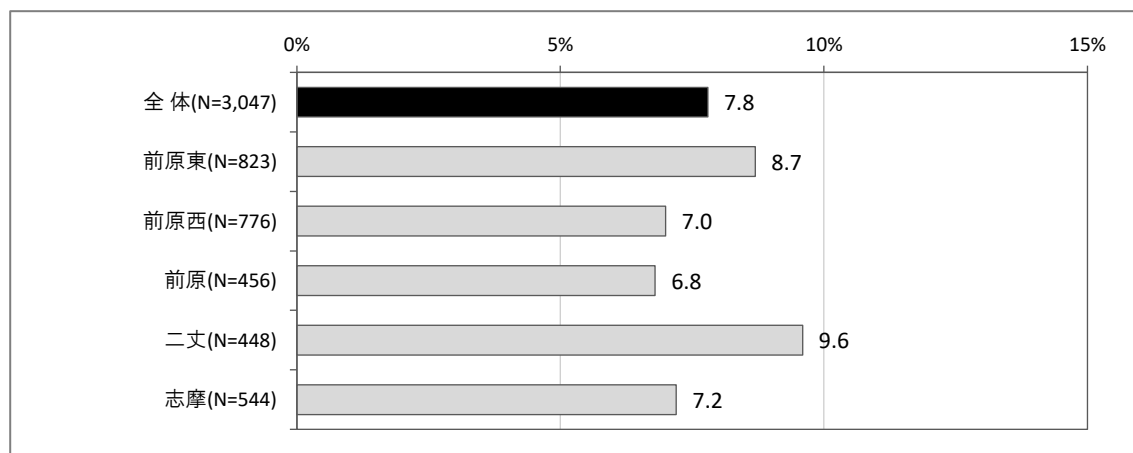
【要介護度別】

要介護度別にみると、一般高齢者の割合が 7.8%であるのに対し要支援１・２では 8.5%と高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域が他圏域と比較して最も高く 9.6%となっている。一方、最も割合が低いのは前原圏域であり、6.8%となっている。



② 低栄養状態にある高齢者の割合

身長・体重から算出される BMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が 18.5 以下で、問 3（7）の設問において、該当する選択肢が回答された場合に低栄養状態にあると判定される。

【低栄養状態にある高齢者の評価・分析方法】

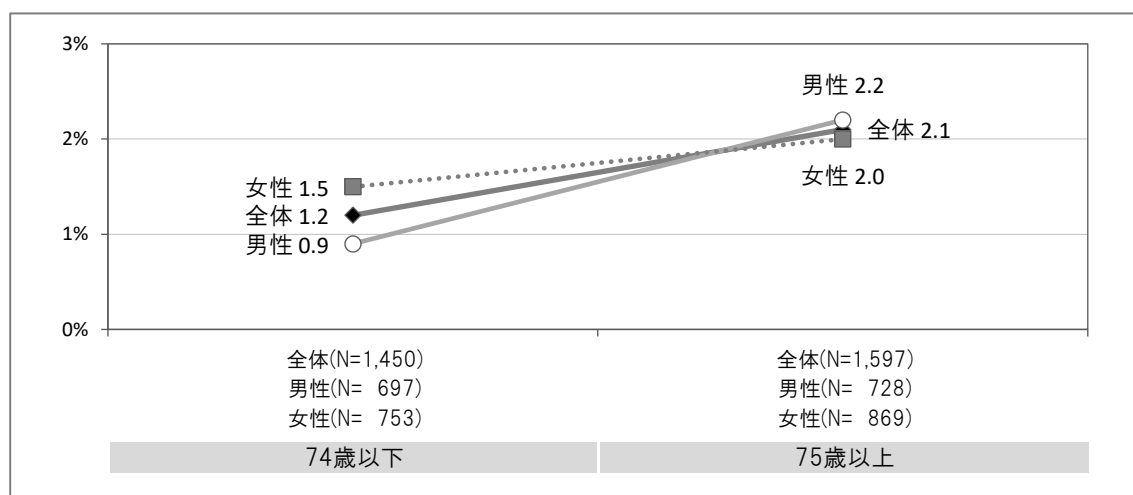
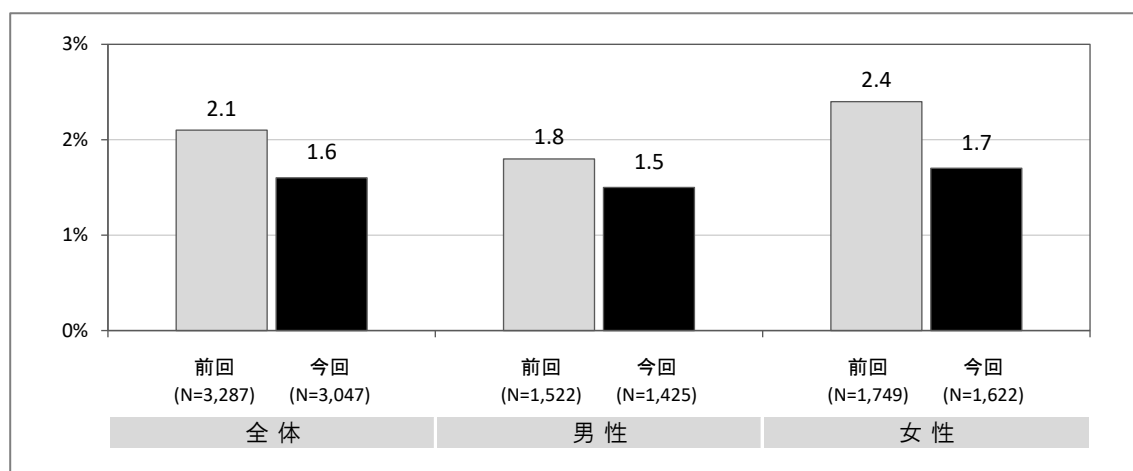
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 3(1)	身長・体重	BMI が 18.5 以下
問 3(7)	6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか	1. はい

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、低栄養状態にある高齢者の割合は 1.6% となっている。

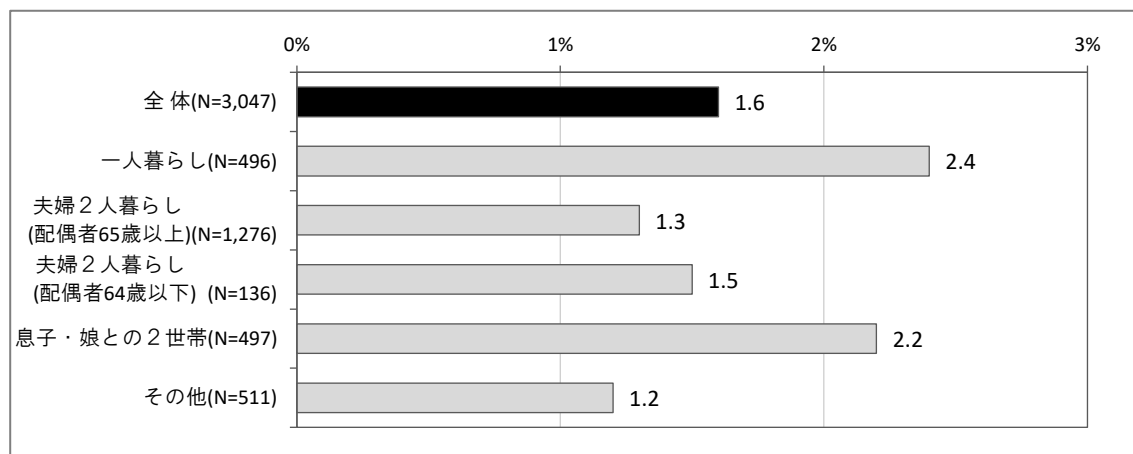
性別にみると男性は 1.5%、女性は 1.7% と女性の割合が高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど割合が高く、最も高いのは男性 75 歳以上で 2.2% となっている。



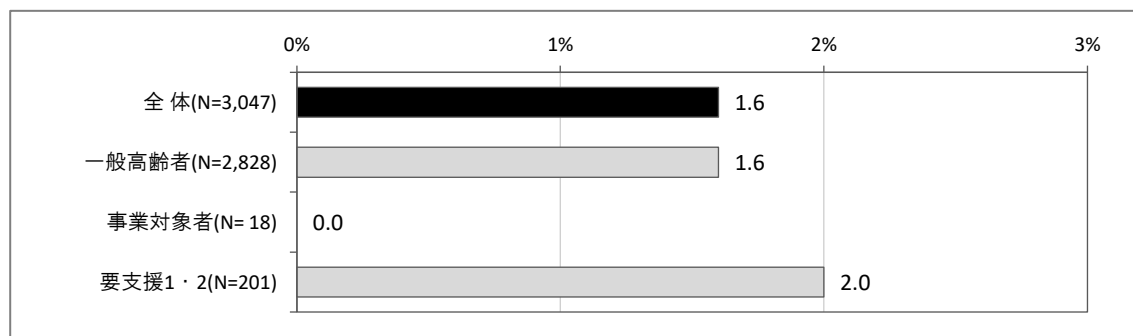
【家族構成別】

家族構成別にみると、市全体と比較して割合が高いのは一人暮らしが2.4%、次いで息子・娘との2世帯が2.2%となっている。一方、「夫婦2人暮らし」は市全体と比較して割合が低くなっており、配偶者65歳以上が1.3%、配偶者64歳以下が1.5%となっている。



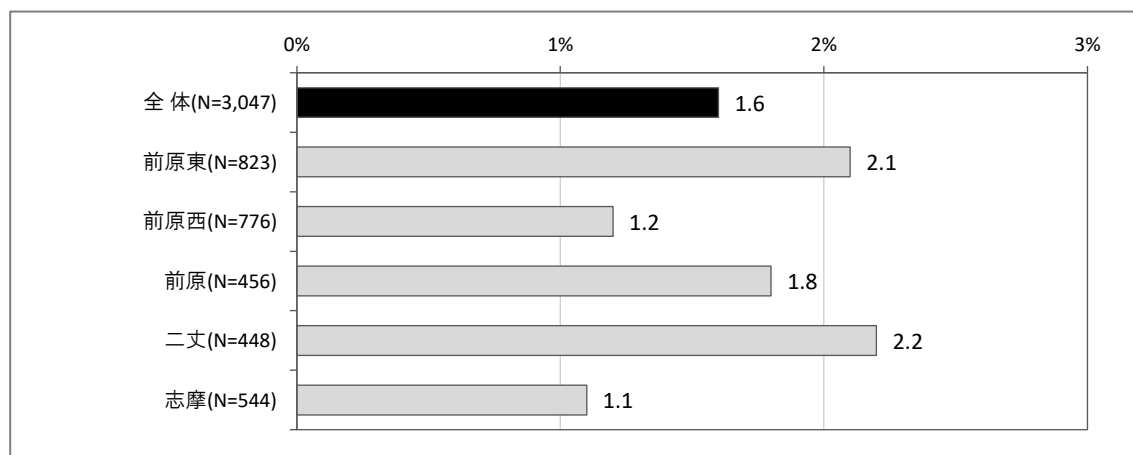
【要介護度別】

要介護度別にみると、一般高齢者の割合が市全体と同じ1.6%であるのに対し、要支援1・2では2.0%とやや高い割合となっている。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域が2.2%と他圏域と比較して割合が最も高く、次いで前原東圏域が2.1%となっている。一方、最も割合が低いのは志摩圏域で1.1%となっている。ただし、すべての圏域が市全体と比較しても1ポイント未満の差となっている。



(5) 口腔機能

① 口腔機能が低下している高齢者の割合

以下の設問のうち2問以上、該当する選択肢が回答された場合に、口腔機能が低下していると判定される。

【口腔機能の低下している高齢者の評価・分析方法】

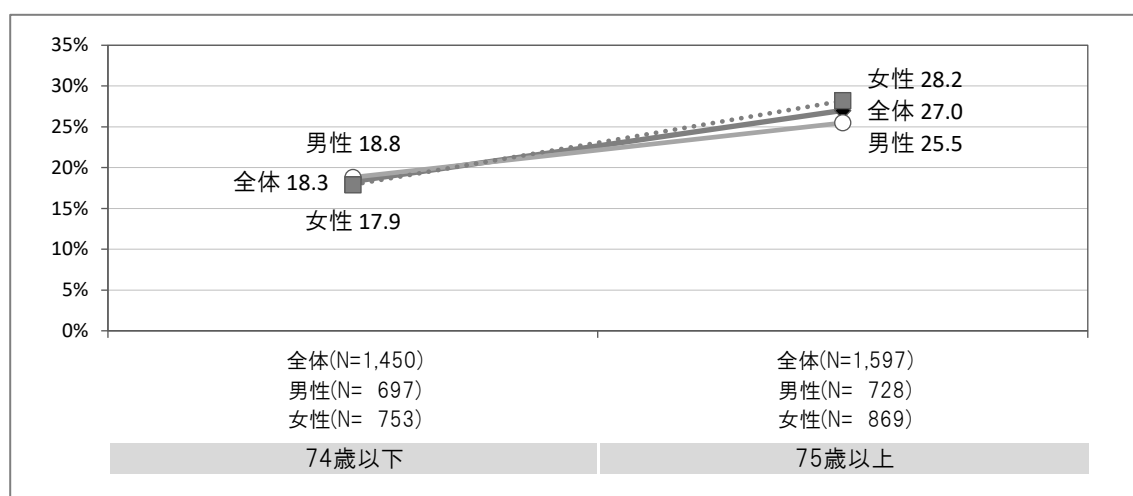
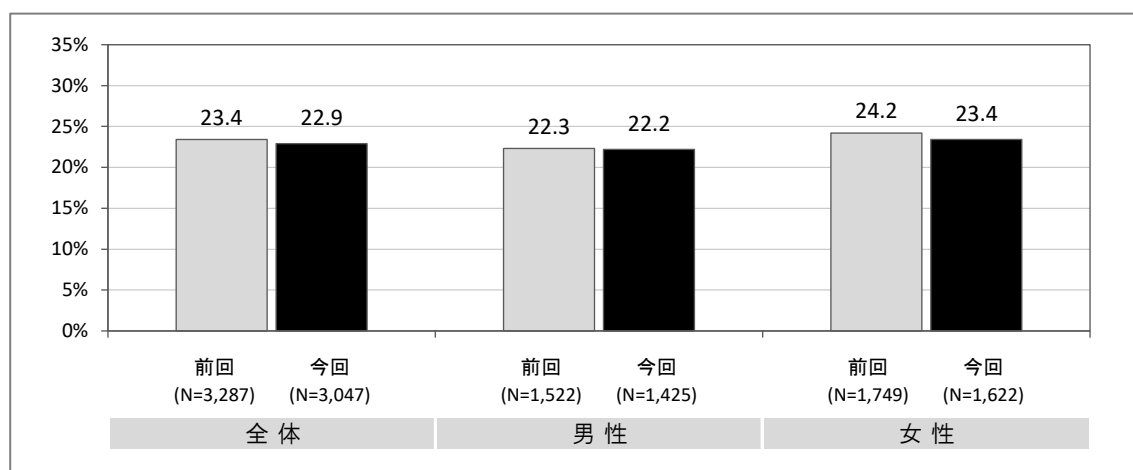
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問3(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、口腔機能が低下している高齢者の割合は22.9%となっている。

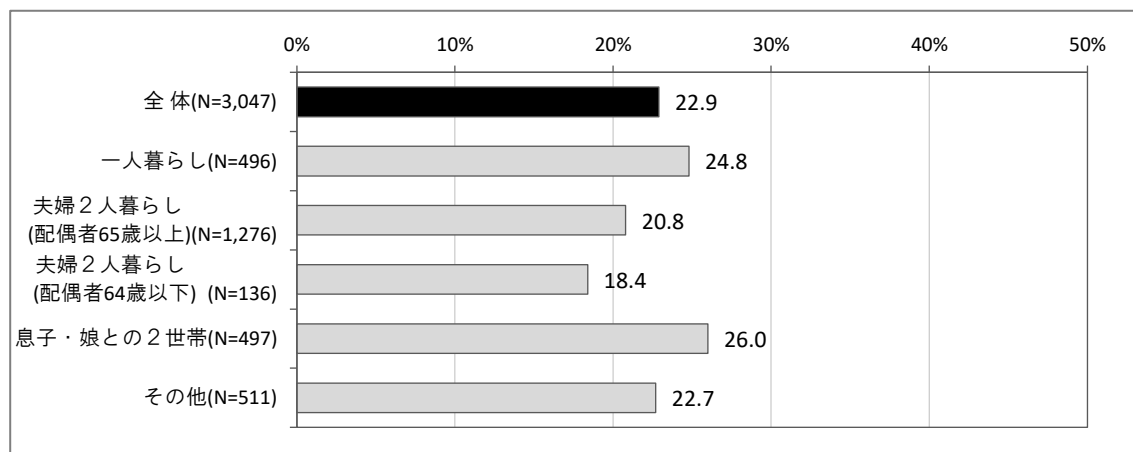
性別にみると男性が22.2%、女性が23.4%である。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっており、女性75歳以上が最も高く28.2%となっている。



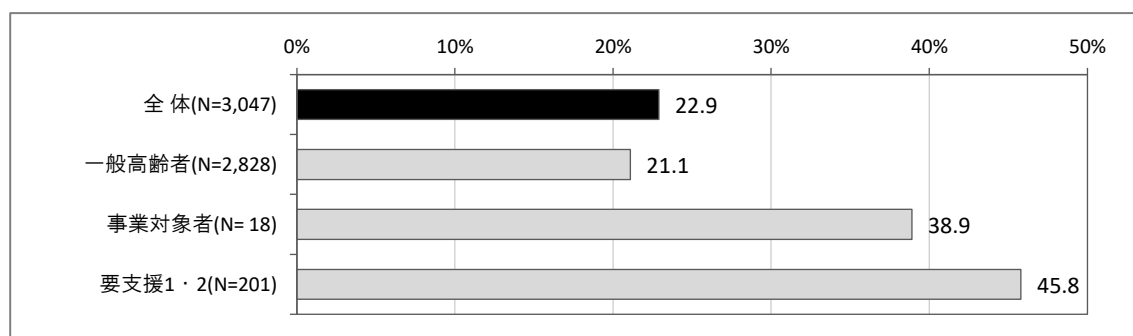
【家族構成別】

家族構成別にみると、息子・娘と2世帯の割合が26.0%と最も高く、次いで一人暮らしが24.8%となっている。一方、市全体と比較して割合が低いのは夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が20.8%、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が18.4%、その他が22.7%である。



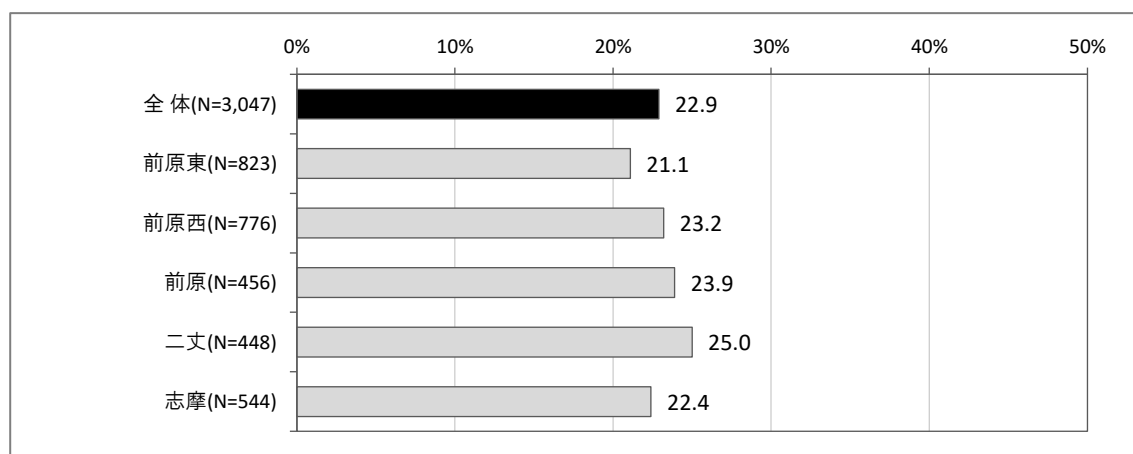
【要介護度別】

要介護度別にみると、一般高齢者の割合が21.1%であるのに対し、要支援1・2では45.8%と高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域の割合が他圏域と比較して最も高く、25.0%となっている。一方、前原東圏域の割合が他圏域と比較して最も低く、21.1%となっている。

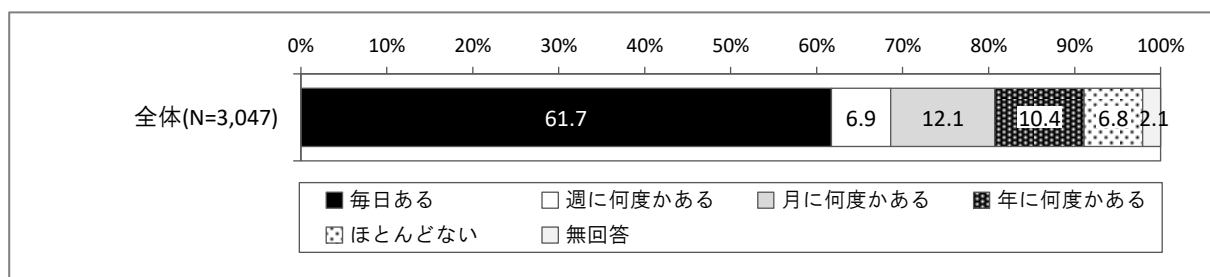


② 共食の状況

誰かと食事を共にする機会があるかについて尋ねた。

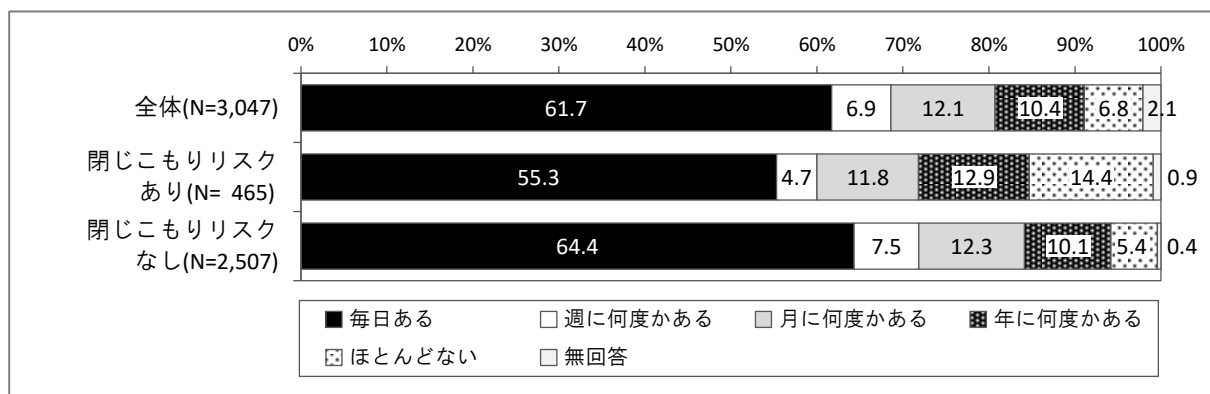
【市全体】

市全体でみると、「毎日ある」の割合が最も高く 61.7%、次いで「月に何度かはある」が 12.1%と続いている。「ほとんどない」が最も低く 6.8%となっている。



【閉じこもりリスクの有無別】

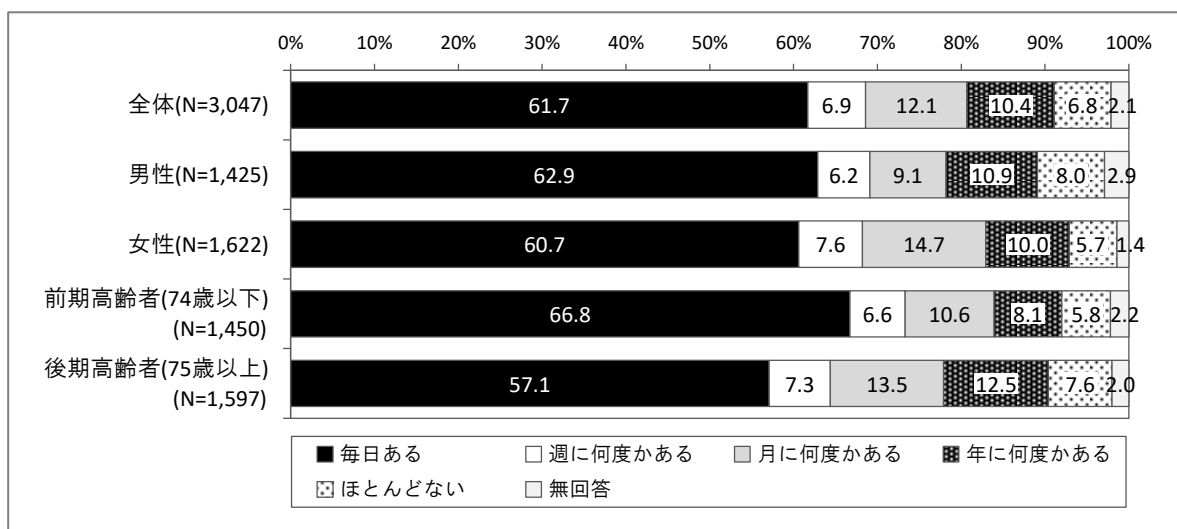
閉じこもりリスクの有無別にみると、閉じこもりリスクありでは「毎日ある」の割合が 55.3%となっており、閉じこもりリスクなしの「毎日ある」の割合（64.4%）と比較し 9.1 ポイント低くなっている。また、閉じこもりリスクありは「ほとんどない」の割合が高く 14.4%となっている。



【性別・年代別】

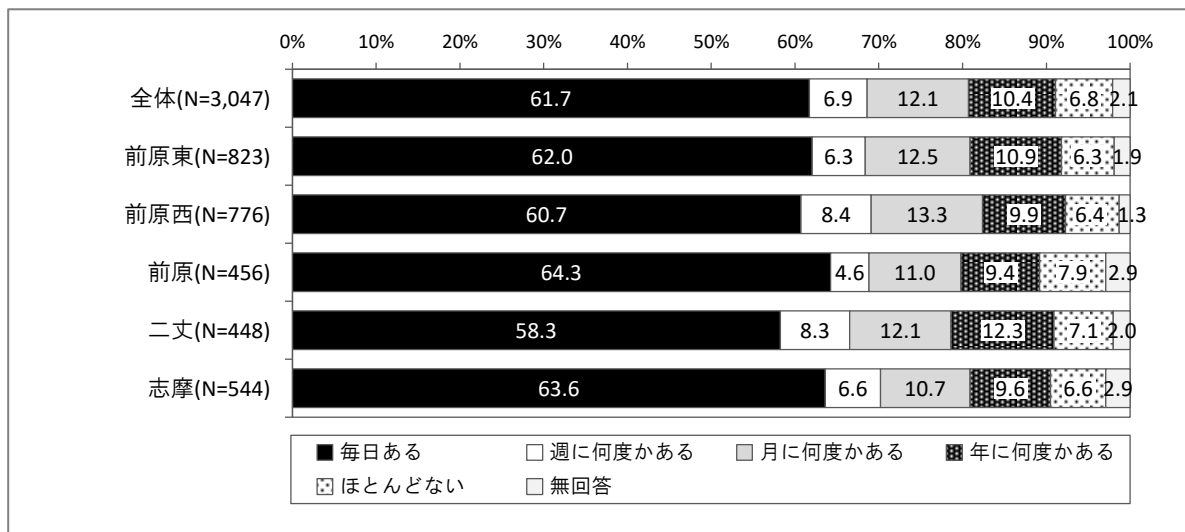
性別にみると、女性と比較して男性の方が「毎日ある」の割合が高くなっており、男性は 62.9%、女性は 60.7%となっている。

年代別にみると、年代が上がるほど、「毎日ある」の割合が低く、「月に何度かある」、「年に何度かはある」の割合が高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「毎日ある」の割合が最も高いのは前原圏域で 64.3%、次いで志摩圏域で 63.6%となっている。一方、最も低いのは二丈圏域で 58.3%となっている。



(6) 認知症

① 認知症リスク保有者の割合

以下の設問でいずれか1問でも、該当する選択肢が回答された場合に、認知症リスク保有者として判定される。

【認知症リスク保有者の評価・分析方法】

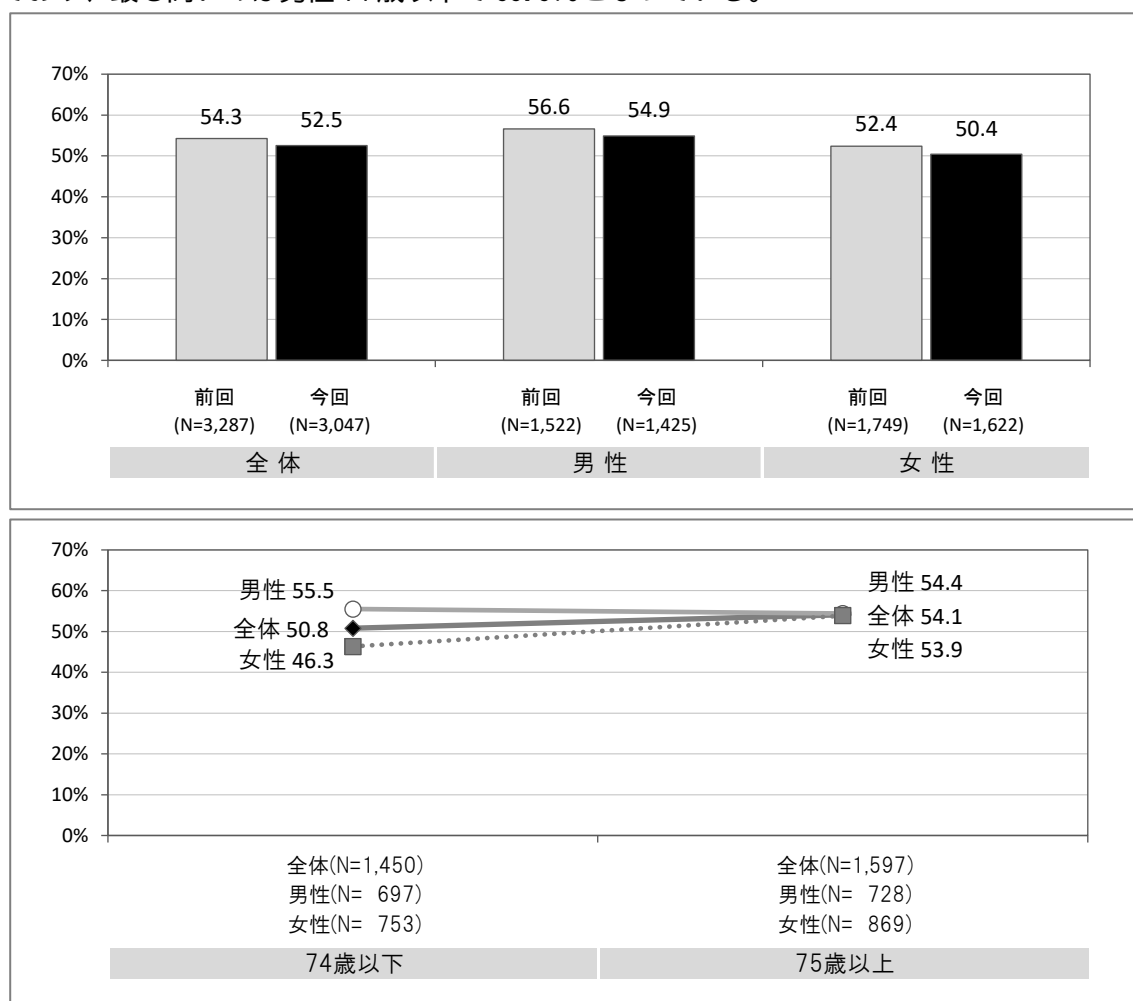
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問 4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問 4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、リスク保有者の割合は 52.5%となっている。

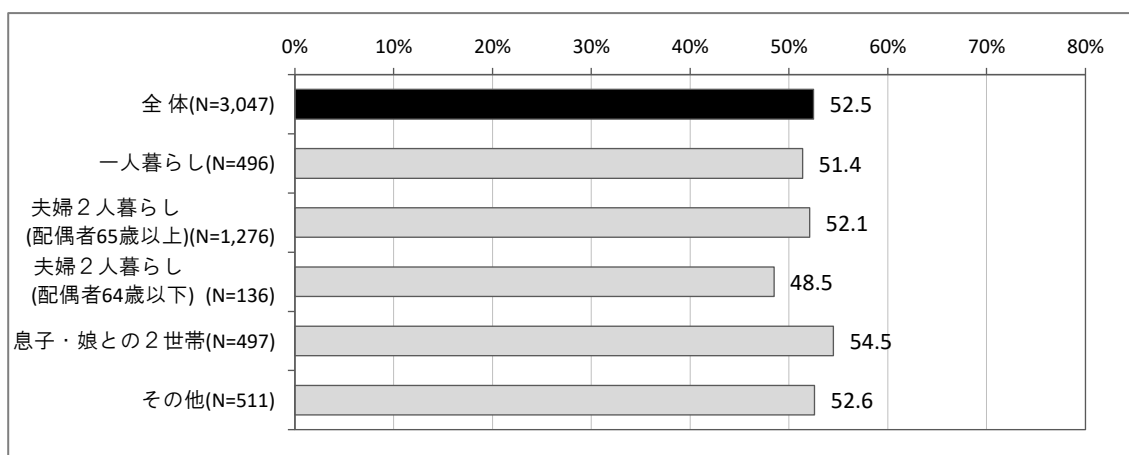
性別にみると、男性は 54.9%、女性は 50.4%である。

性年代別にみると、男性では年代が上がるほど割合は低くなっているが、女性では年代が上がるほど割合が高くなっており、最も高いのは男性 74 歳以下で 55.5%となっている。



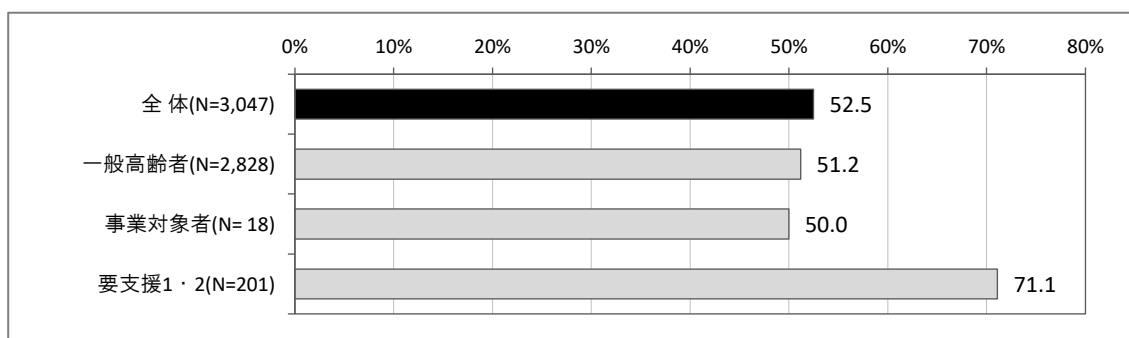
【家族構成別】

家族構成別にみると、息子・娘との2世帯が市全体と比較して54.5%と割合が高くなっている。一方、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」世帯は48.5%で市全体と比較して割合が低くなっている。



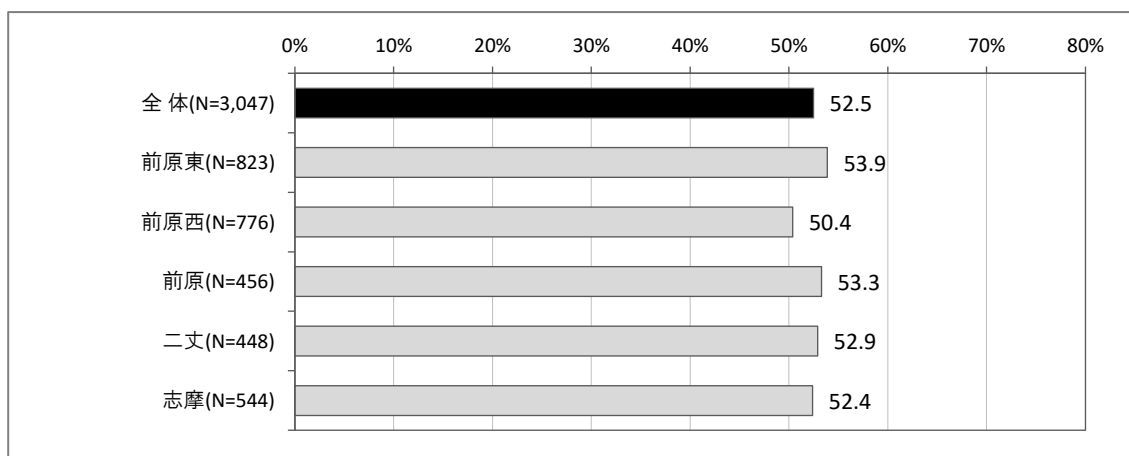
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2の割合が71.1%で最も高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、前原西圏域の割合が50.4%で他圏域と比較して最も低くなっている。



(7) 虚弱

以下の設問のうち 10 問以上、該当する選択肢が回答された場合に、虚弱のリスクありと判定されます。

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(4)	バスや電車を使って 1 人で外出していますか（自家用車でも可）	3. できない
問 4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	3. できない
問 4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない
問 4(13)	友人の家を訪ねていますか	2. いいえ
問 4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	2. いいえ
問 2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2(3)	15 分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2(4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある
問 2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である
問 3(7)	6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか	1. はい
問 3(1)	身長・体重により BMI を算出	BMI が 18.5 以下
問 3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 3(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい
問 2(6)	週に 1 回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
問 2(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている
問 4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問 4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問 4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

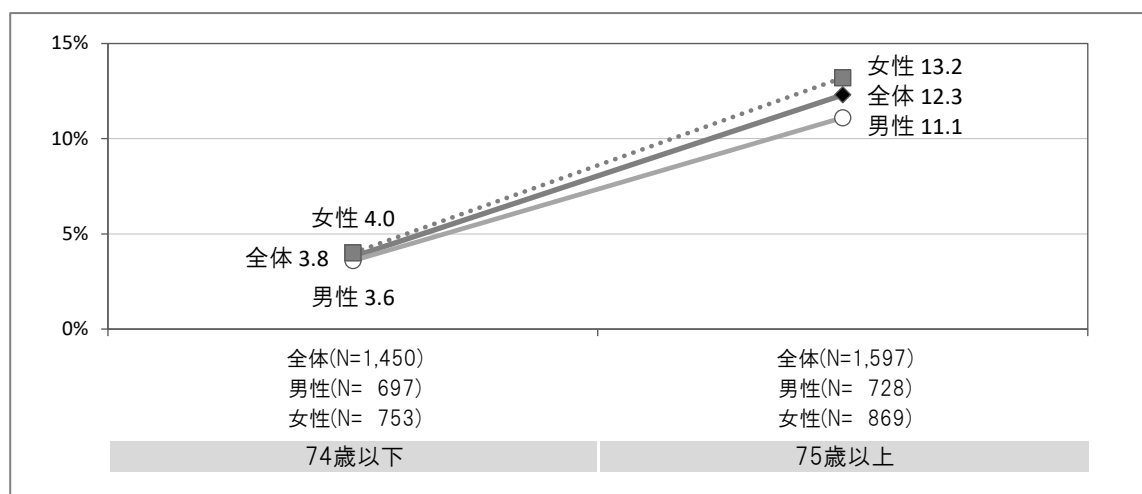
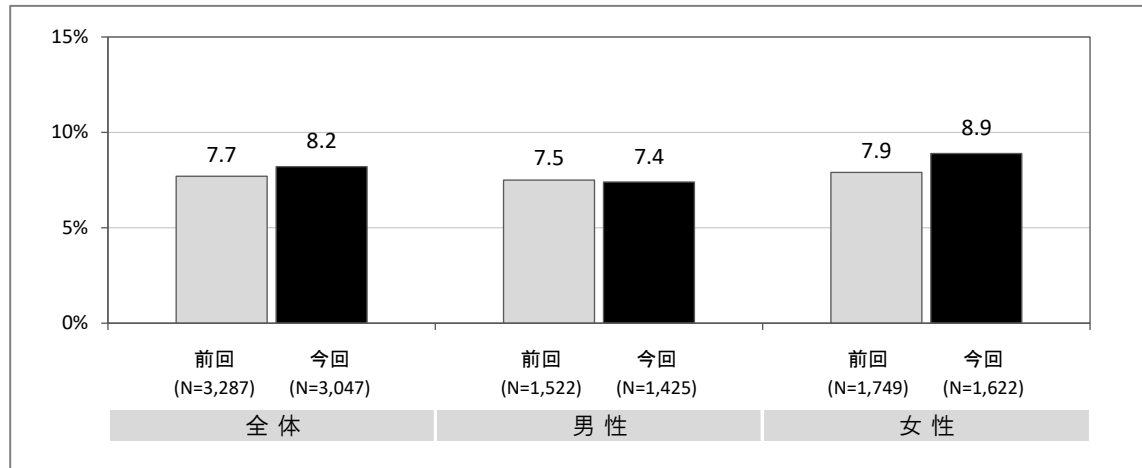
① 虚弱高齢者の割合

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、リスク保有者の割合は 8.2%となっている。

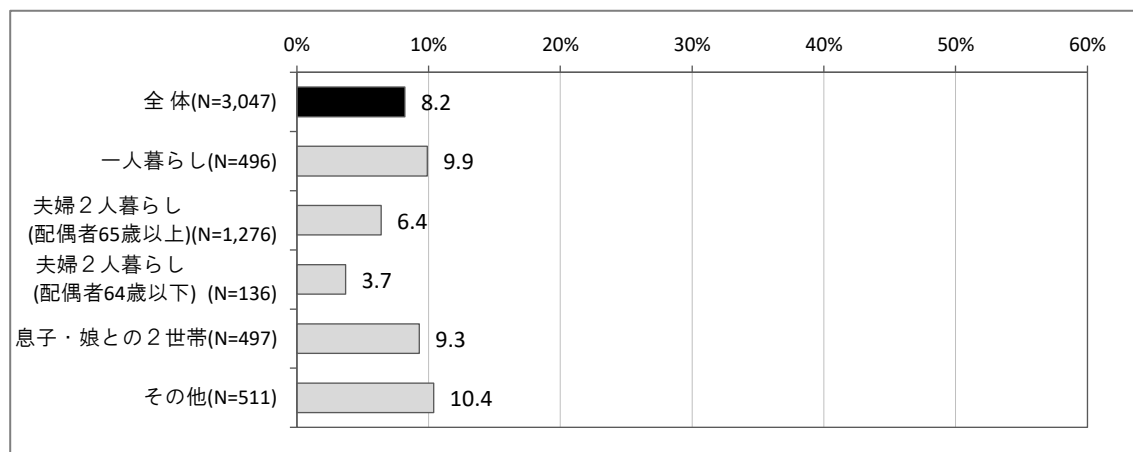
性別にみると、男性は 7.4%、女性は 8.9%となっており、女性の割合がやや高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっており、女性 75 歳以上が最も高く 13.2%となっている。



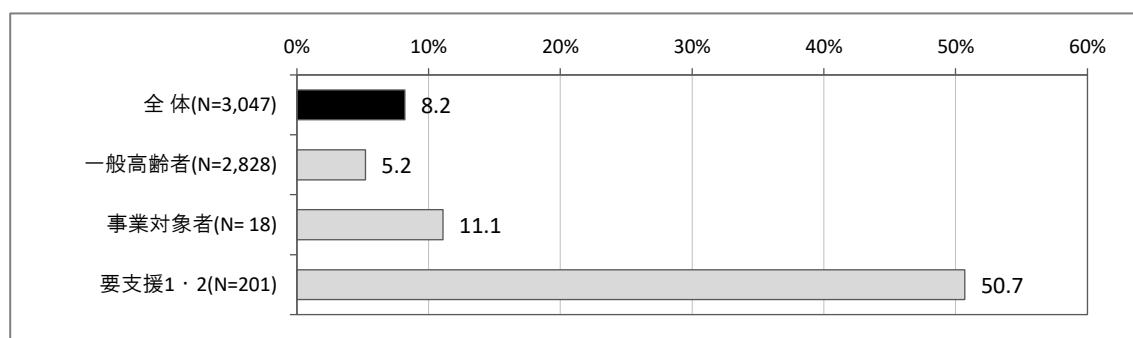
【家族構成別】

家族構成別にみると、その他の世帯の割合が最も高く 10.4%、次いで一人暮らしが 9.9%、息子・娘との 2 世帯が 9.3%となっている。一方、夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）では 6.4%、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）家庭では 3.7%と、市全体より割合が低くなっている。



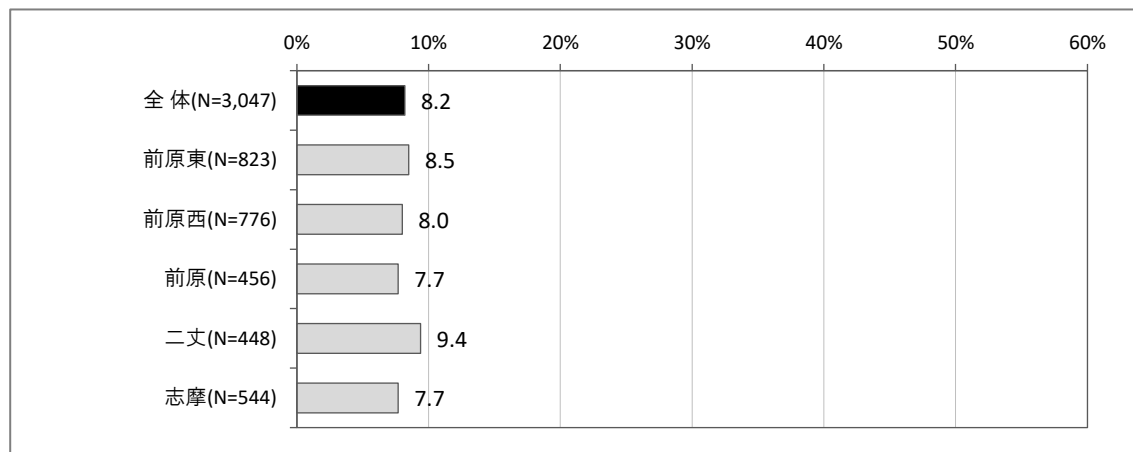
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援 1・2 が 50.7%と割合が最も高くなっている。最も割合の高い要支援 1・2 と、最も割合の低い一般高齢者を比較すると、約 45 ポイントの差がある。



【圏域別】

圏域別にみると、二丈圏域の割合が 9.4%と他圏域と比較して最も高くなっている。一方、割合が低いのは前原圏域と志摩圏域でありともに 7.7%となっている。

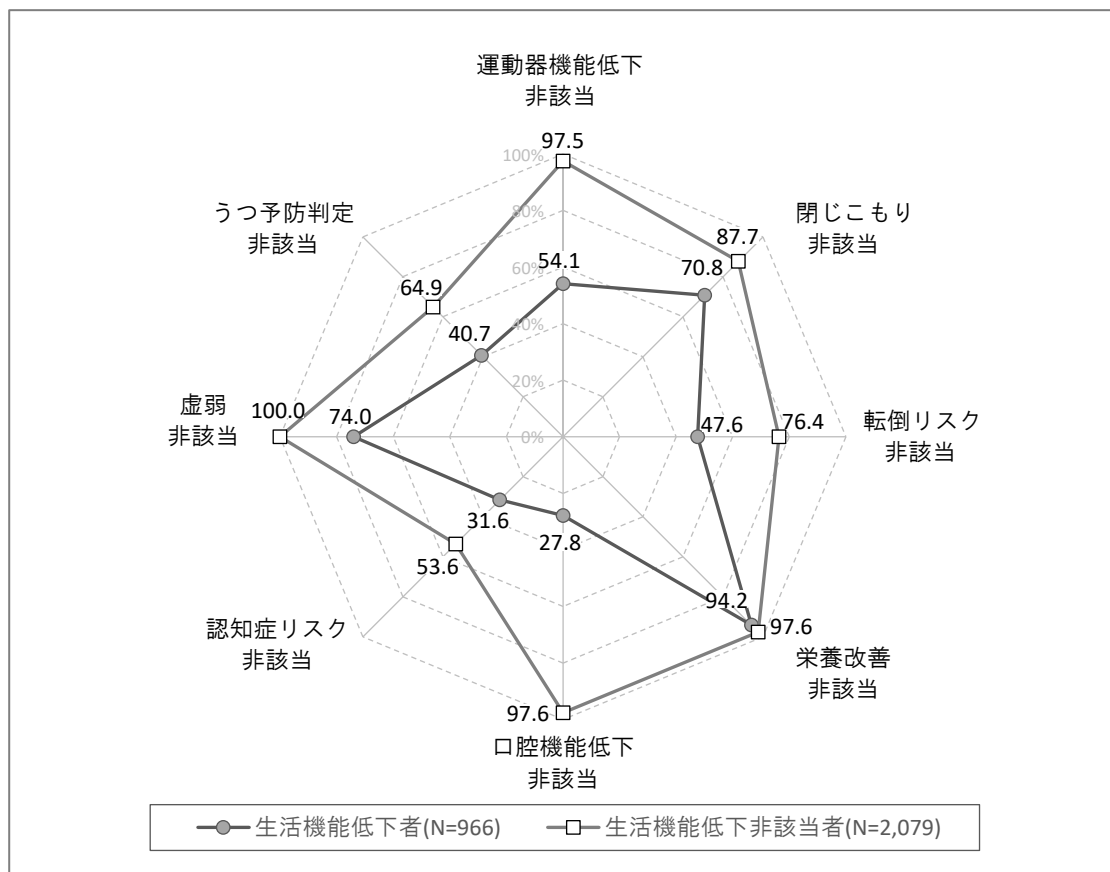


(8) 生活機能の低下状況

生活機能の評価項目ごとのリスクなしの割合を可視化した（リスクなしの割合であるため、数値が高いほど生活機能が高いことを意味する）。

下記評価項目の内、「運動器機能低下」、「栄養改善」、「口腔機能低下」、「虚弱」の内の1つに該当すると生活機能低下者と判定される。

【評価項目ごとにみた生活機能割合（リスクなし）】



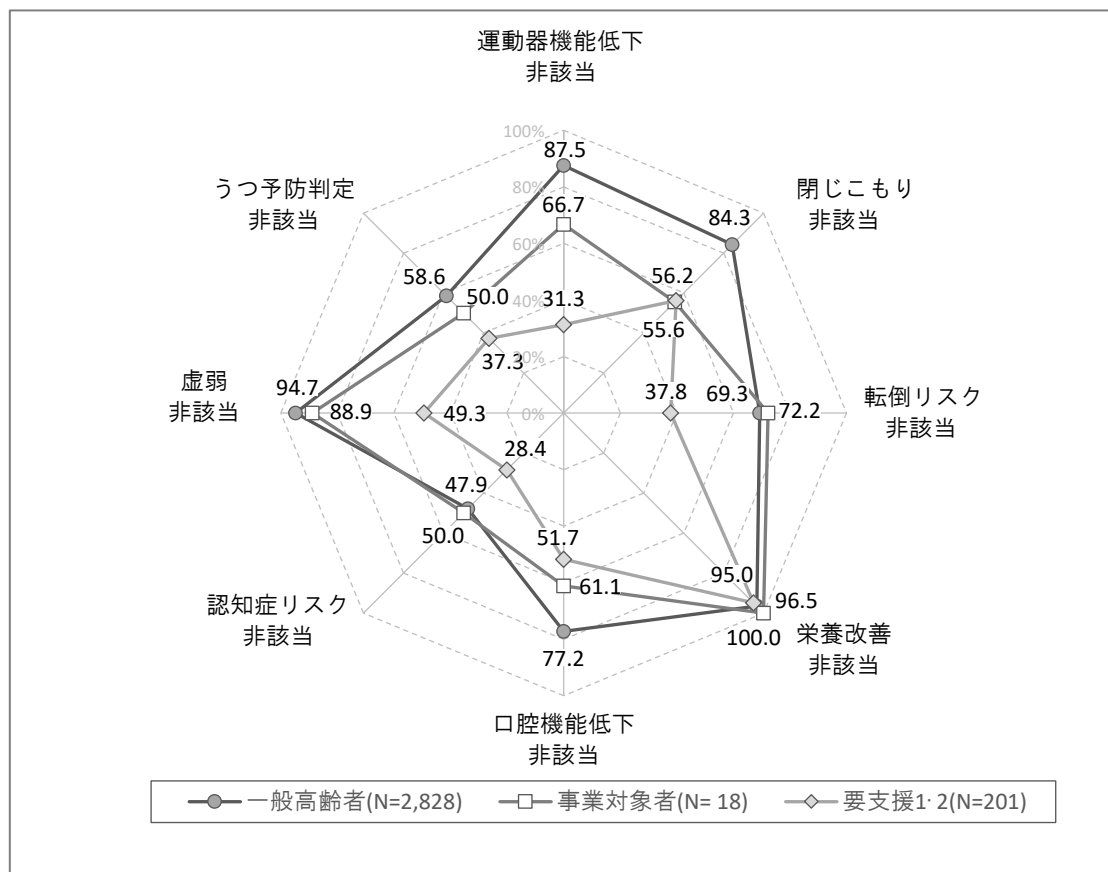
【要介護度別】

生活機能の評価項目ごとのリスクなしの割合を可視化した（リスクなしの割合であるため、数値が高いほど生活機能が高いことを意味する）。

すべての項目において要支援1・2は最も低い割合となっている（リスクなしが少なくなっている）。

特に、運動器機能低下の項目については、一般高齢者との差が大きい。

【評価項目ごとに見た要介護度割合（リスクなし）】



2 日常生活

(1) 手段的自立度（IADL）低下者

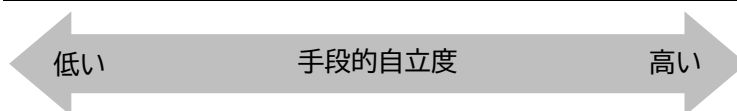
以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

【手段的自立度（IADL）低下者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」 に1点
問 4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 4(6)	自分で食事の用意をしていますか	
問 4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問 4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

【合計点数 判定基準】

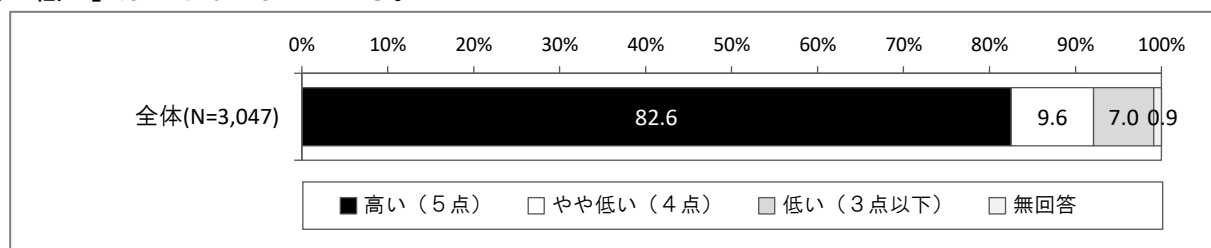
0～3点	4点	5点
低い	やや低い	高い



① 手段的自立度（IADL）低下者の割合

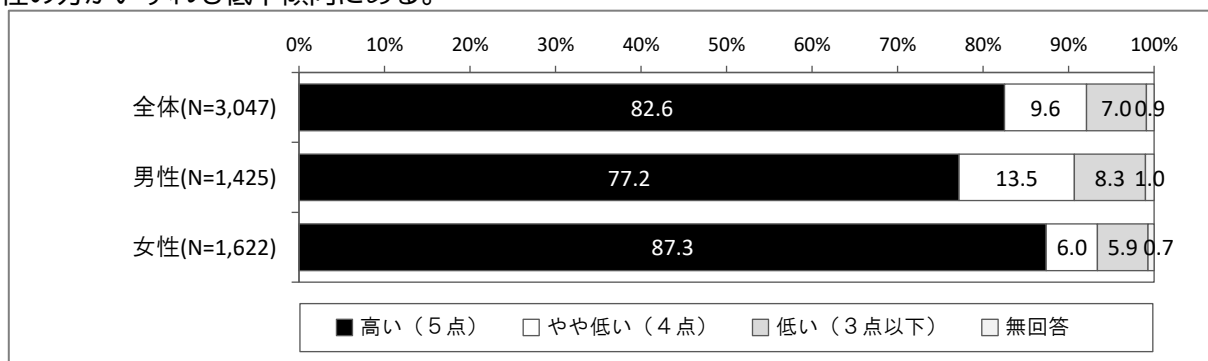
【市全体】

市全体でみると、手段的自立度（IADL）は「高い」の割合が最も高く 82.6%となっている。「やや低い」は 9.6%、「低い」は 7.0%となっている。



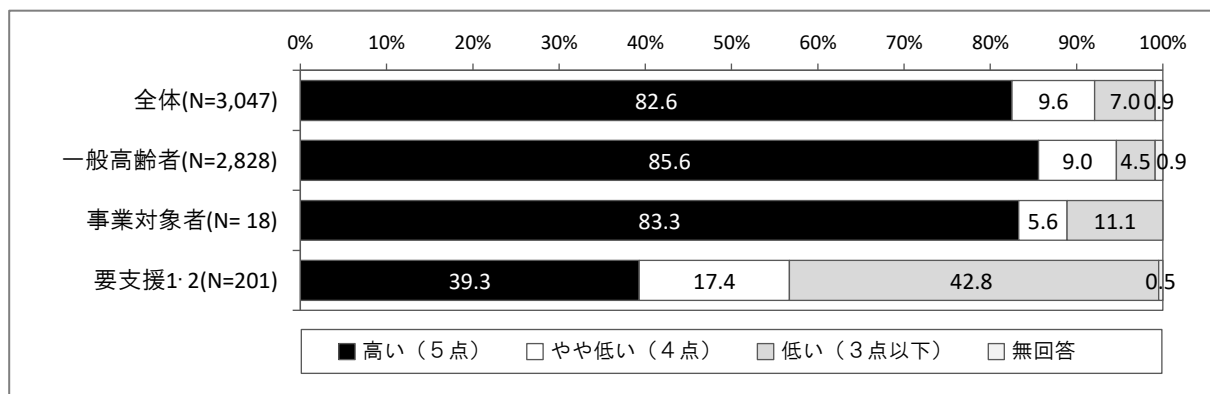
【性別】

性別にみると、「高い」の割合は男性が 77.2%、女性が 87.3%と女性が高くなっている。一方、「やや低い」は男性が 13.5%、女性が 6.0%、「低い」は男性が 8.3%、女性が 5.9%となっており、手段的自立度（IADL）は男性の方がいずれも低下傾向にある。



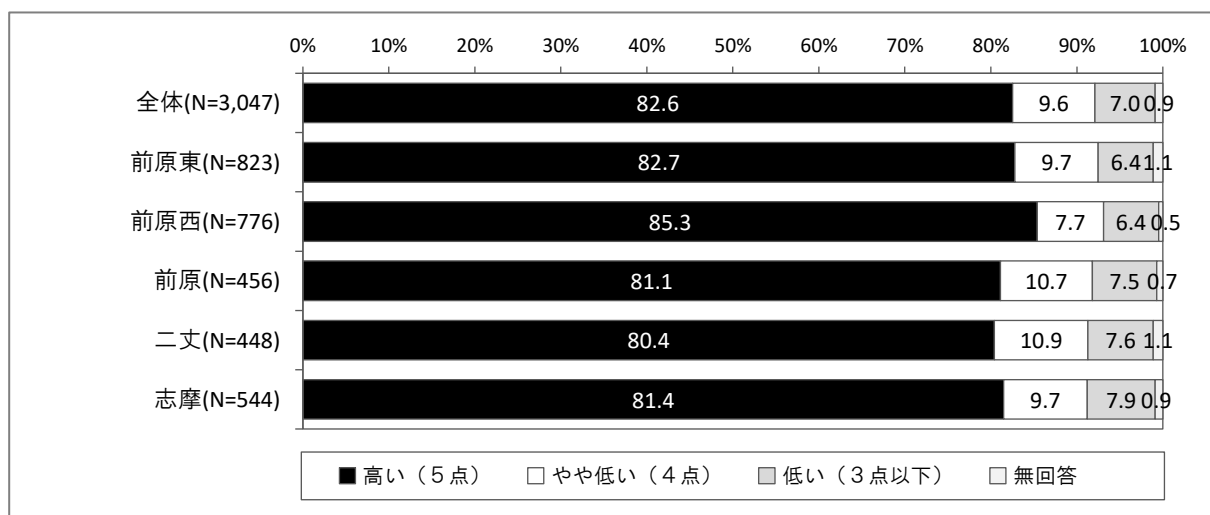
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援１・２は「高い」の割合が39.3%と市全体と比較して低く、「低い」は42.8%となっている。



【圏域別】

圏域別にみると、どの圏域においても「高い」の割合が最も高くなっている。



(2) 社会参加者

1) 知的能動性

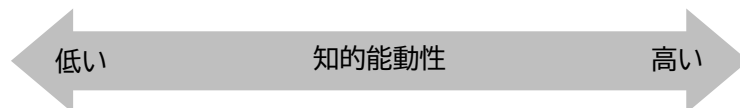
以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

【知的能動性低下者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」に1点
問 4(10)	新聞を読んでいますか	
問 4(11)	本や雑誌を読んでいますか	
問 4(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	

【合計点数 判定基準】

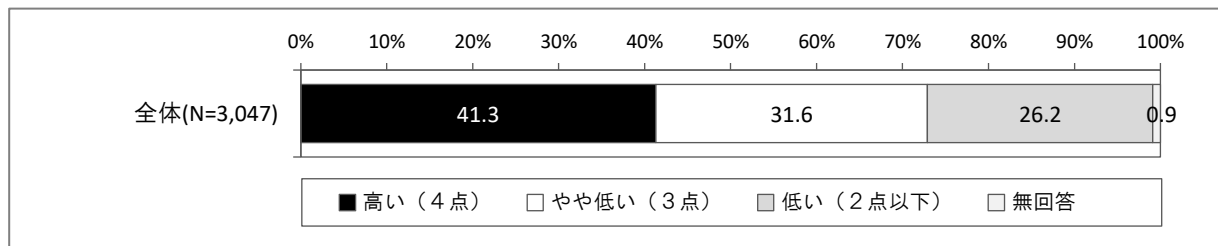
0～2点	3点	4点
低い	やや低い	高い



① 知的能動性低下者の割合

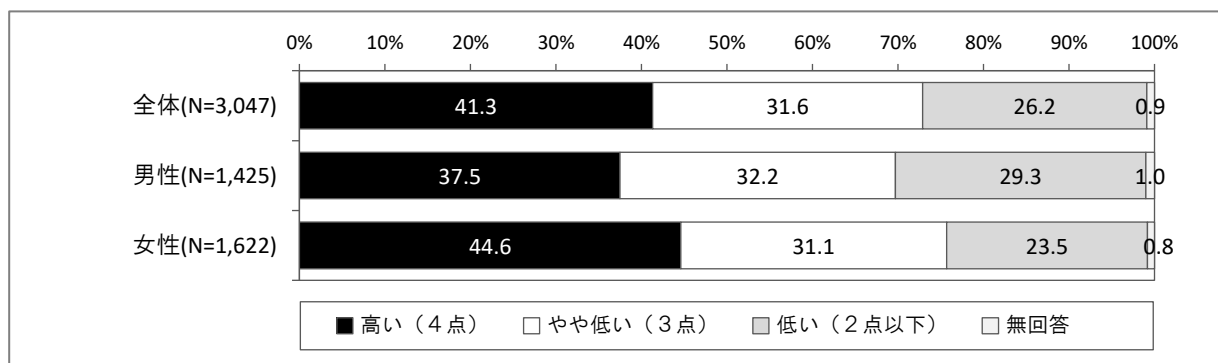
【市全体】

市全体でみると、知的能動性は「高い」の割合が最も高く 41.3%となっている。「やや低い」は 31.6%、「低い」は 26.2%となっている。



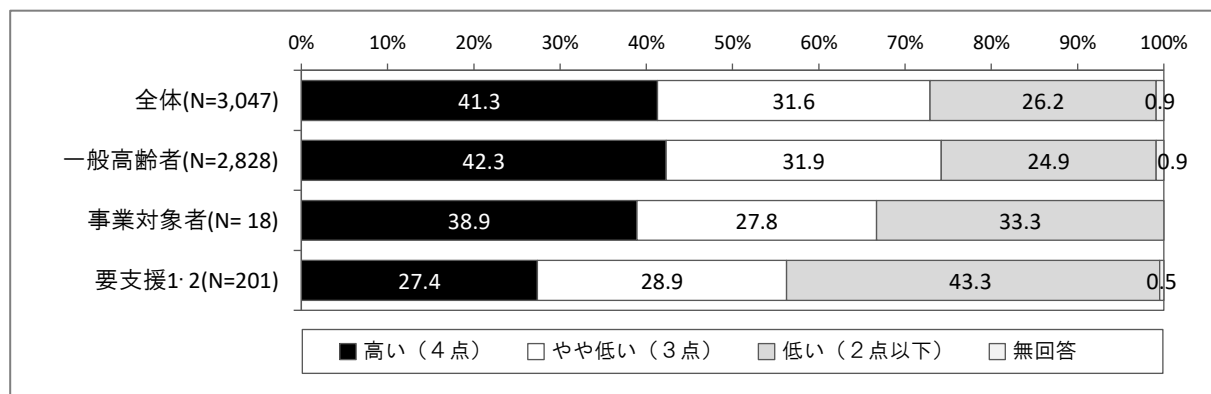
【性別】

性別にみると、「高い」の割合は女性が 44.6%、男性は 37.5%と女性の割合が高くなっている。「やや低い」と、「低い」は男性の割合が高くなっている。



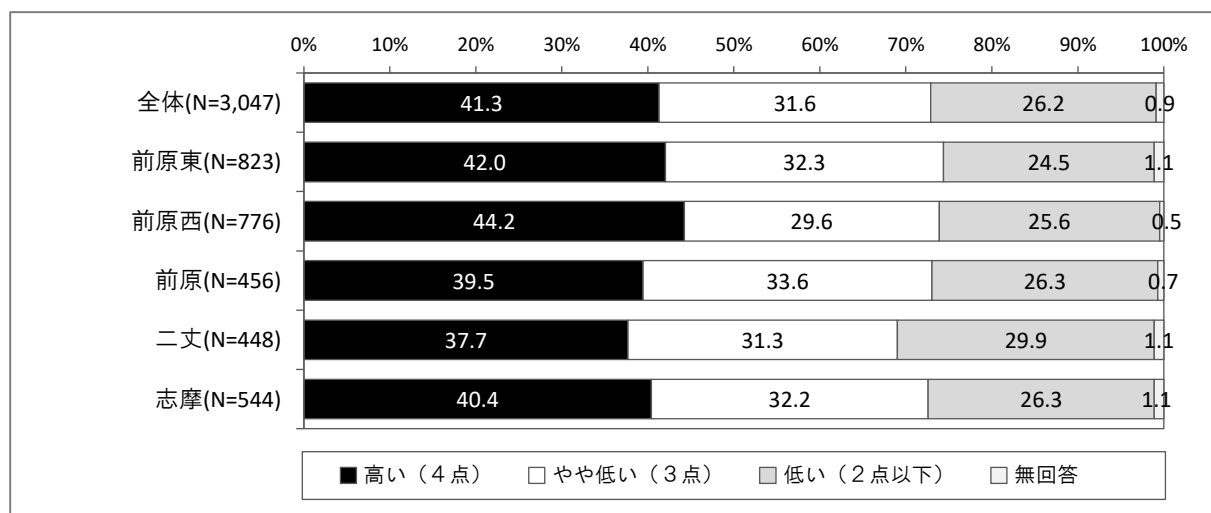
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2は「低い」の割合が高く、一般高齢者は24.9%であるのに対し、要支援1・2は43.3%となっている。



【圏域別】

圏域別にみると、前原西圏域では「高い」の割合が44.2%で他圏域と比較して最も高くなっている。二丈圏域では「低い」の割合が他圏域と比較して最も高く29.9%となっている。



2) 社会的役割

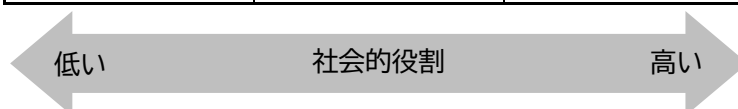
以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

【社会的役割低下者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」に1点
問 4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	
問 4(15)	病人を見舞うことができますか	
問 4(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	

【合計点数 判定基準】

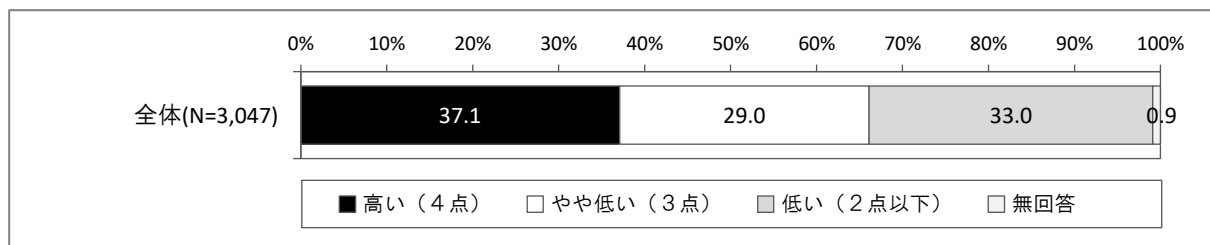
0～2点	3点	4点
低い	やや低い	高い



① 社会的役割低下者の割合

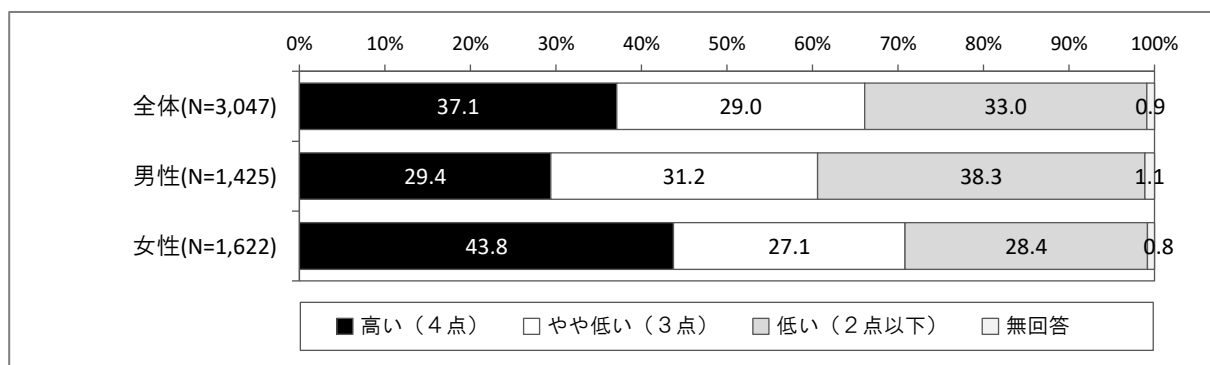
【市全体】

市全体でみると、社会的役割については「高い」の割合が最も高く 37.1%となっている。「やや低い」は 29.0%、「低い」は 33.0%となっている。



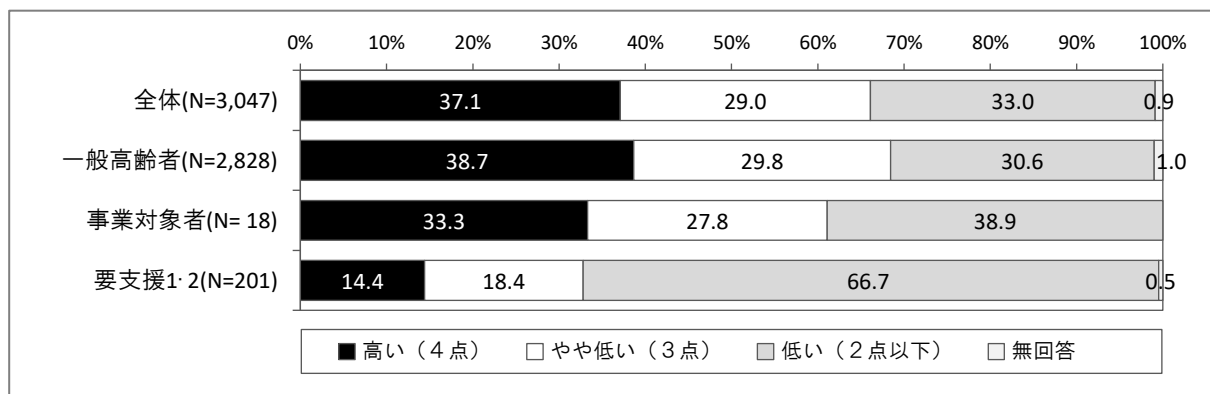
【性別】

性別にみると、「高い」の割合は男性が 29.4%、女性が 43.8%であり、女性の割合が高くなっている。「やや低い」の割合は男性が 31.2%、女性が 27.1%であり、「低い」は男性が 38.3%、女性が 28.4%である。



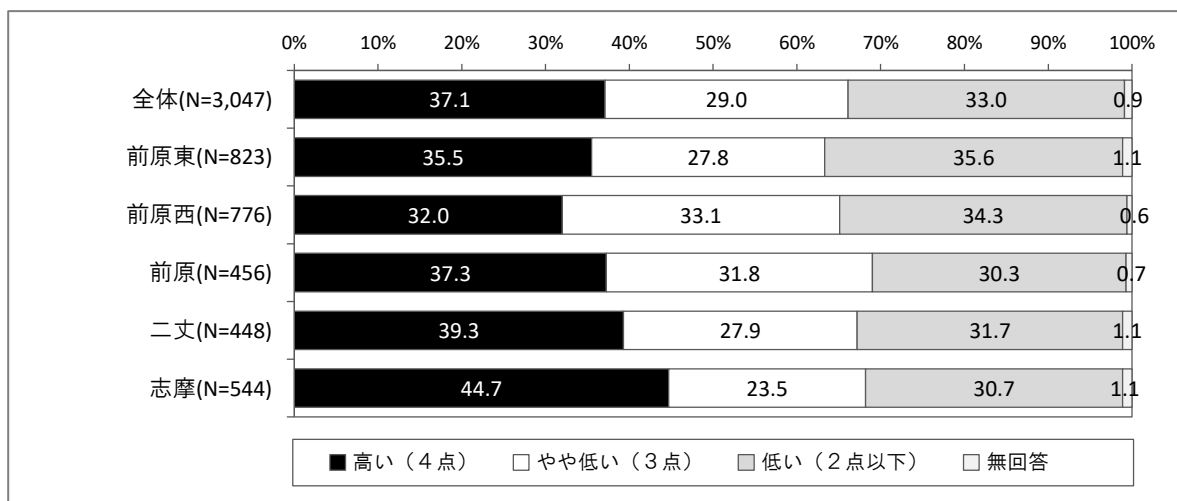
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援１・２は「低い」の割合が市全体と比較して高くなっており、一般高齢者では30.6%であるのに対し、要支援１・２では66.7%となっている。



【圏域別】

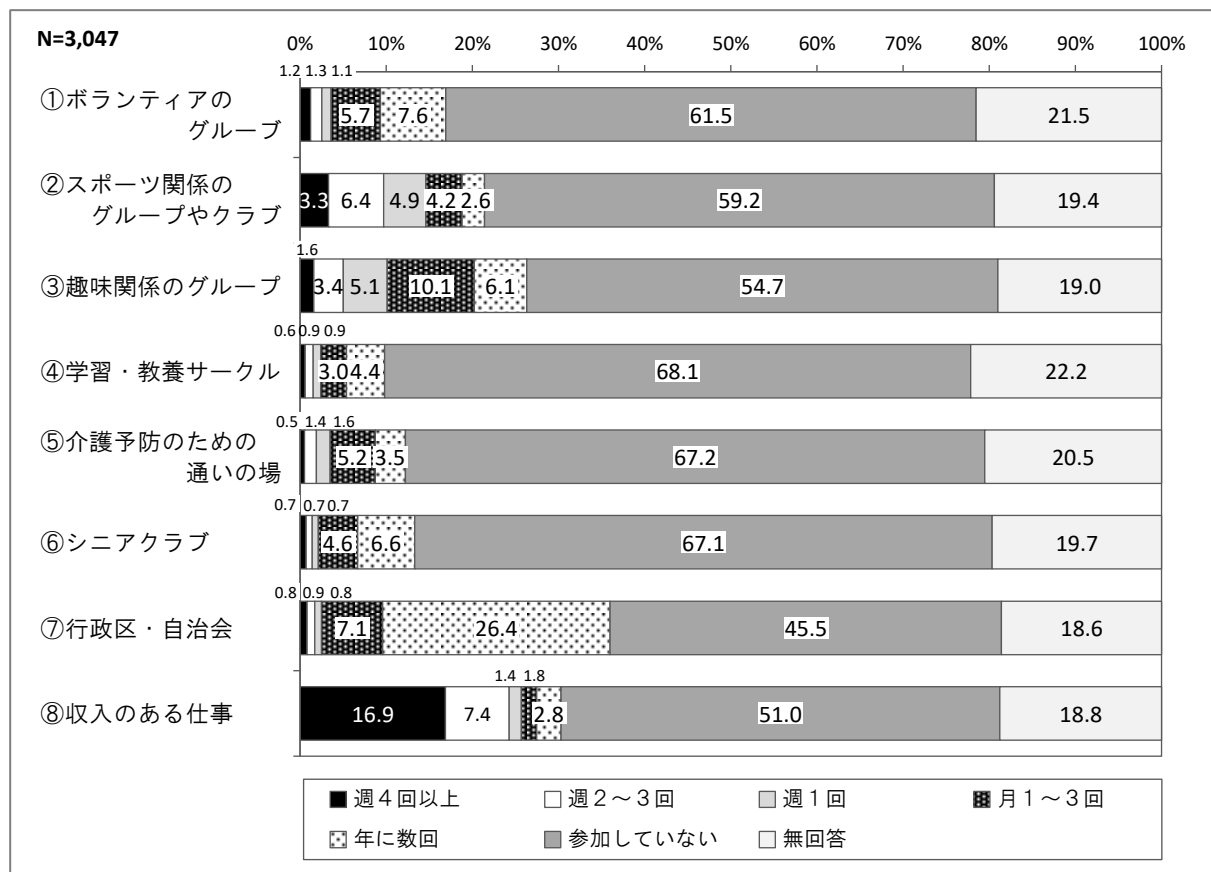
圏域別にみると、「高い」の割合が最も高いのは志摩圏域で44.7%となっており、次いで二丈圏域が39.3%、最も低いのが前原西圏域の32.0%である。



3) 会・グループ等への参加状況

各会、グループへの参加頻度を尋ねた。

どの会・グループにおいても「参加していない」の割合が最も高くなっており、最も「参加していない」の割合が高いのは④学習・教養サークルで 68.1%であった。次いで、⑤介護予防のための通いの場が 67.2%となっている。一方、最も「参加していない」の割合が低いのは⑦行政区・自治会で 45.5%であり、⑦行政区・自治会は比較的参加されている会・グループであると言える。⑦行政区・自治会の参加頻度は「年に数回」の割合が最も高く 26.4%である。



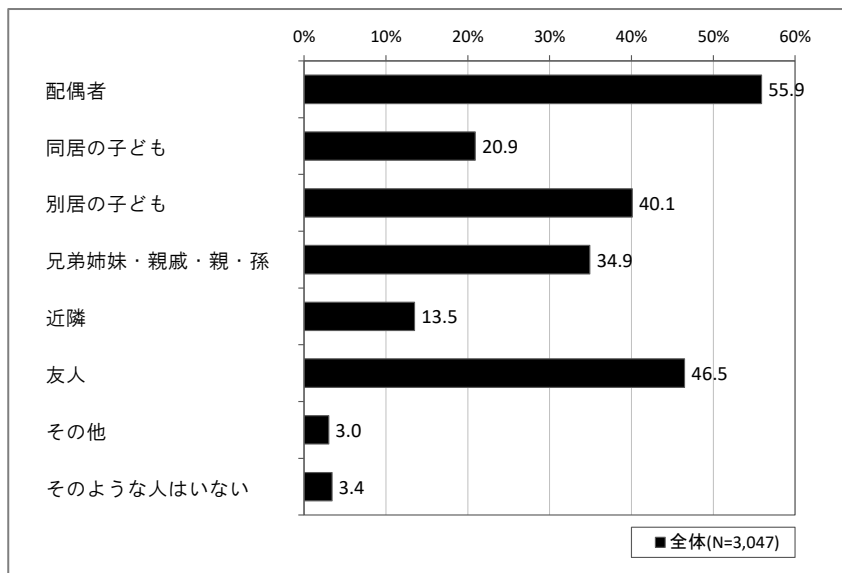
4) 周りの人の「たすけあい」について

① 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

心配ごとや愚痴を聞いてくれる人について尋ねた。

【市全体】

市全体でみると、最も割合が高いのは「配偶者」で 55.9%となっており、次いで「友人」が 46.5%、「別居の子ども」が 40.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 34.9%と続いている。



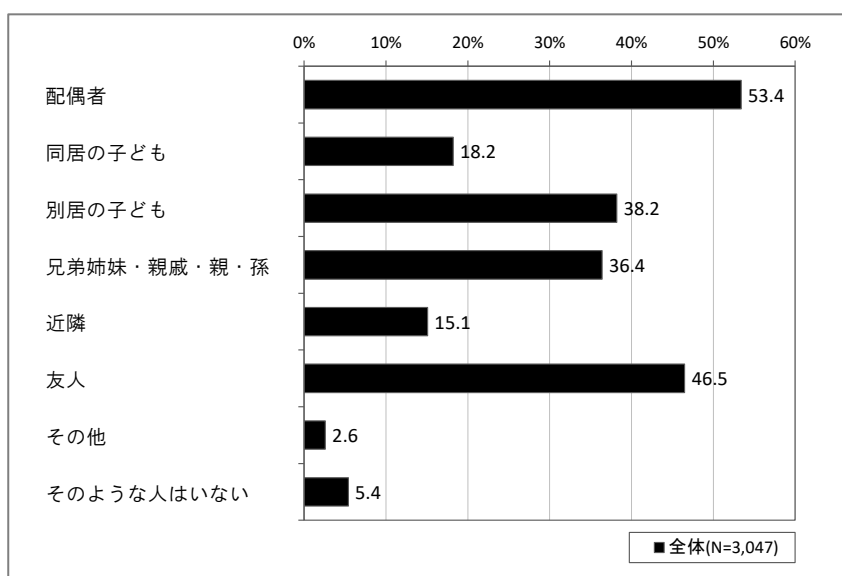
② 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）

心配ごとや愚痴を聞いてあげる人について尋ねた。

【市全体】

市全体でみると、最も割合が高かったのは「配偶者」の 53.4%であり、次いで「友人」が 46.5%となっている。その後は「別居の子ども」が 38.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 36.4%と続いている。

前問の「心配事や愚痴を聞いてくれる人」の設問と近い結果となっている。

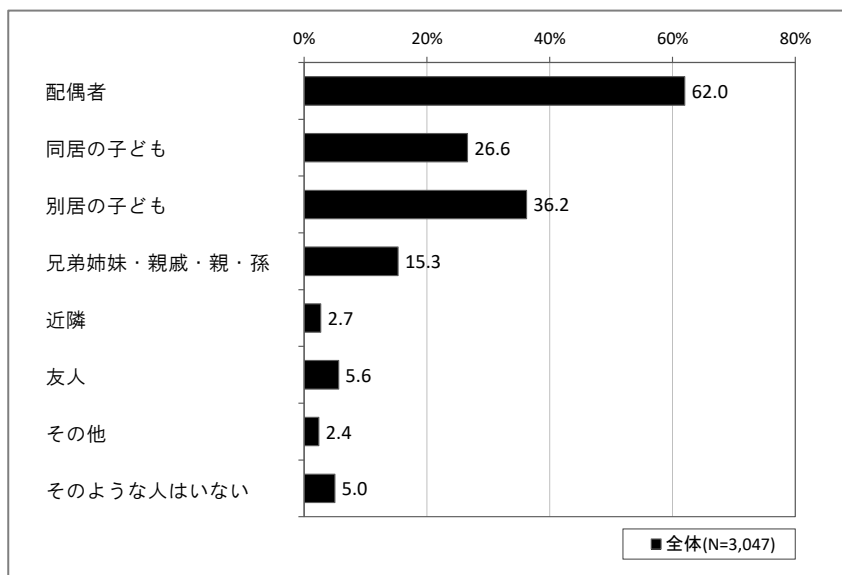


③ 看病や世話をしてくれる人（複数回答）

看病や世話をしてくれる人について尋ねた。

【市全体】

市全体でみると、最も割合が高かったのは「配偶者」の 62.0%であり、次いで「別居の子ども」が 36.2%となっている。その後は「同居の子ども」が 26.6%「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 15.3%となっている。



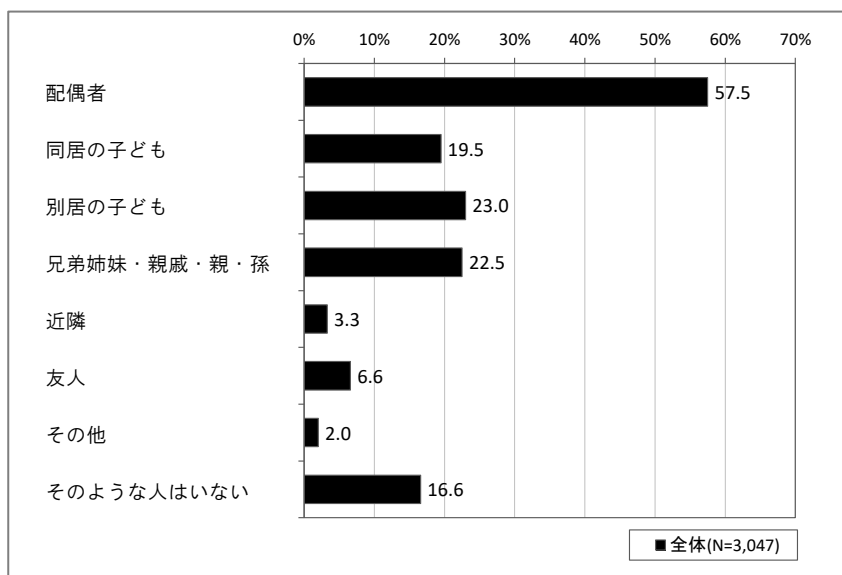
④ 看病や世話をしてあげる人（複数回答）

看病や世話をしてあげる人について尋ねた。

【市全体】

市全体でみると、最も割合が高かったのは「配偶者」の 57.5%であり、次いで「別居の子ども」が 23.0%となっている。その後は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 22.5%、「同居の子ども」が 19.5%と続いている。

前問の「看病や世話をしてくれる人」と上位4項目は変わらないものの、「別居の子ども」の割合は前問と比較すると、10ポイント以上差がある結果となっている。

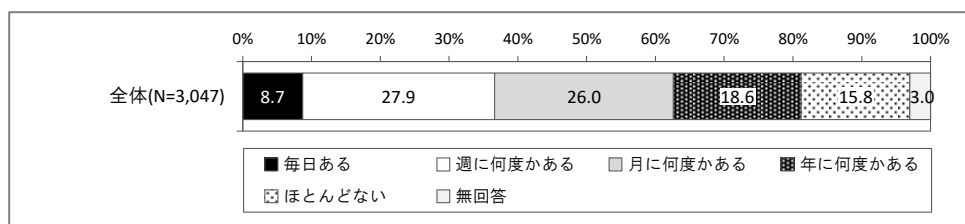


(3) 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度について尋ねた。

【市全体】

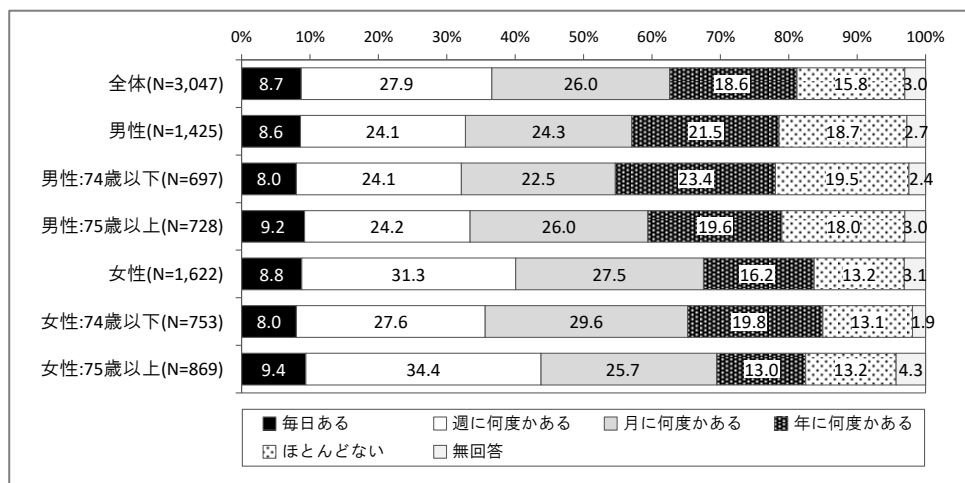
市全体でみると、「週に何度かある」の割合が最も高く 27.9%となっている。次いで「月に何度かある」が 26.0%、「ほとんどない」は 15.8%となっている。



【性別・性年代別】

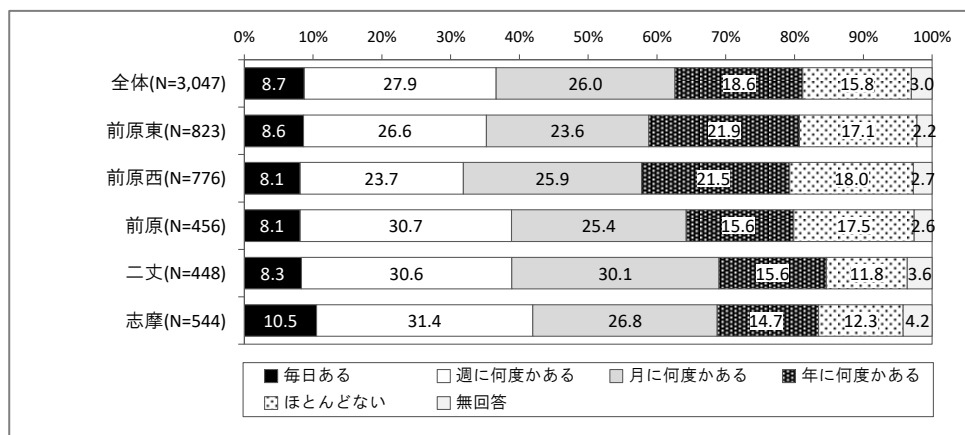
性別にみると、「毎日ある」の割合に大きな差はないものの、「週に何度かある」で 7.2 ポイント、「月に何度かある」で 3.2 ポイント男性と比較して女性の割合が高い結果となっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど「毎日ある」「週に何度かある」の割合は高い結果となっている。「週に何度かある」については女性 75 歳以上が 34.4%で最も高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた割合は、前原圏域で 38.8%、二丈圏域で 38.9%、志摩圏域で 41.9%と市全体より高くなっている。一方「ほとんどない」の割合は前原西圏域で最も高く 18.0%となっている。

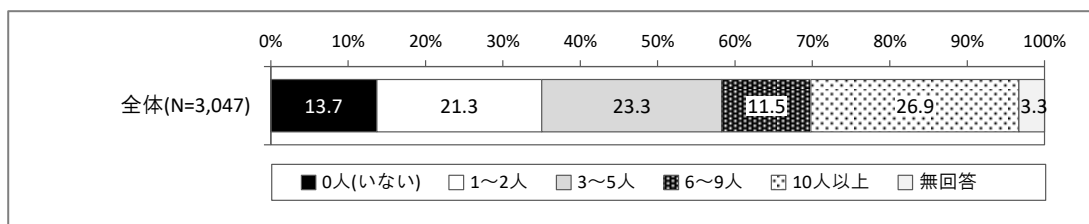


(4) この1か月に会った友人・知人の数

この1か月間に会った友人・知人の数について尋ねた。

【市全体】

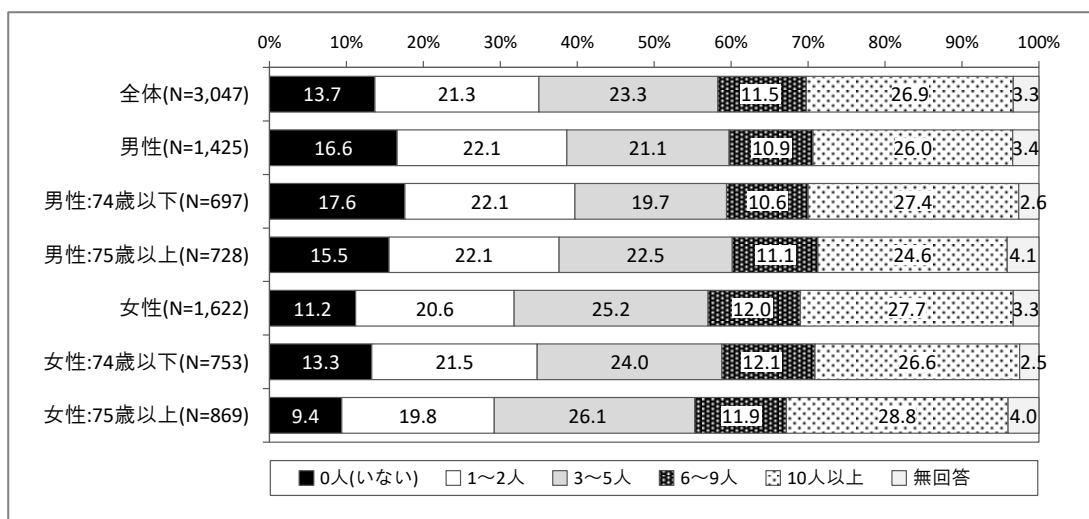
市全体でみると、「10人以上」が最も高く 26.9%である。次いで「3～5人」の 23.3%、「1～2人」の 21.3%と続いている。



【性別・性年代別】

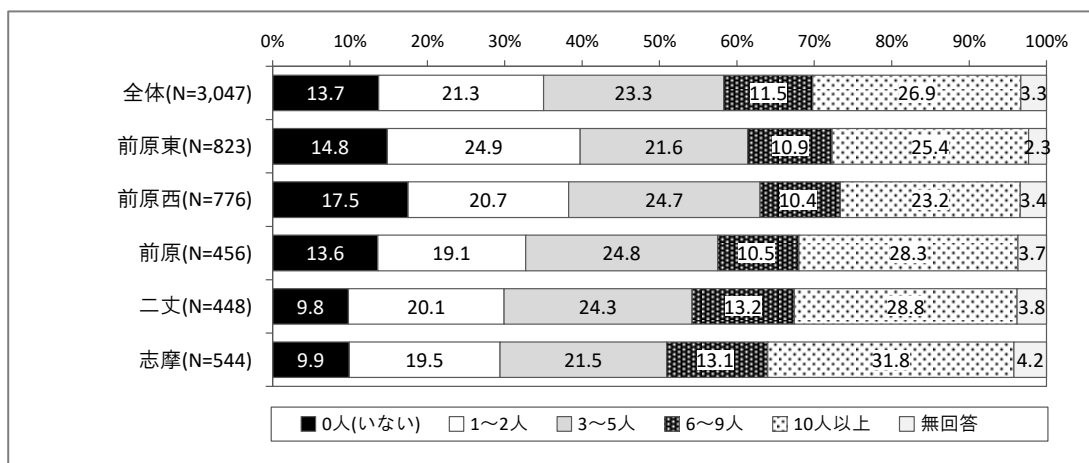
性別にみると、男性は女性よりも「0人(いない)」や「1～2人」の割合が高くなっている。

性年代別にみると、「0人(いない)」の割合は高齢になるほど低くなっている。「6～9人」と「10人以上」を合わせた割合は女性 75歳以上が 40.7%で最も高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「0人(いない)」の割合は前原西圏域が 17.5%で他圏域と比較して最も高くなっている。一方、「6～9人」と「10人以上」を合わせた割合は志摩圏域が 44.9%で最も高くなっており、前原西圏域は 33.6%で最も低くなっている。



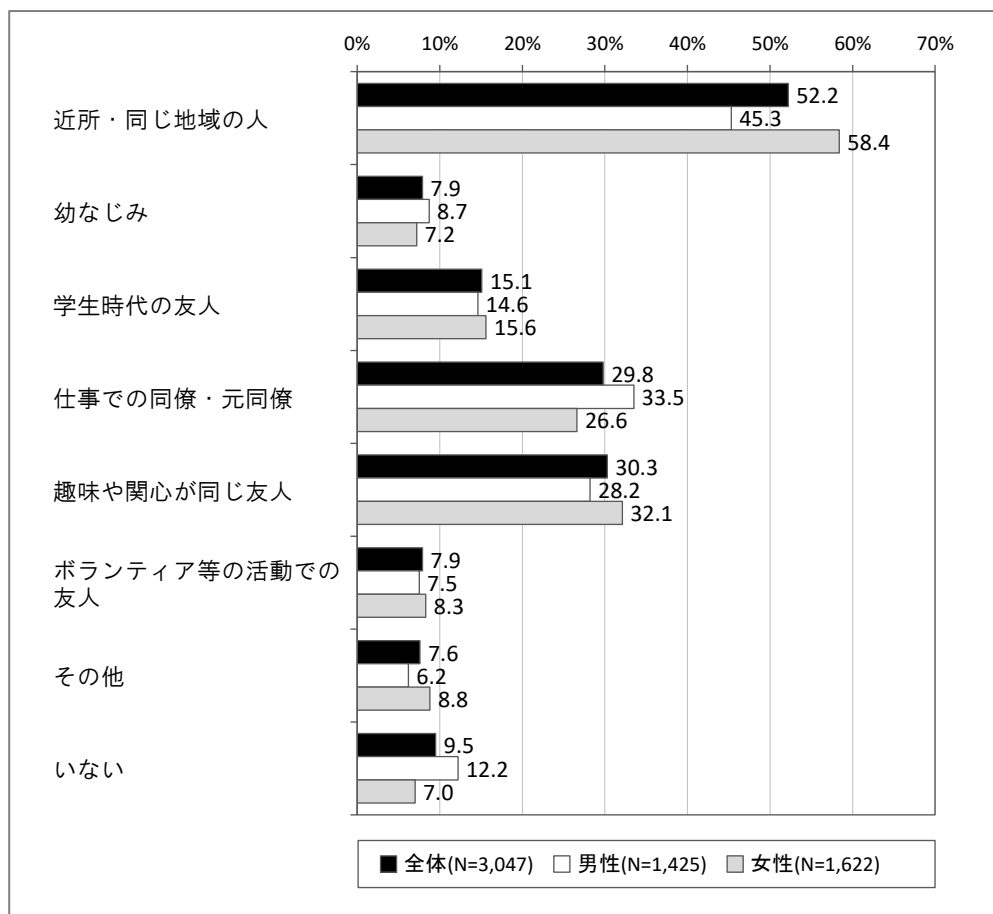
(5) よく会う友人・知人との関係（複数回答）

よく会う友人・知人との関係について尋ねた。

【市全体・性別】

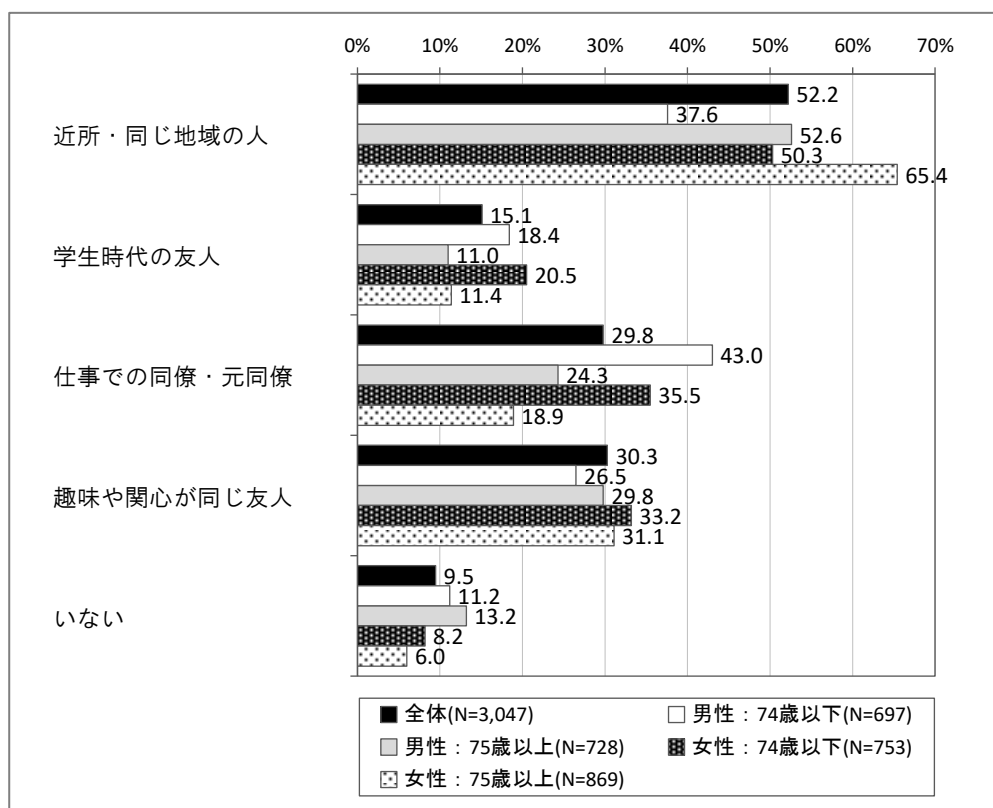
市全体でみると、最も割合が高いのは「近所・同じ地域の人」であり 52.2%となっている。次いで「趣味や関心が同じ友人」が 30.3%、「仕事での同僚・元同僚」が 29.8%、「学生時代の友人」が 15.1%となっている。

性別にみると、男性は女性よりも「仕事での同僚・元同僚」の割合が高くなっている（男性は 33.5%、女性は 26.6%）。一方、女性は「近所・同じ地域の人」の割合が男性より高くなっており、女性が 58.4%、男性が 45.3%となっている。



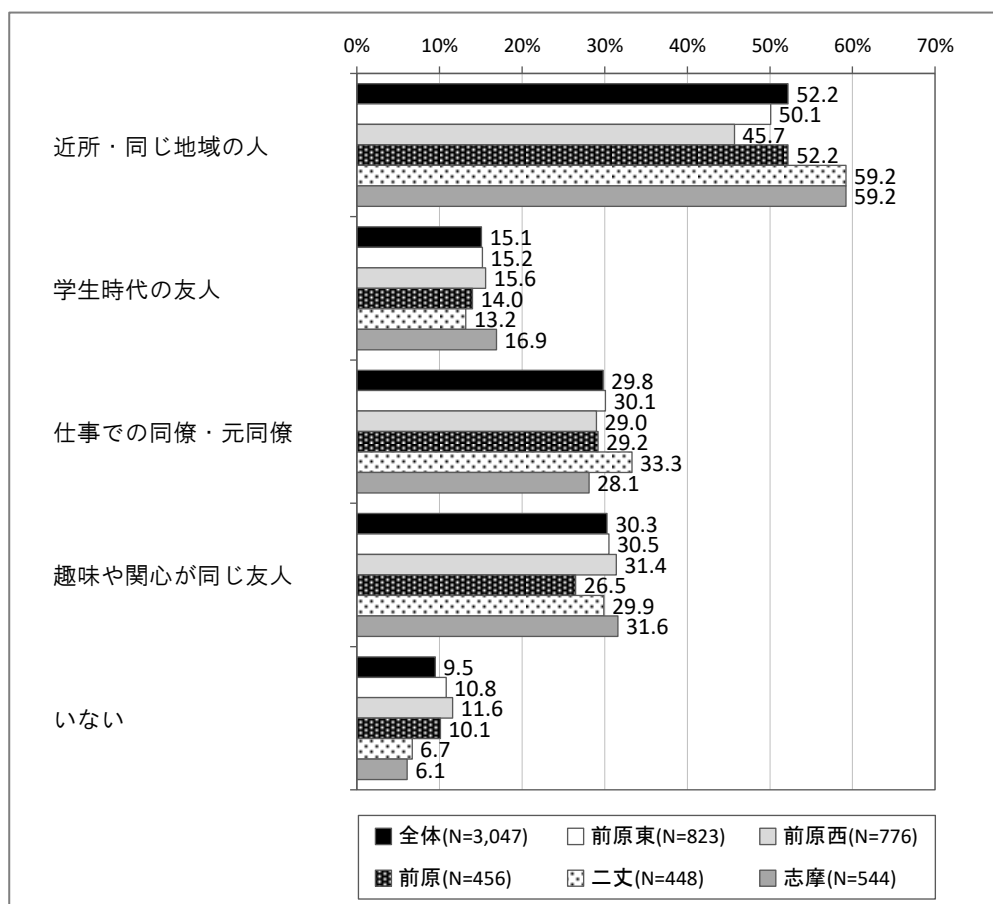
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに「学生時代の友人」や「仕事の同僚・元同僚」の割合は年代が上がるにつれて低くなっている。一方、「近所・同じ地域の人」は男女ともに年代が上がるにつれ割合が高くなっている。「趣味や関心が同じ友人」の割合は、男性では年齢が上がるほどやや高くなるものの（男性74歳以下は26.5%、男性75歳以上は29.8%）、女性ではやや低くなっている（女性74歳以下は33.2%、女性75歳以上は31.1%）。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「近所・同じ地域の人」の割合は前原西圏域が45.7%で他圏域と比較して唯一50%を下回り、最も低くなっている。一方、二丈圏域と志摩圏域は「近所・同じ地域の人」の割合がともに59.2%で、市全体と比較して高くなっている。



(6) うつ傾向

① うつ傾向の高齢者の割合

以下の設問で、いずれか1問でも該当する選択肢が回答された場合に、うつ傾向の高齢者として判定される。

【うつ傾向の評価・分析方法】

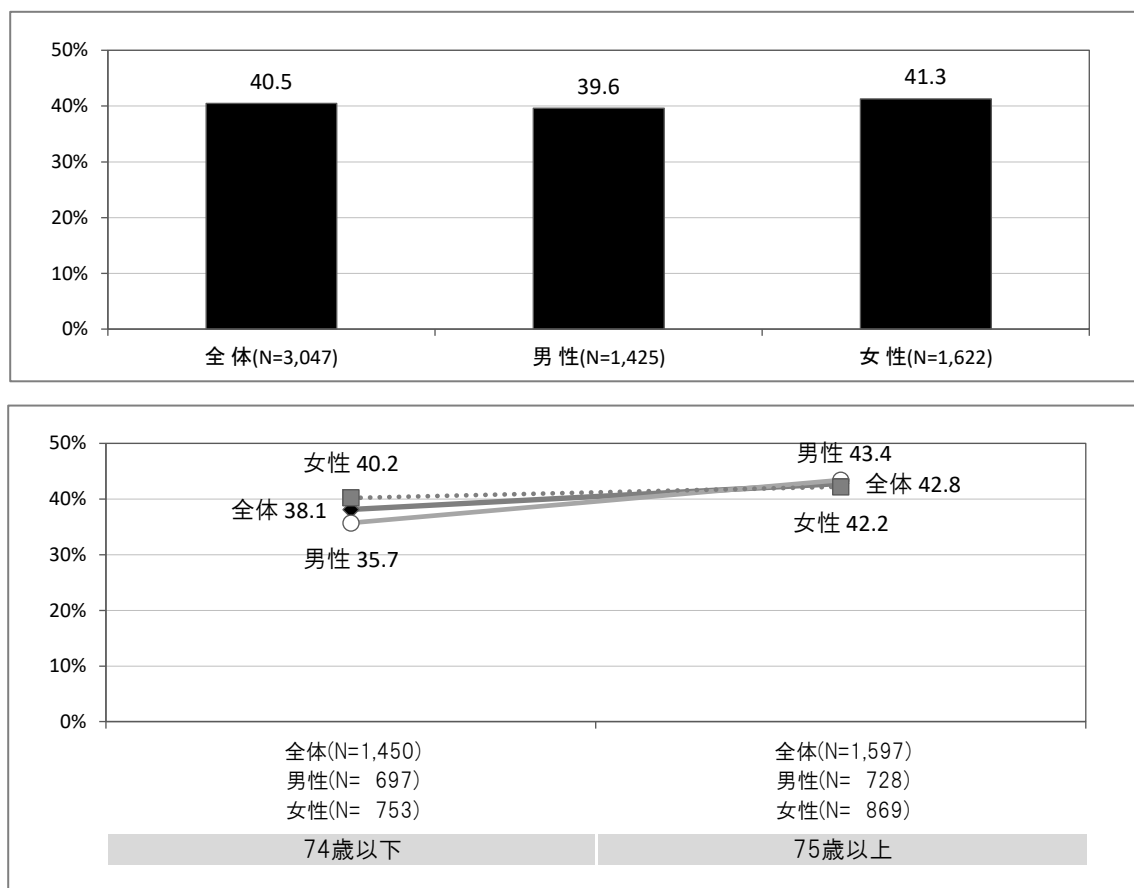
設問番号	設問内容	該当する選択肢
問 8(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問 8(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

【市全体・性別・性年代別】

市全体でみると、うつ傾向の高齢者の割合は 40.5%となっている。

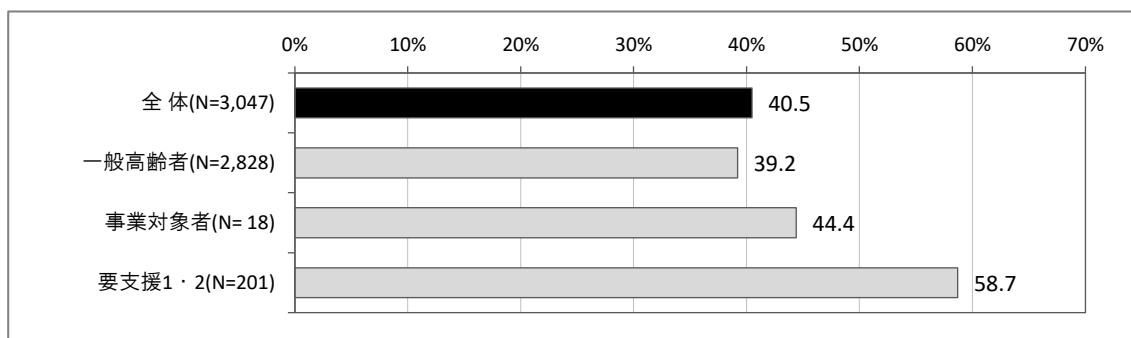
性別にみると、男性は 39.6%、女性は 41.3%である。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて割合は高くなっており、男性 75 歳以上が最も高く 43.4%である。



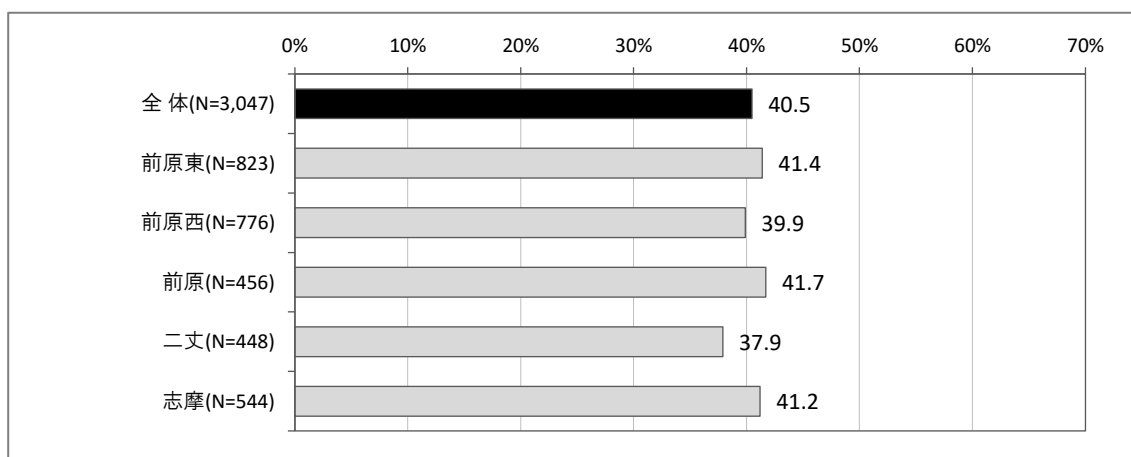
【要介護度別】

要介護度別にみると、一般高齢者が 39.2%であるのに対し、要支援 1・2 では 58.7%と高くなっており、過半数がうつ傾向と判定されている。



【圏域別】

圏域別にみると、他圏域と比較して割合が最も高いのは前原圏域で 41.7%となっている。一方、最も低いのは二丈圏域で 37.9%となっている。

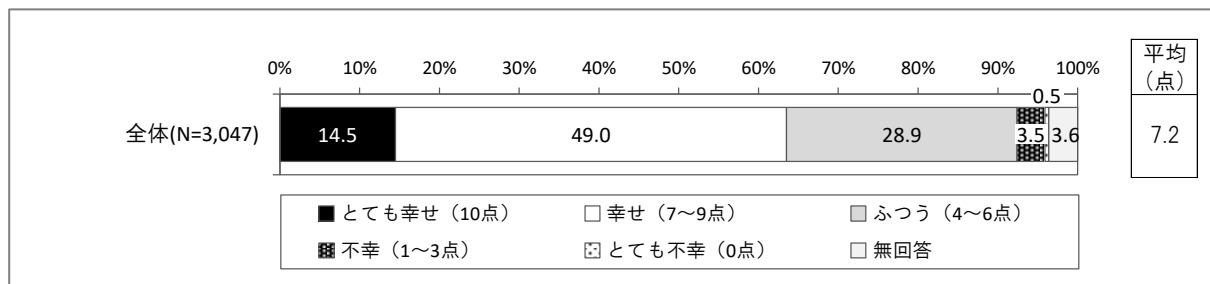


② 現在の幸福度

「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、現在の幸福度について尋ねた。

【市全体】

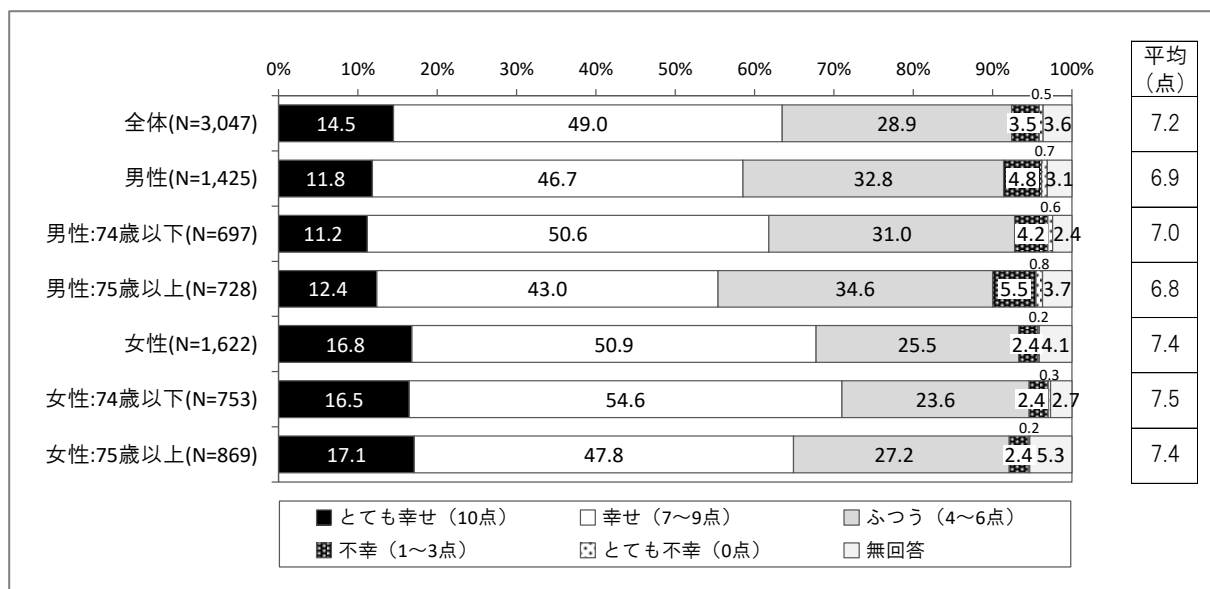
市全体でみると、市全体の平均は7.2点となっており、最も高いのは「幸せ（7～9点）」で49.0%となっている。次いで「ふつう（4～6点）」が28.9%、「とても幸せ（10点）」が14.5%となっている。



【性別・性年代別】

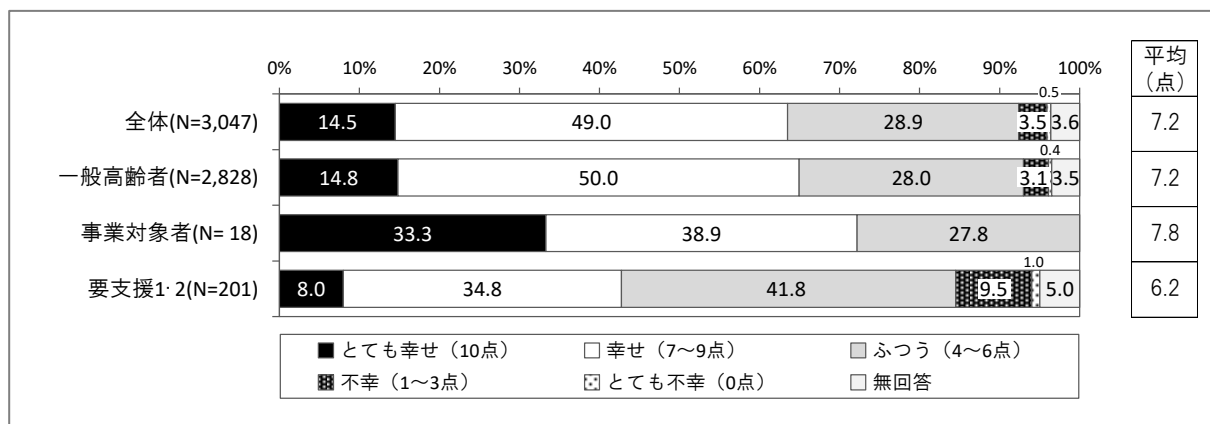
性別にみると、「とても幸せ」（10点）と「幸せ（7～9点）」を合わせた割合は男性が58.5%であるのに対し、女性は67.7%と高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「とても幸せ」（10点）と「幸せ（7～9点）」を合わせた割合は低くなっている。



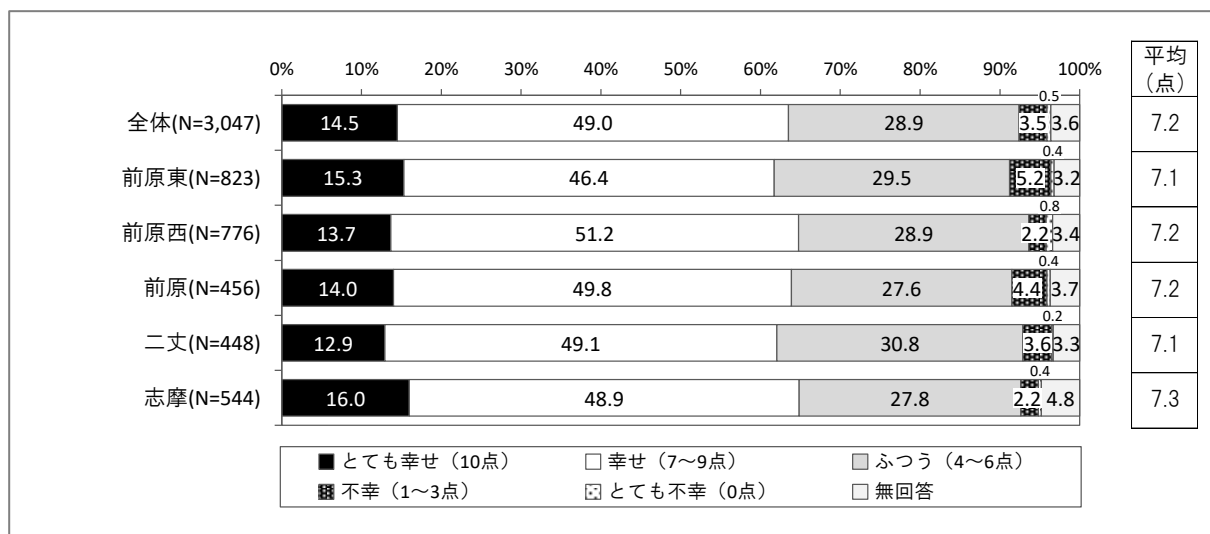
【要介護度別】

要介護度別にみると、「とても幸せ」(10点)と「幸せ(7～9点)」を合わせた割合が一般高齢者は64.8%であるのに対し、要支援1・2では42.8%と20ポイント以上低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「とても幸せ」(10点)と「幸せ(7～9点)」を合わせた割合が最も高いのは前原西圏域と志摩圏域でともに64.9%となっている。一方、最も低いのは前原東圏域で61.7%となっている。また、反対に「不幸(1～3点)」と「とても不幸(0点)」を合わせた割合は前原東圏域が最も高く5.6%となっている。



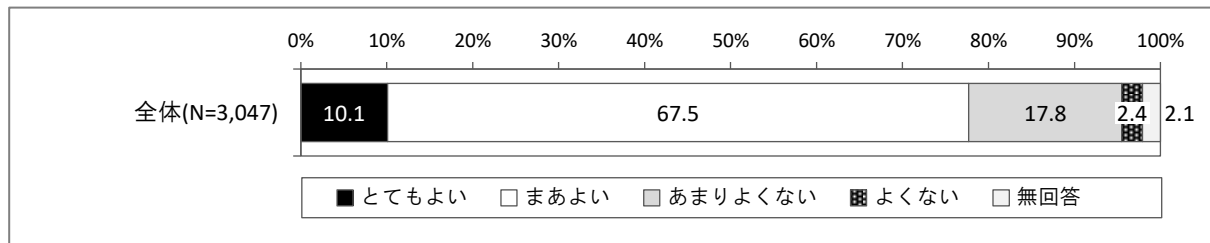
3 健康・疾病

(1) 主観的健康感（あなたの健康状態）

現在の健康状態について尋ねた。

【市全体】

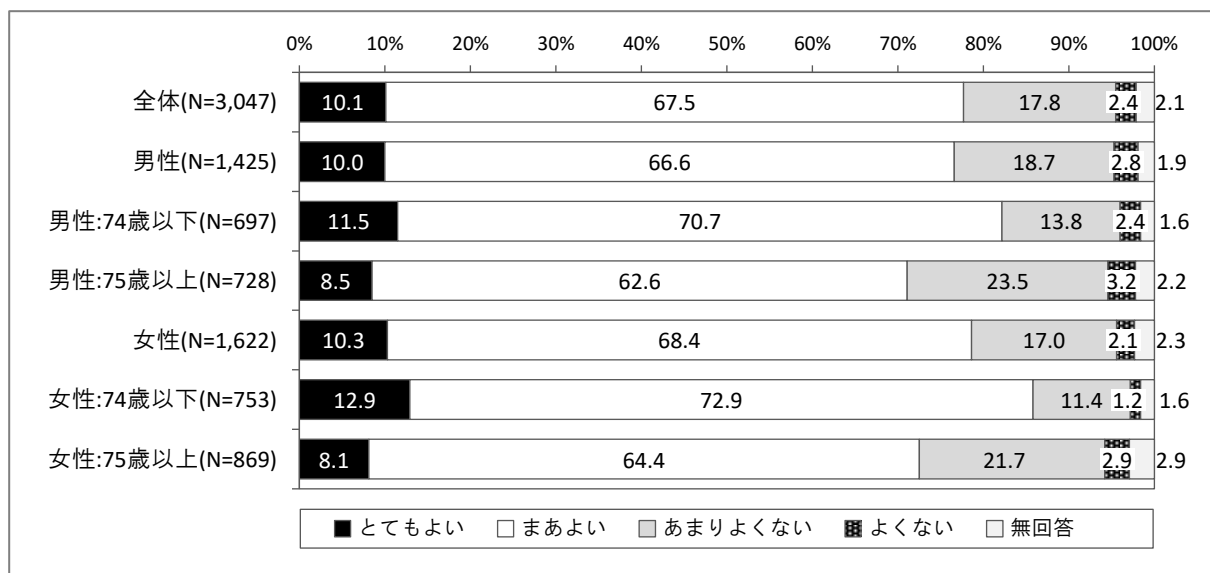
市全体でみると、「まあよい」の割合が最も高く 67.5%となっている。次いで「あまりよくない」の 17.8%、「とてもよい」の 10.1%が続いている。



【性別・性年代別】

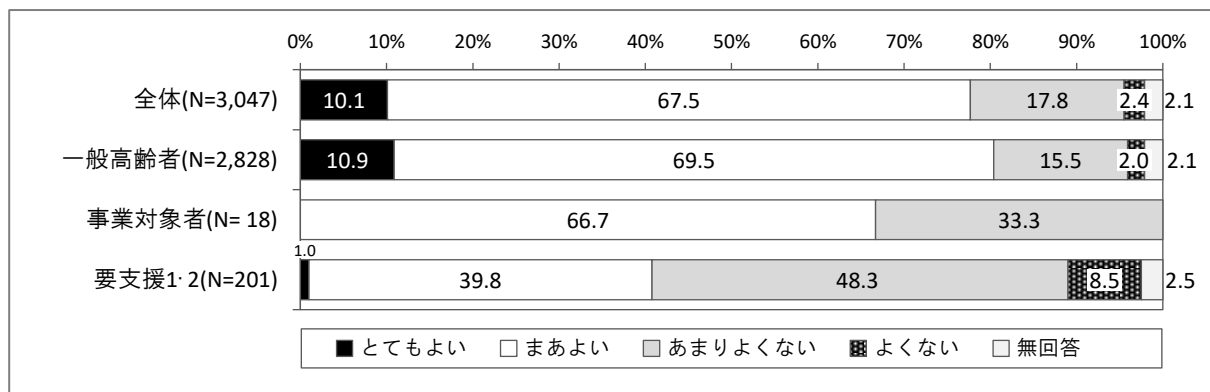
性別にみると、男性は女性よりも「あまりよくない」「よくない」の割合がやや高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど、「とてもよい」、「まあよい」の割合が低くなっている。



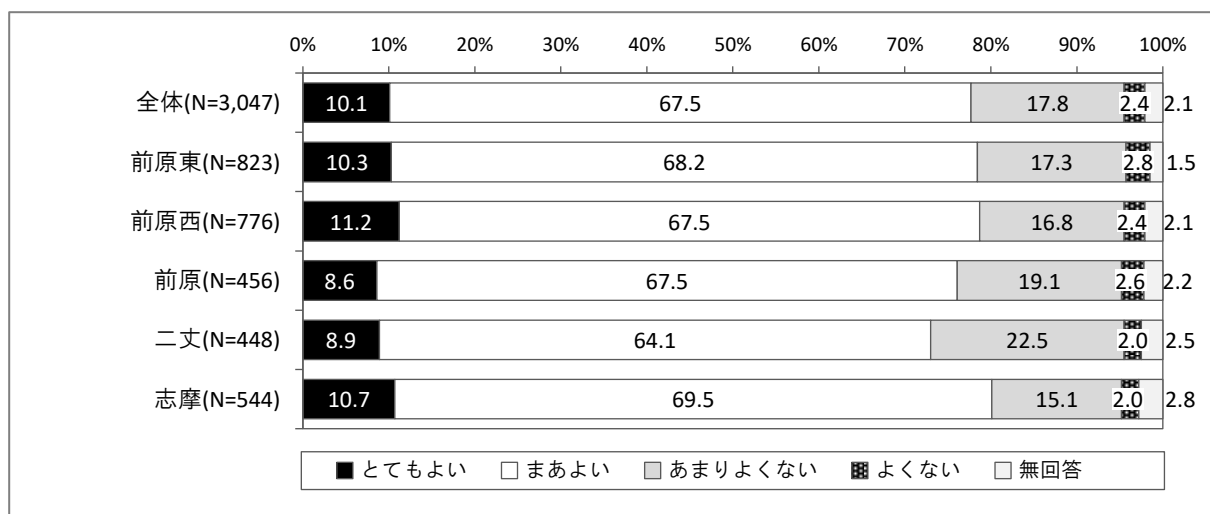
【要介護度別】

要介護度別にみると、一般高齢者の「あまりよくない」の割合が 15.5%であるのに対し、要支援 1・2 では 48.3%と 30 ポイント以上高くなっている。一般高齢者は「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が全体の 8 割を占めているのに対し、要支援 1・2 は「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合が全体の過半数を占めている。



【圏域別】

圏域別でみると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合は志摩圏域が 80.2%と最も高くなっている。一方、二丈圏域は「とてもよい」と「まあよい」を合わせた割合が 73.0%で最も低く、反対に「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は 24.5%で最も高くなっている。



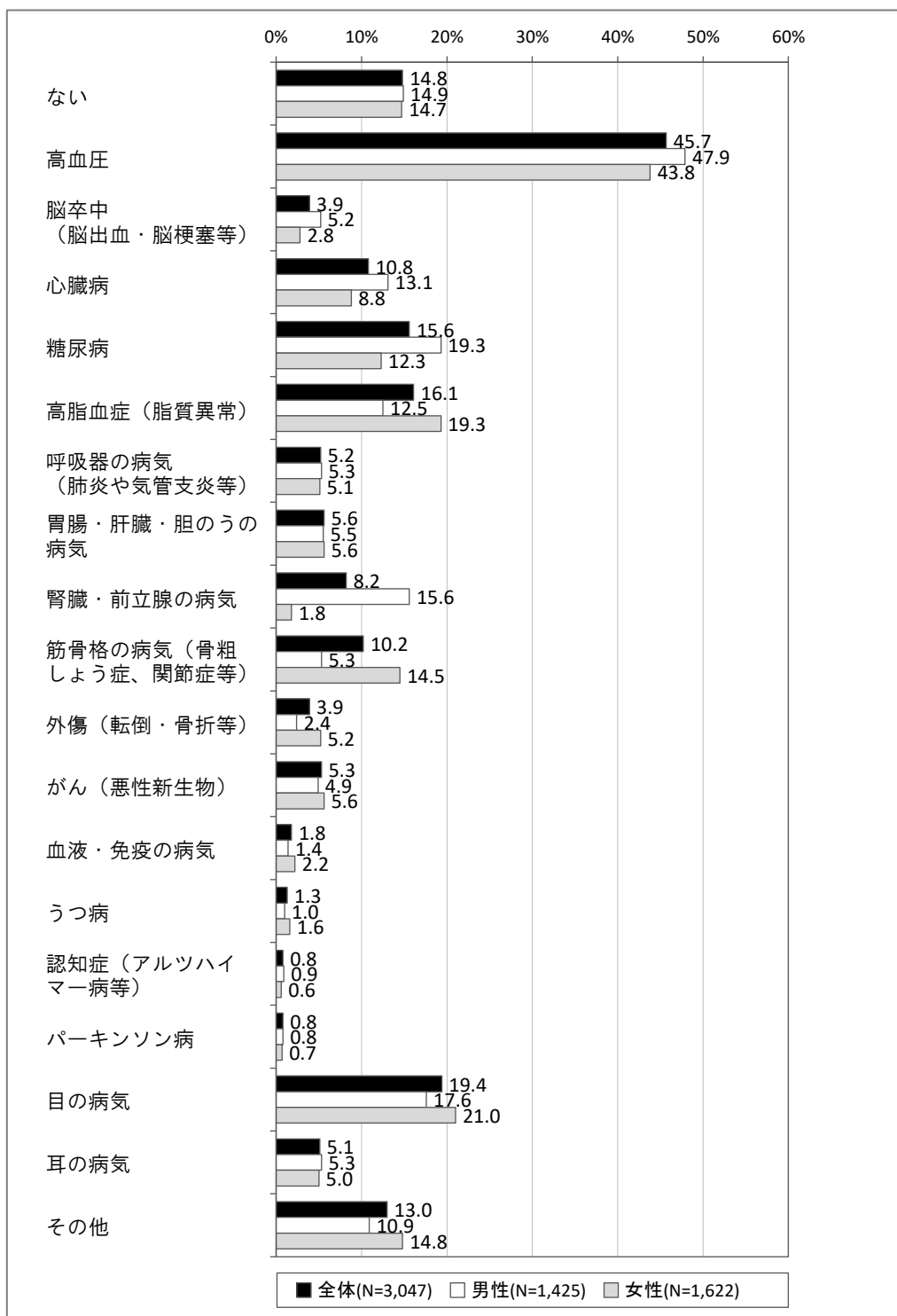
(2) 有病率（現在、治療中または後遺症のある病気）（複数回答）

現在治療中または後遺症のある病気について尋ねた。

【市全体・性別】

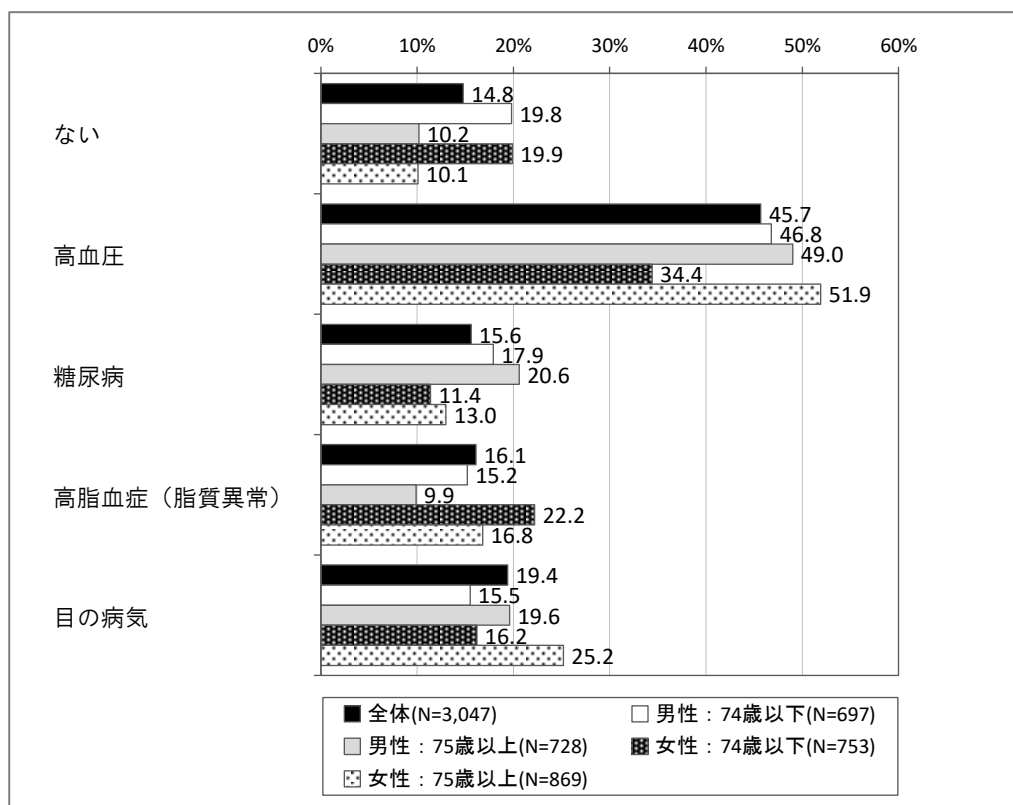
市全体でみると、「高血圧」の割合が最も高く 45.7%となっている。次いで「目の病気」が 19.4%、「高脂血症（脂質異常）」が 16.1%、「糖尿病」が 15.6%と続いている。

性別にみると、「高血圧」、「糖尿病」において女性よりも男性の割合が高くなっており、男性の「高血圧」が 47.9%であるのに対し、女性の「高血圧」は 43.8%、男性の「糖尿病」が 19.3%であるのに対し、女性の「糖尿病」が 12.3%となっている。一方、「高脂血症（脂質異常）」、「目の病気」では男性よりも女性の割合が高くなっており、女性の「高脂血症（脂質異常）」が 19.3%であるのに対し、男性の「高脂血症（脂質異常）」が 12.5%。女性の「目の病気」が 19.4%であるのに対し、男性の「目の病気」は 17.6%となっている。



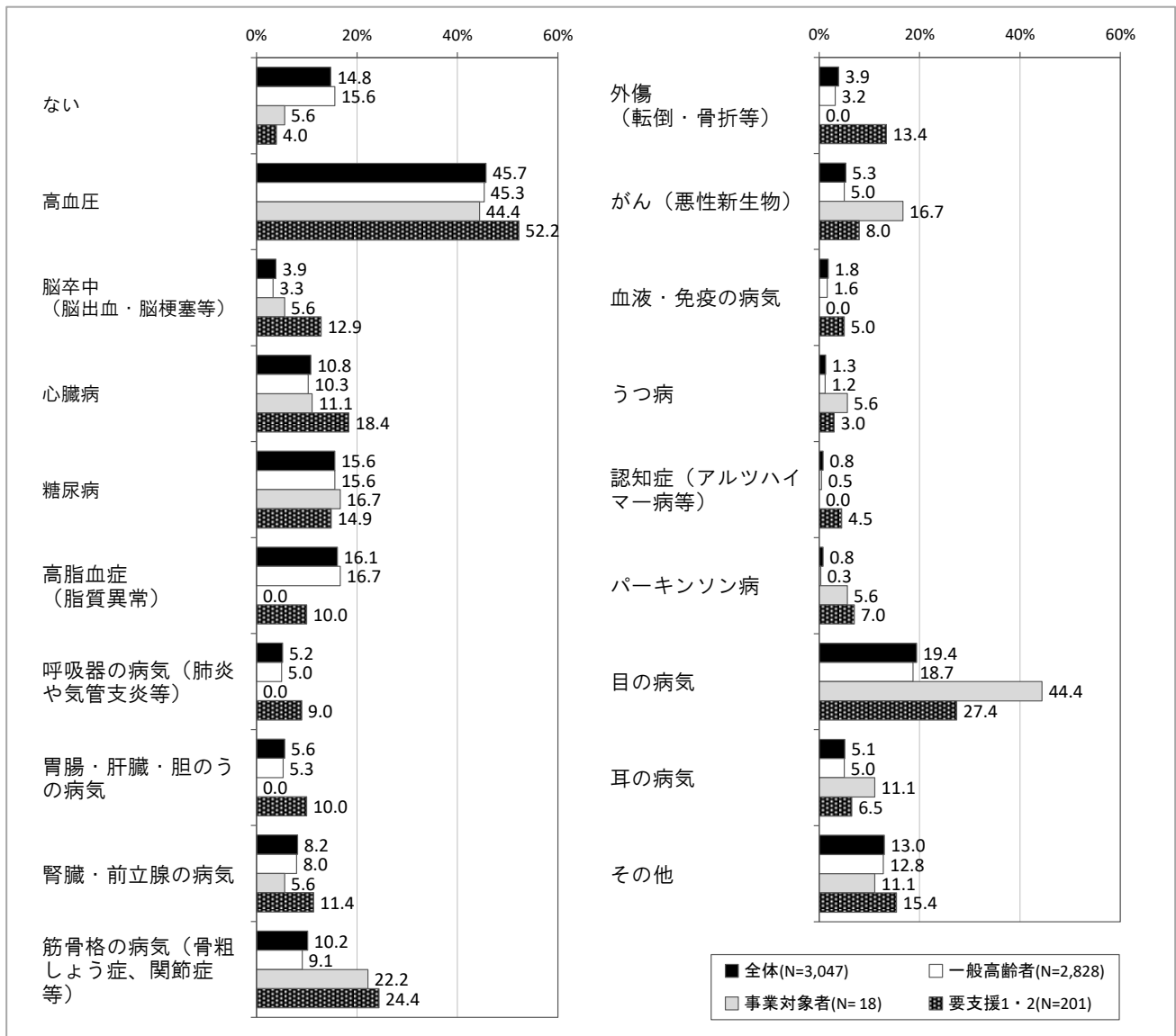
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに年代が上ると「ない」の割合が低くなっており、75 歳以上の年代では多くの人が何らかの病気を患っている状態にある。実際、上位5項目に含まれる「高血圧」、「糖尿病」、「目の病気」では性別に関係なく、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援１・２は「ない」の割合が４．０％と一般高齢者１５．６％と比較して低くなっている。



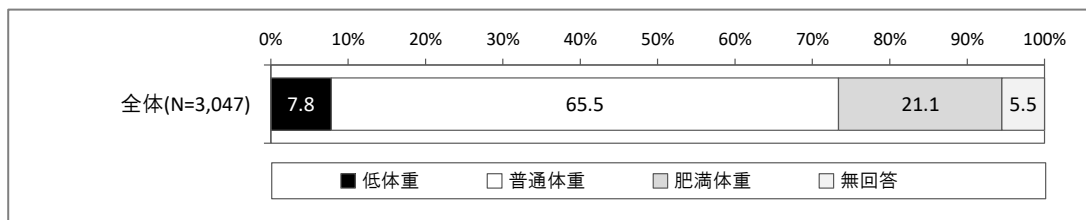
4 生活習慣

(1) 肥満

身長と体重を尋ね、肥満や低体重の指標となるBMI（体重÷身長÷身長）の判定結果を集計した。

【市全体】

市全体でみると、「普通体重」の割合が最も高く全体の 65.5%を占めている。次いで「肥満体重」が 21.1%、「低体重」が 7.8%となっている。

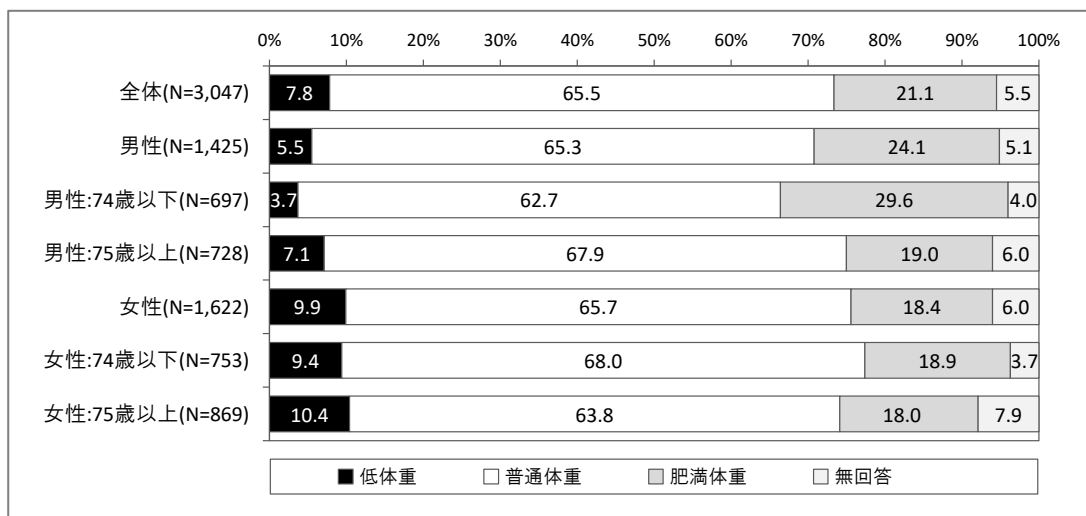


※低体重：BMI 18.5 未満 普通体重：BMI 18.5 以上 25 未満 肥満体重：BMI 25 以上

【性別・性年代別】

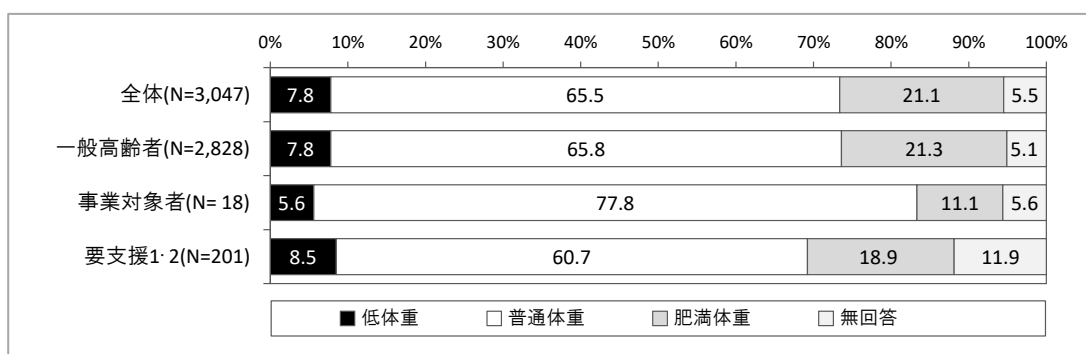
性別にみると、「低体重」は男性よりも女性の割合が高くなっており、男性は 5.5%、女性は 9.9%となっている。「肥満体重」については男性の割合が高く、男性の「肥満体重」の割合が 24.1%であるのに対し、女性の「肥満体重」の割合は 18.4%となっている。

性年代別にみると、男性は年代が上がる则「低体重」と「普通体重」の割合が高くなり、「肥満体重」の割合は低くなっているのに対し、女性は「低体重」の割合が高くなり、「普通体重」と「肥満体重」の割合は低くなっている。



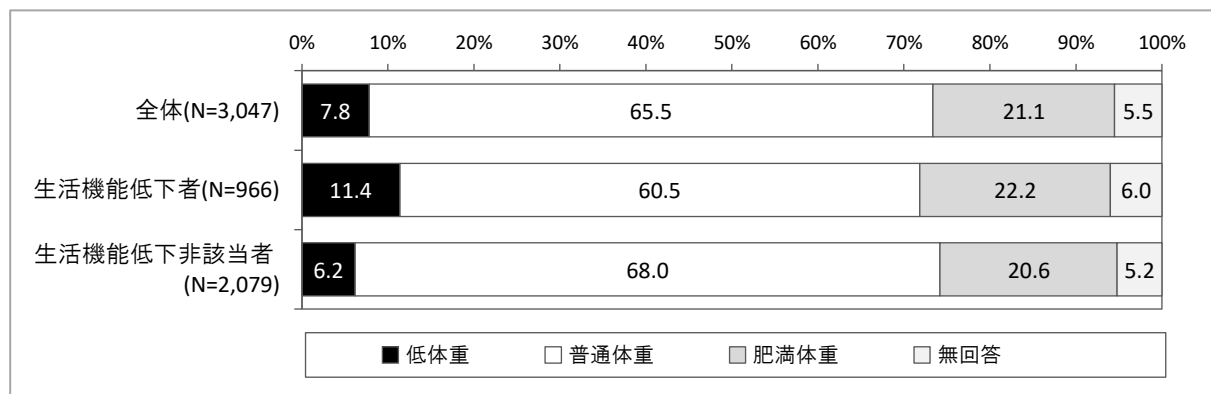
【要介護度別】

要介護度別にみると、一般高齢者の「低体重」の割合が 7.8%であるのに対し、要支援 1・2 は「低体重」の割合が 8.5%とやや高くなっている。



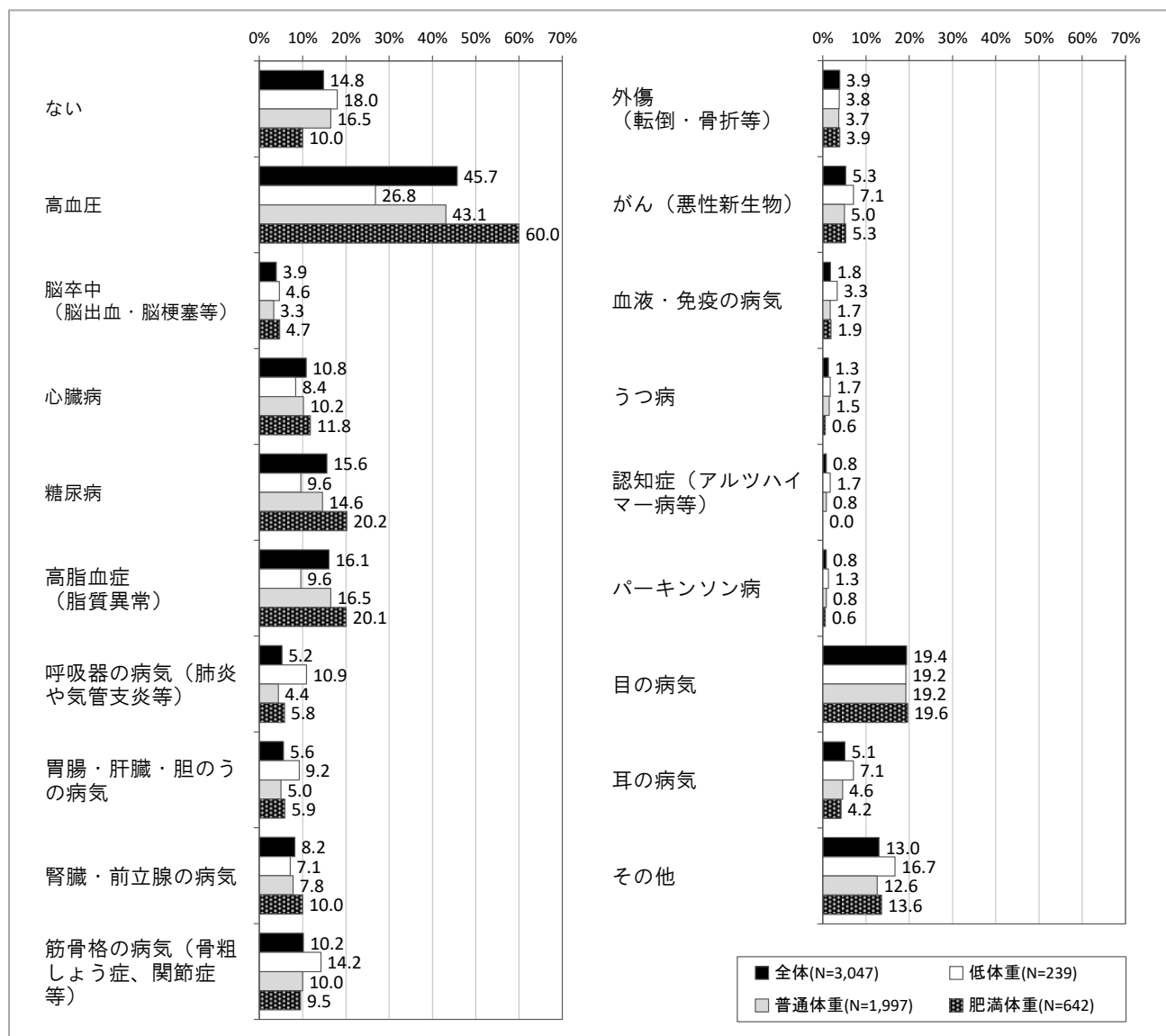
1) 肥満度と生活機能

肥満度と生活機能との関連についてみると、生活機能低下者は生活機能低下非該当者と比較して「低体重」と「肥満体重」の割合が高くなっており、「普通体重」の割合が低くなっている。「普通体重」については生活機能低下非該当者が 68.0%であるのに対し、生活機能低下者は 60.5%であり、7.5 ポイント低くなっている。



2) 肥満度と疾病（ない、高血圧、脳卒中、心臓病、糖尿病、高脂血症、筋骨格の病気）

肥満度と疾病有病率との関連をみると、肥満体重における「高血圧」の割合が高く 60.0%となっている。そのほかにも「心臓病」が 11.8%、「糖尿病」が 20.2%、「高脂血症（脂質異常）」が 20.1%などで肥満体重の割合が高くなっている。一方、低体重の割合は「呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）」の 10.9%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の 14.2%などで市全体より高くなっている。

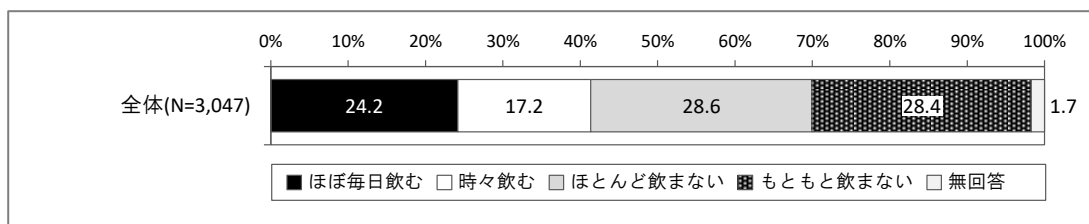


(2) 飲酒の頻度

飲酒の頻度について尋ねた。

【市全体】

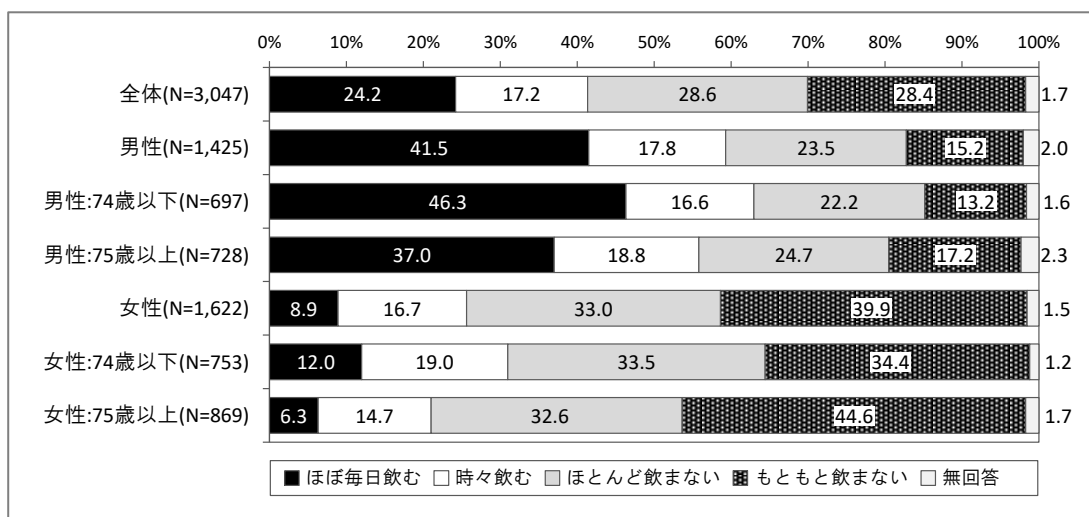
市全体でみると、「ほとんど飲まない」の割合が最も高く 28.6%となっている。次いで「もともと飲まない」が 28.4%、「ほぼ毎日飲む」が 24.2%、「時々飲む」が 17.2%となっている。



【性別・性年代別】

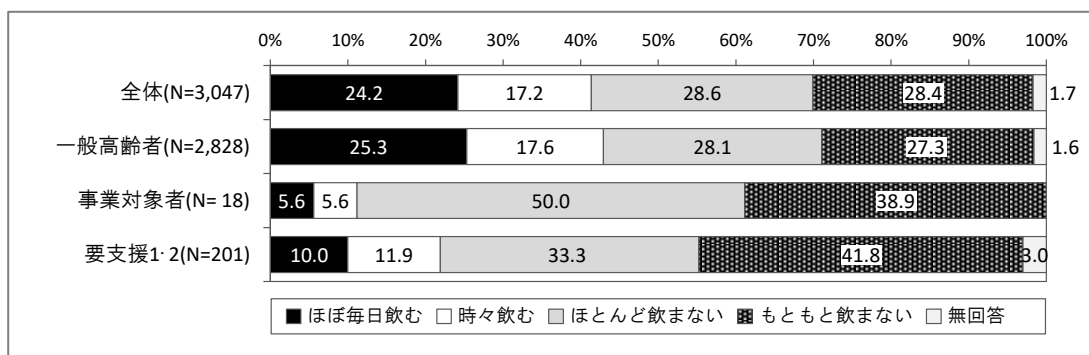
性別にみると、男女で飲酒の習慣に大きな差がみられる。男性では「ほぼ毎日飲む」の割合が 41.5%と最も高くなっている。一方で女性の「ほぼ毎日飲む」の割合は 8.9%であり、女性で最も高いのは「もともと飲まない」で 39.9%となっている。

性年代別にみると、女性では年代が上がるにつれて「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」、「ほとんど飲まない」の割合が低くなっている。一方、男性では年代が上がるにつれて「ほぼ毎日飲む」の割合が低下しており、「時々飲む」「ほとんど飲まない」の割合が高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「もともと飲まない」の割合は一般高齢者が 27.3%であるのに対し、要支援 1・2 は 41.8%と高くなっている。

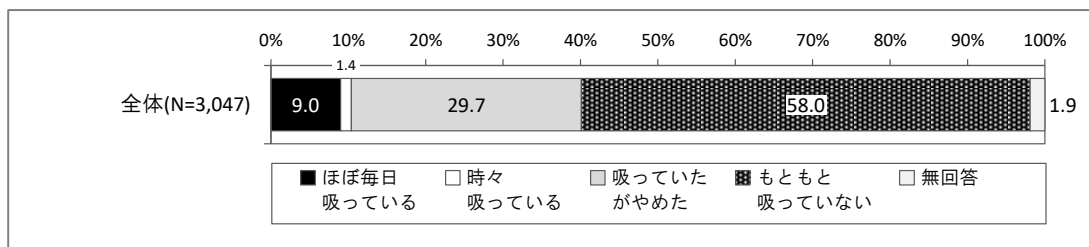


（３）喫煙の頻度

喫煙の頻度について尋ねた。

【市全体】

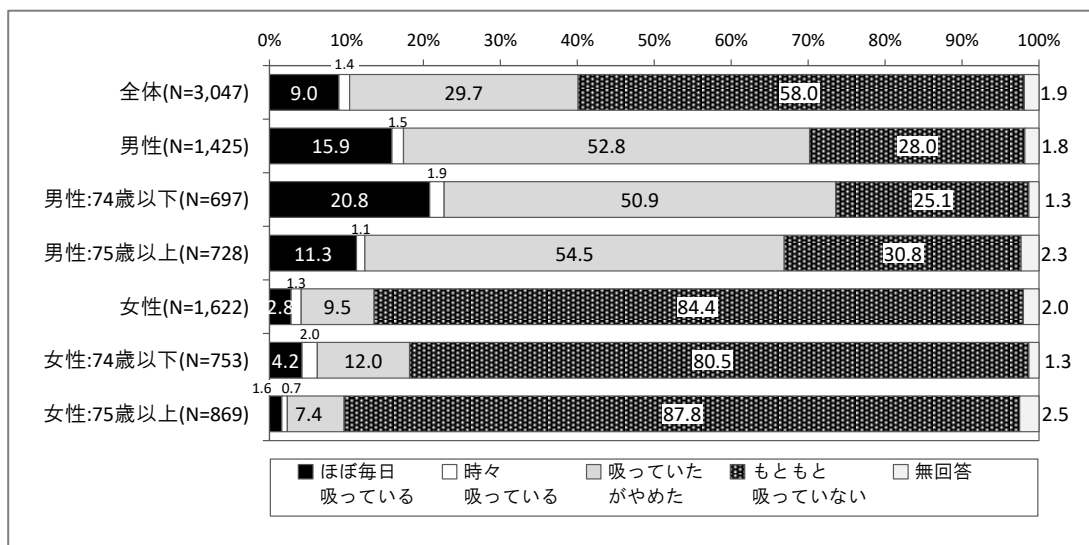
市全体でみると、「もともと吸っていない」の割合が最も高く 58.0%となっている。次いで「吸っていたがやめた」が 29.7%である。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた割合は 10.4%となっている。



【性別・性年代別】

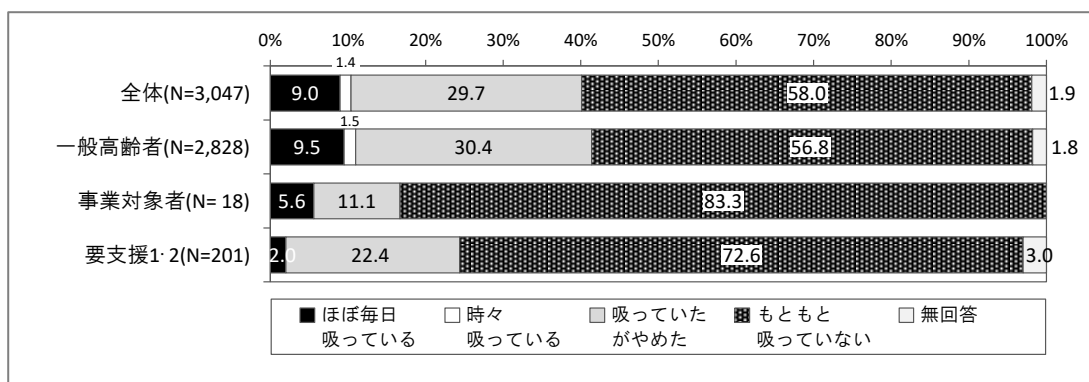
性別にみると、男性は「吸っていたがやめた」が 52.8%で割合が最も高いのに対し、女性は「もともと吸っていない」の割合が 84.4%で最も高くなっている。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた割合は男性が 17.4%、女性が 4.1%であり、男性の喫煙頻度の方が高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるとう「吸っていたがやめた」と「もともと吸っていない」を合わせた割合が高くなっており、喫煙頻度が低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた割合は一般高齢者が 11.0%であるのに対し、要支援1・2は 2.0%と9ポイント低くなっている。

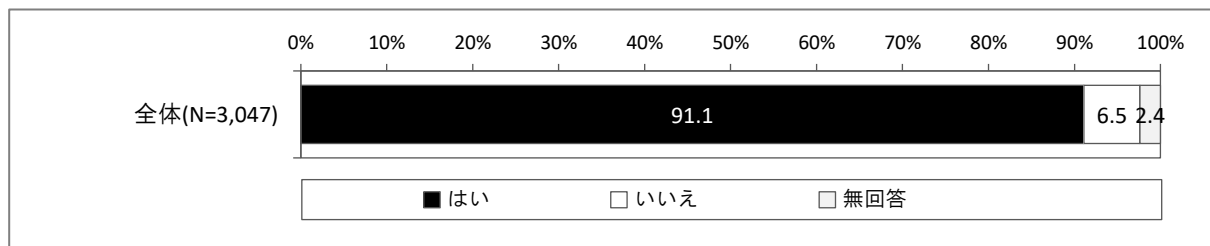


(4) 毎日の歯磨き実施

歯磨きを毎日しているかを尋ねた。

【市全体】

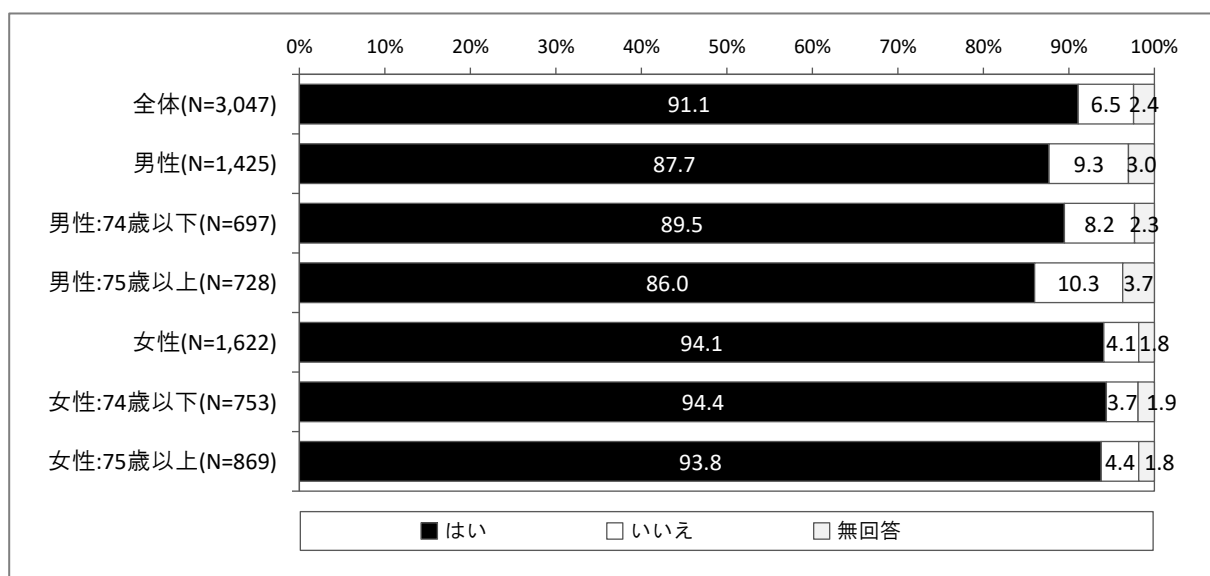
市全体でみると、「はい」の割合が91.1%、「いいえ」の割合が6.5%となっている。



【性別・性年代別】

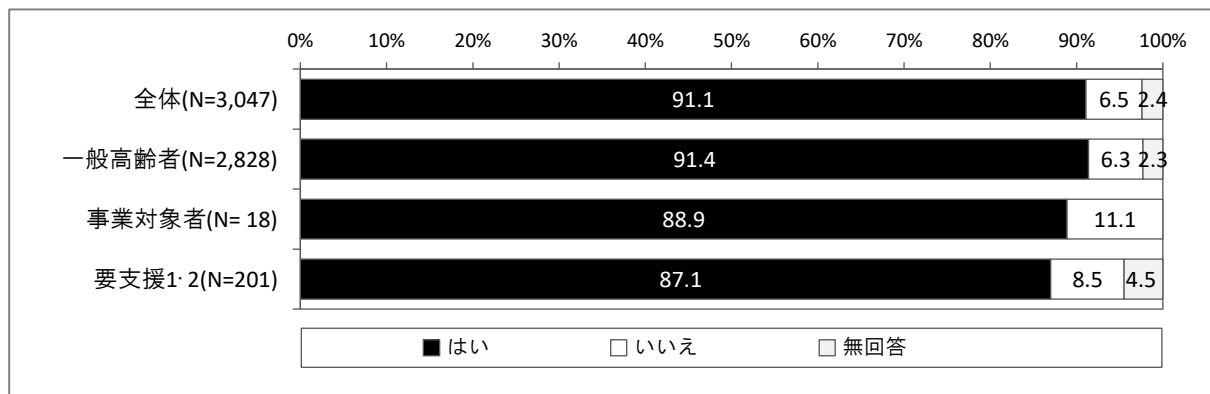
性別にみると、「はい」の割合は男性では87.7%であるのに対し、女性では94.1%と高くなっている。

性年代別にみると、「はい」の割合は男女ともに年代が高いほど低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「はい」の割合は一般高齢者が91.4%であるのに対し、要支援1・2は87.1%とやや低くなっている。

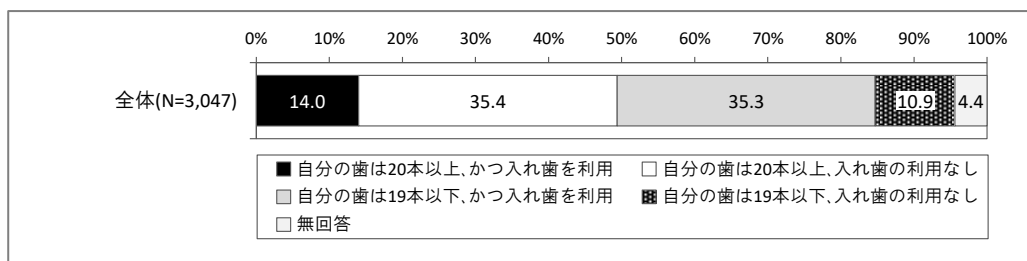


（５）歯の本数と入れ歯の利用状況

歯の本数と入れ歯の利用状況について尋ねた。

【市全体】

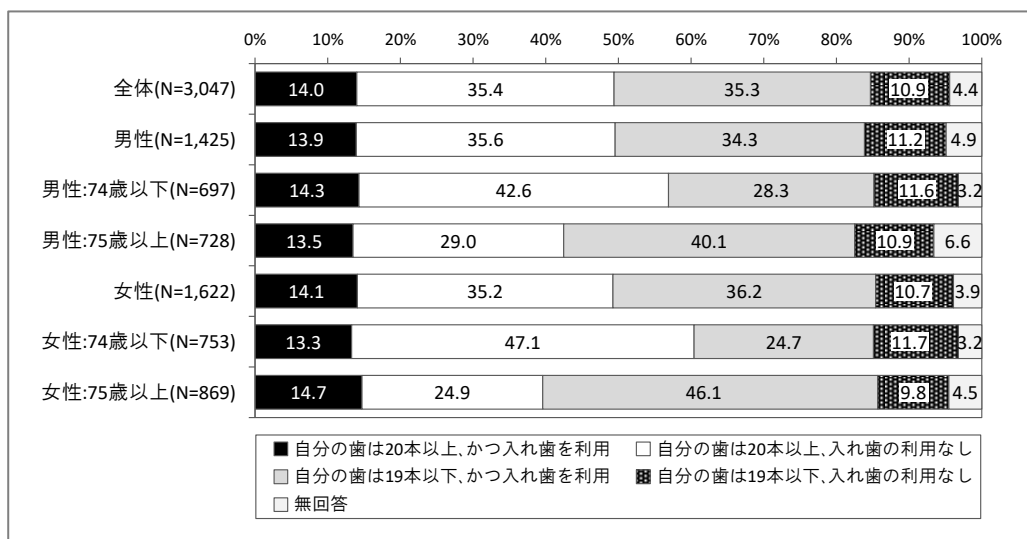
市全体でみると、「自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし」の割合が 35.4%で最も高く、次いで「自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用」が 35.3%、「自分の歯は２０本以上、かつ入れ歯を利用」が 14.0%となっている。



【性別・性年代別】

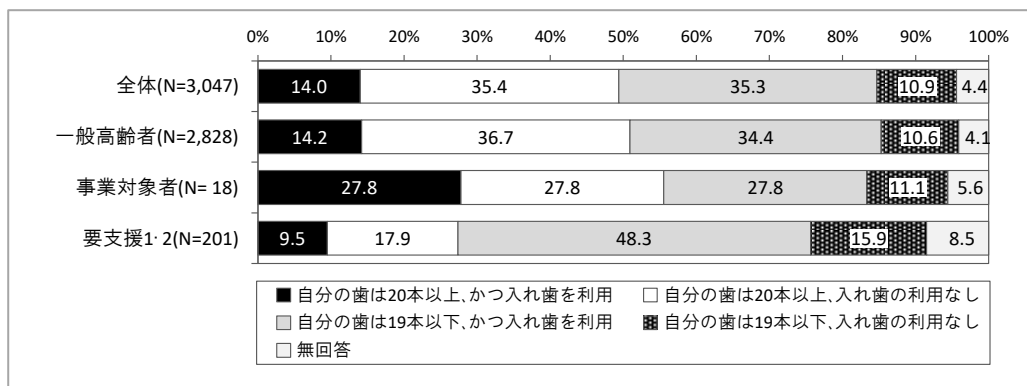
性別にみると、「自分の歯は１９本以下、かつ入れ歯を利用」の割合は男性では 34.3%であるのに対し、女性では 36.2%とやや高くなっている。

性年代別にみると、「自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし」の割合は男女ともに年代が高いほど低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「自分の歯は２０本以上、入れ歯の利用なし」の割合は一般高齢者が 36.7%であるのに対し、要支援１・２は 17.9%と 10ポイント以上低くなっている。

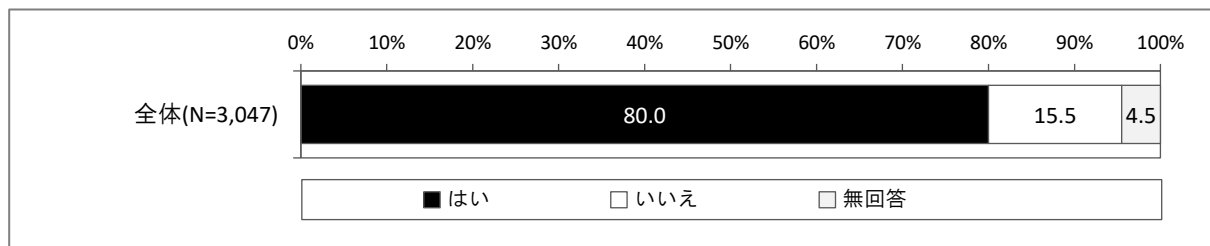


(6) 歯の噛み合わせの良さ

歯の噛み合わせの良さについて尋ねた。

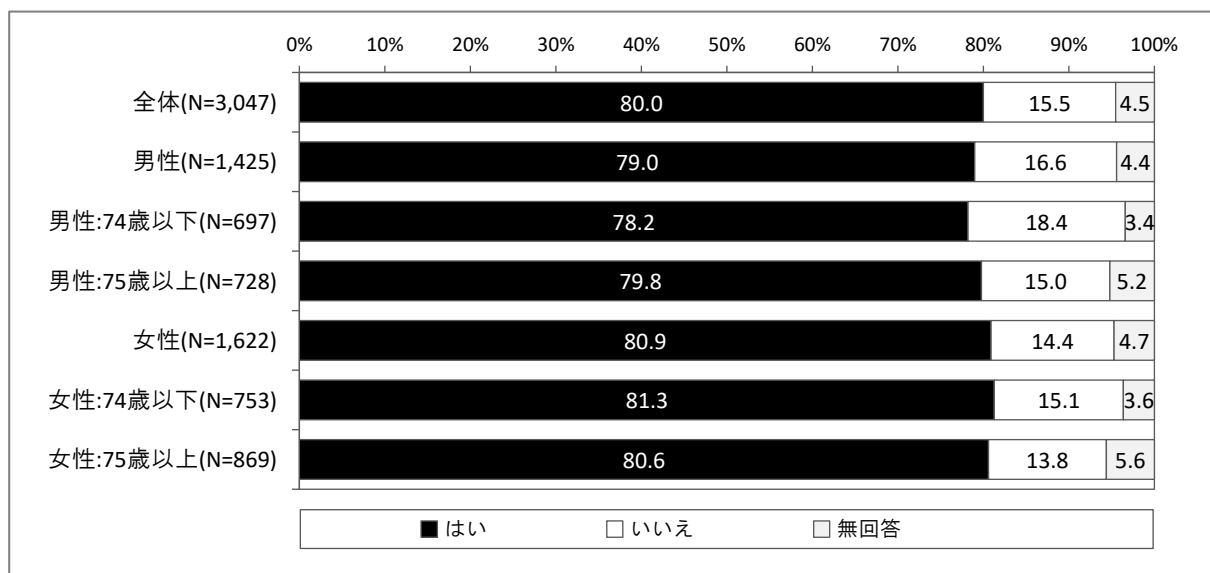
【市全体】

市全体でみると、「はい」の割合が80.0%で、「いいえ」の割合が15.5%となっている。



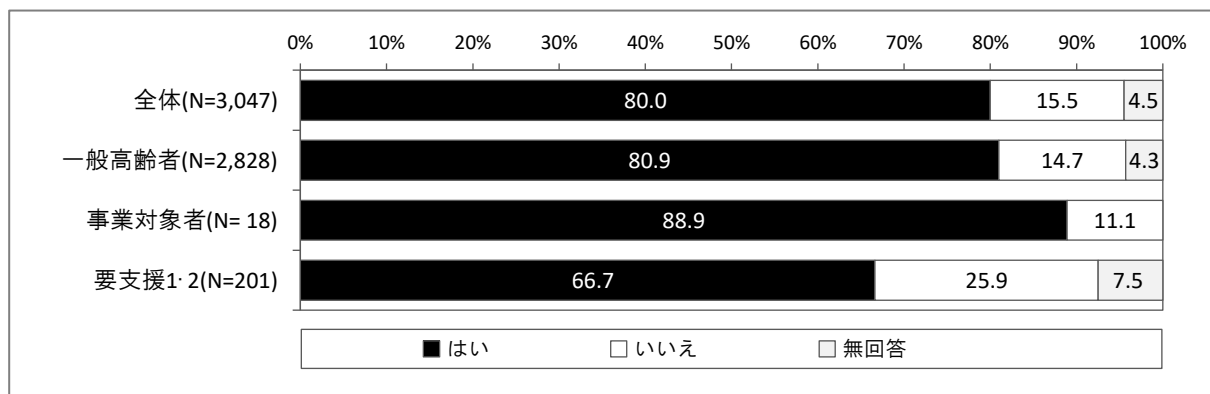
【性別・性年代別】

性別にみると、「はい」の割合は男性では79.0%であるのに対し、女性では80.9%とやや高くなっている。性年代別にみると、「はい」の割合は年代が上がるほど男性では高くなっているが、女性では低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「はい」の割合は一般高齢者が80.9%であるのに対し、要支援1・2は66.7%と10ポイント以上低くなっている。

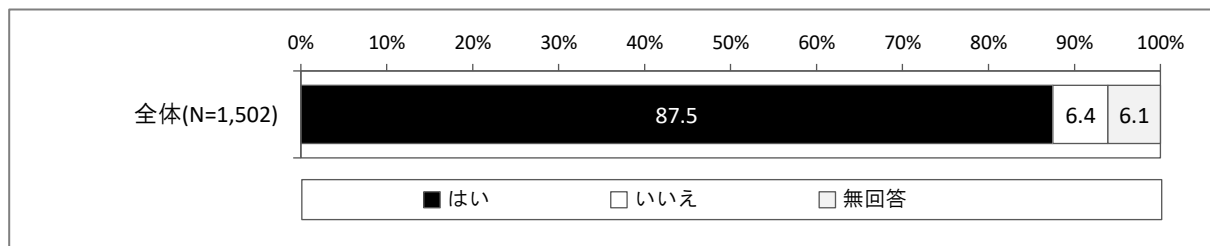


(7) 毎日の入れ歯の手入れ実施状況

毎日の入れ歯の手入れ実施状況について尋ねた。

【市全体】

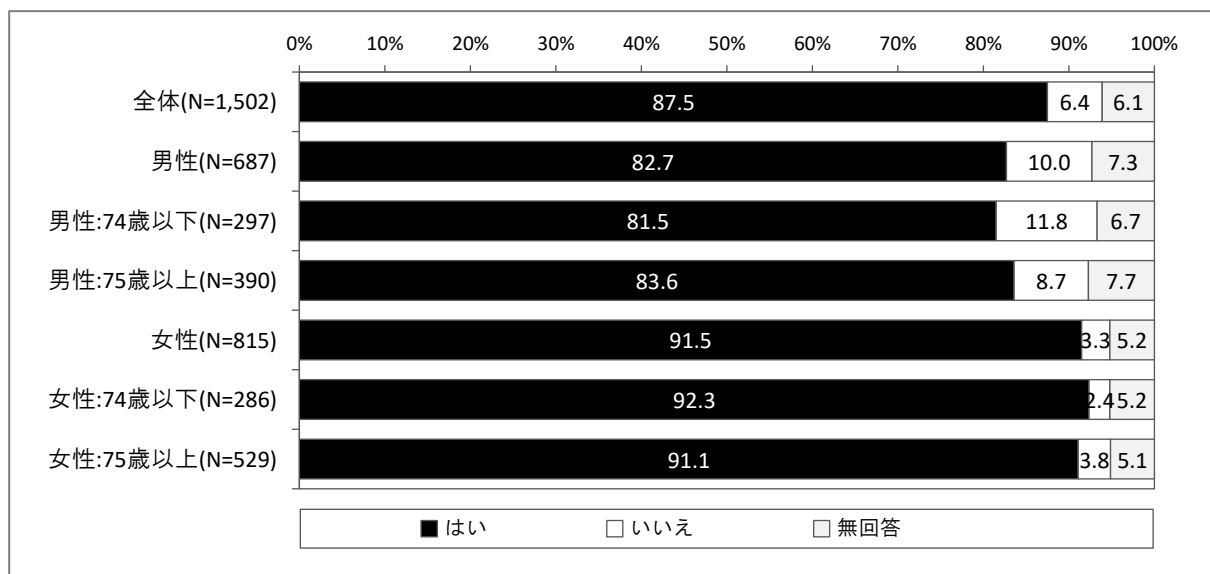
市全体でみると、「はい」の割合が87.5%で、「いいえ」の割合が6.4%となっている。



【性別・性年代別】

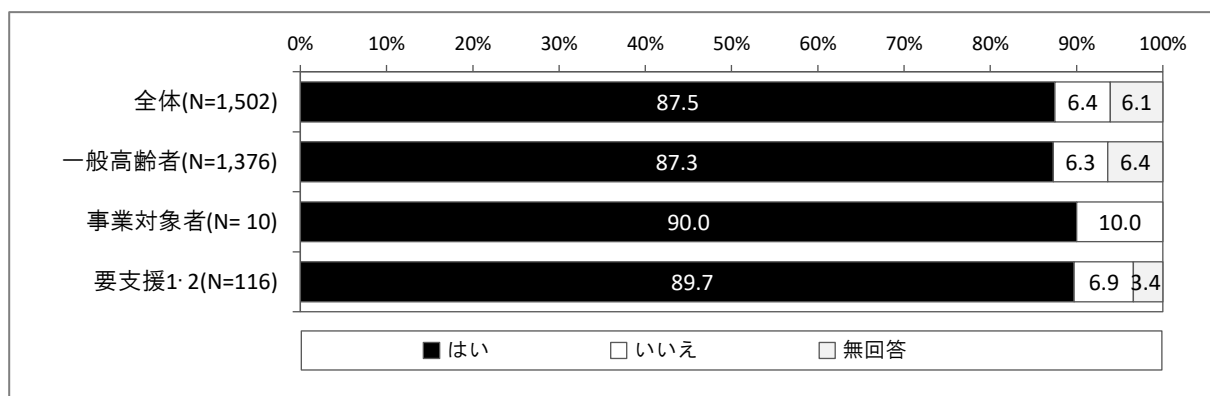
性別にみると、「はい」の割合は男性では82.7%であるのに対し、女性では91.5%と高くなっている。

性年代別にみると、「いいえ」の割合は年代が高いほど男性では低くなっているが、女性ではやや高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「はい」の割合は一般高齢者が87.3%であるのに対し、要支援1・2は89.7%とやや高くなっている。



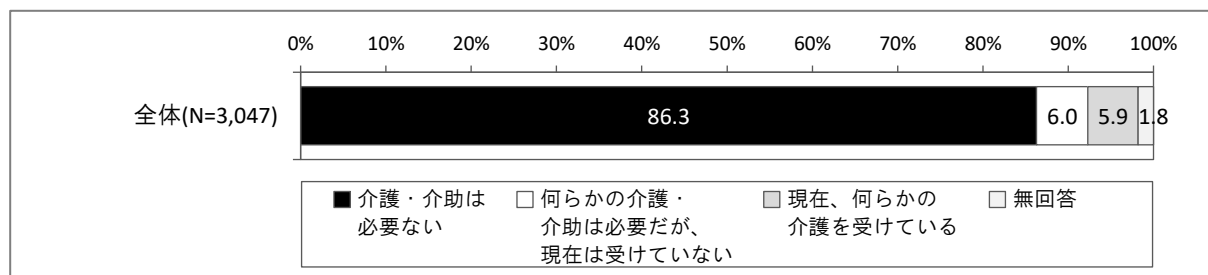
5 介護・介護予防

(1) 普段の生活における介護・介助の必要性

普段の生活における介護・介助の必要性を尋ねた。

【市全体】

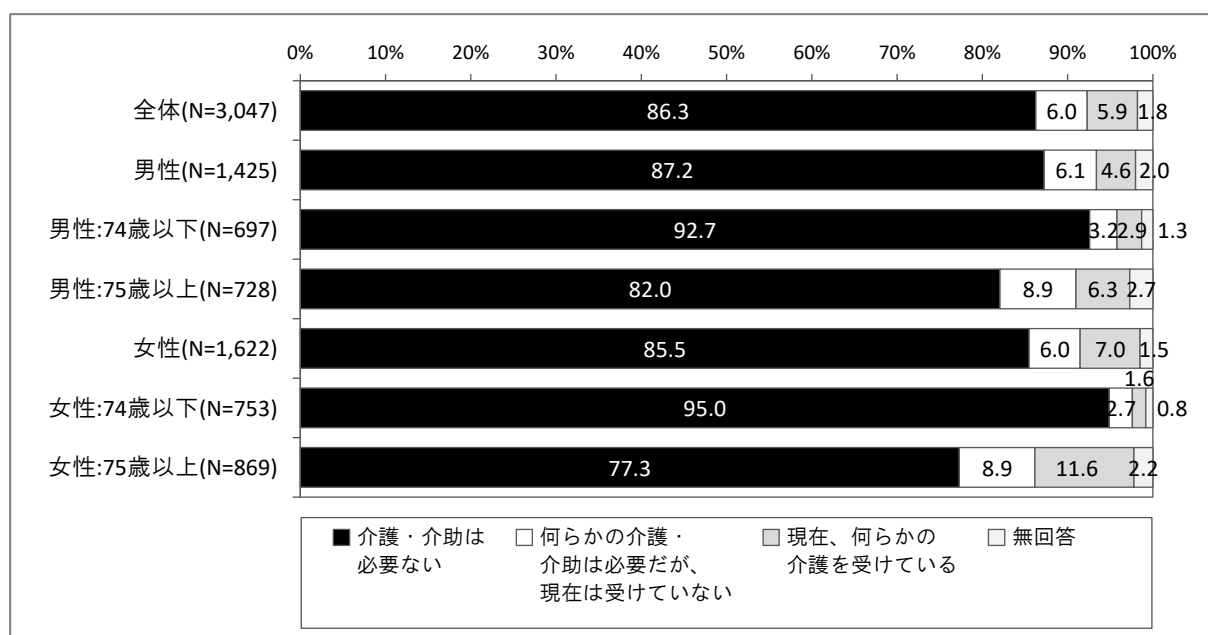
市全体でみると、「介護・介助は必要ない」の割合が最も高く 86.3%となっている。次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 6.0%、「現在、何らかの介護を受けている」が 5.9%となっている。



【性別・性年代別】

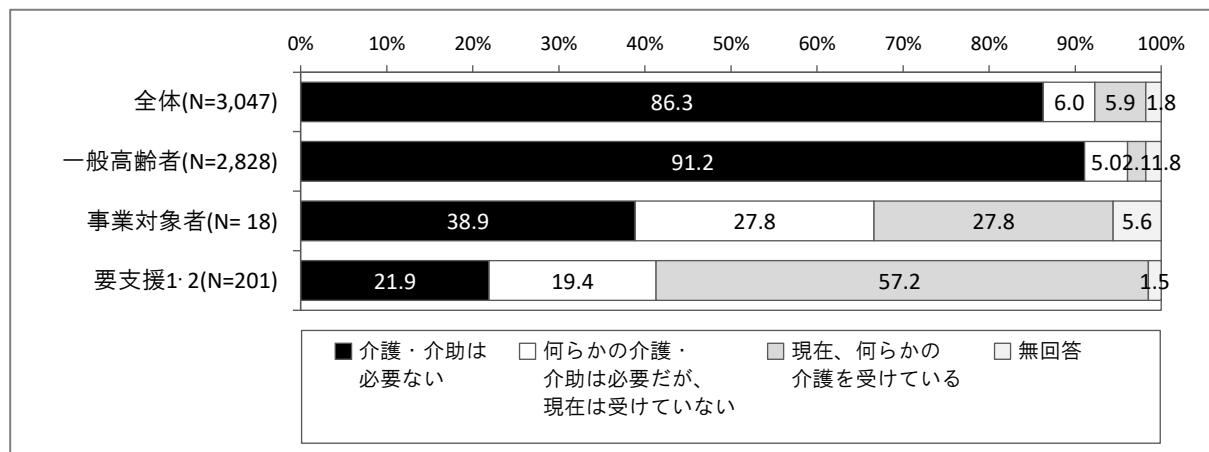
性別にみると、「介護・介助は必要ない」の割合は男性が 87.2%、女性が 85.5%で、男性の方がやや高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど、何らかの介護・介助が必要となり、「介護・介助は必要ない」の割合は低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別みると、要支援1・2は「介護・介助は必要ない」の割合が21.9%と低くなっており、一般高齢者91.2%より69.3ポイント低くなっている。「現在、何らかの介護を受けている」の割合は一般高齢者で2.1%であるのに対し、要支援1・2では57.2%となっており55.1ポイント高くなっている。

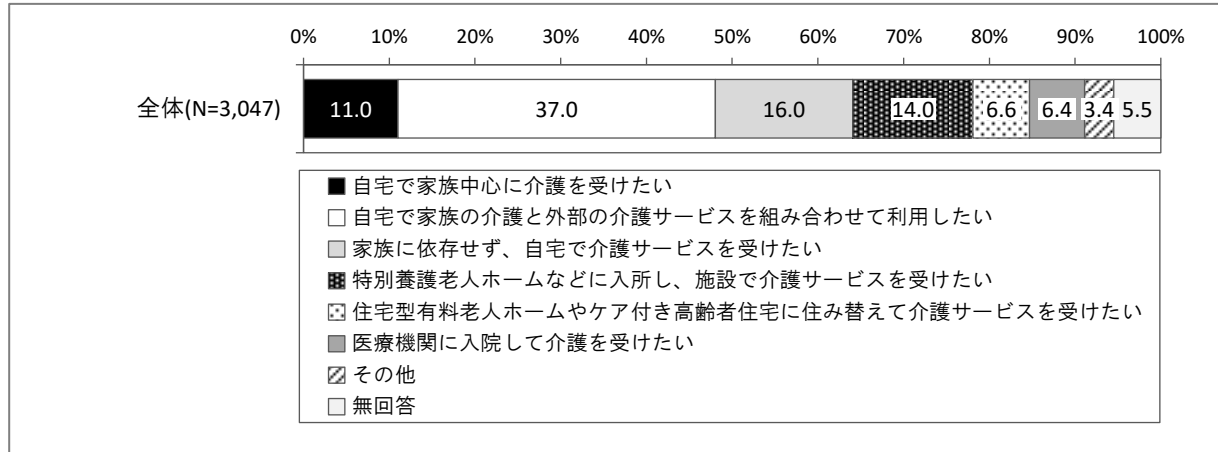


(2) 介護が必要になった際の意向

介護が必要になった際の意向を尋ねた。

【市全体】

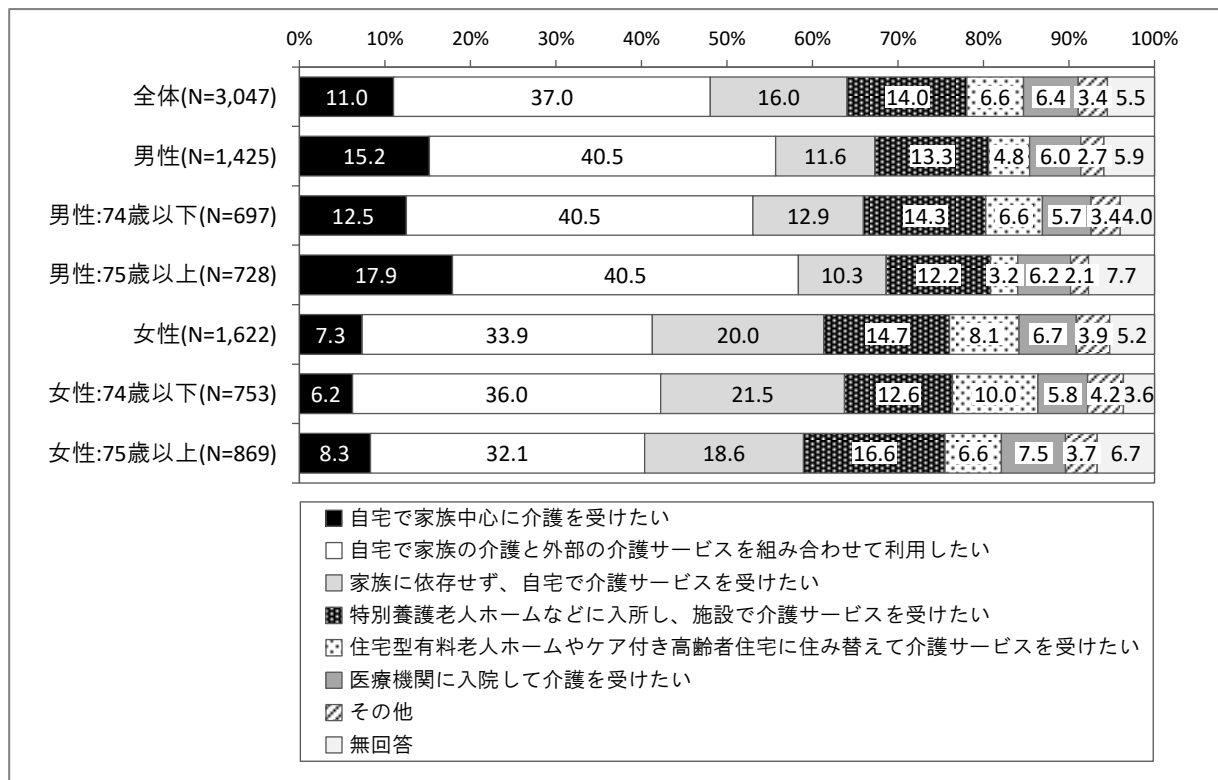
市全体でみると、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が37.0%で最も高くなっている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が16.0%、「特別養護老人ホームなどに入所し、施設で介護を受けたい」が14.0%となっている。



【性別・性年代別】

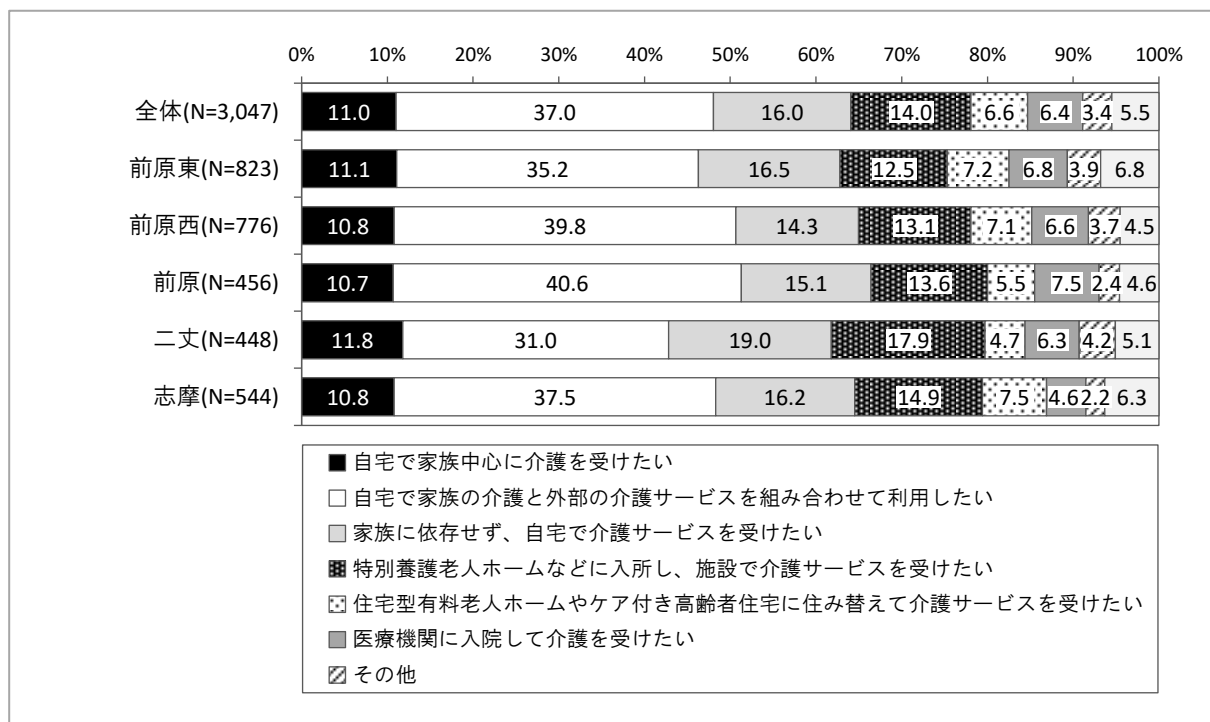
性別にみると、女性は男性よりも「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が高くなっており、女性が20.0%、男性が11.6%となっている。一方、男性は「自宅で家族中心に介護を受けたい」、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が女性よりも高くなっており、男性は家族からの介護を女性よりも望んでいるようである。

性年代別にみると、年代が上がるほど、「自宅で家族中心に介護を受けたい」の割合がやや高くなっており、「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合がやや低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合は二丈圏域が 31.0%と他圏域と比較し最も低くなっている。一方、「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合は二丈圏域が 19.0%と、他圏域と比較し最も高くなっている。

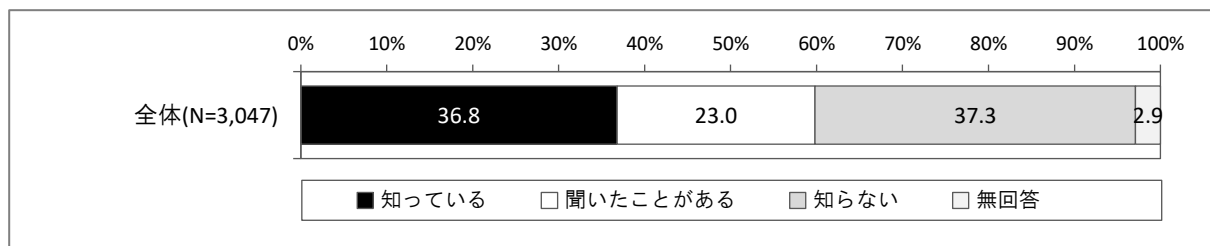


(3) フレイルの認知状況

フレイルという言葉の認知状況を尋ねた。

【市全体】

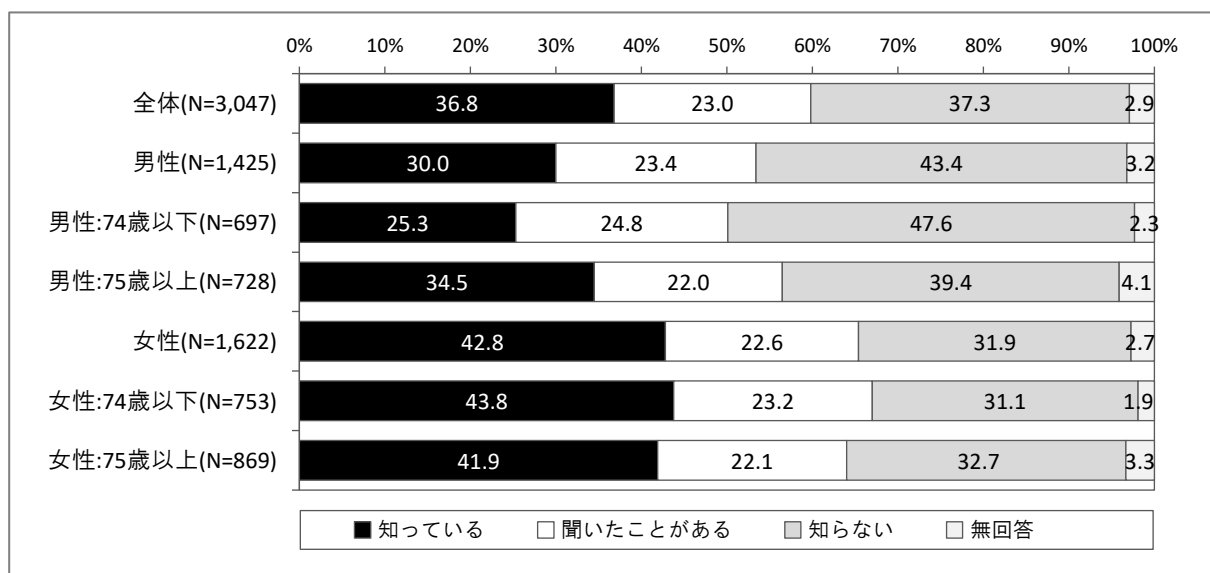
市全体でみると、「知らない」の割合が 37.3%で最も高く、次いで「知っている」が 36.8%、「聞いたことがある」が 23.0%となっている。



【性別・性年代別】

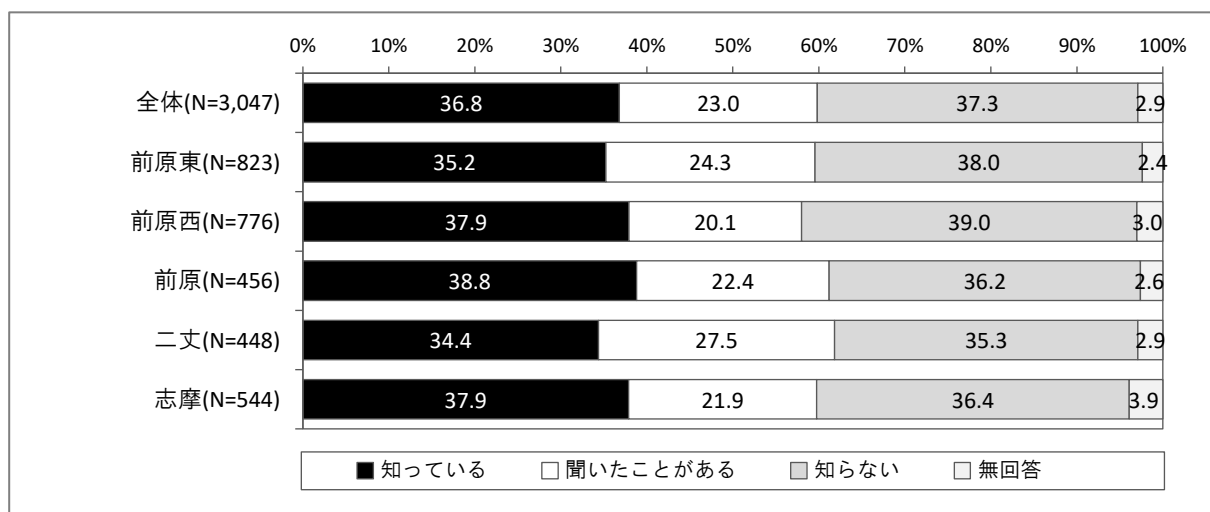
性別にみると、「知っている」の割合は男性が 30.0%、女性が 42.8%で、女性の方が高くなっている。

性年代別にみると、「知っている」の割合は女性 74 歳以下で 43.8%となっており、性年代の中で最も高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「知らない」の割合は前原西圏域が 39.0%となっており、他圏域と比較し最も高くなっている。

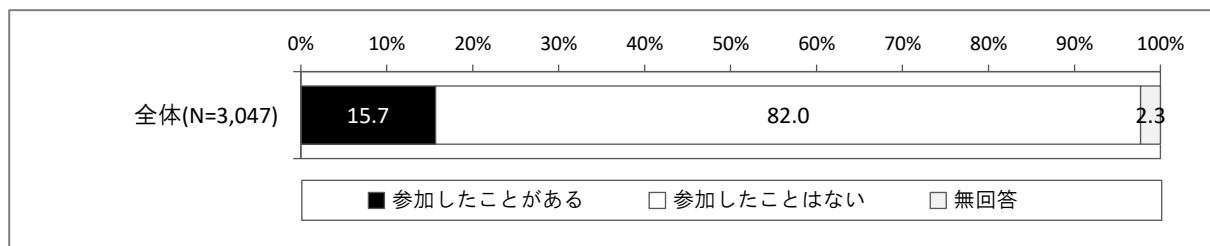


（４）介護予防を目的とした事業への参加経験有無

介護予防を目的とした事業への参加経験有無を尋ねた。

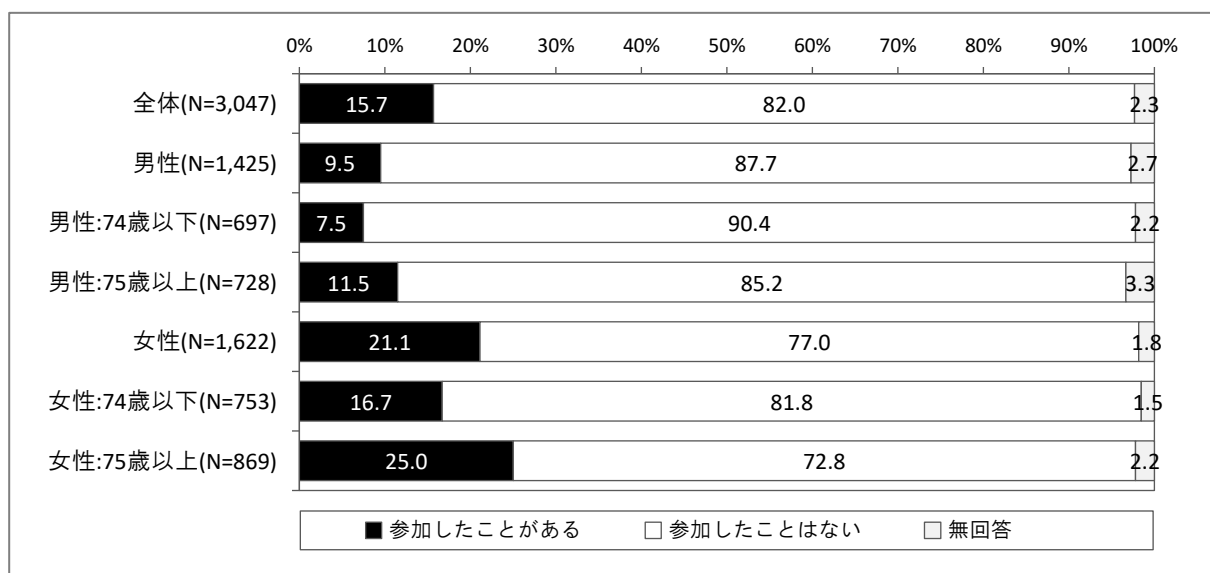
【市全体】

市全体でみると、「参加したことがある」の割合が 15.7%、「参加したことはない」の割合が 82.0%となっている。



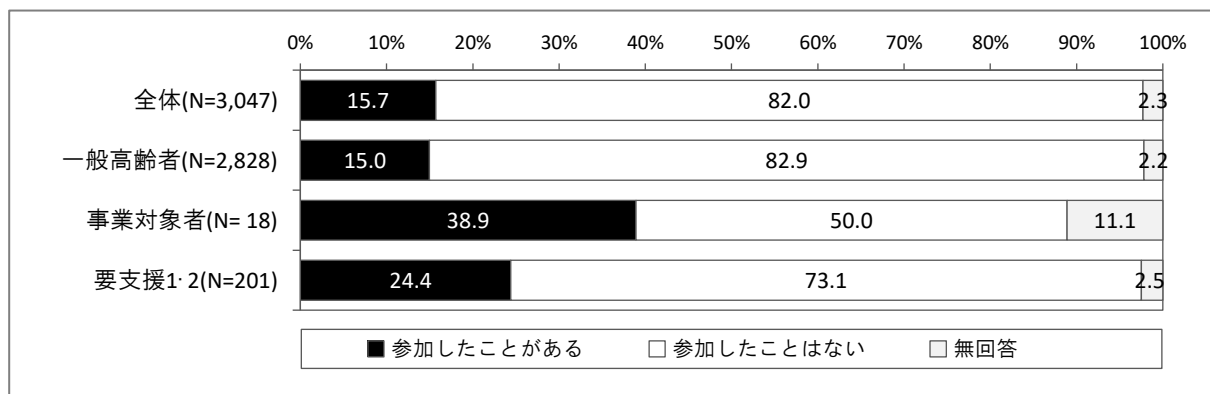
【性別・性年代別】

性別にみると、「参加したことがある」の割合は男性が 9.5%、女性が 21.1%で女性の方が高くなっている。性年代別にみると、「参加したことがある」の割合は女性 75 歳以上が 25.0%であり、性年代の中で最も高くなっている。



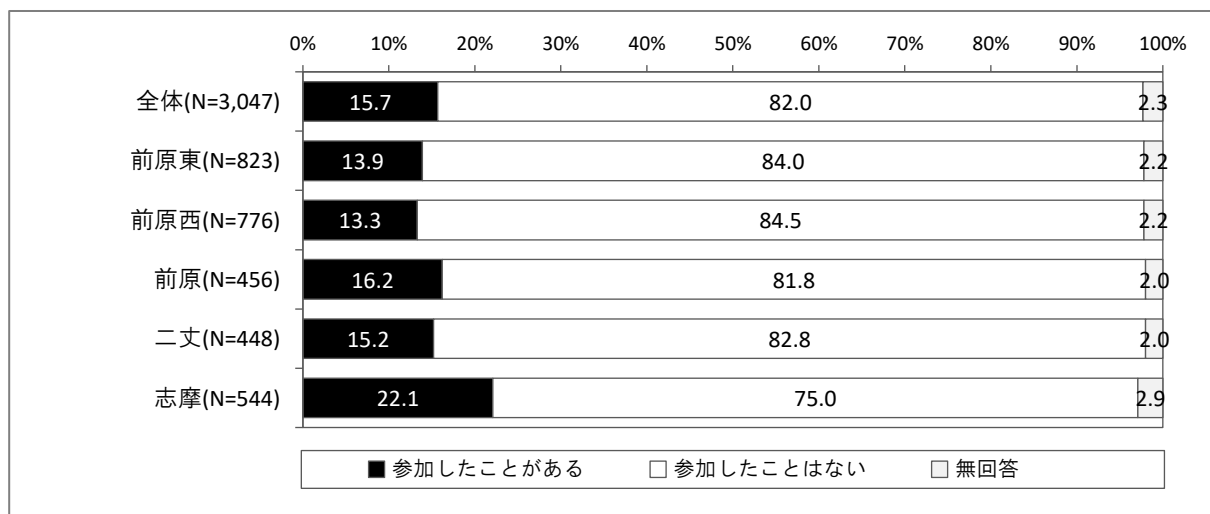
【要介護度別】

要介護度別にみると、「参加したことがある」の割合は一般高齢者が 15.0%であるのに対し要支援 1・2 では 24.4%と高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「参加したことがある」の割合は志摩圏域が 22.1%で他圏域と比較して最も高くなっている。一方、前原西圏域は「参加したことがある」の割合は 13.3%と他圏域と比較し最も低く、「参加したことはない」の割合は 84.5%と他圏域と比較し最も高くなっている。



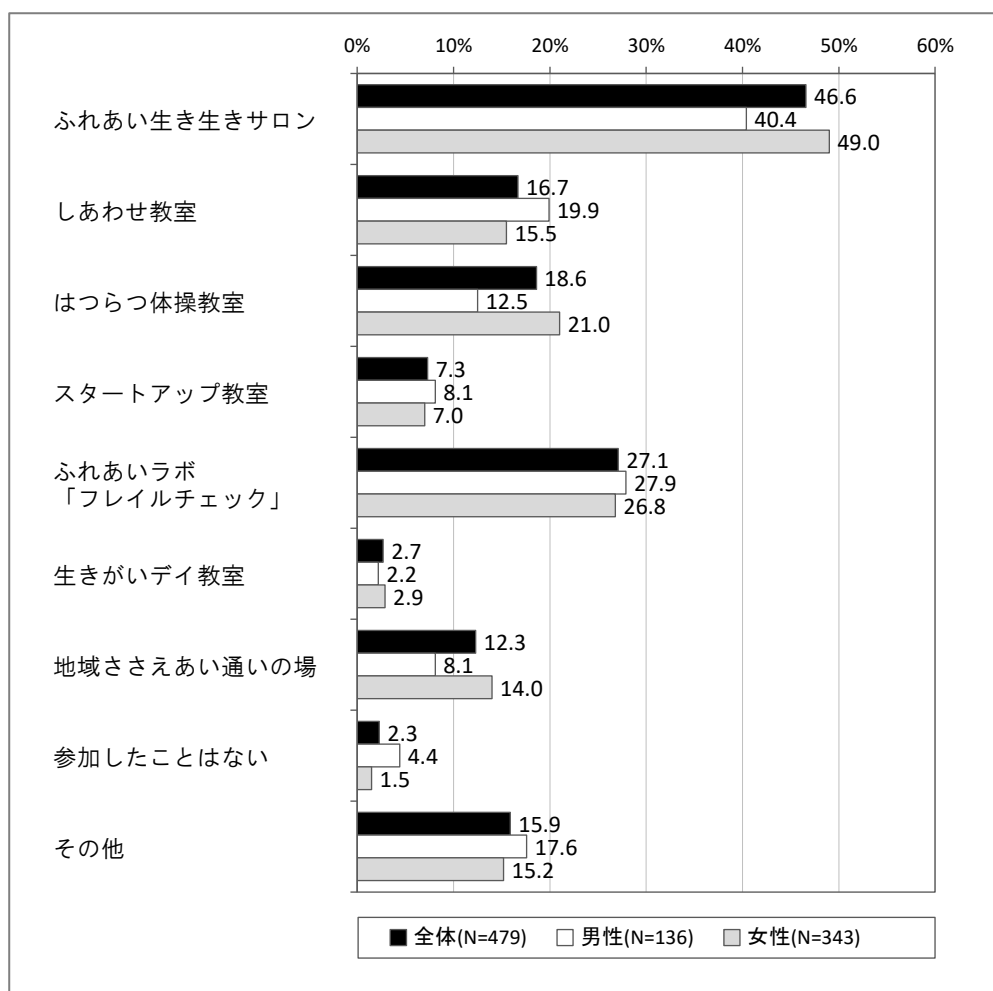
(5) 参加したことがある事業（複数回答）

前問で「参加したことがある」と回答した方に対し、参加したことがある事業を尋ねた。

【市全体・性別】

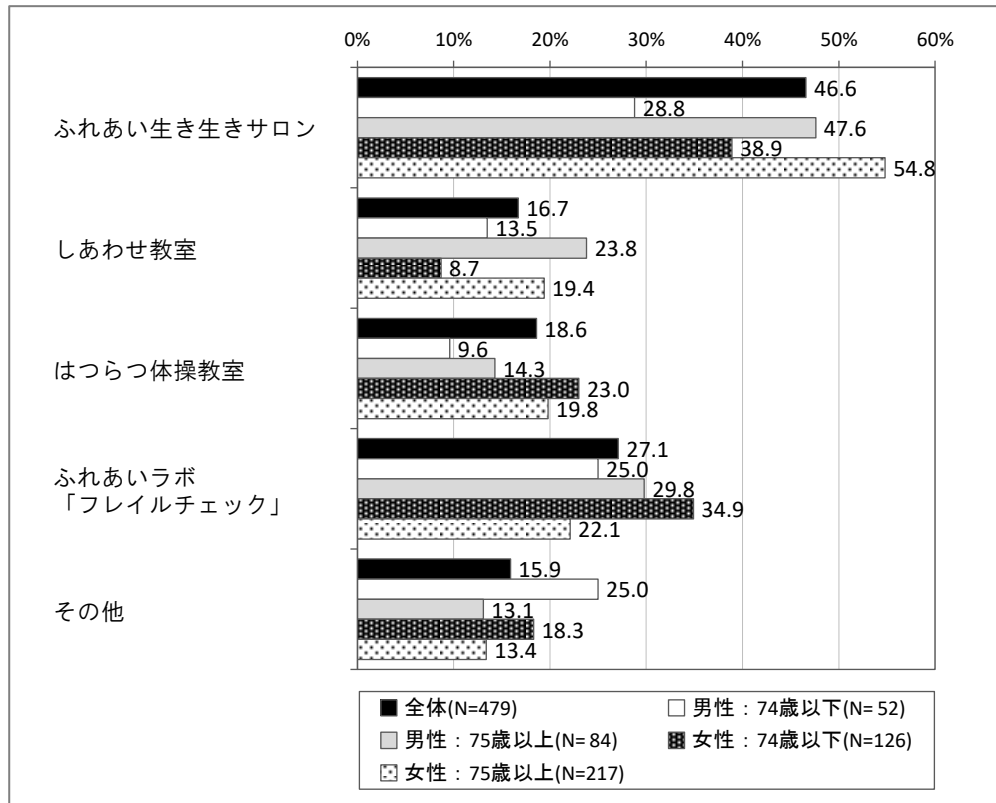
市全体でみると、「ふれあい生き生きサロン」の割合が46.6%で最も高く、次いで「ふれあいラボ「フレイルチェック」」が27.1%、「はつらつ体操教室」が18.6%、「しあわせ教室」が16.7%となっている。

性別にみると、「ふれあい生き生きサロン」の割合は男性が40.4%、女性が49.0%で女性の割合が高くなっている。



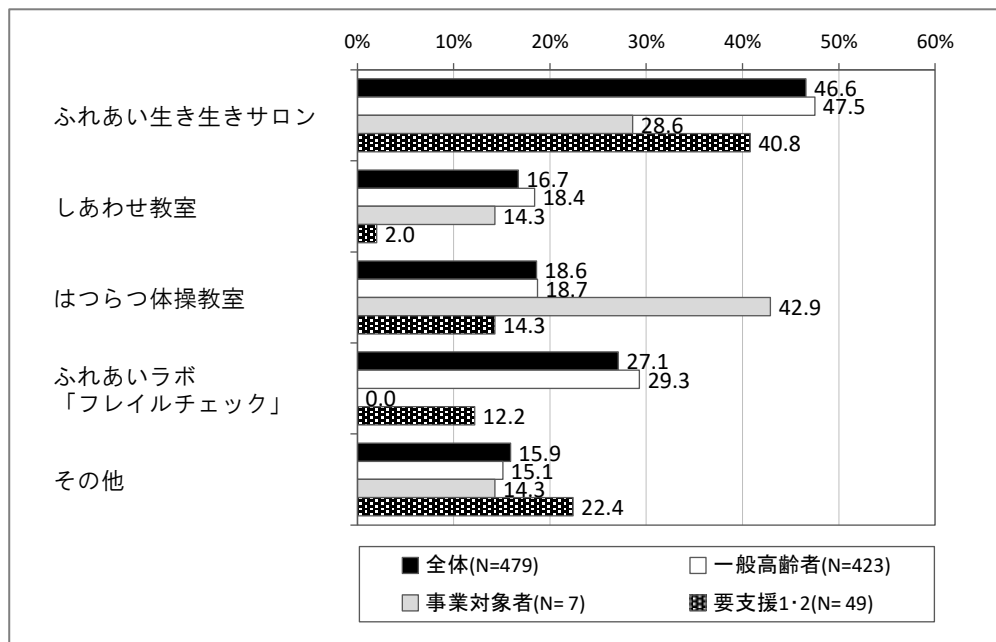
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「ふれあい生き生きサロン」や「しあわせ教室」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。一方「はつらつ体操教室」や「ふれあいラボ「フレイルチェック」」の割合は年代が上がるにつれて、男性では割合が高くなる一方、女性では低くなっている。



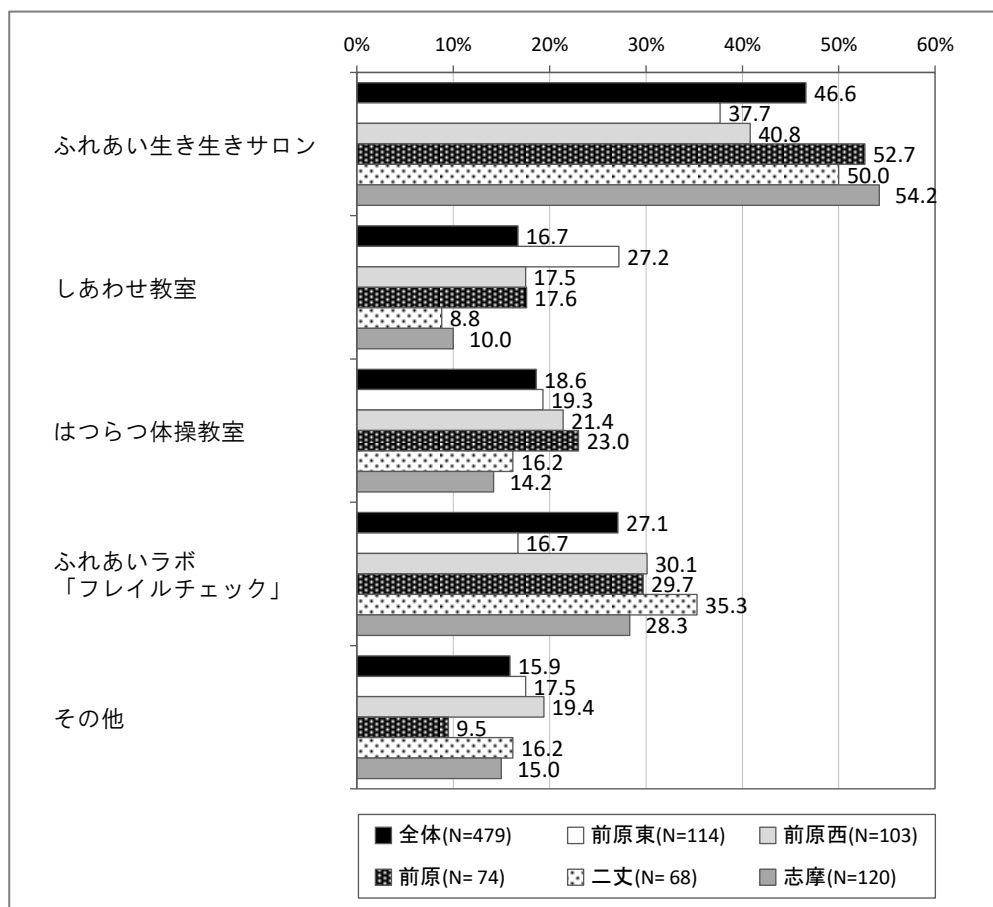
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「その他」を除くすべての項目で、一般高齢者より要支援1・2が低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「ふれあい生き生きサロン」の割合は志摩圏域が54.2%、前原圏域が52.7%、二丈圏域が50.0%と市全体より高くなっている。「ふれあいラボ「フレイルチェック」」の割合は前原東圏域を除くすべての圏域が30%前後となっているが、前原東圏域は16.7%と最も低くなっている。



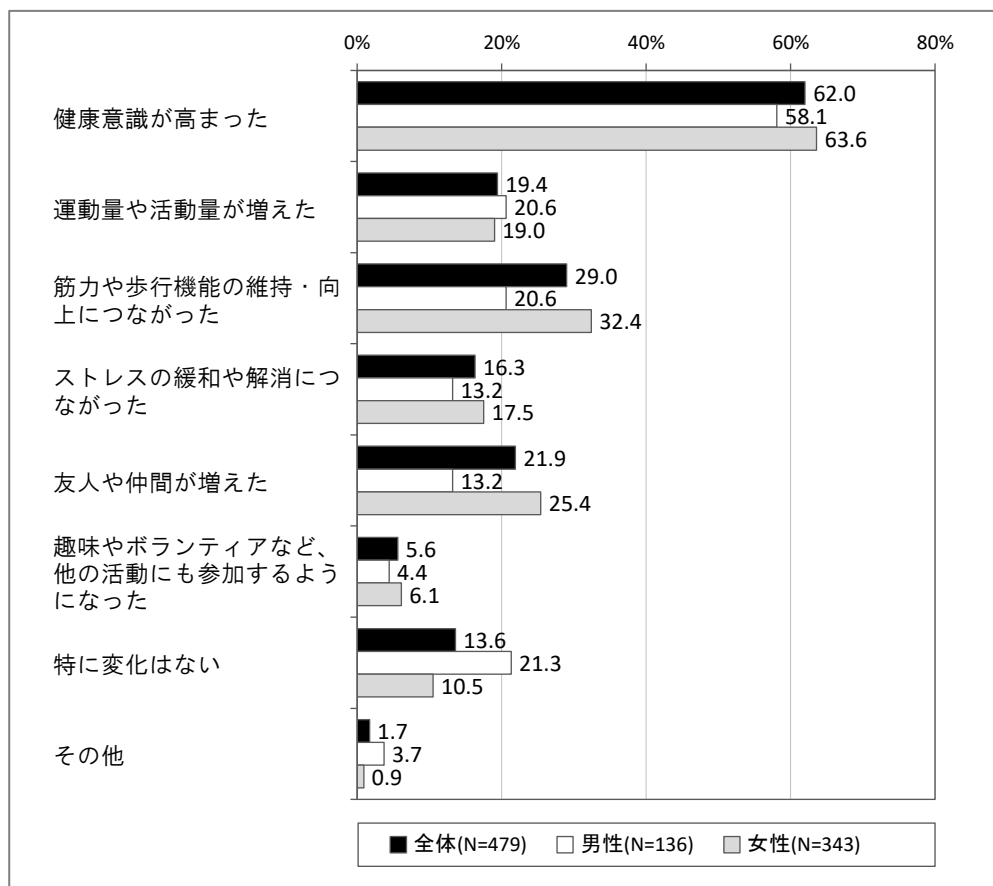
（６）どのような効果があったと思うか（複数回答）

介護予防を目的とした事業への参加経験有無を尋ねた設問で「参加したことがある」と回答した方に対し、参加した結果どのような効果があったと感じたかを尋ねた。

【市全体・性別】

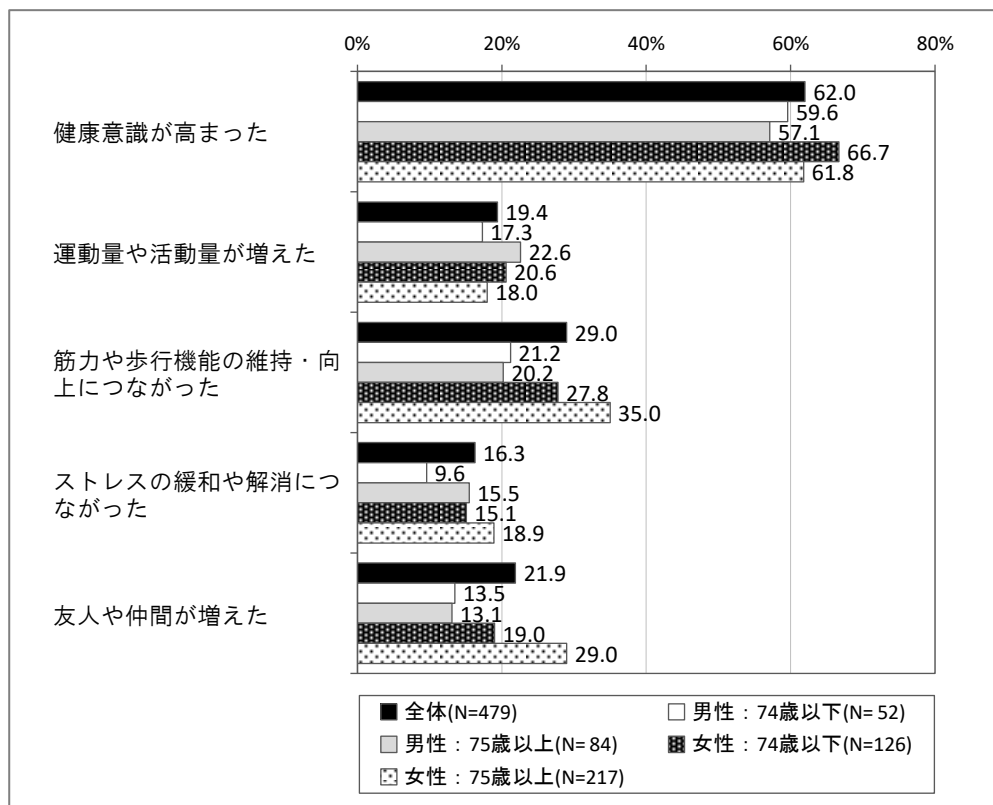
市全体でみると、「健康意識が高まった」の割合が62.0%で最も高く、次いで「筋力や歩行機能の維持・向上につながった」が29.0%、「友人や仲間が増えた」が21.9%、「運動量や活動量が増えた」が19.4%となっている。

性別にみると、「健康意識が高まった」や「筋力や歩行機能の維持・向上につながった」、「友人や仲間が増えた」等の割合は男性より女性の方が高くなっている。一方「特に変化はない」の割合は男性が21.3%であるのに対し、女性は10.5%と低くなっている。



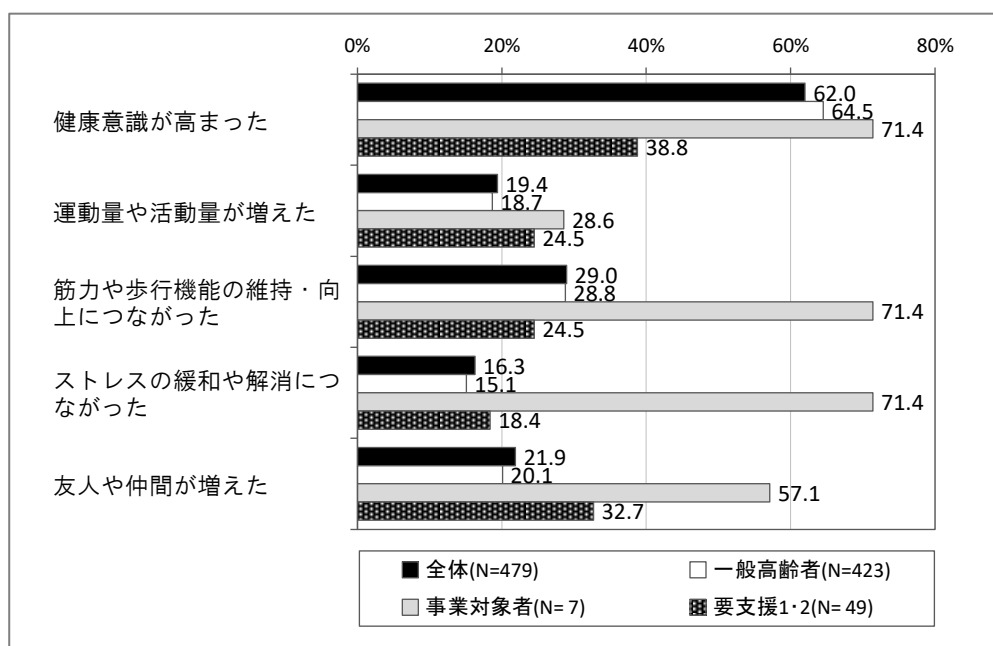
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「健康意識が高まった」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方「筋力や歩行機能の維持・向上につながった」や「友人や仲間が増えた」の割合は年代が上がるにつれて、男性では割合が低くなっているが、女性では高くなっている。



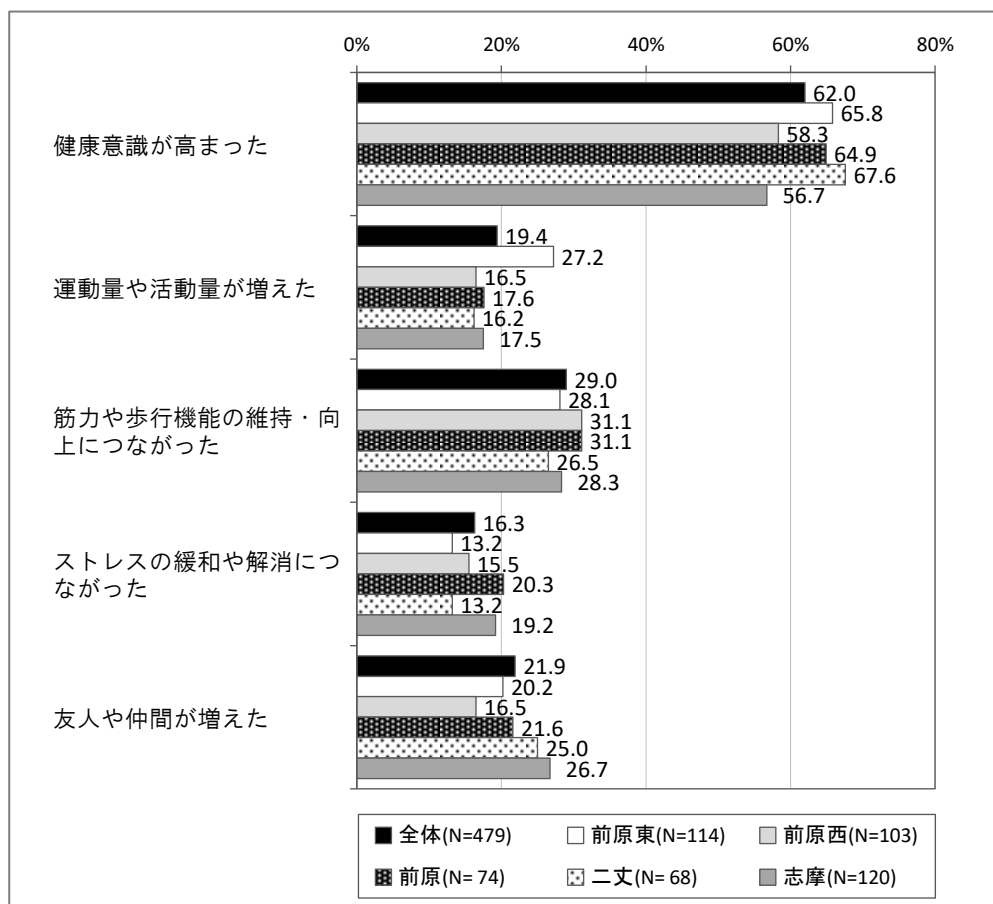
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「健康意識が高まった」の割合は一般高齢者が 64.5%であるのに対し、要支援1・2では 38.8%と低くなっている。一方「友人や仲間が増えた」の割合は一般高齢者が 20.1%であるのに対し要支援1・2では 32.7%と高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「運動量や活動量が増えた」の割合は前原東圏域が27.2%と他圏域と比較し、最も高くなっている。一方、「友人や仲間が増えた」の割合は前原西圏域が16.5%と他圏域と比較し、最も低くなっている。



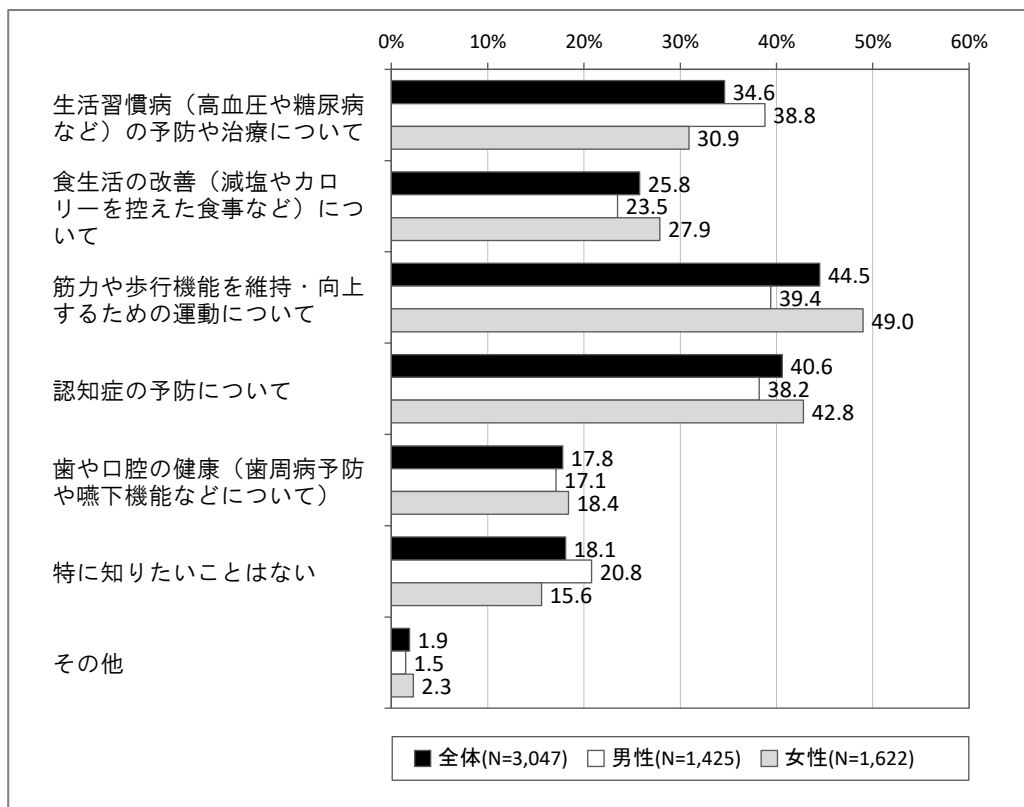
(7) 健康維持や介護予防について知りたいこと（複数回答）

健康維持や介護予防について知りたいことを尋ねた。

【市全体・性別】

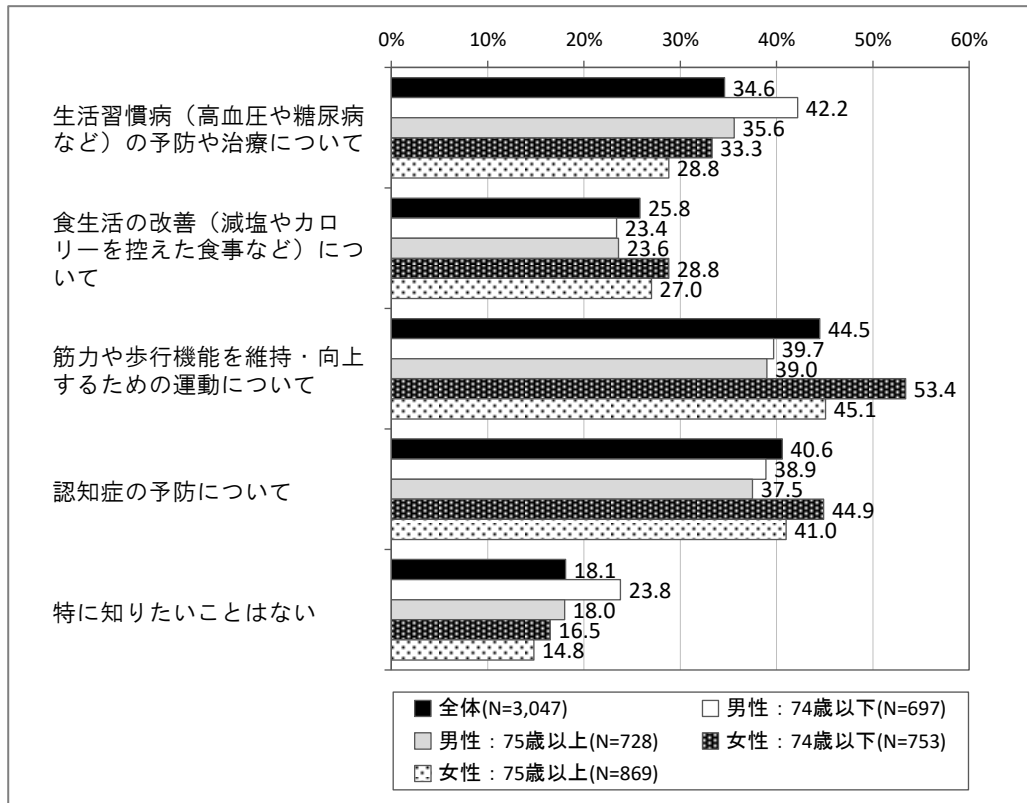
市全体でみると、「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が44.5%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が40.6%、「生活習慣病（高血圧や糖尿病など）の予防や治療について」が34.6%、「食生活の改善（減塩やカロリーを控えた食事など）について」が25.8%となっている。

性別にみると、「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」や「認知症の予防について」、「食生活の改善（減塩やカロリーを控えた食事など）について」の割合は男性より女性の方が高くなっている。一方「生活習慣病（高血圧や糖尿病など）の予防や治療について」の割合は男性が38.8%であるのに対し、女性は30.9%と低くなっている。



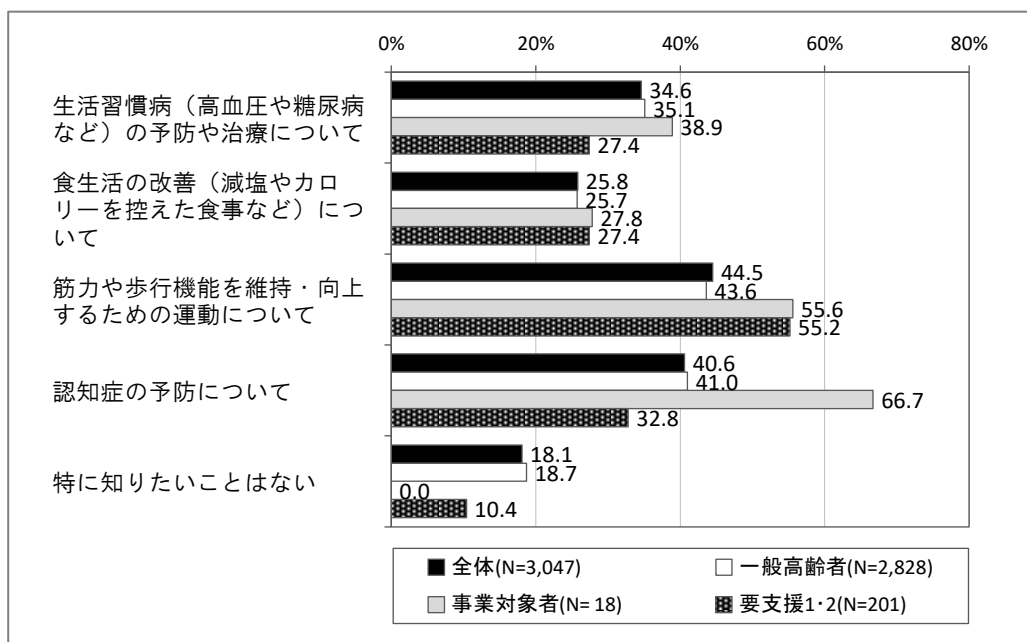
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」、「生活習慣病（高血圧や糖尿病など）の予防や治療について」、「認知症の予防について」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



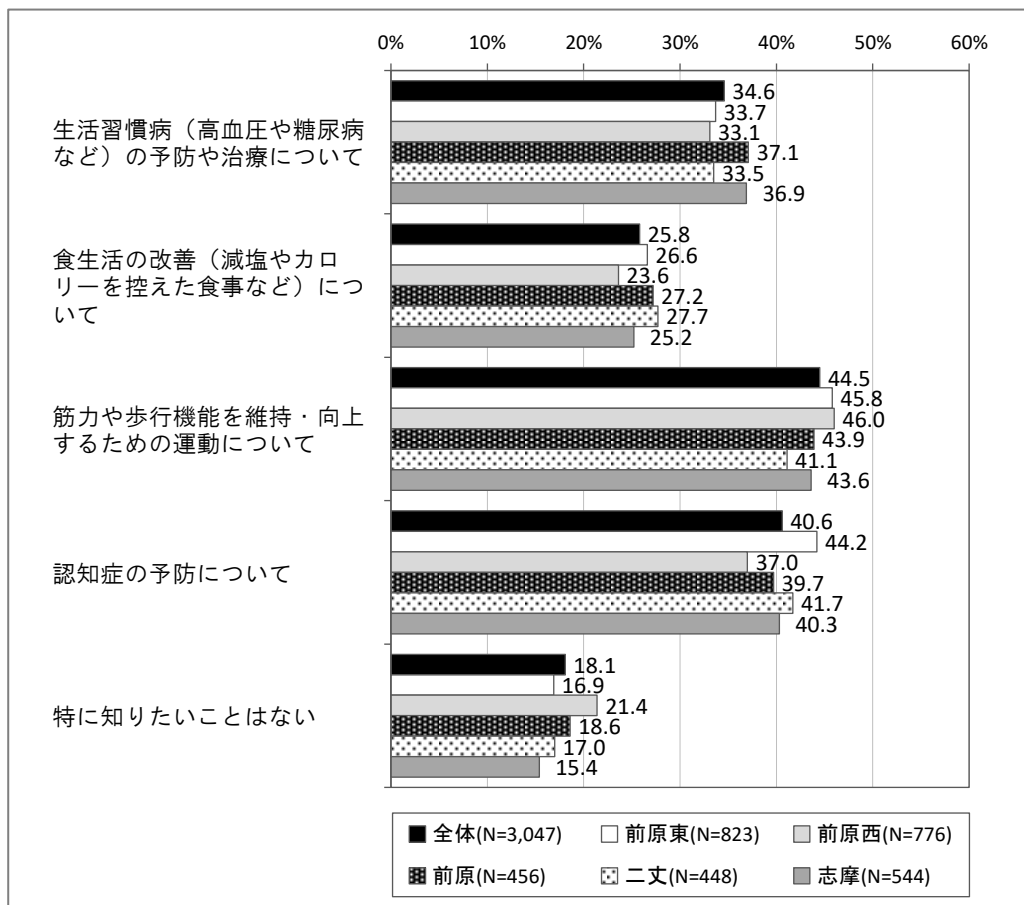
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」のは一般高齢者が43.6%であるのに対し、要支援1・2では55.2%と高くなっている。一方「生活習慣病（高血圧や糖尿病など）の予防や治療について」や「認知症の予防について」の割合は一般高齢者と比較し、要支援1・2が低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合は前原西圏域が46.0%で他圏域と比較し、最も高くなっている。一方「認知症の予防について」の割合は前原西圏域が37.0%と他圏域と比較し、最も低くなっている。



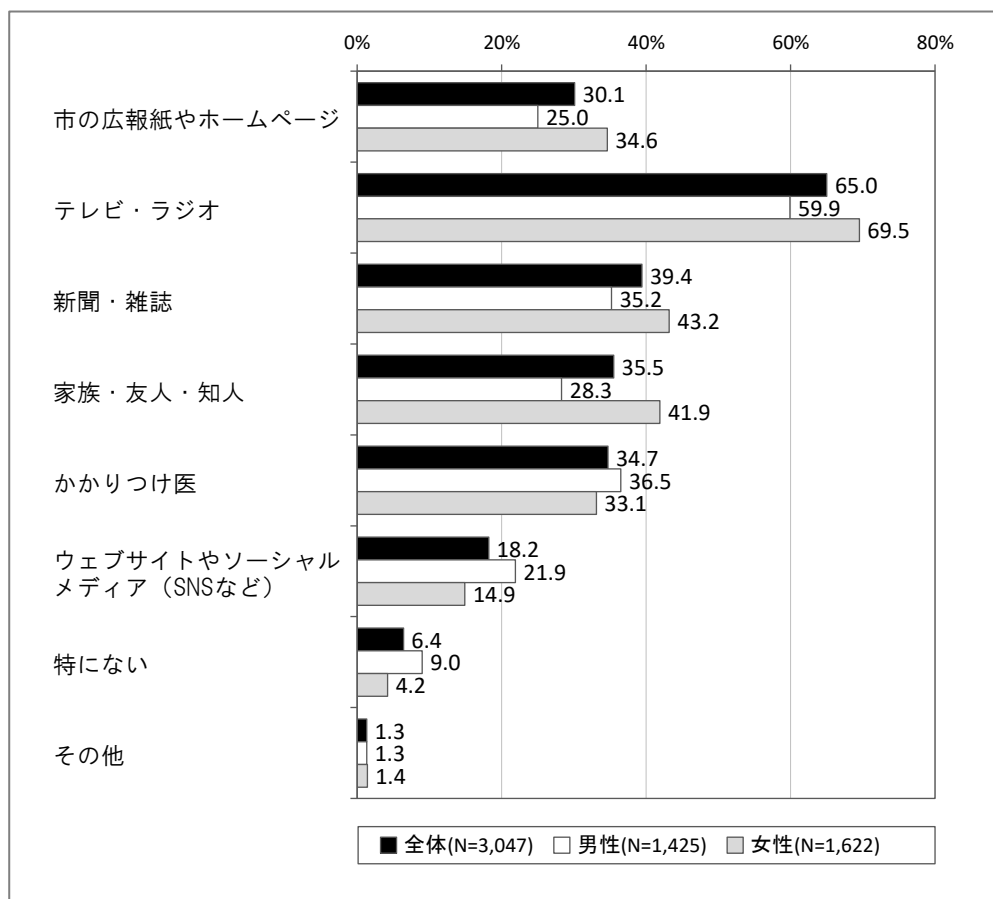
(8) 健康維持や介護予防に役立つ情報の入手手段（複数回答）

健康維持や介護予防に役立つ情報の入手手段を尋ねた。

【市全体・性別】

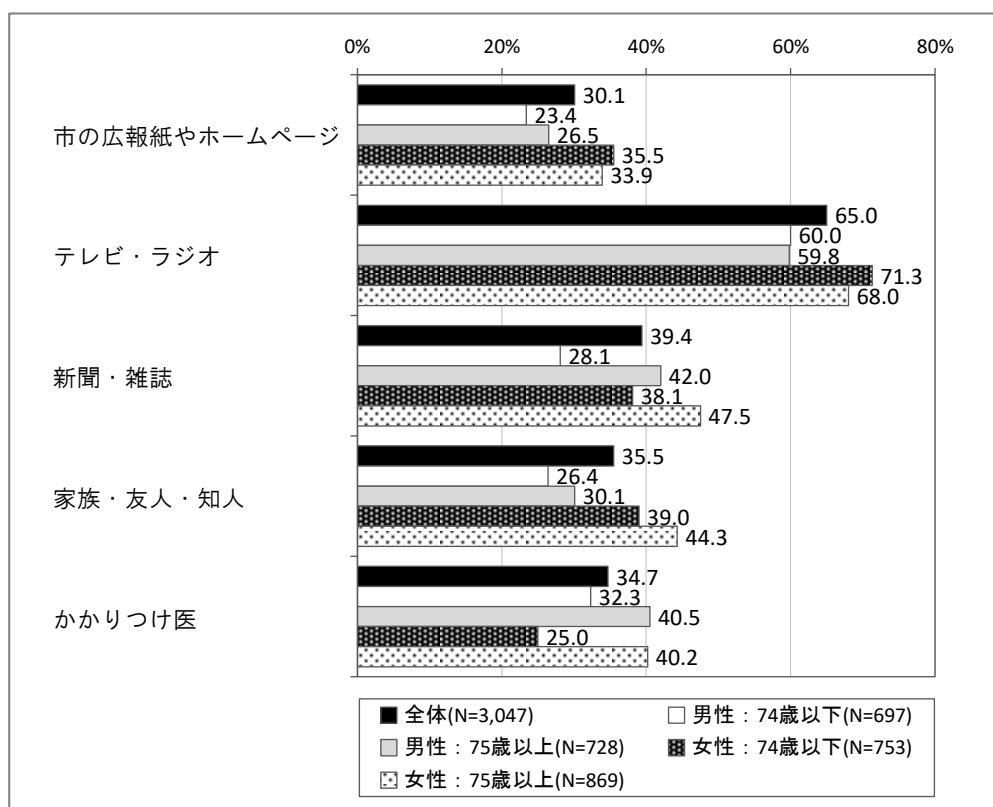
市全体でみると、「テレビ・ラジオ」の割合が 65.0%で最も高く、次いで「新聞・雑誌」が 39.4%、「家族・友人・知人」が 35.5%、「かかりつけ医」が 34.7%となっている。

性別にみると、「テレビ・ラジオ」や「新聞・雑誌」、「家族・友人・知人」等の割合は男性より女性の方が高くなっている。一方「かかりつけ医」の割合は男性が 36.5%であるのに対し、女性は 33.1%とやや低くなっている。



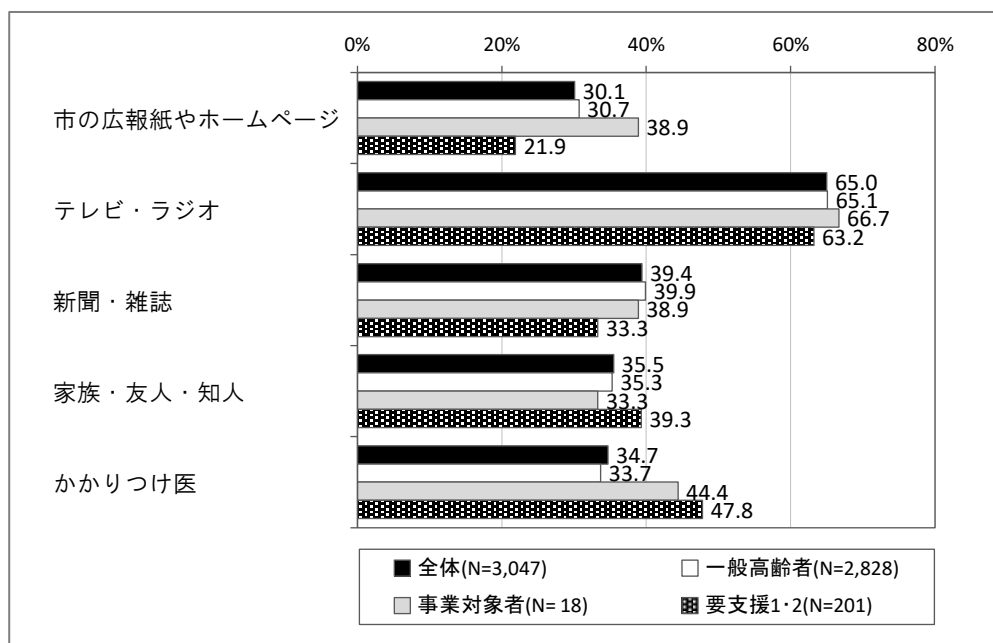
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「新聞・雑誌」、「家族・友人・知人」、「かかりつけ医」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



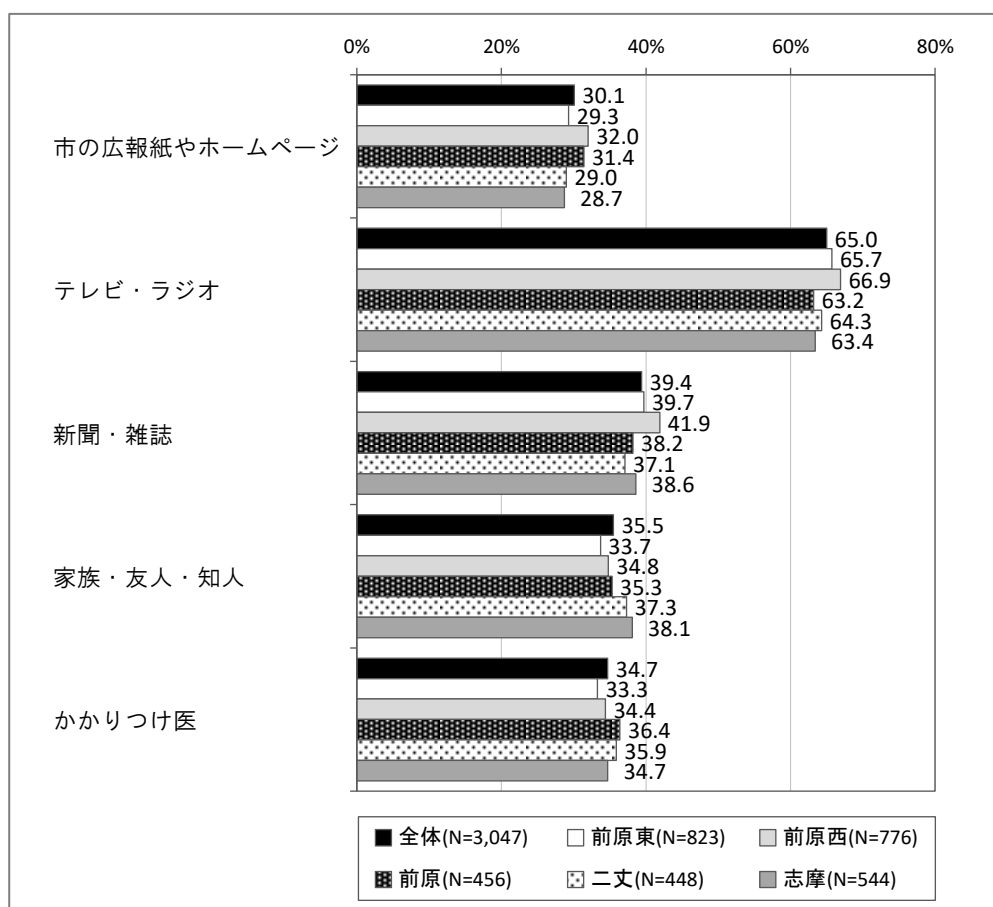
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「かかりつけ医」の割合は一般高齢者が 33.7%であるのに対し、要支援1・2では 47.8%と高くなっている。一方、「市の広報紙やホームページ」や「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌」の割合は一般高齢者と比較し、要支援1・2が低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「かかりつけ医」の割合は前原圏域が36.4%で他圏域と比較し、最も高くなっている。一方、最も低いのは、前原東圏域で33.3%となっている。

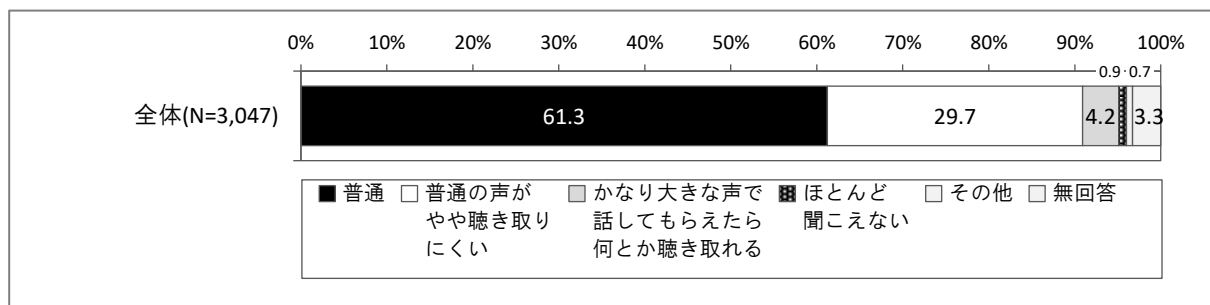


(9) 耳の聞こえに関して

耳の聞こえの状況について尋ねた。

【市全体】

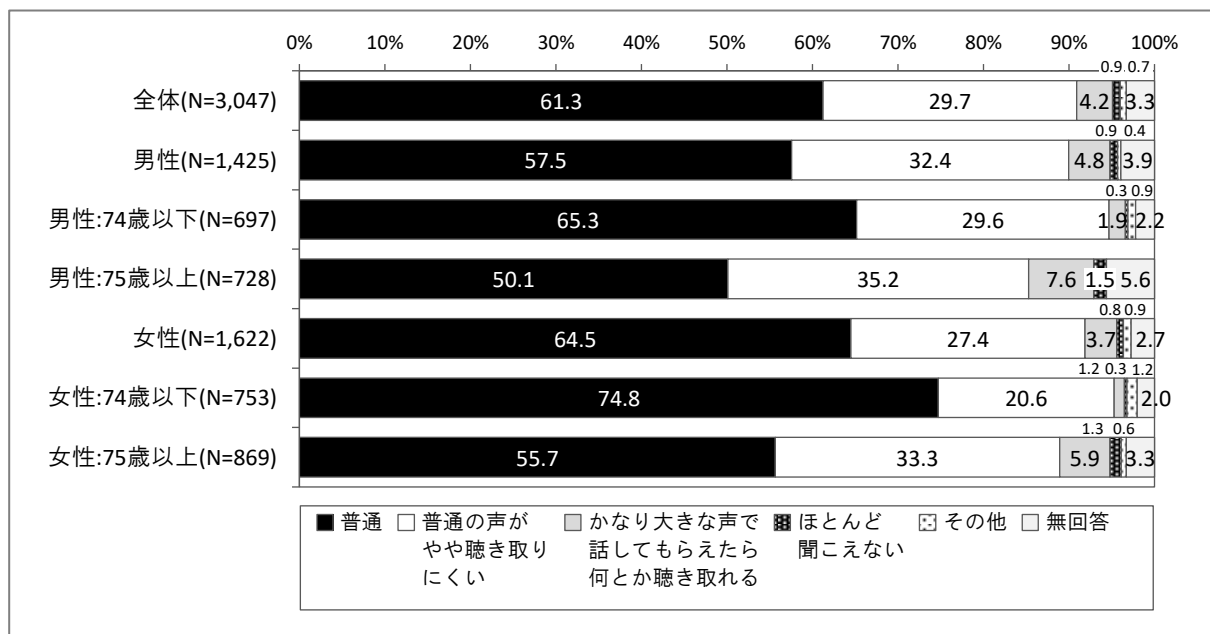
市全体でみると、「普通」の割合が61.3%で最も高く、次いで「普通の声がやや聞き取りにくい」が29.7%、「かなり大きな声で話してもらえたら、何とか聞き取れる」が4.2%となっている。



【性別・性年代別】

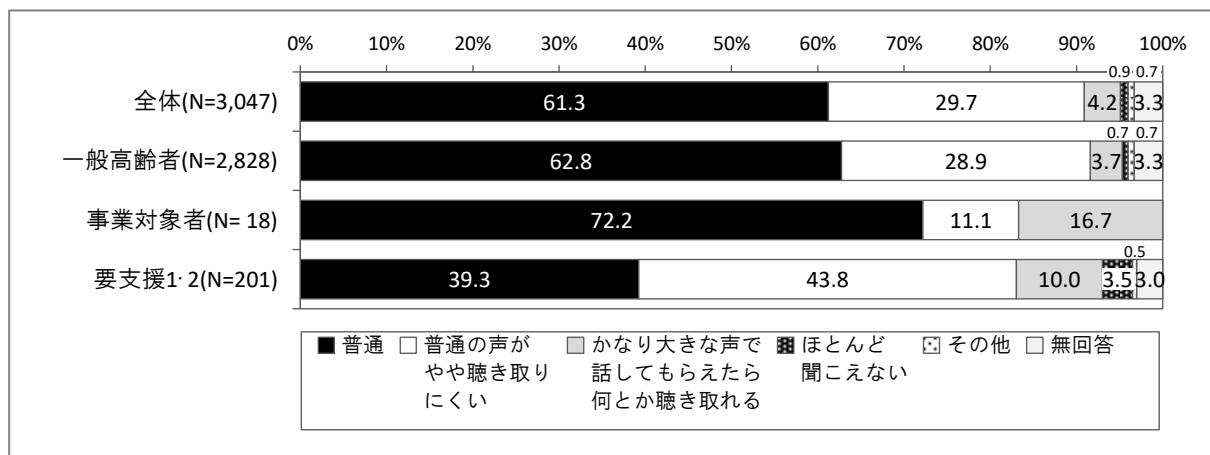
性別にみると、「普通」の割合は男性が57.5%であるのに対し、女性は64.5%と高くなっている。「普通の声がやや聞き取りにくい」の割合は男性が32.4%であるのに対し、女性は27.4%とやや低くなっている。

性年代別にみると、「普通」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方、「普通の声がやや聞き取りにくい」、「かなり大きな声で話してもらえたら、何とか聞き取れる」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



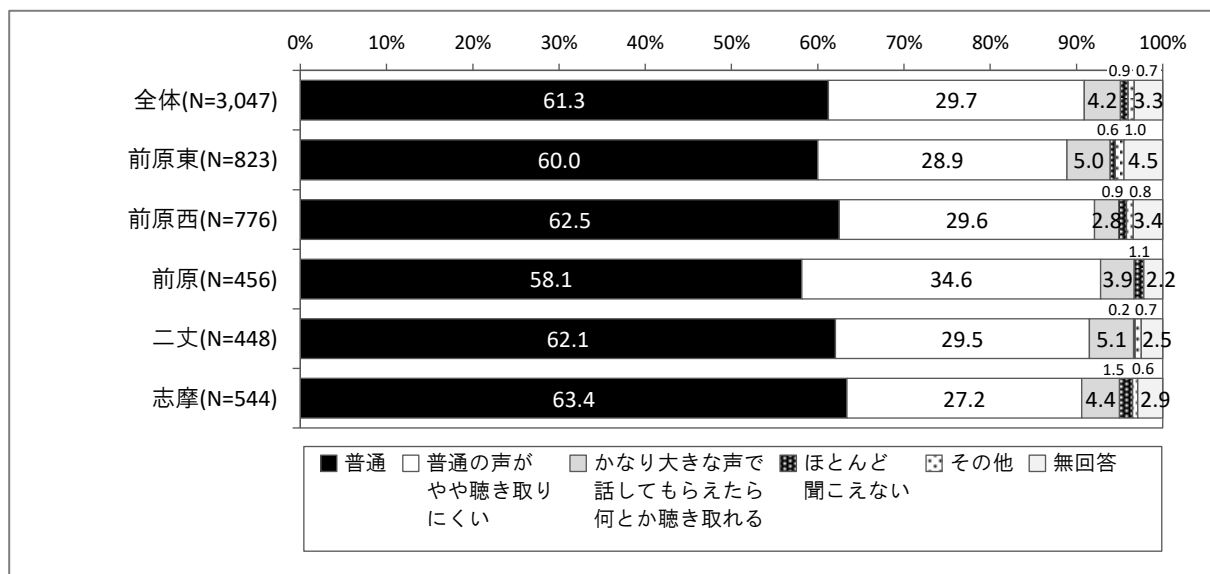
【要介護度別】

要介護度別にみると、「普通」の割合は一般高齢者が 62.8%であるのに対し要支援 1・2 では 39.3%と低くなっている。一方「普通の声がやや聴き取りにくい」、「かなり大きな声で話してもらえたら、何とか聴き取れる」の割合は一般高齢者と比較し、要支援 1・2 が高くなっている。要支援 1・2 においては、「普通の声がやや聴き取りにくい」の割合が最も高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「普通」の割合は前原圏域が 58.1%で他圏域と比較し、最も低くなっている。一方、「普通の声がやや聴き取りにくい」の割合は前原圏域が 34.6%で最も高くなっている。

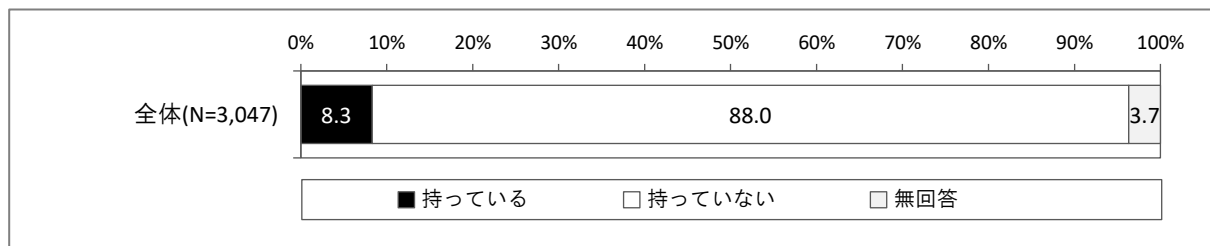


(10) 補聴器の所持状況

補聴器の所持状況について尋ねた。

【市全体】

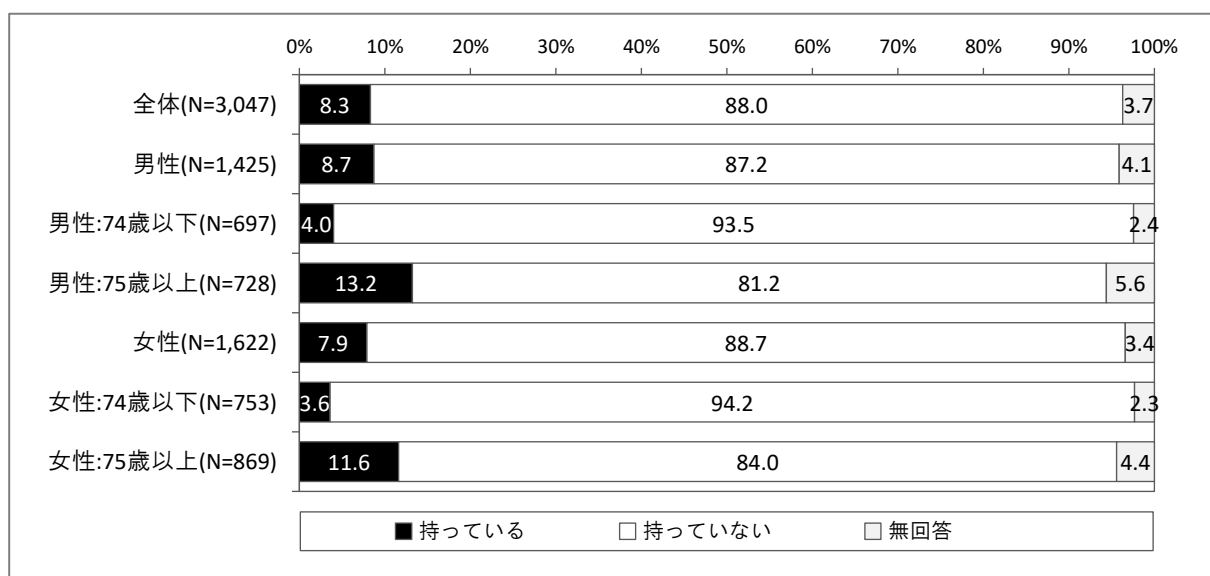
市全体でみると、「持っている」の割合が 8.3%で、「持っていない」の割合が 88.0%となっている。



【性別・性年代別】

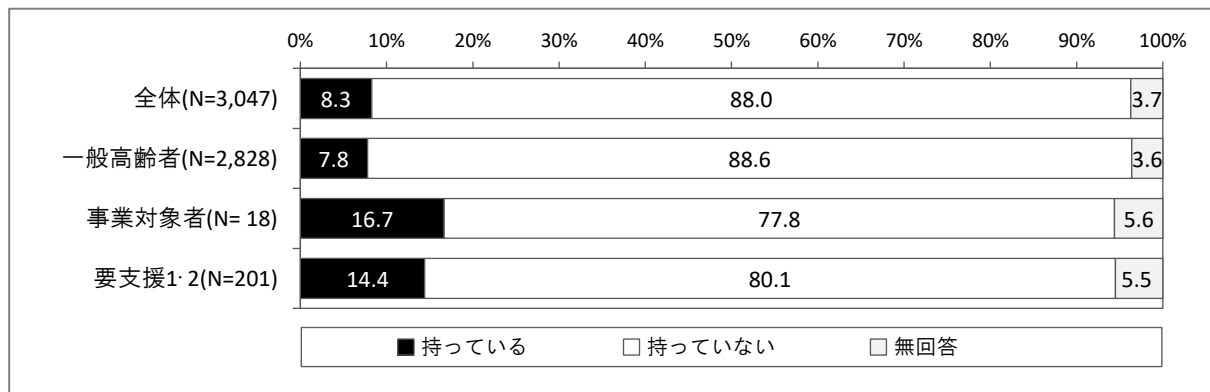
性別にみると、「持っている」の割合は男性が 8.7%であるのに対し、女性は 7.9%とやや低くなっている。

性年代別にみると、「持っている」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「持っている」の割合は一般高齢者が 7.8%であるのに対し、要支援 1・2 では 14.4%と高くなっている。

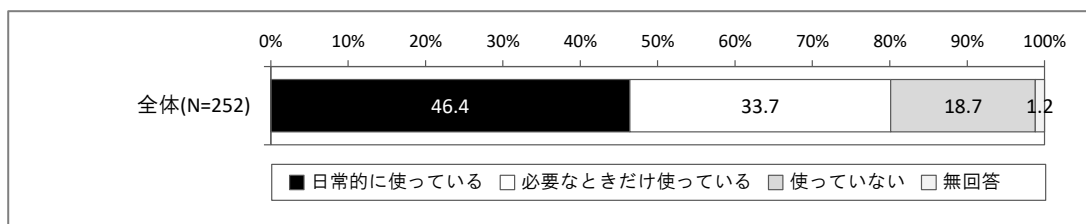


(11) 補聴器の使用状況

前問で「持っている」と回答した方に対し、補聴器の使用状況を尋ねた。

【市全体】

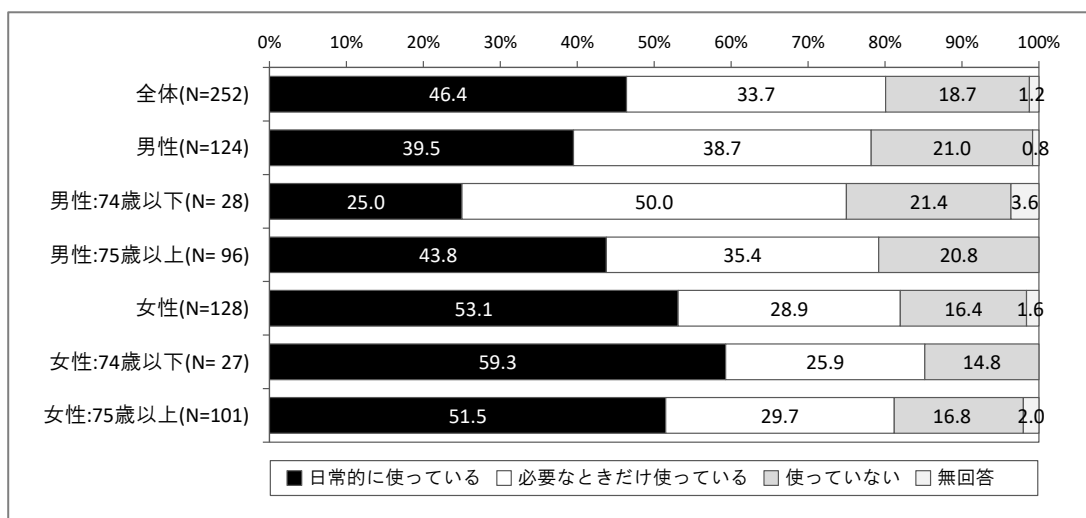
市全体でみると、「日常的に使っている」の割合が46.4%で最も高く、次いで「必要なときだけ使っている」が33.7%、「使っていない」が18.7%となっている。



【性別・性年代別】

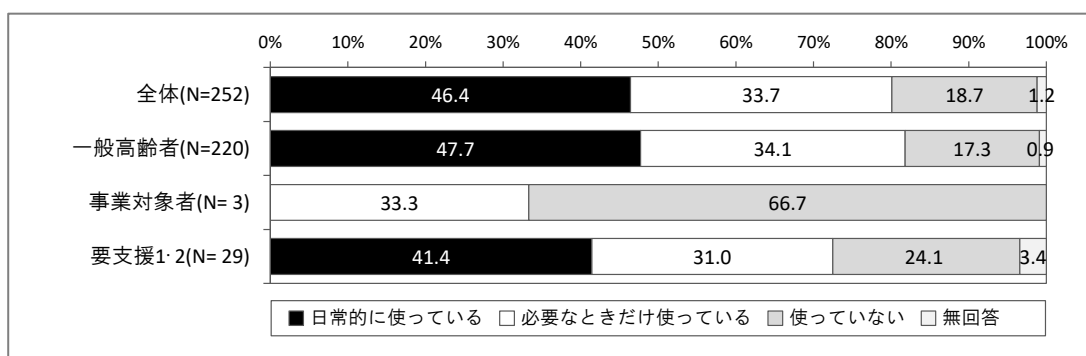
性別にみると、「日常的に使っている」の割合は男性が39.5%であるのに対し、女性は53.1%と高くなっている。「使っていない」の割合は男性が21.0%であるのに対し、女性は16.4%とやや低くなっている。

性年代別にみると、「日常的に使っている」の割合は年代が上がるほど男性では高くなっているが、女性では低くなっている。一方、「使っていない」の割合は年代が上がるほど男性では低くなっているが、女性では高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「使っていない」の割合は一般高齢者が17.3%と市全体よりやや低くなっている。



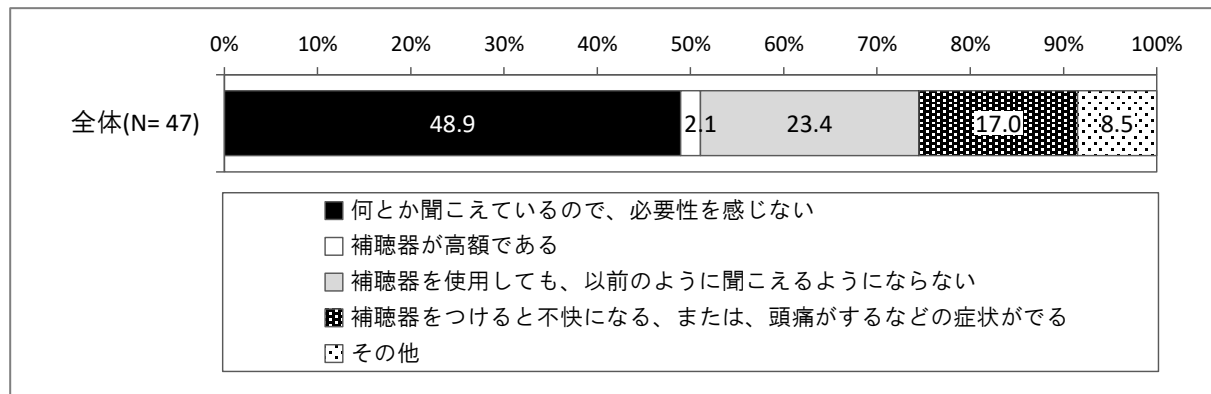
(12) 補聴器を使っていない理由

前問で「使っていない」と回答した方に対し、補聴器を使っていない理由を尋ねた。

以下の分析は回答者数が少ないため、参考程度にとどめる必要がある。

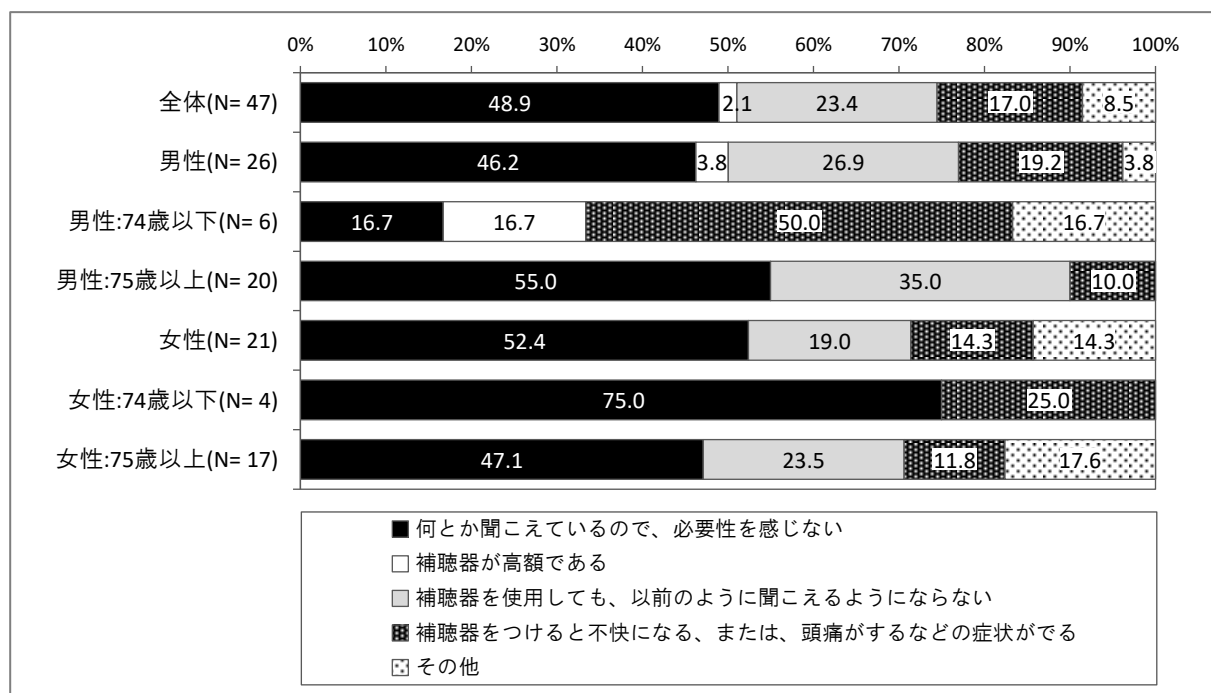
【市全体】

市全体でみると、「何とか聞こえているので、必要性を感じない」の割合が48.9%で最も高く、次いで「補聴器を使用しても、以前のように聞こえるようにならない」が23.4%、「補聴器をつけると不快になる、または、頭痛がするなどの症状がでる」が17.0%となっている。



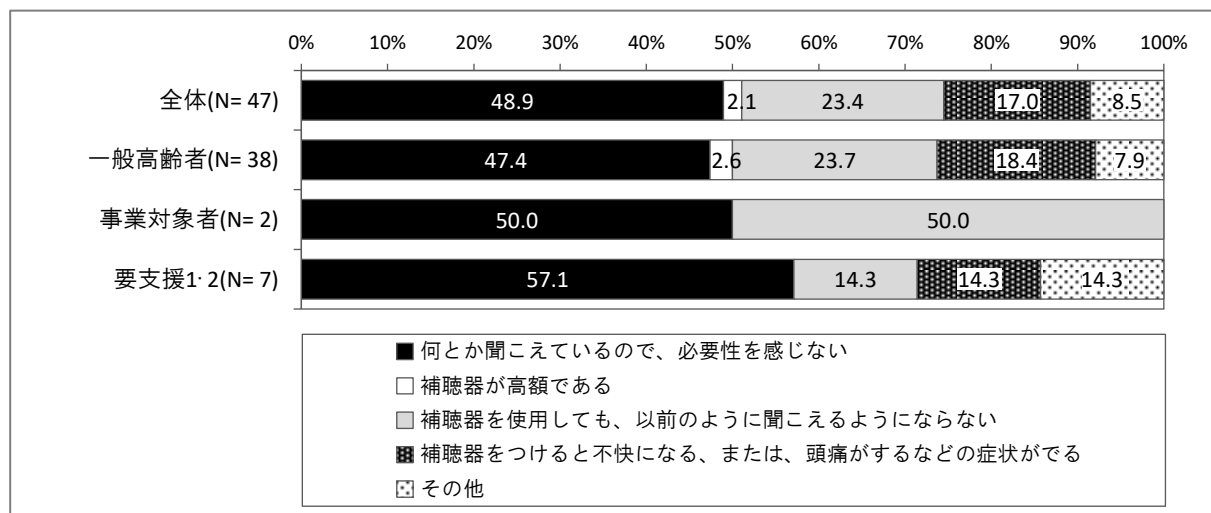
【性別・性年代別】

性別にみると、「何とか聞こえているので、必要性を感じない」の割合は男性が46.2%であるのに対し、女性は52.4%と高くなっている。「補聴器を使用しても、以前のように聞こえるようにならない」の割合は男性が26.9%であるのに対し、女性は19.0%とやや低くなっている。



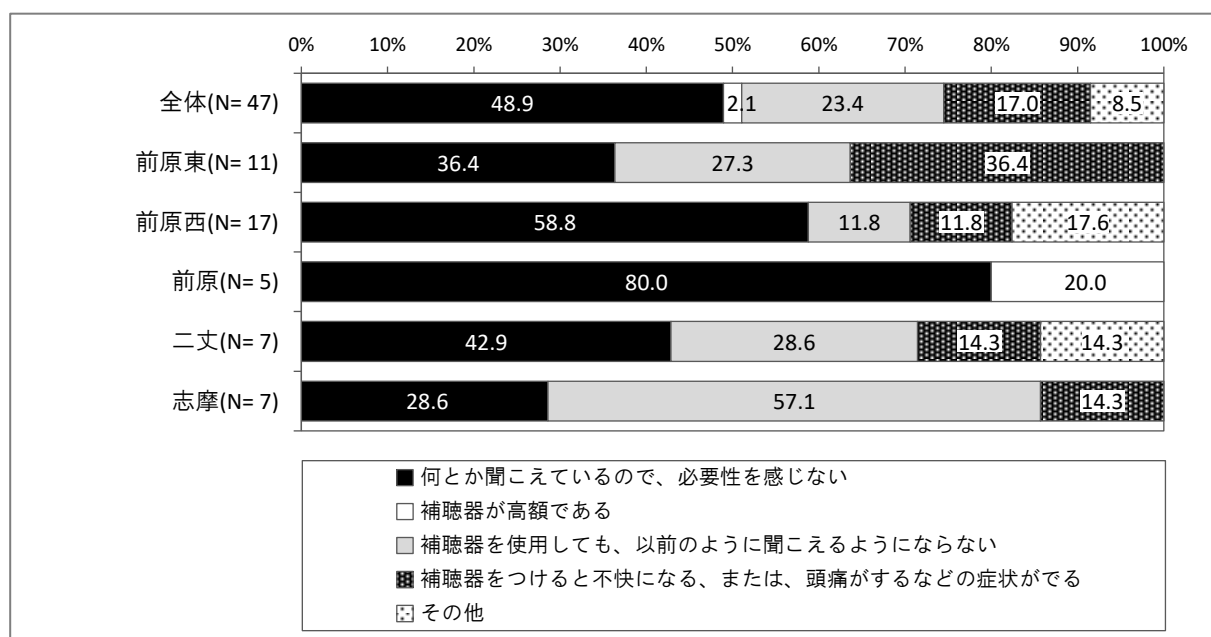
【要介護度別】

要介護度別の集計結果については、回答者数が少ないためコメントは差し控える。



【圏域別】

圏域別の集計結果については、回答者数が少ないためコメントは差し控える。



6 相談・支援

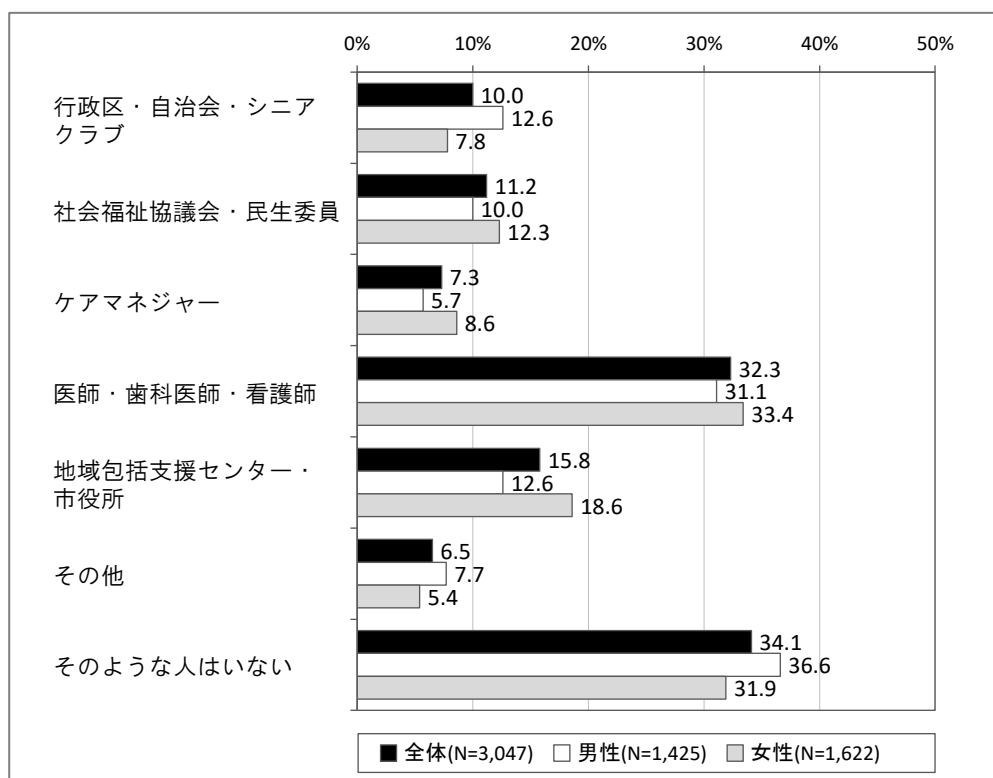
(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手（複数回答）

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を尋ねた。

【市全体・性別】

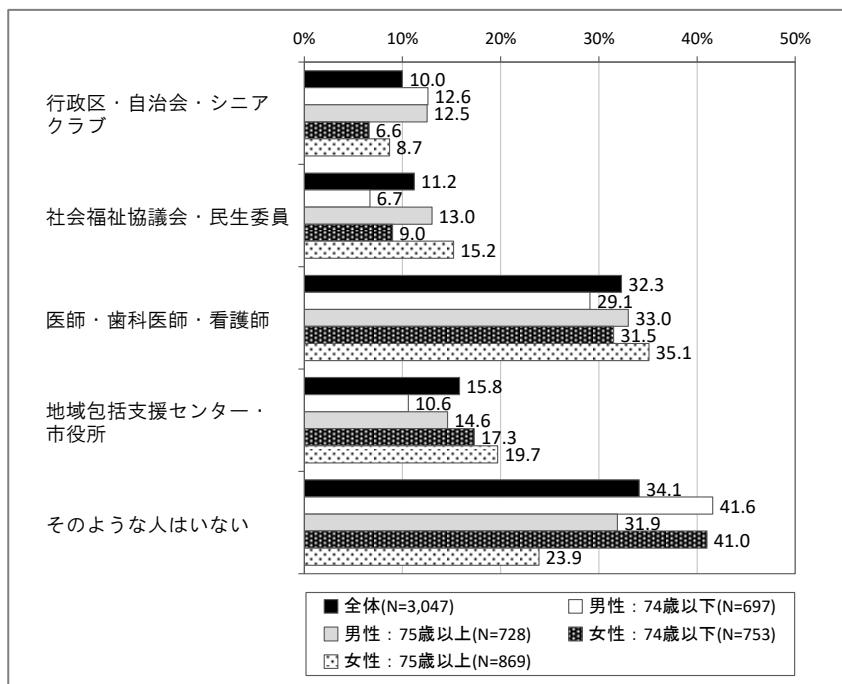
市全体でみると、「そのような人はいない」の割合が34.1%で最も高くなっている。次いで「医師・歯科医師・看護師」が32.3%、「地域包括支援センター・市役所」が15.8%と続いている。

性別にみると、男性では「そのような人はいない」の割合が36.6%で最も高くなっており、女性では「医師・歯科医師・看護師」の割合が33.4%で最も高くなっている。



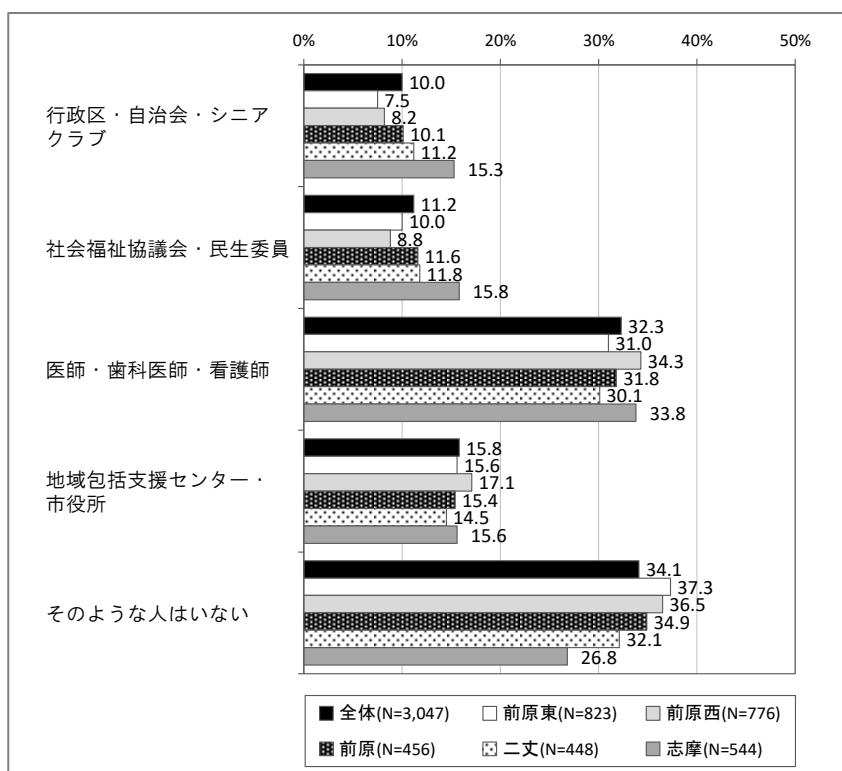
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに多くの項目で年代が上がるほど、割合が高くなっている。一方、「そのような人はいない」の割合は年代が上がるにつれて低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、志摩圏域は「社会福祉協議会・民生委員」の割合が15.8%、「行政区・自治会・シニアクラブ」が15.3%と他圏域と比較して高くなっている。また「そのような人はいない」の割合は前原東圏域が37.3%、前原西圏域が36.5%、前原圏域が34.9%で市全体よりも高くなっている。特に前原東圏域は「そのような人はいない」以外のすべての項目において市全体を下回っている。

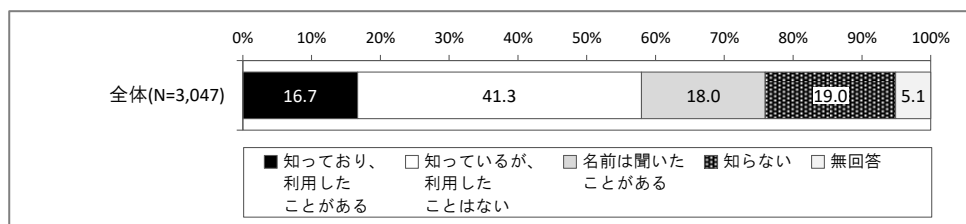


(2) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度について尋ねた。

【市全体】

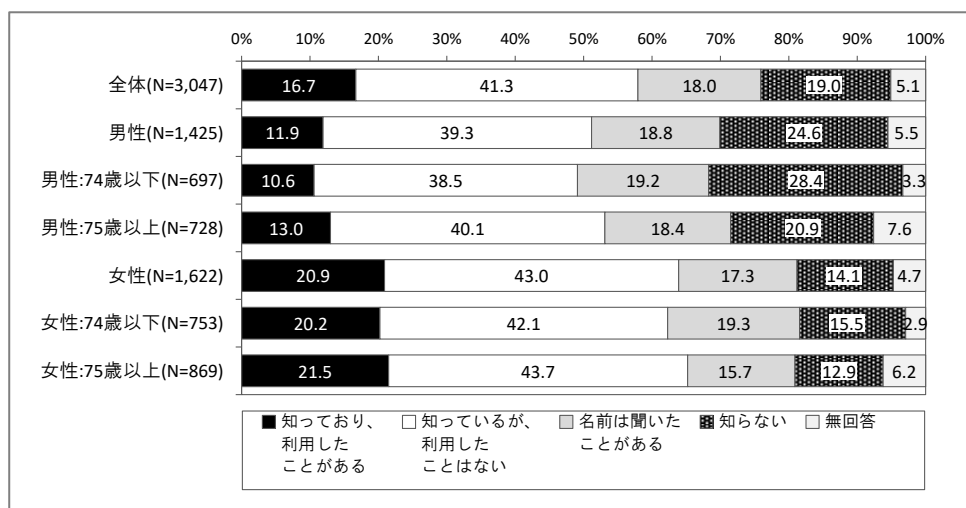
市全体でみると、「知っているが利用したことはない」の割合が最も高く 41.3%となっている。次いで「知らない」が 19.0%、「名前は聞いたことがある」が 18.0%と続いている。



【性別・性年代別】

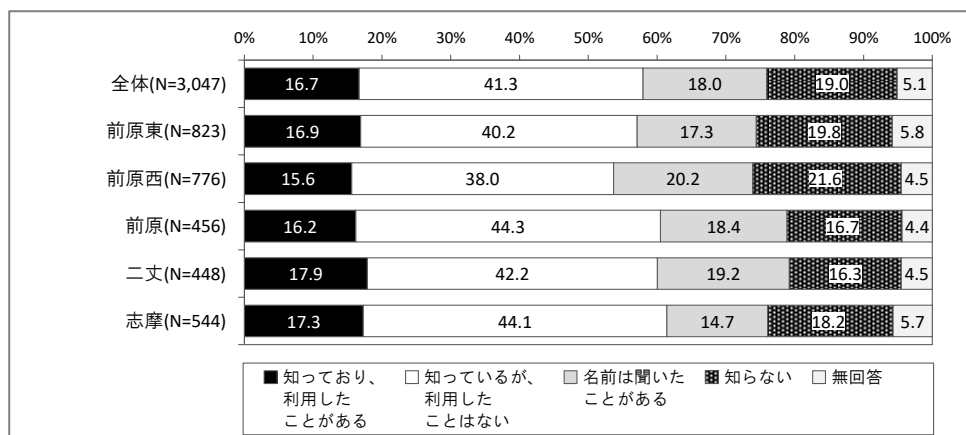
性別にみると、男性よりも女性の方が 地域包括支援センターについて何らかの情報を認知している。実際、「知らない」の割合は男性が 24.6%であるのに対し、女性は 14.1%となっている。

性年代別にみると、男女ともに 75 歳以上の年代になると「知っており、利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の割合が 1～2 ポイント程度高くなっている。一方で「知らない」の割合は男女ともに 75 歳以上の年代になると低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると「知っており、利用したことがある」の割合は二丈圏域が 17.9%で最も高く、次いで志摩圏域が 17.3%と続いている。一方、「知らない」の割合をみると、前原西圏域が 21.6%で最も高く、次いで前原東圏域が 19.8%と続いている。



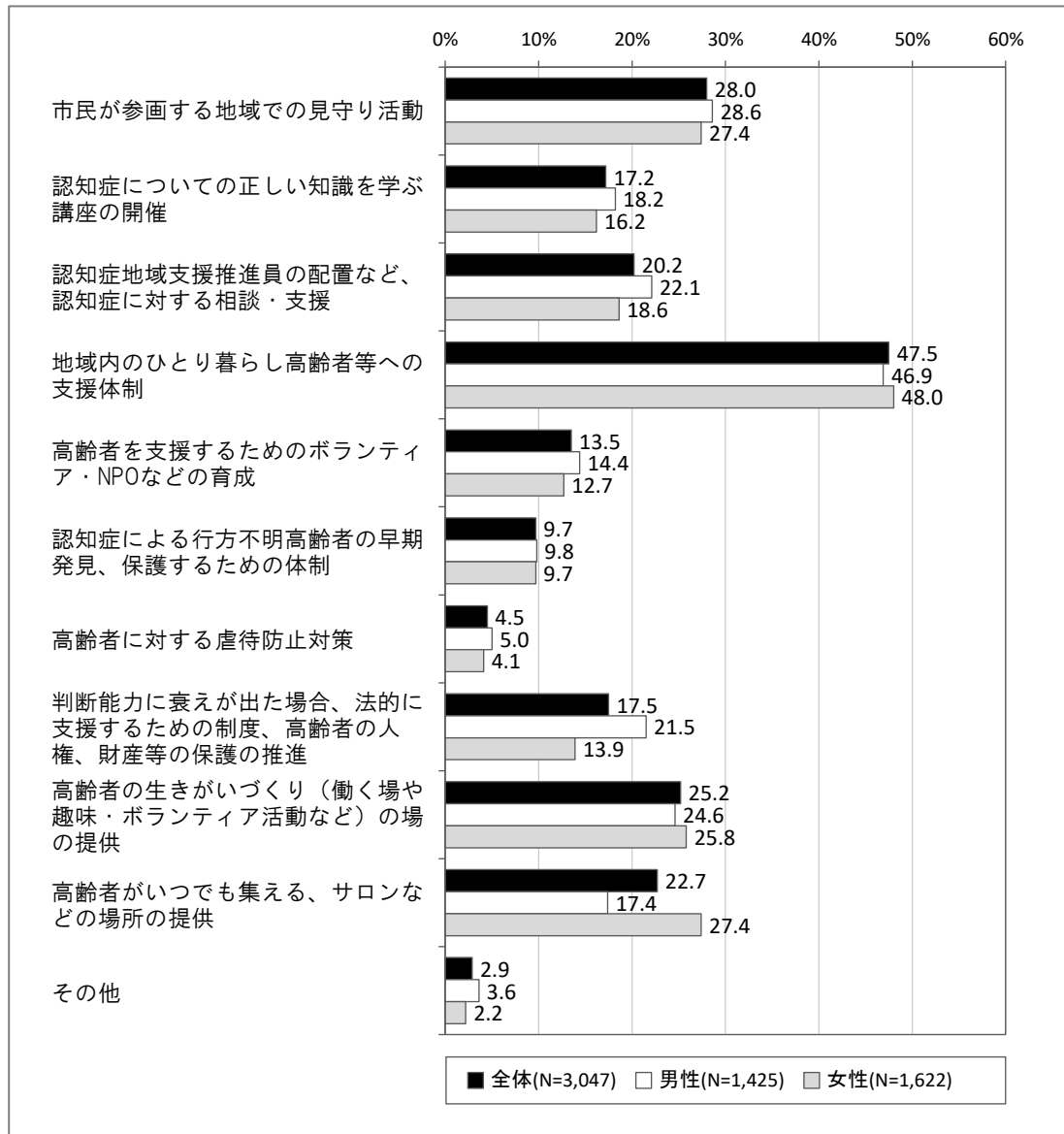
(3) 高齢化に対応するために望まれる活動・体制（3つまで回答）

高齢化に対応するためにどのような活動・体制の充実が必要か尋ねた。

【市全体・性別】

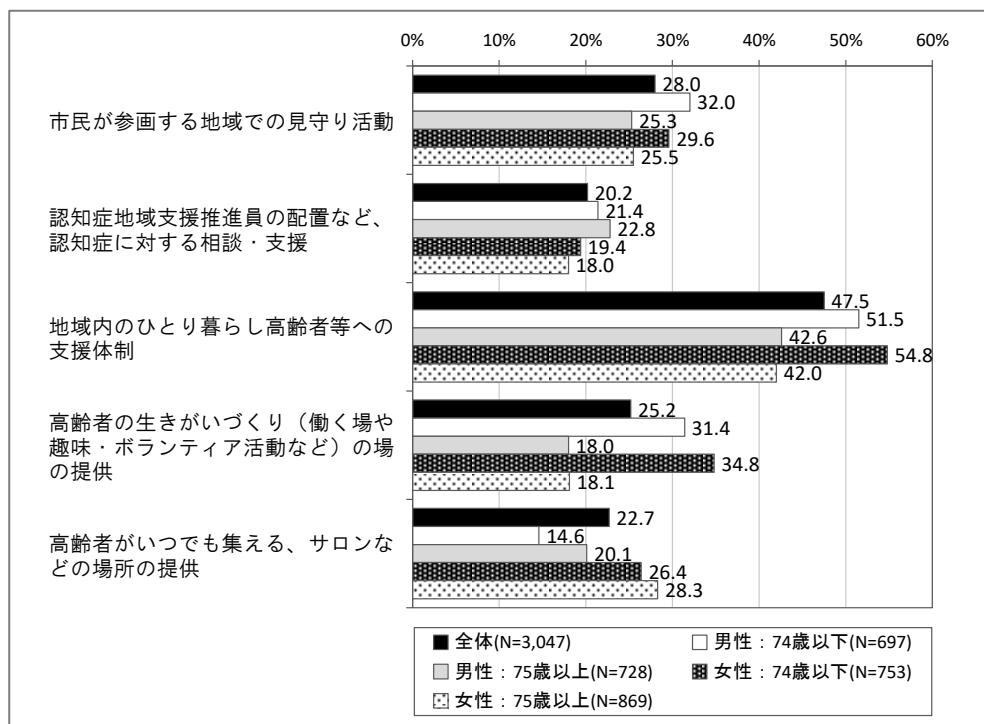
市全体でみると、「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」の割合が47.5%で最も高く、次いで「市民が参画する地域での見守り活動」が28.0%、「高齢者の生きがいがづくりの場の提供」が25.2%となっている。

性別にみると、「認知症地域支援推進員の配置など、認知症に対する相談・支援」や「判断能力に衰えが出た場合、法的に支援するための制度、高齢者の人権、財産保護の推進」では男性の割合が高くなっており、「高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供」では女性の割合が高くなっている。



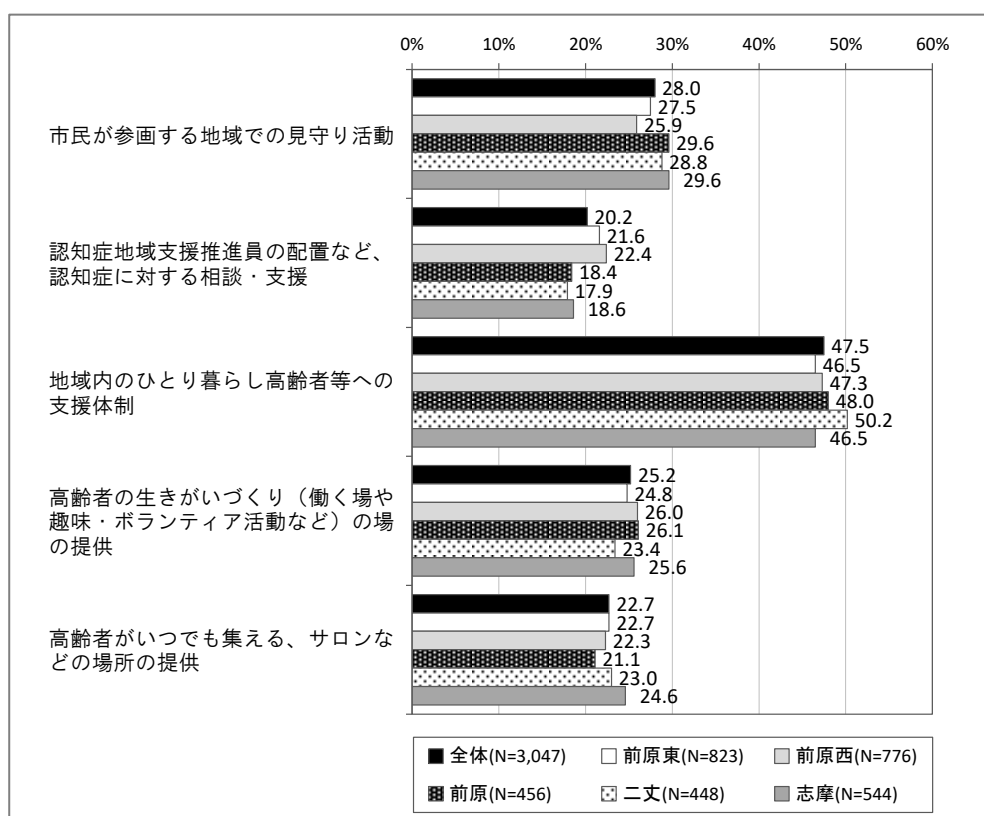
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに、ほとんどの項目において年代が上がるほど割合が低くなっている。一方「高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供」の割合は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、前原西圏域は「認知症地域支援推進員の配置など、認知症に対する相談・支援」の割合が22.4%、二丈圏域は「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」が50.2%、志摩圏域は「高齢者がいつでも集える、サロンなどの場所の提供」が24.6%とそれぞれ他圏域と比較して最も高くなっている。

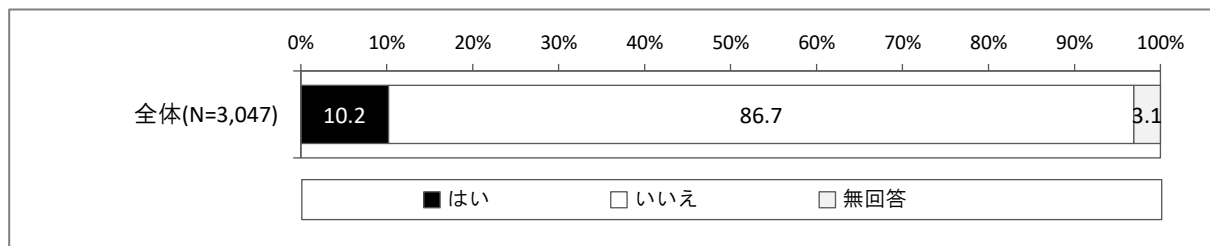


(4) 自分や家族に認知症の症状があるか

自分や家族に認知症の症状があるかを尋ねた。

【市全体】

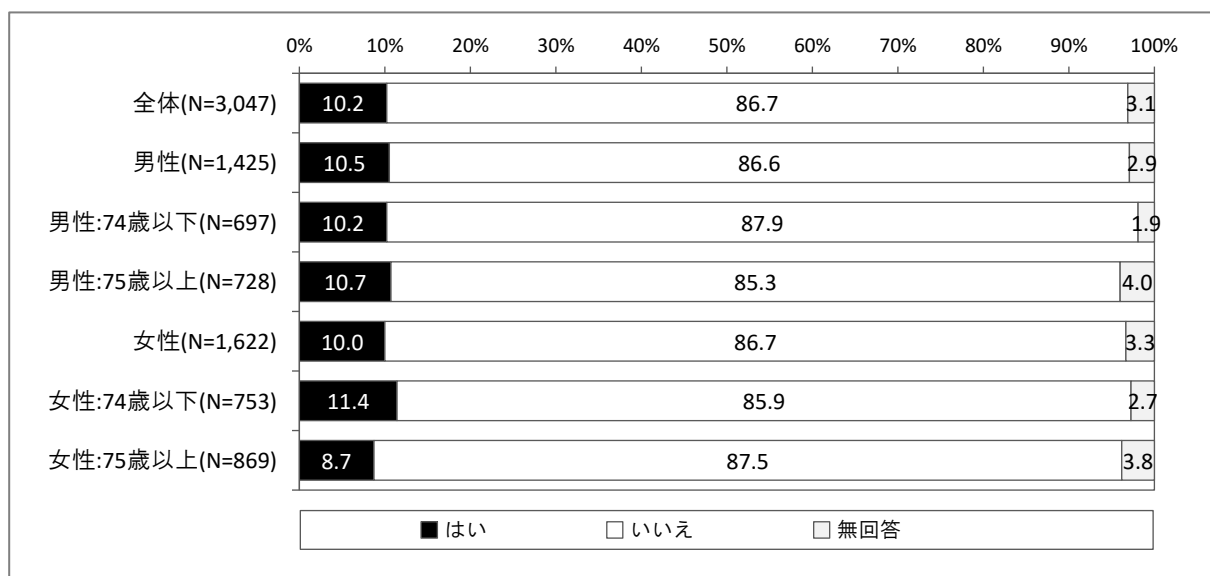
市全体でみると、「はい」の割合が10.2%、「いいえ」の割合が86.7%となっている。



【性別・性年代別】

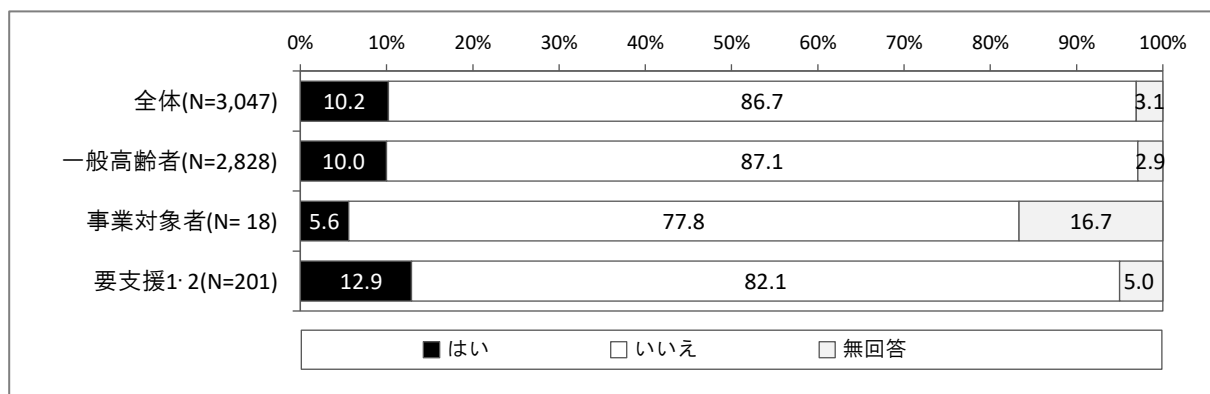
性別にみると、「はい」の割合は男性が10.5%であるのに対し、女性は10.0%とやや低くなっている。

性年代別にみると、「はい」の割合は年代が上がるほど男性では高くなっているが、女性では低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「はい」の割合は一般高齢者が10.0%であるのに対し、要支援1・2では12.9%と高くなっている。

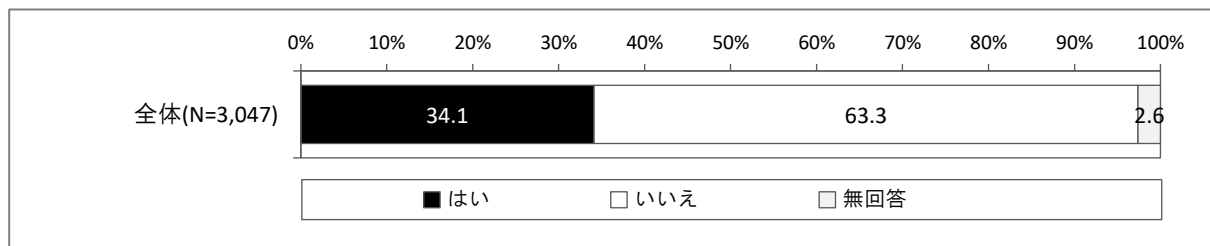


(5) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口の認知度について尋ねた。

【市全体】

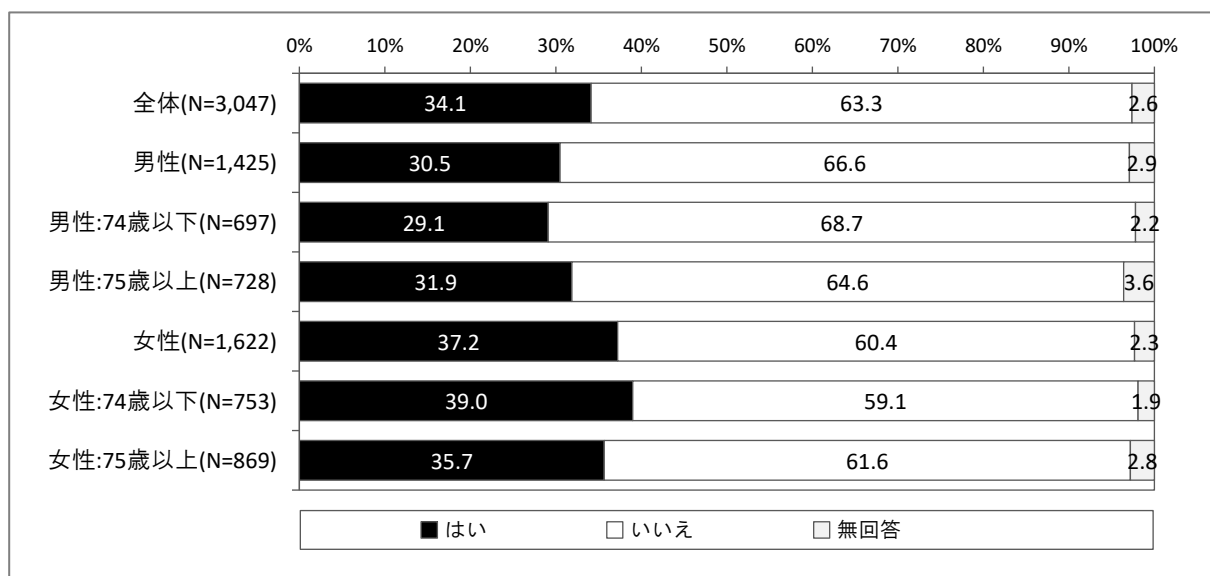
市全体でみると、「はい」の割合が34.1%、「いいえ」の割合が63.3%となっている。



【性別・性年代別】

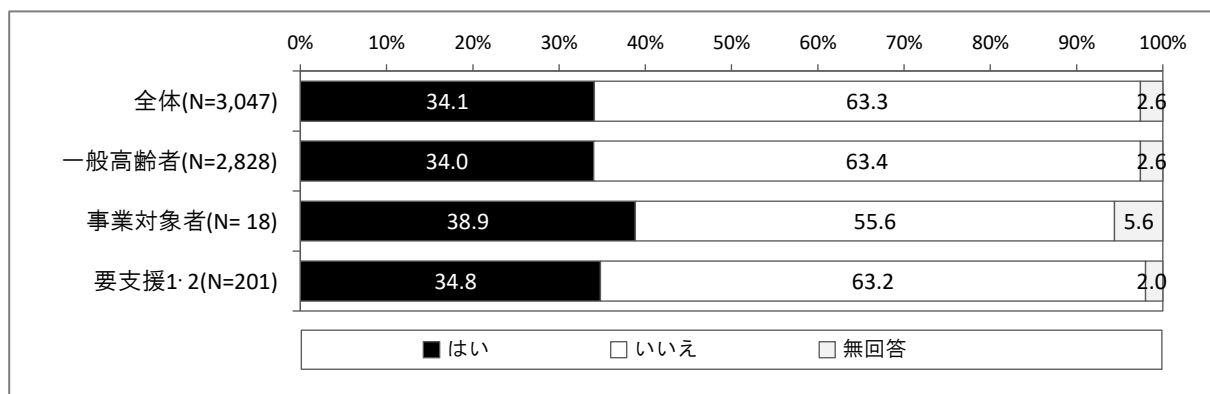
性別にみると、「はい」の割合は男性が30.5%であるのに対し、女性は37.2%と高くなっている。

性年代別にみると、「はい」の割合は年代が上がるほど男性では高くなっているが、女性では低くなっている。



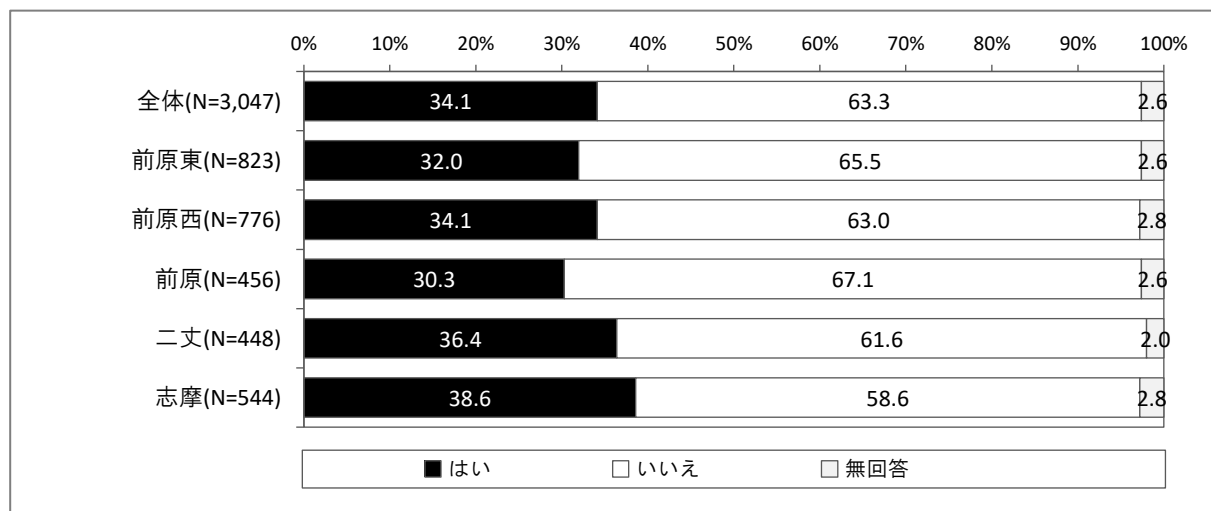
【要介護度別】

要介護度別にみると、「はい」の割合は一般高齢者が34.0%であるのに対し、要支援1・2では34.8%とやや高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「はい」の割合は志摩圏域が 38.6%で他圏域と比較し、最も高くなっている。



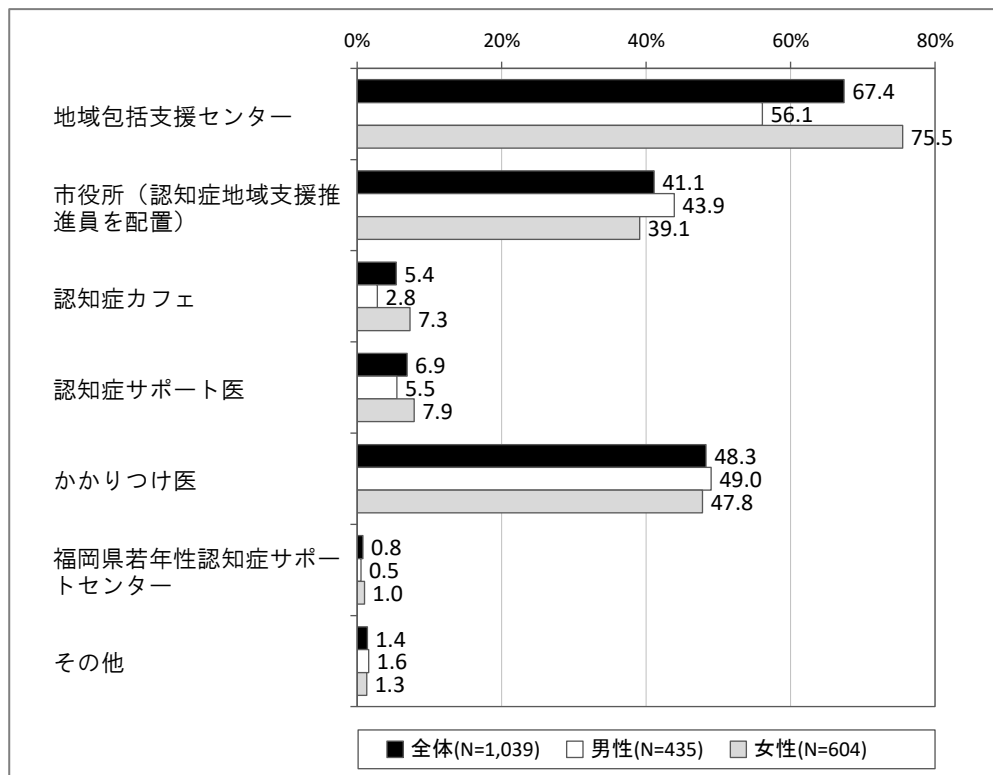
(6) 知っている認知症相談窓口（複数回答）

前問で「はい」と回答した方に対し、認知症に関する相談窓口について知っているかを尋ねた。

【市全体・性別】

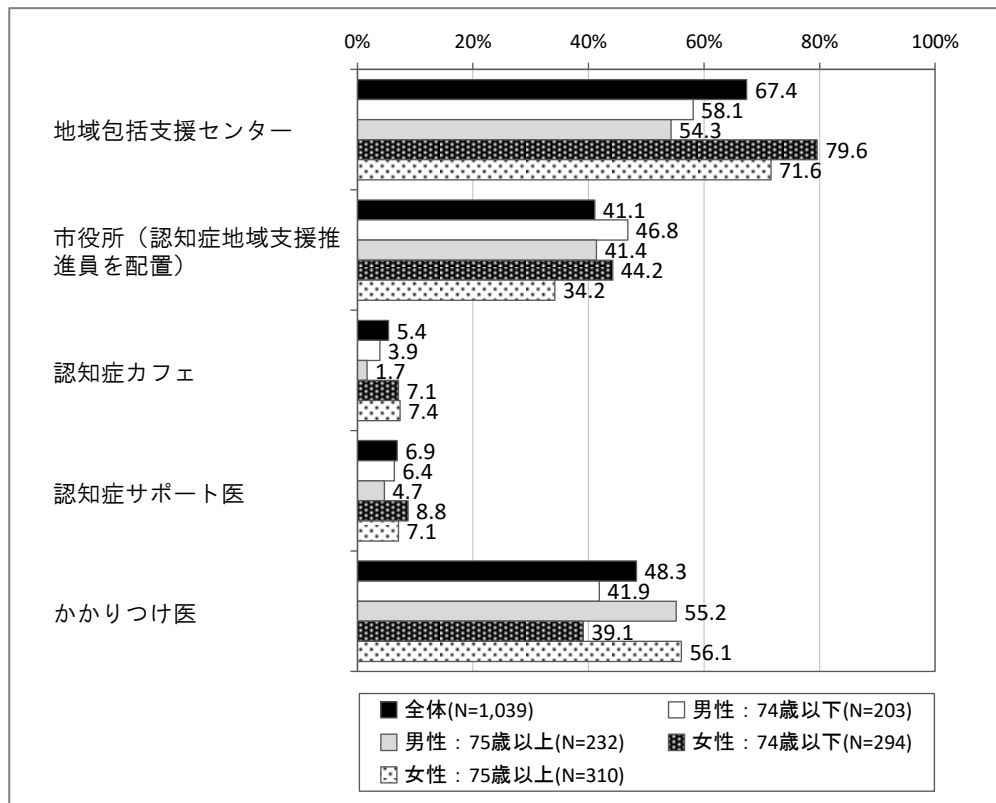
市全体でみると、「地域包括支援センター」の割合が67.4%で最も高く、次いで「かかりつけ医」が48.3%、「市役所（認知症地域支援推進員を配置）」が41.1%となっている。

性別にみると、「かかりつけ医」や「市役所（認知症地域支援推進員を配置）」の割合は女性より男性の割合が高くなっている。一方「地域包括支援センター」の割合は男性が56.1%であるのに対し、女性は75.5%と高くなっている。



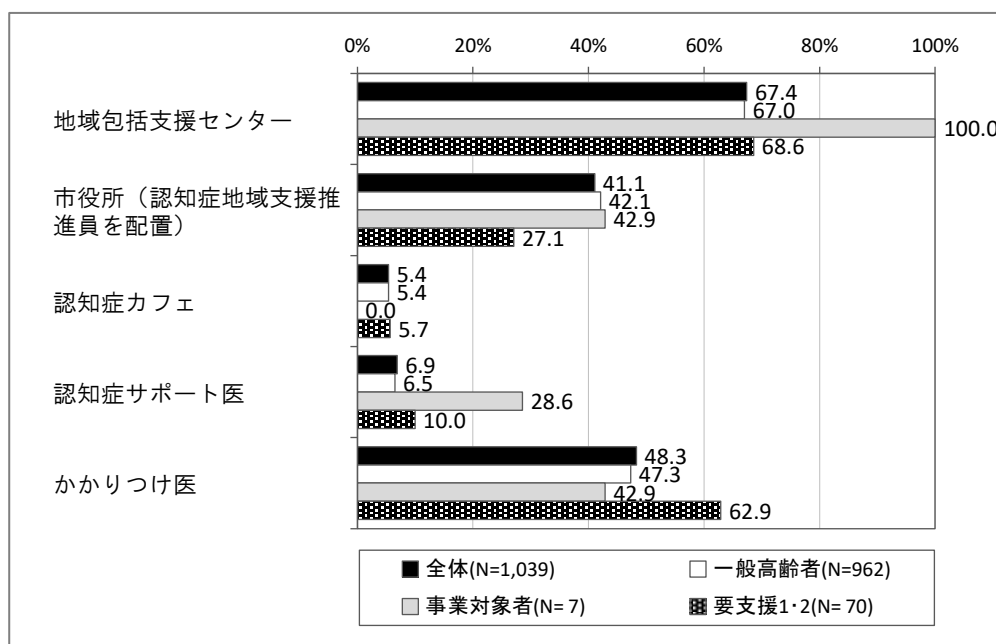
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「地域包括支援センター」、「市役所（認知症地域支援推進員を配置）」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方「かかりつけ医」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



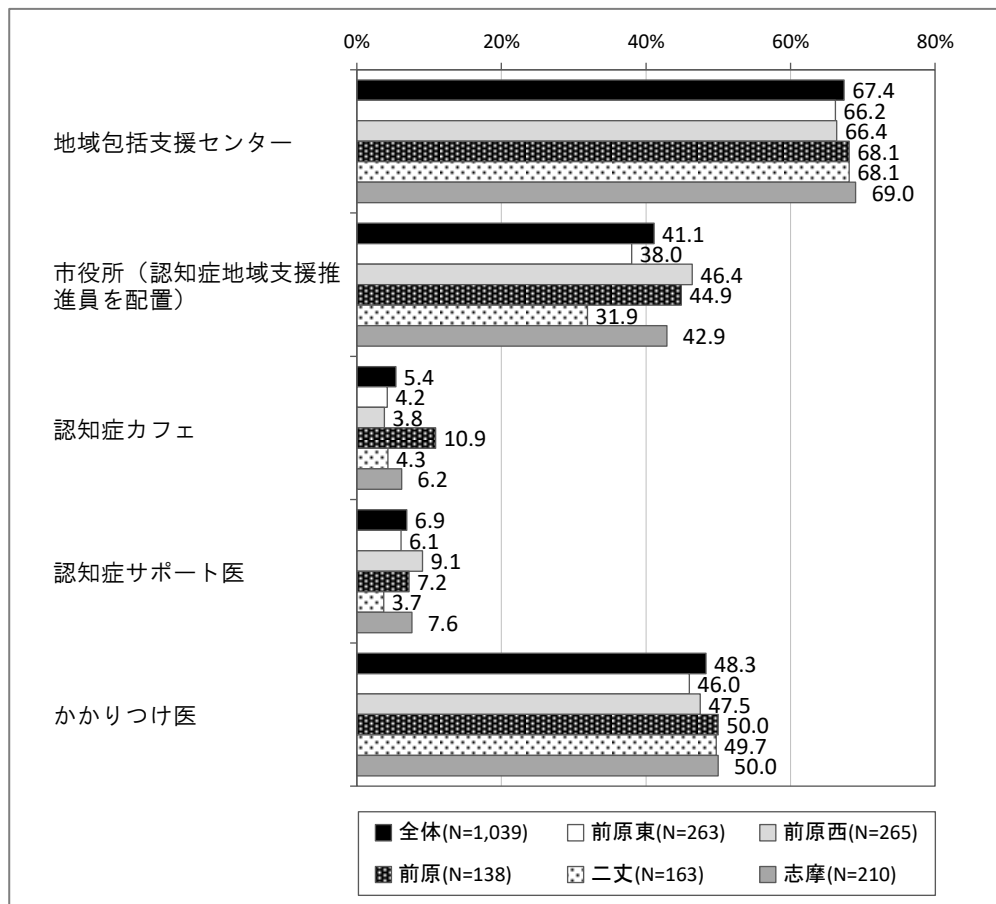
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「市役所（認知症地域支援推進員を配置）」の割合は、一般高齢者が 41.1%であるのに対し、要支援1・2では 27.1%と低くなっている。一方「かかりつけ医」の割合は一般高齢者が 47.3%であるのに対し、要支援1・2では 62.9%と高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「市役所（認知症地域支援推進員を配置）」の割合は前原西圏域が 46.4%で他圏域と比較して最も高くなっている。

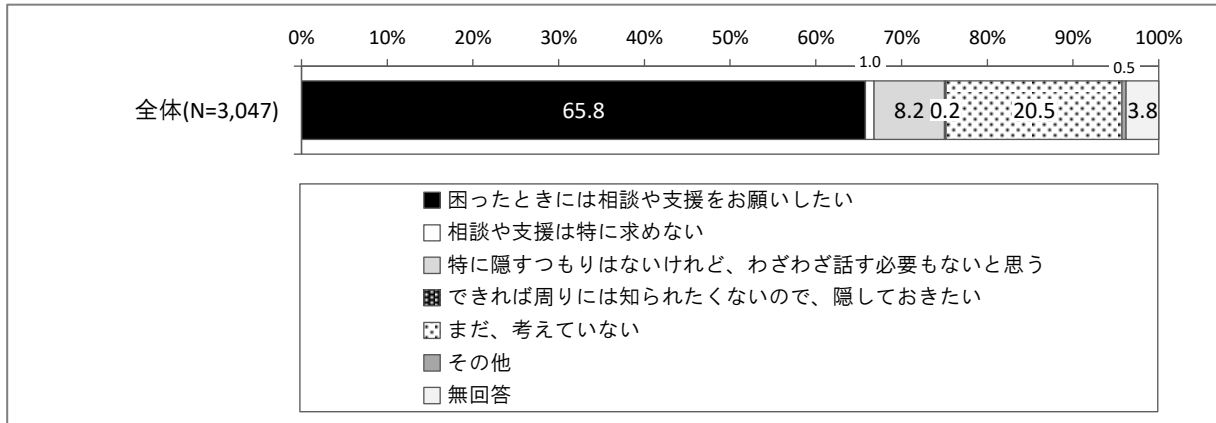


(7) 認知症になったとき相談や支援を受けたいか

認知症になったとき相談や支援を受けたいかを尋ねた。

【市全体】

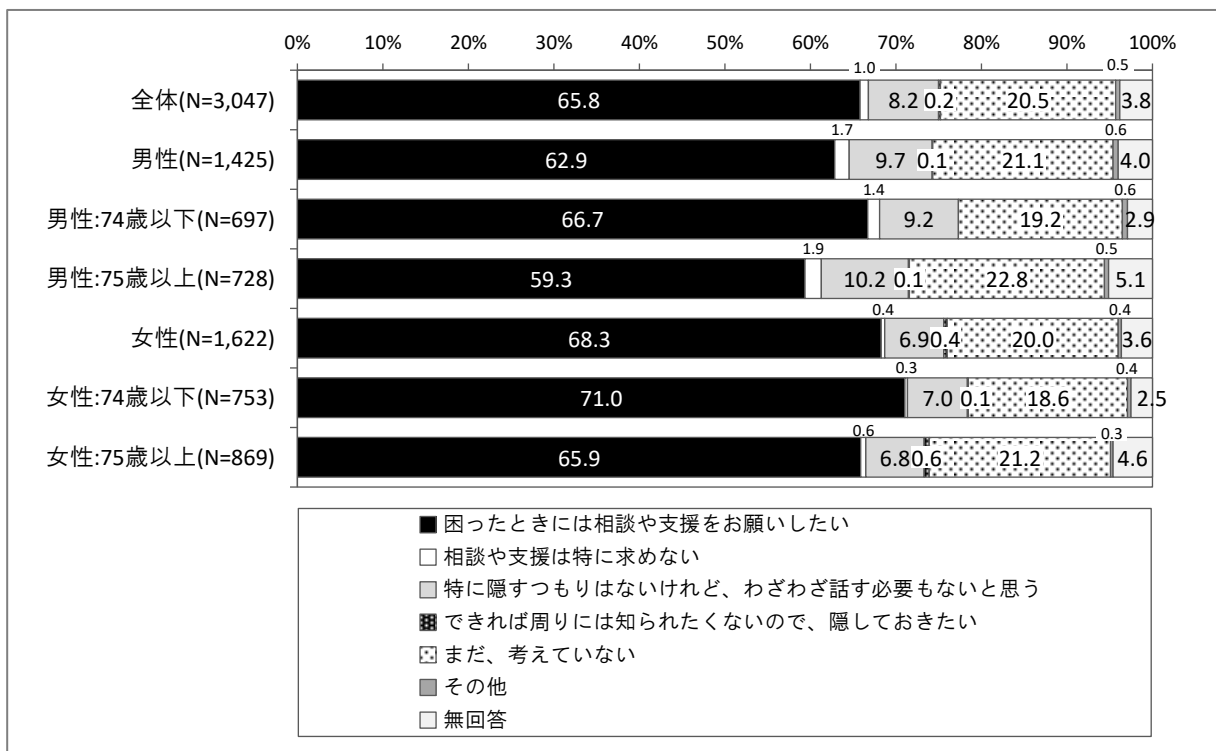
市全体でみると、「困ったときには相談や支援をお願いしたい」の割合が 65.8%で最も高く、次いで「まだ、考えていない」が 20.5%、「特に隠すつもりはないけれど、わざわざ話す必要もないと思う」が 8.2%となっている。



【性別・性年代別】

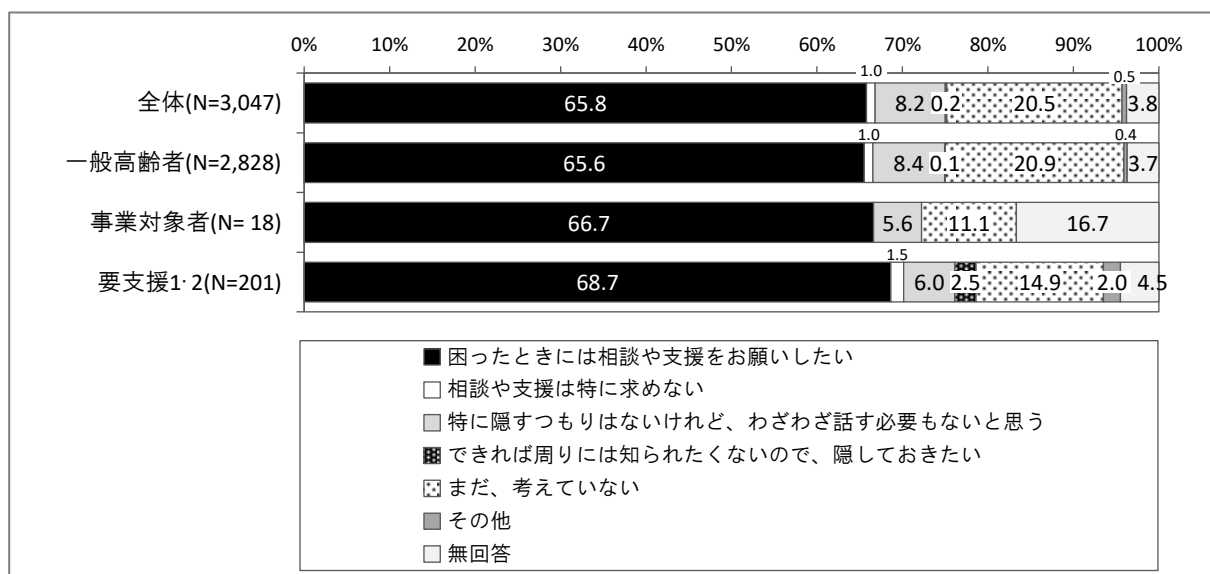
性別にみると、「困ったときには相談や支援をお願いしたい」の割合は男性が 62.9%であるのに対し、女性は 68.3%と高くなっている。

性年代別にみると、「困ったときには相談や支援をお願いしたい」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



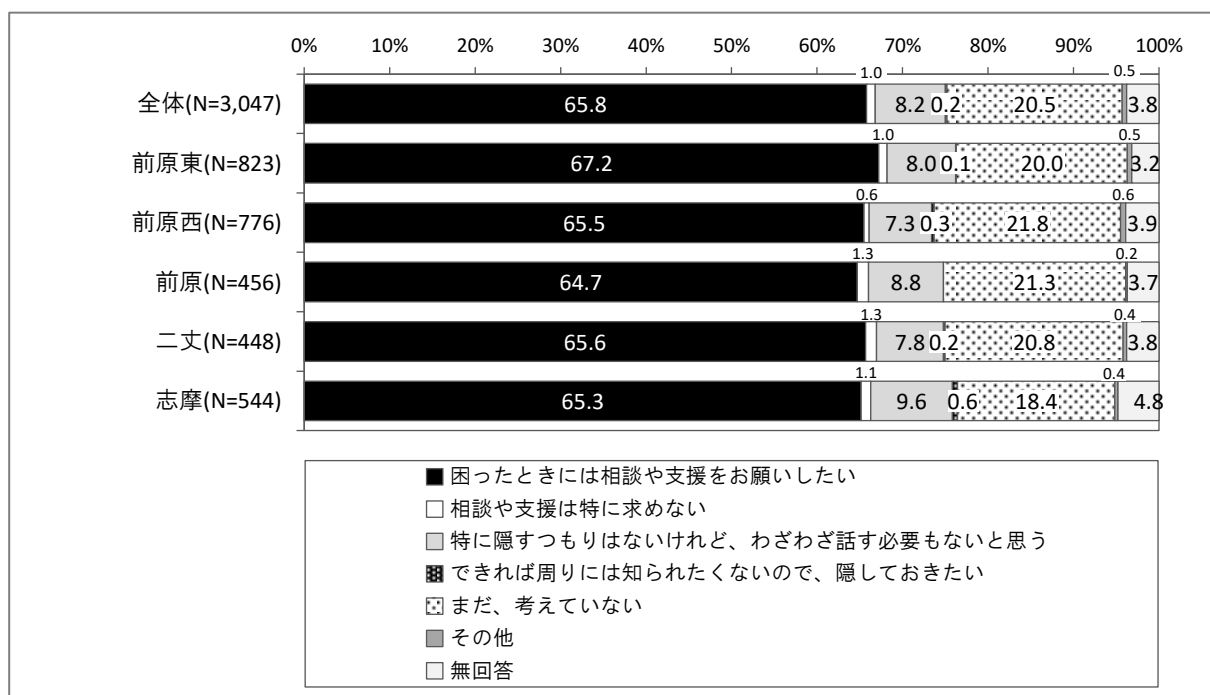
【要介護度別】

要介護度別にみると、「まだ、考えていない」の割合は、一般高齢者が 20.9%であるのに対し要支援1・2では 14.9%と低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「困ったときには相談や支援をお願いしたい」の割合は前原東圏域が 67.2%で他圏域と比較し、最も高くなっている。



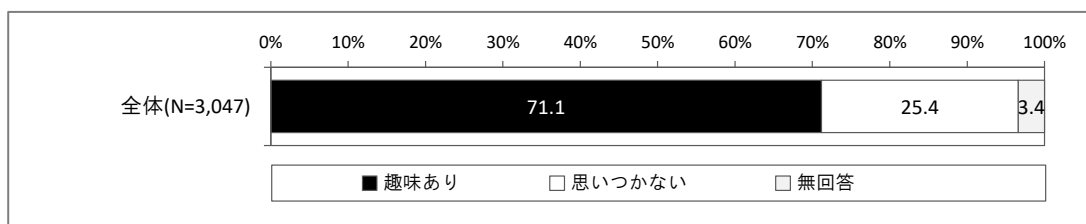
7 地域社会への参加等に関する意識

(1) 趣味の有無

趣味の有無について尋ねた。

【市全体】

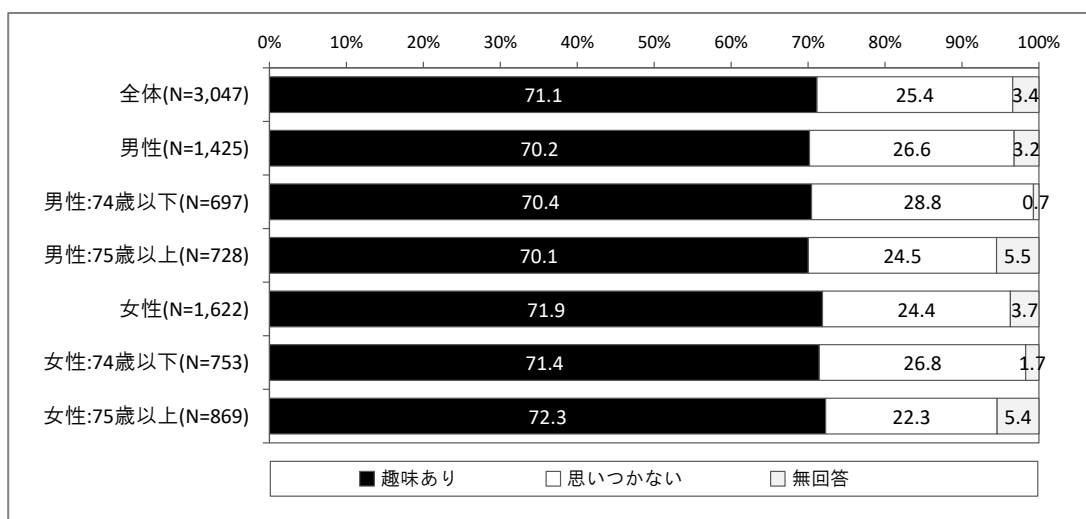
市全体でみると、「趣味あり」の割合が71.1%であり、「思いつかない」の割合が25.4%となっている。



【性別・性年代別】

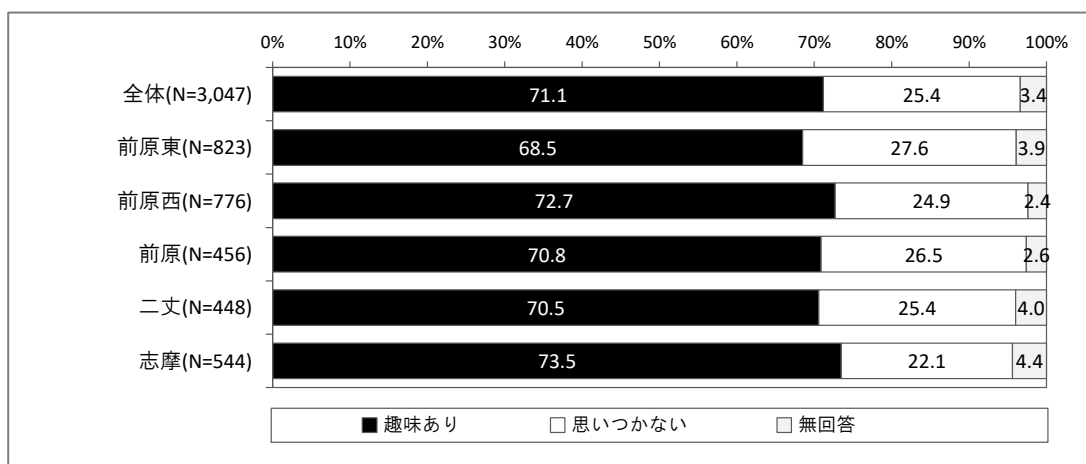
性別にみると、大きな差はなく、「趣味あり」の割合が約70%程度となっている。

性年代別にみると、「趣味あり」の割合は年代が上がるほど、男性ではやや低くなっているが、女性ではやや高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「趣味あり」の割合が最も高いのは志摩圏域の73.5%で、次いで前原西圏域の72.7%である。一方、「思いつかない」の割合が最も高いのは前原東圏域の27.6%、次いで前原圏域は26.5%となっている。

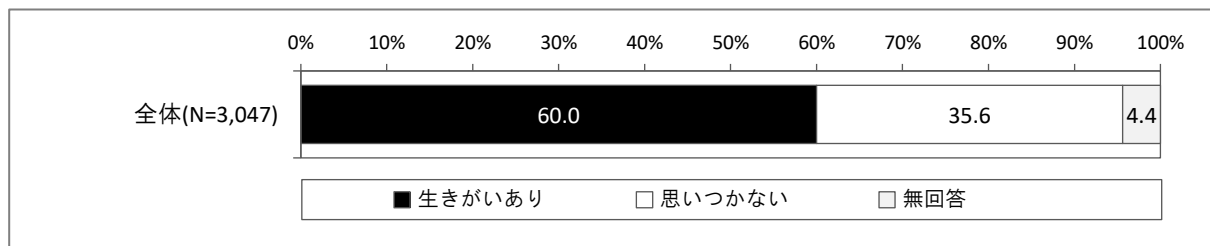


（２）生きがいの有無

生きがいの有無について尋ねた。

【市全体】

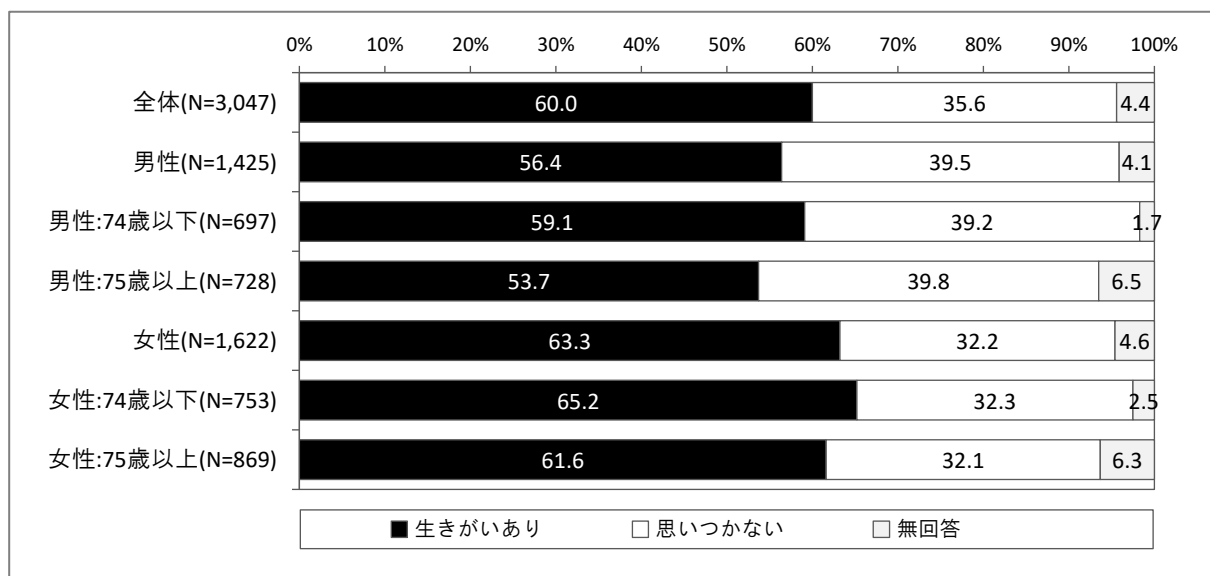
市全体でみると、「生きがいあり」の割合が 60.0%であり、「思いつかない」の割合が 35.6%となっている。



【性別・性年代別】

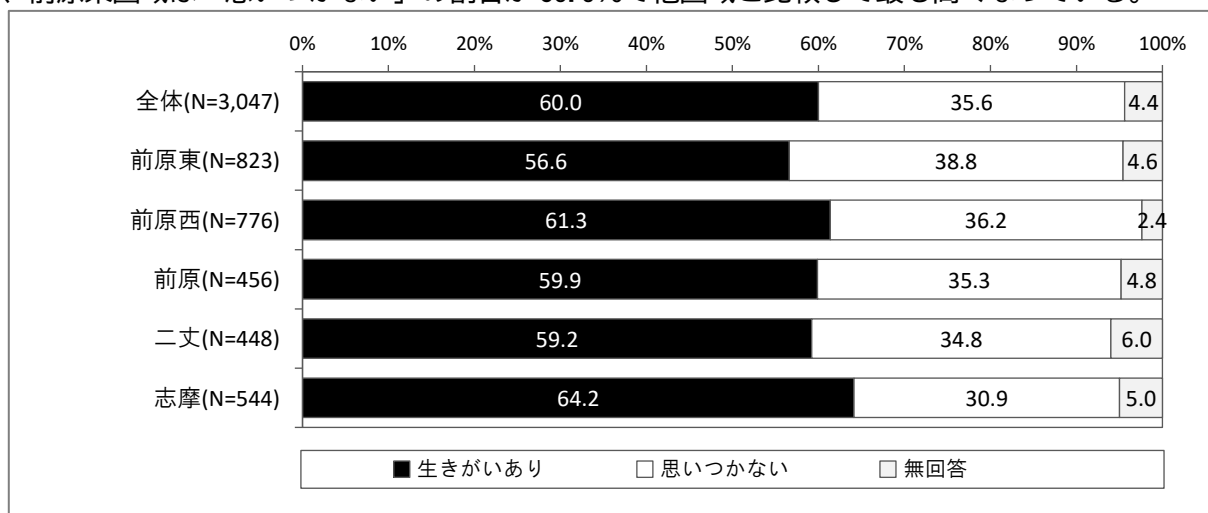
性別にみると、男性の「生きがいあり」の割合が 56.4%であるのに対し、女性は 63.3%であり、女性の方が生きがいを持っている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「生きがいあり」の割合が低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、志摩圏域では「生きがいあり」の割合が 64.2%で他圏域と比較して最も高くなっている。一方、前原東圏域は「思いつかない」の割合が 38.8%で他圏域と比較して最も高くなっている。

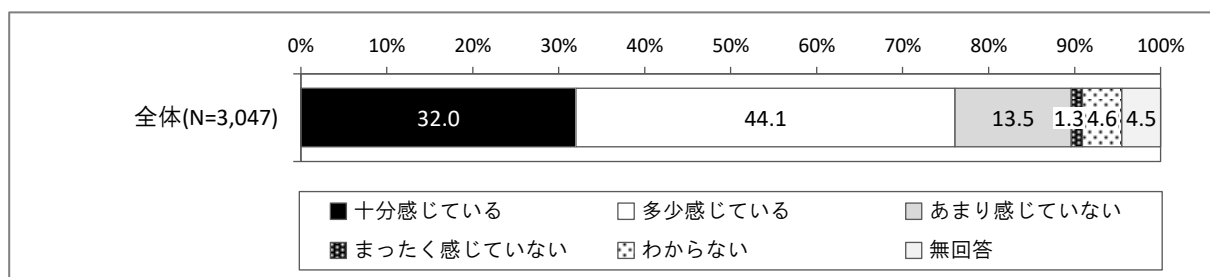


(3) 現在、感じている生きがい（喜びや楽しみ）の程度

現在感じている生きがい（喜びや楽しみ）の程度について尋ねた。

【市全体】

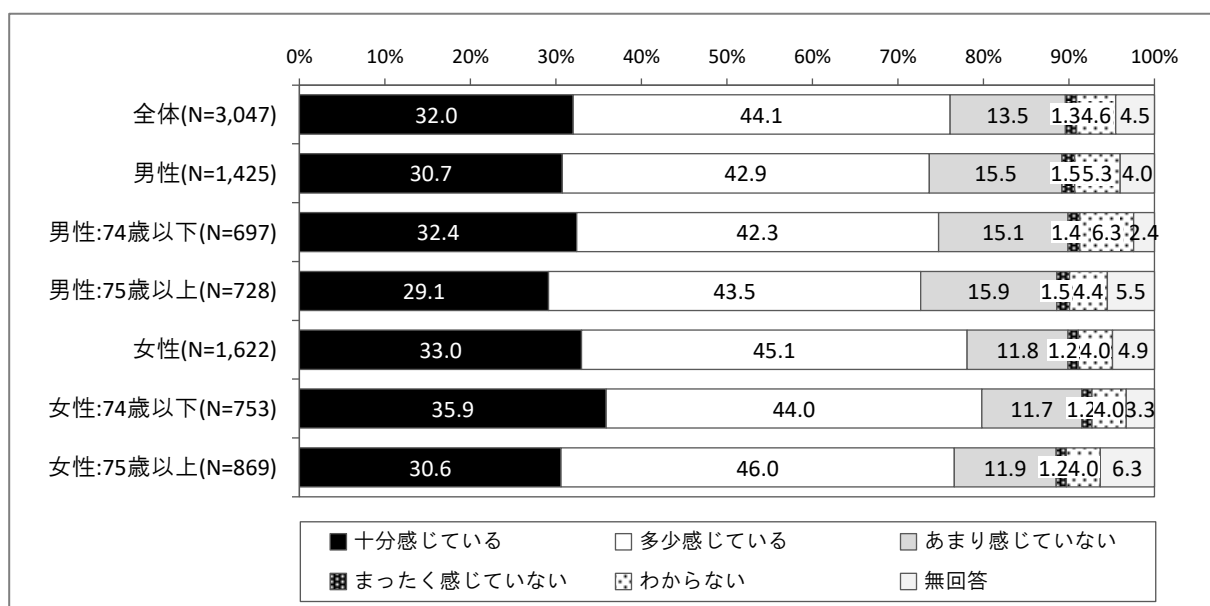
市全体でみると、「多少感じている」の割合が最も高く 44.1%であった。次いで「十分感じている」が 32.0%であり、「あまり感じていない」は 13.5%となっている。



【性別・性年代別】

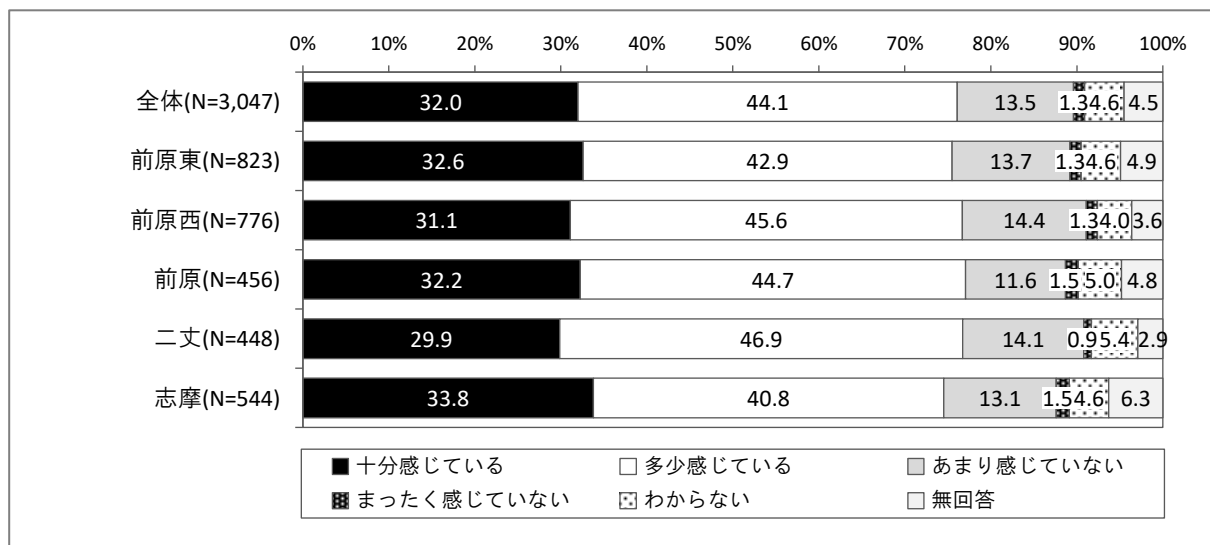
性別にみると、男性の「十分感じている」の割合が 30.7%であるのに対し、女性は 33.0%と高くなっている。

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど「十分感じている」の割合が低くなっており、特に女性は 74 歳以下の年代では 35.9%であるのに対し、75 歳以上の年代では 30.6%であり、5.3 ポイント差がある。



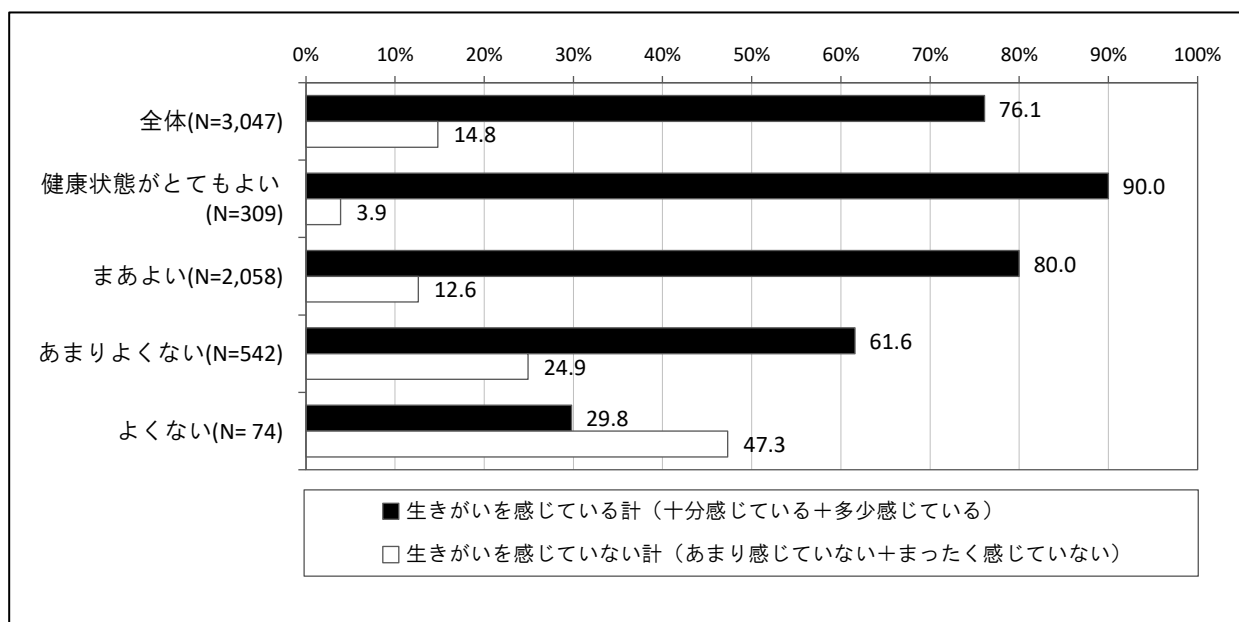
【圏域別】

圏域別にみると、志摩圏域では「十分感じている」の割合が 33.8%で他圏域と比較して最も高くなっている。一方で最も低いのは二丈圏域であり 29.9%となっている。



【主観的健康感別】

主観的健康感別にみると、主観的な健康状態がよいと回答した人ほど『生きがいを感じている（「十分感じている」＋「多少感じている」）』の割合が高く、『生きがいを感じていない「あまり感じていない」＋「感じていない」』の割合が低くなっている。



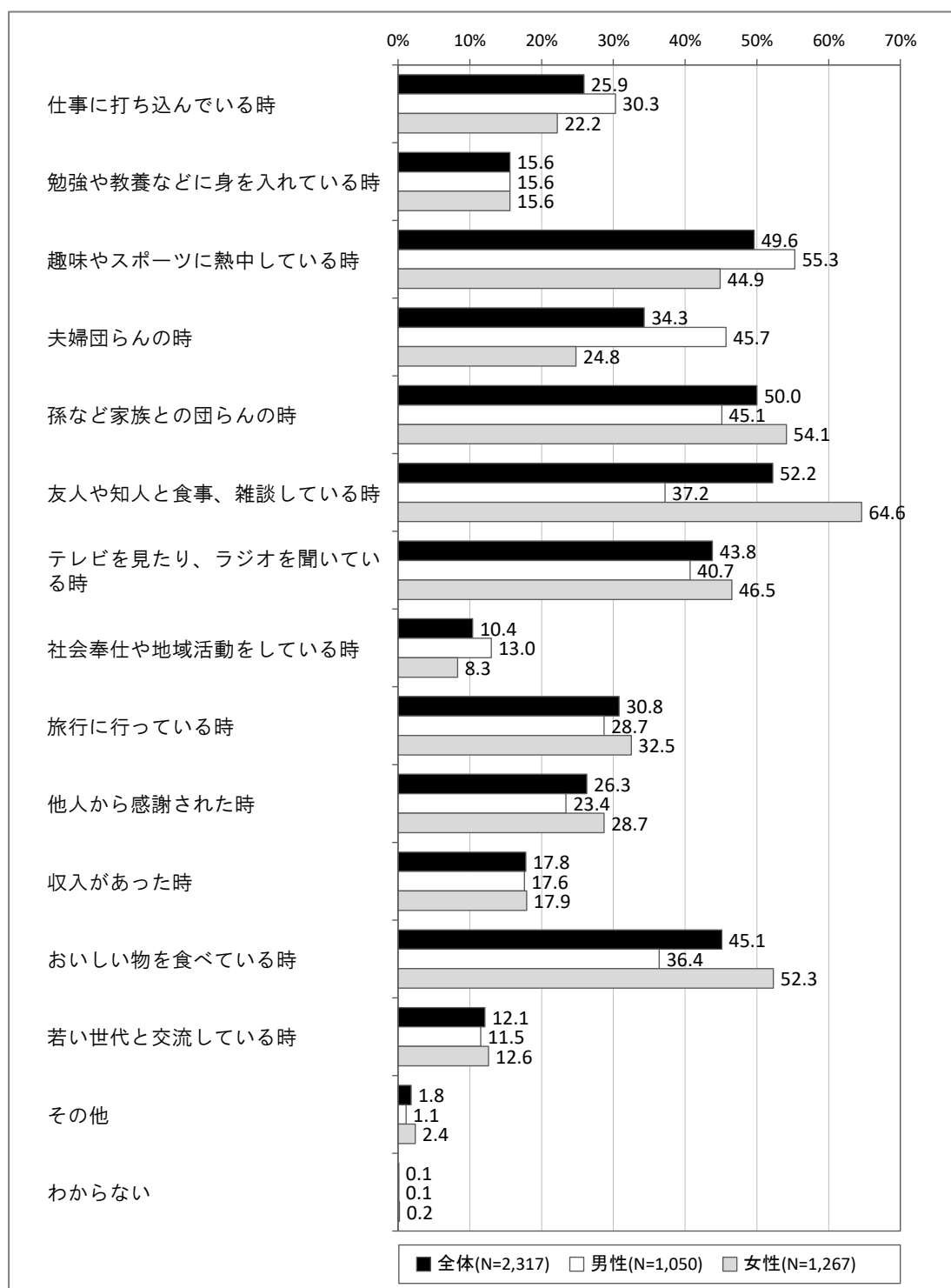
(4) 生きがいを感じる時（複数回答）

前問において「十分感じている」、「多少感じている」と回答した人に、生きがい（喜びや楽しみ）を感じるのはどのようなときか尋ねた。

【市全体・性別】

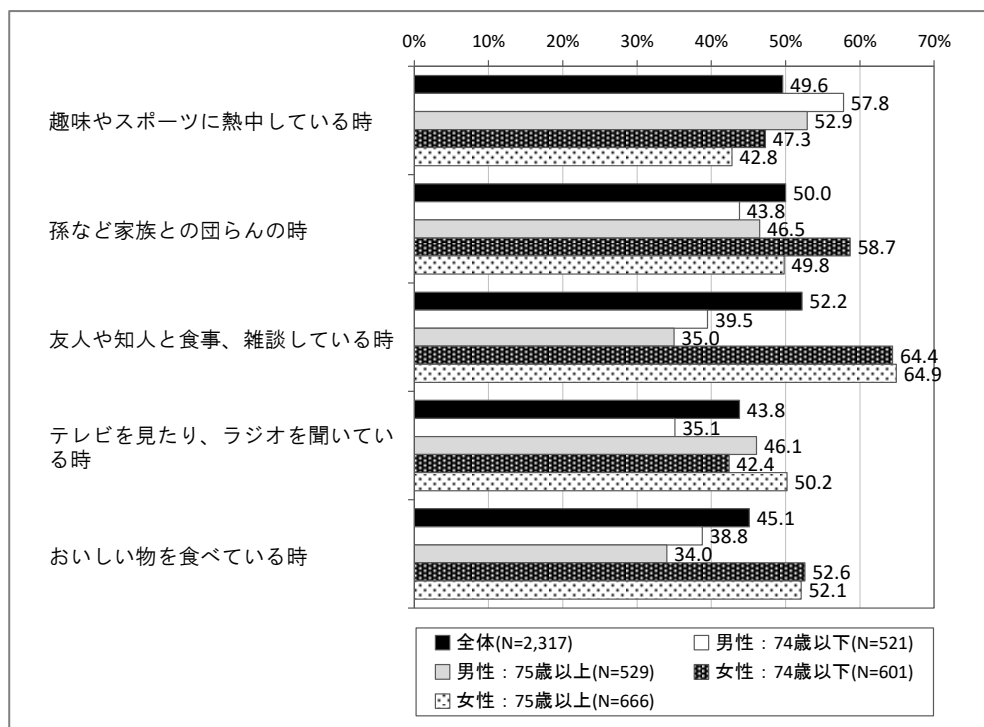
市全体でみると、「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 52.2%で最も高く、次いで、「孫など家族との団らんの時」が 50.0%、「趣味やスポーツに熱中している時」が 49.6%となっている。その後、「おいしい物を食べている時」が 45.1%、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」が 43.8%と続いている。

性別にみると、「友人や知人と食事、雑談している時」、「孫など家族との団らんの時」、「おいしい物を食べている時」などの割合では女性が男性よりも高くなっている。一方「趣味やスポーツに熱中している時」の割合では男性が 55.3%であるのに対し、女性は 44.9%で低くなっている。



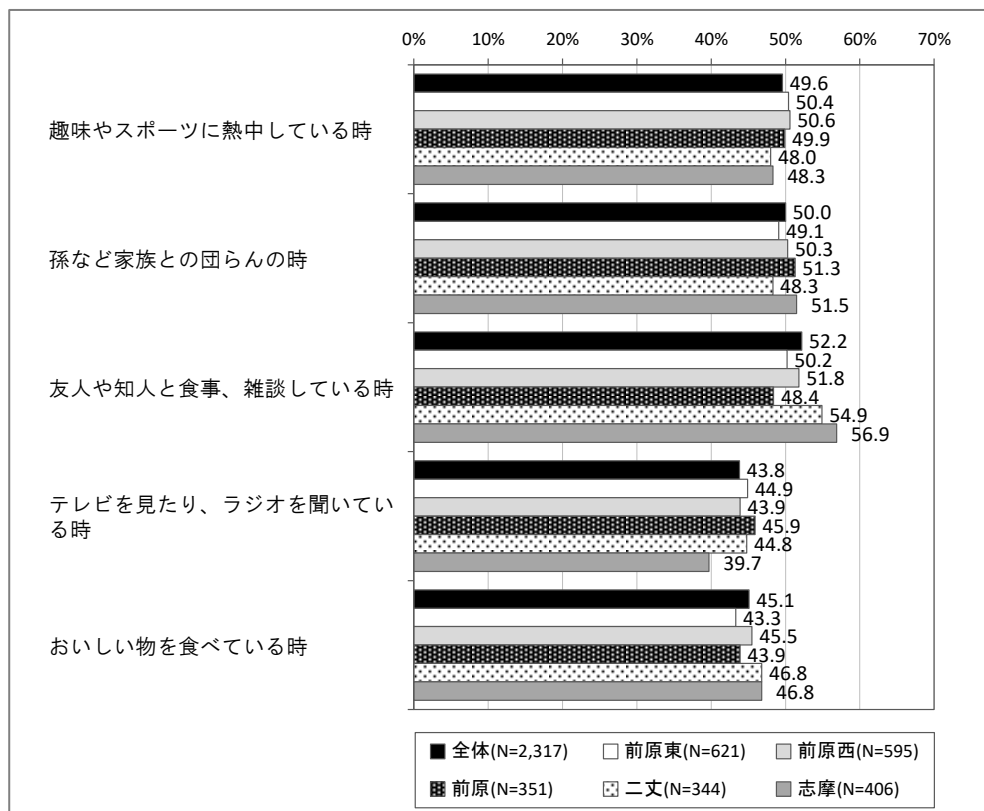
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」で男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。一方「趣味やスポーツに熱中している時」は男女ともに年代が上がるほど割合が低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、志摩圏域は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 56.9%、「孫など家族との団らんの時」の割合が 51.5%と他圏域と比較して最も高くなっている。前原西圏域は「趣味やスポーツに熱中している時」の割合が 50.6%と高くなっている。



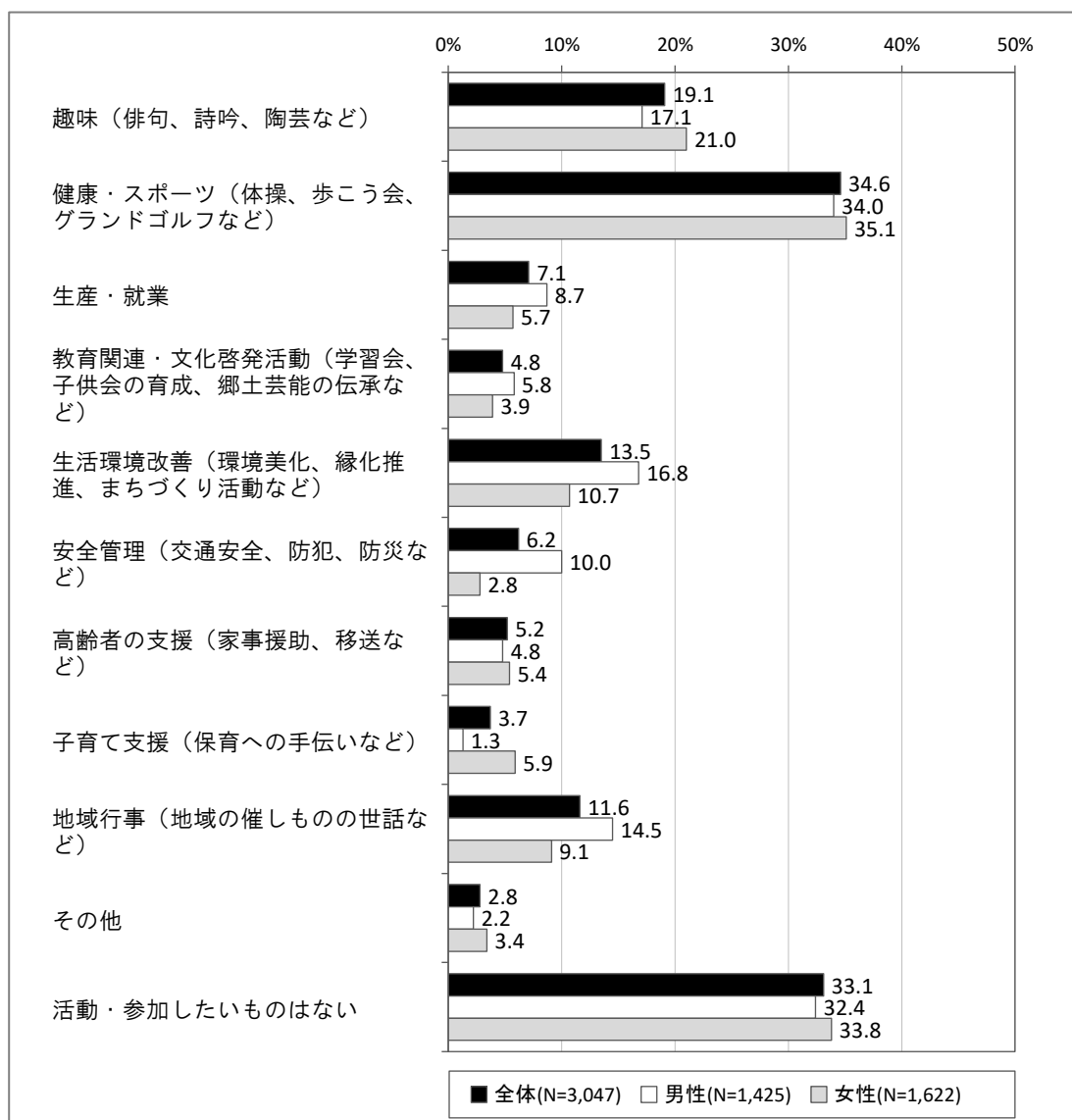
(5) 自主的に行われている活動への参加意向（複数回答）

個人または友人と、あるいはグループや団体で、自主的に行われている活動への参加意向を尋ねた。

【市全体・性別】

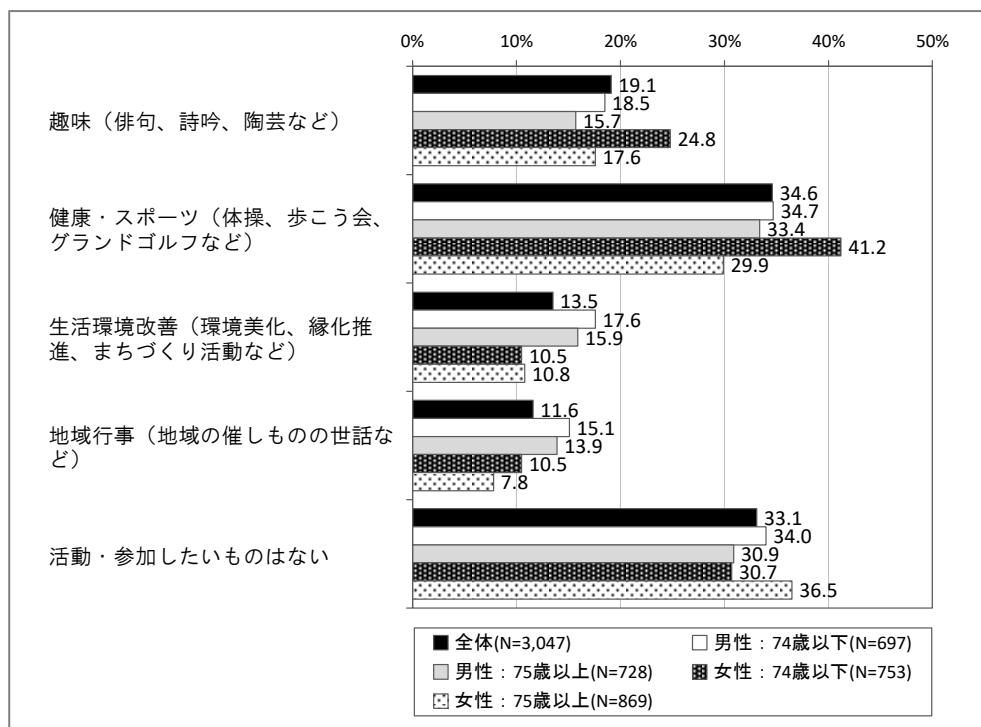
市全体でみると、「健康・スポーツ（体操、歩こう会、グランドゴルフなど）」の割合が34.6%で最も高く、次いで「活動・参加したいものはない」が33.1%、「趣味（俳句、詩吟、陶芸等）」が19.1%となっている。

性別にみると、「生活環境改善」（男性は16.8%、女性は10.7%）、「地域行事（地域の催しものの世話など）」（男性は14.5%、女性は9.1%）等では男性の割合が女性よりも高くなっている。反対に「健康・スポーツ（体操、歩こう会、グランドゴルフなど）」（男性は34.0%、女性は35.1%）、「趣味（俳句、詩吟、陶芸など）」（男性は17.1%、女性は21.0%）、「活動・参加したいものはない」（男性は32.4%、女性は33.8%）等では女性の割合が男性よりも高くなっている。



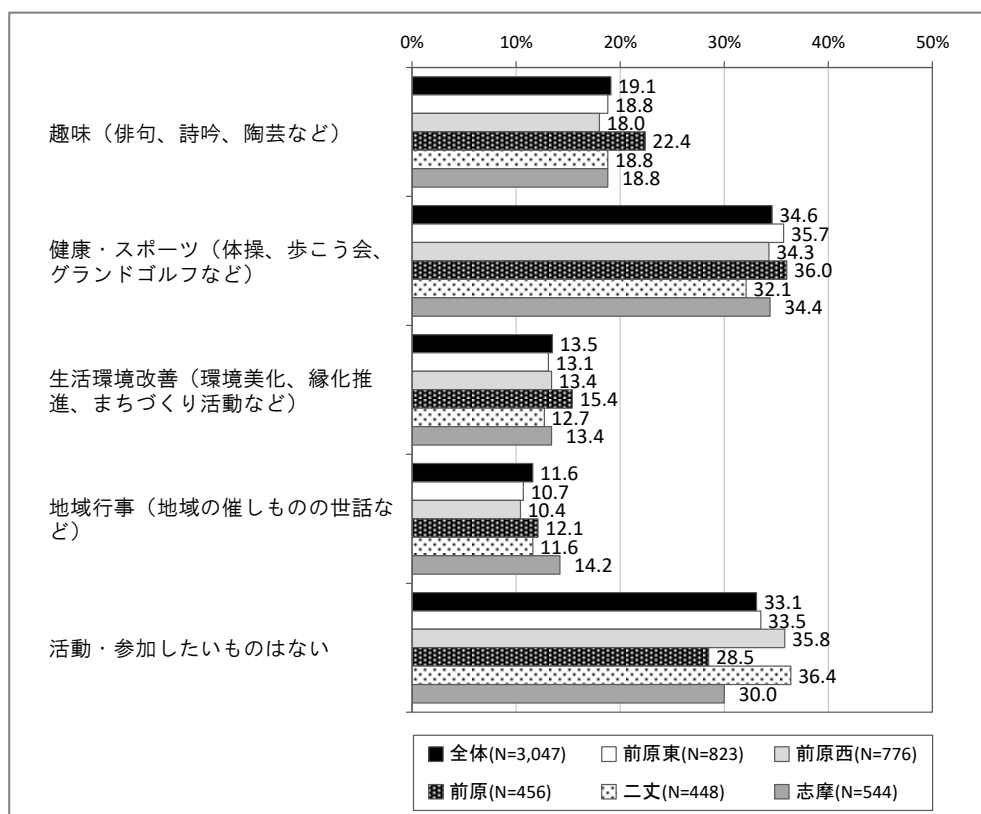
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、多くの項目で年代が上がるほど、男女ともに割合が低くなっている。一方「活動・参加したいものはない」の割合は年代が上がるほど男性では低くなっているが、女性では高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、市全体で割合の高かった「健康・スポーツ（体操、歩こう会、グランドゴルフなど）」では、前原圏域が36.0%と他圏域と比較して最も高くなっている。また、「活動・参加したいものはない」の割合は二丈圏域が36.4%と他圏域と比較して最も高くなっている。一方、志摩圏域では他圏域と比較し「地域行事（地域の催しものの世話など）」の割合が14.2%と他圏域と比較して最も高くなっている。



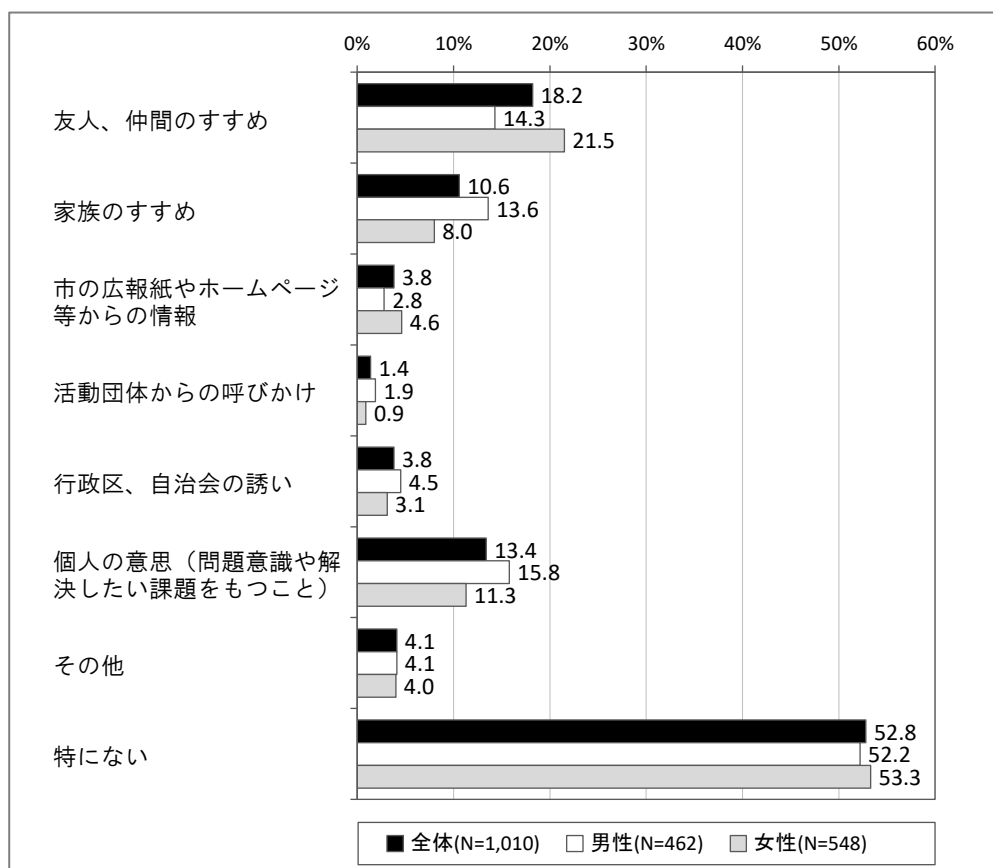
（６）自主的に行われている活動に参加するためのきっかけ（複数回答）

前問で「活動・参加したいものはない」と回答した人に、参加するために必要なきっかけを尋ねた。

【市全体・性別】

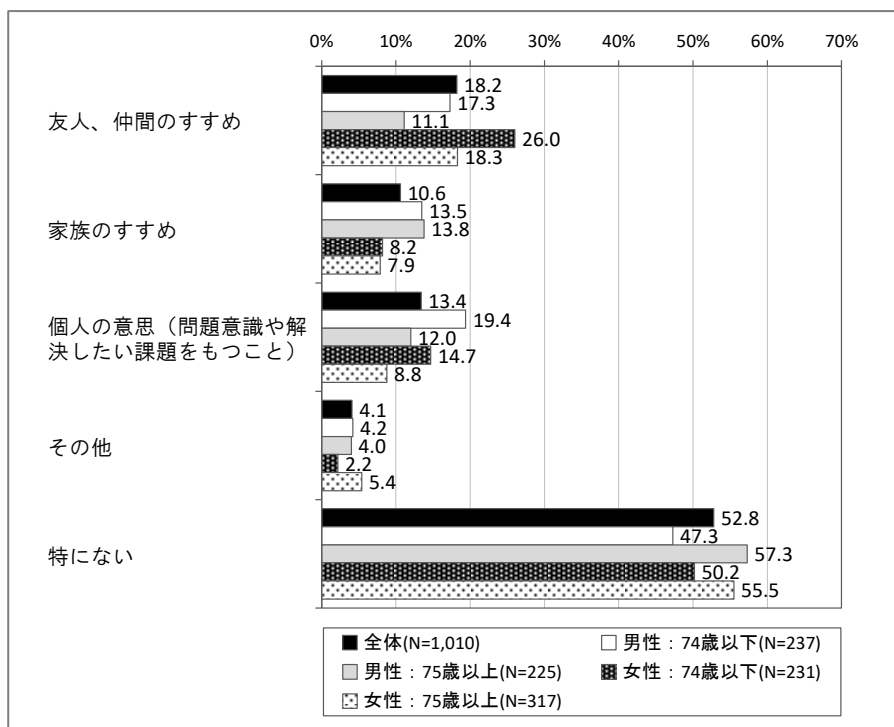
市全体でみると、「特にない」の割合が52.8%と非常に高くなっている。次いで「友人、仲間のすすめ」が18.2%、「個人の意思」が13.4%「家族のすすめ」が10.6%と続いている。

性別にみると、男女ともに「特にない」の割合が最も高くなっている。「個人の意思（問題意識や解決したい課題をもつこと）」（男性は15.8%、女性は11.3%）、「家族のすすめ」（男性は13.6%、女性は8.0%）では男性の割合が女性より割合が高くなっている。一方、「友人、仲間のすすめ」（男性は14.3%、女性は21.5%）、「特にない」（男性は52.2%、女性は53.3%）では女性の割合が男性よりも高くなっている。



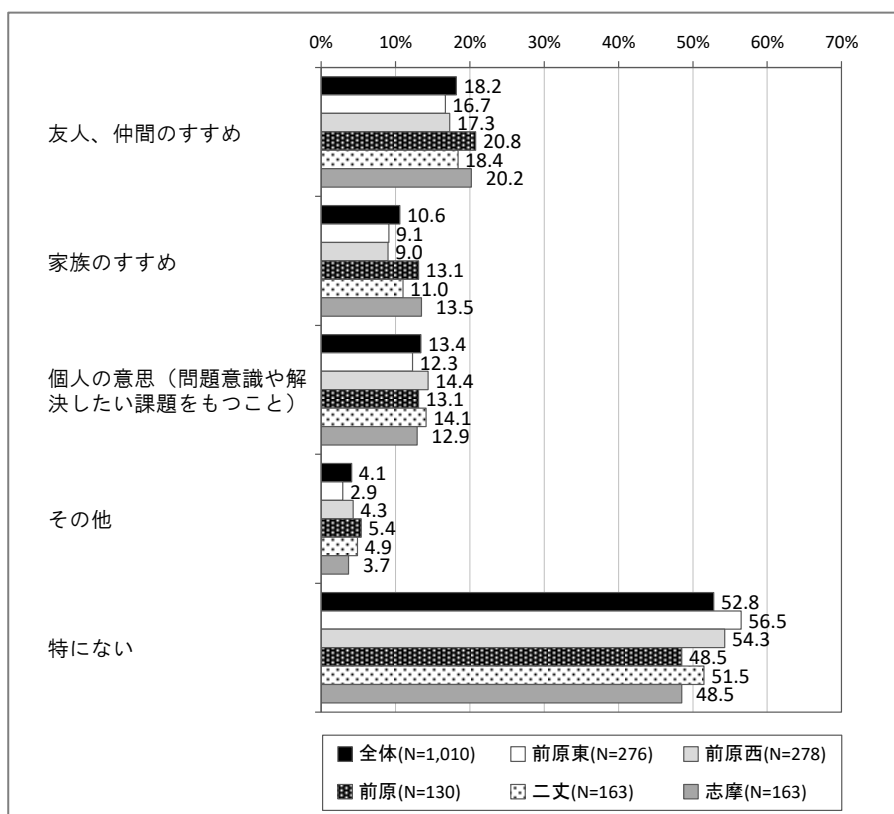
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに年代が上がると「特にない」の割合が高くなっている。また、男女ともに「個人の意思」は年代が上がるほど低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、前原東圏域では「特にない」の割合が 56.5%で他圏域と比較して最も高くなっており、一方で前原圏域と志摩圏域はともに 48.5%と最も低くなっている。「友人、仲間のすすめ」の割合は前原圏域で 20.8%と他圏域と比較して高くなっている。「個人の意見」の割合は前原西圏域で 14.4%と最も高く、前原東圏域で 12.3%と最も低くなっている。



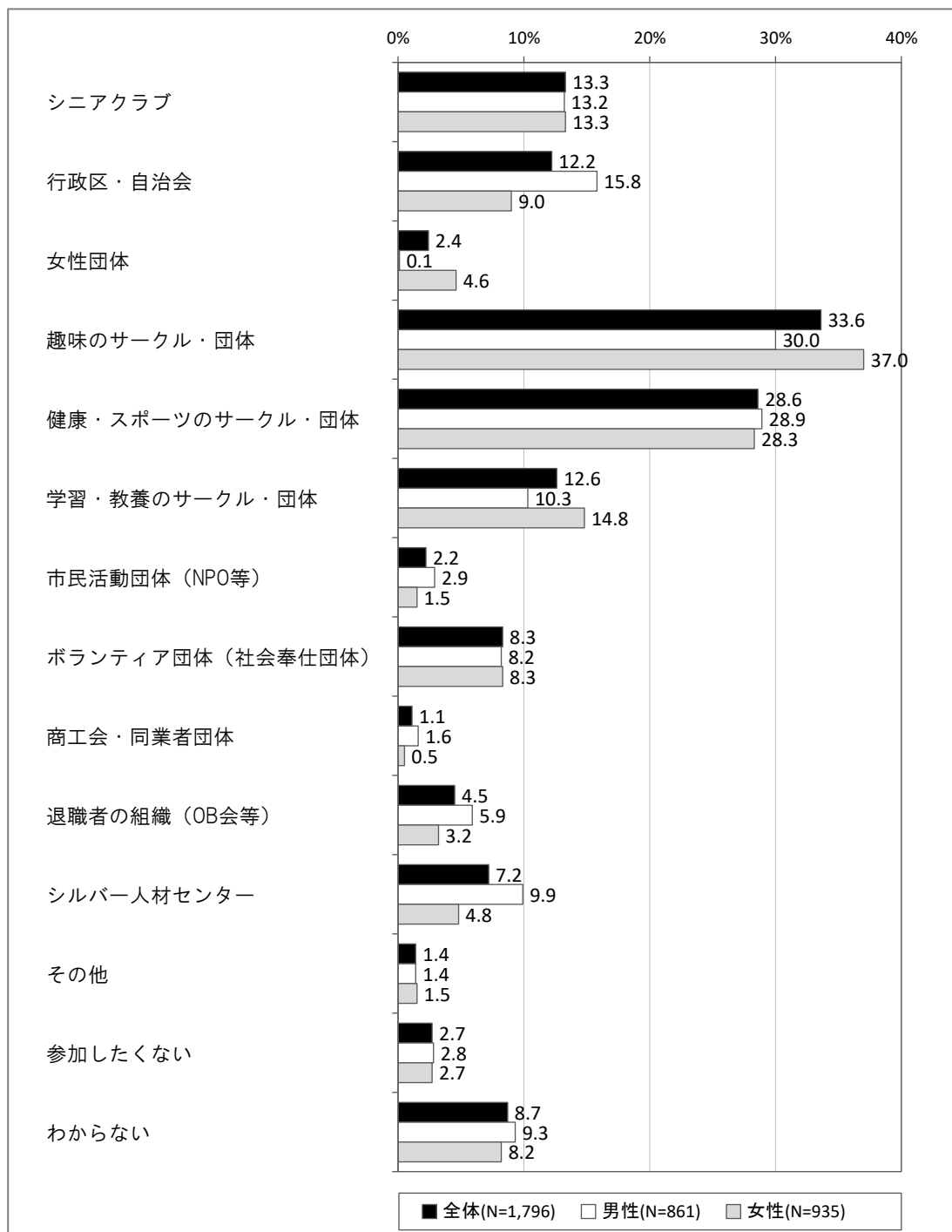
(7) 参加したい団体や組織（複数回答）

「自主的に行われている活動への参加意向」の設問において「活動・参加したいものはない」以外の回答をした人に参加したい団体や組織について尋ねた。

【市全体・性別】

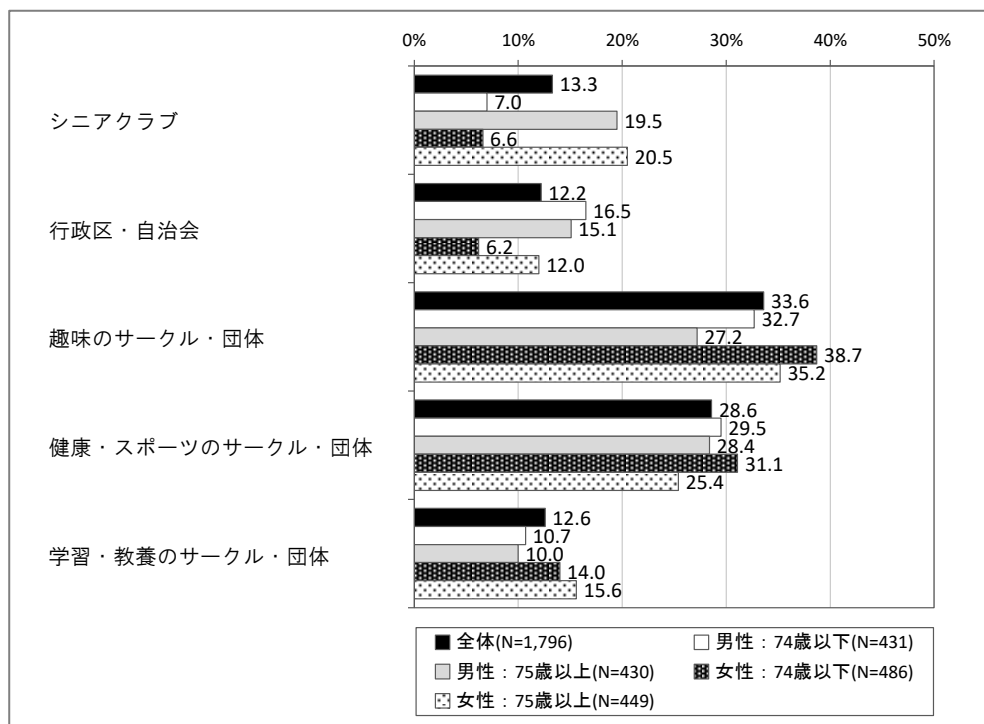
市全体でみると、「趣味のサークル・団体」の割合が33.6%と最も高く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」が28.6%となっている。

性別にみると、「行政区・自治会」（男性は15.8%、女性は9.0%）等では女性より男性の割合が高く、一方で「趣味のサークル・団体」（男性は30.0%、女性は37.0%）は男性より女性の割合が高くなっている。



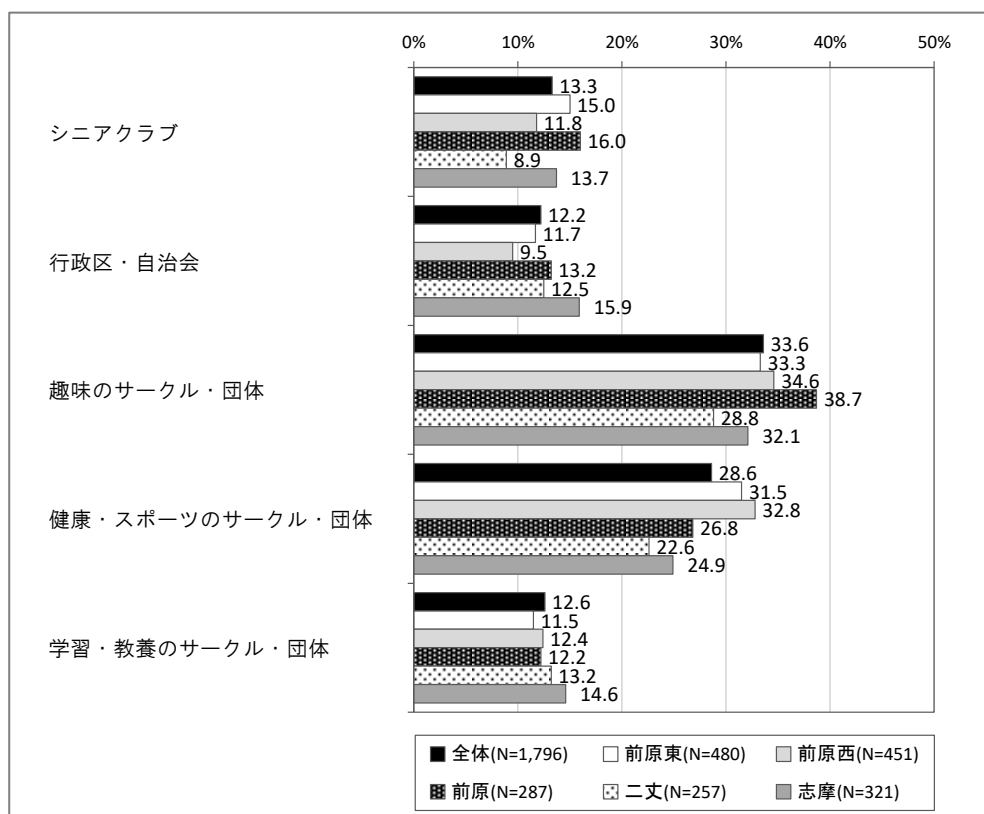
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに年代が上がるほど「シニアクラブ」の割合が高くなっている。また、男女ともに「趣味のサークル・団体」や「健康・スポーツのサークル・団体」の割合は年代が上がるほど低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「シニアクラブ」の割合は前原圏域で16.0%と最も高く、二丈圏域で8.9%と最も低くなっている。「行政区・自治会」の割合は志摩圏域で15.9%と最も高く、前原西圏域で9.5%と最も低くなっている。「趣味のサークル・団体」は前原圏域で38.7%と最も高く、二丈圏域で28.8%と最も低くなっている。



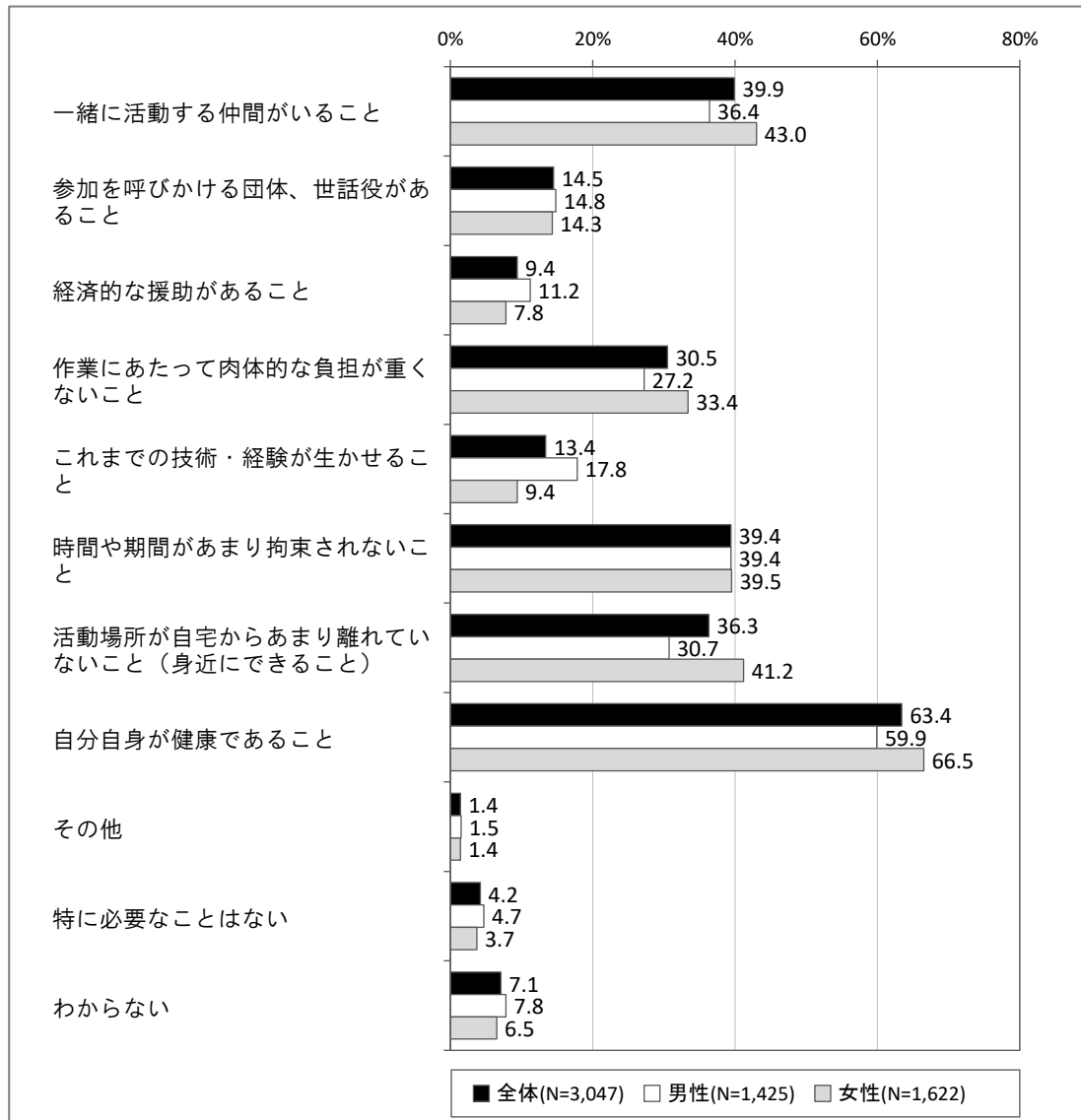
(8) 地域の奉仕活動に参加するための条件（複数回答）

地域の奉仕活動に実際に参加するためにはどのような条件が必要だと思うかを尋ねた。

【市全体・性別】

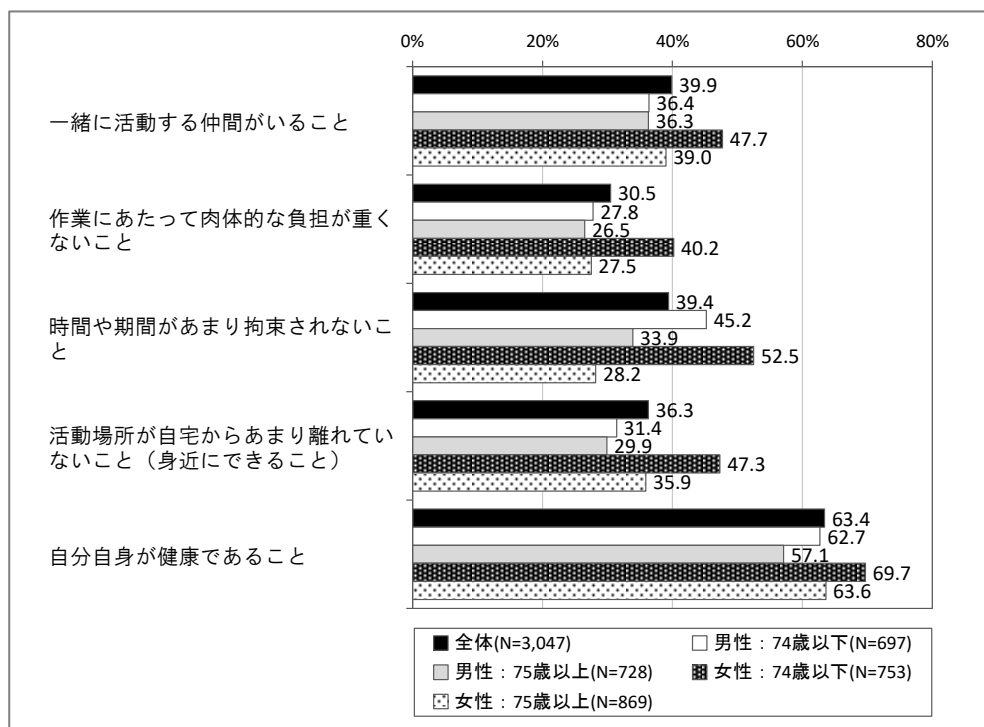
市全体でみると、「自分自身が健康であること」の割合が 63.4%で最も高く、次いで「一緒に活動する仲間がいること」が 39.9%、「時間や期間があまり拘束されないこと」が 39.4%、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと（身近にできること）」が 36.3%となっている。

性別にみると、「これまでの技術・経験が生かせること」（男性は 17.8%、女性は 9.4%）、「経済的な援助」（男性は 11.2%、女性は 7.8%）などを除いた、多くの項目で女性の割合が男性より高く、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと（身近にできること）」（女性は 41.2%、男性は 30.7%）、「一緒に活動する仲間がいること」（女性は 43.0%、男性は 36.4%）等で差が大きくなっている。



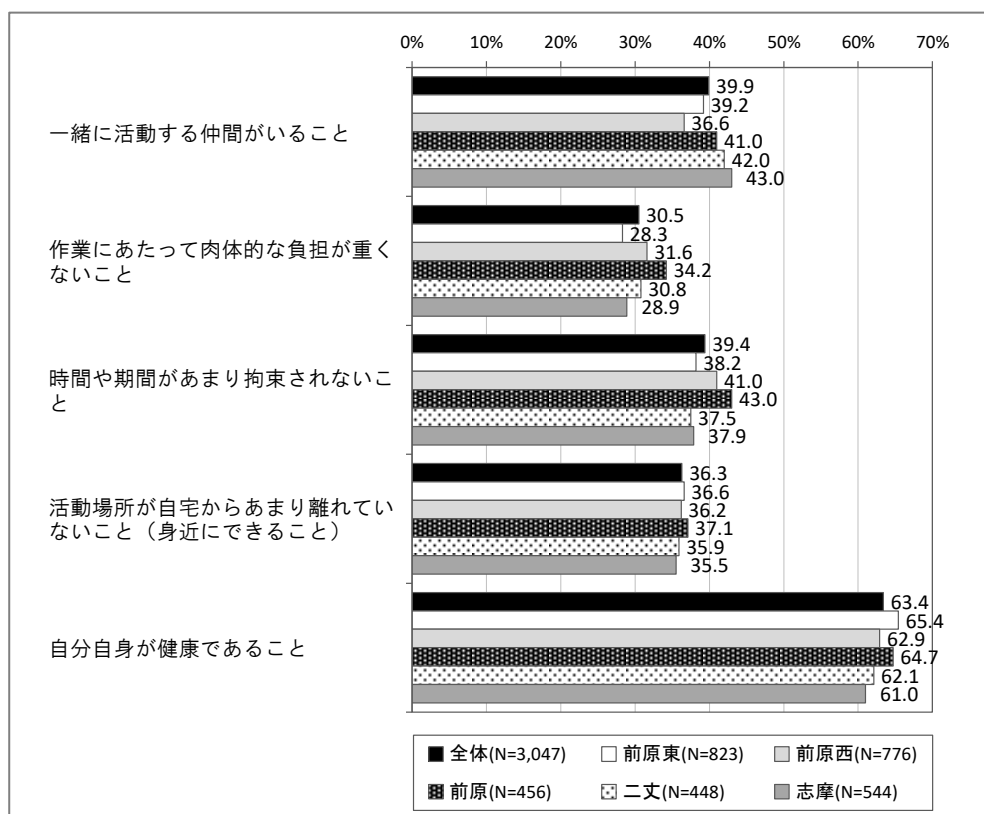
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、男女ともに、「時間や期間があまり拘束されないこと」（男性 74 歳以下は 45.2%、男性 75 歳以上は 33.9%）（女性 74 歳以下は 52.5%、女性 75 歳以上は 28.2%）等の多くの項目において年代が上がるほど割合が低くなっている。女性では「作業にあたって肉体的な負担が重くないこと」（女性 74 歳以下は 40.2%、女性 75 歳以上は 27.5%）等で年齢が上がるほど割合が低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、志摩圏域では「一緒に活動する仲間がいること」の割合が 43.0%と他圏域と比較して最も高くなっている。一方で前原西圏域では 36.6%と最も低く、6.4 ポイントほどの差がみられる。

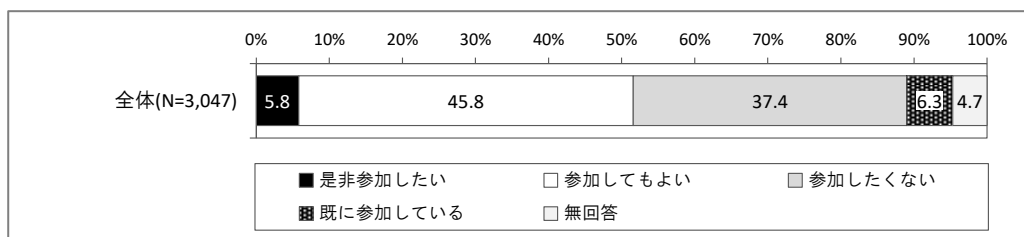


(9) 健康づくり活動や趣味のグループに参加者として参加したいか

地域住民の有志によって行われる健康づくりや趣味等のグループに参加者として参加したいかを尋ねた。

【市全体】

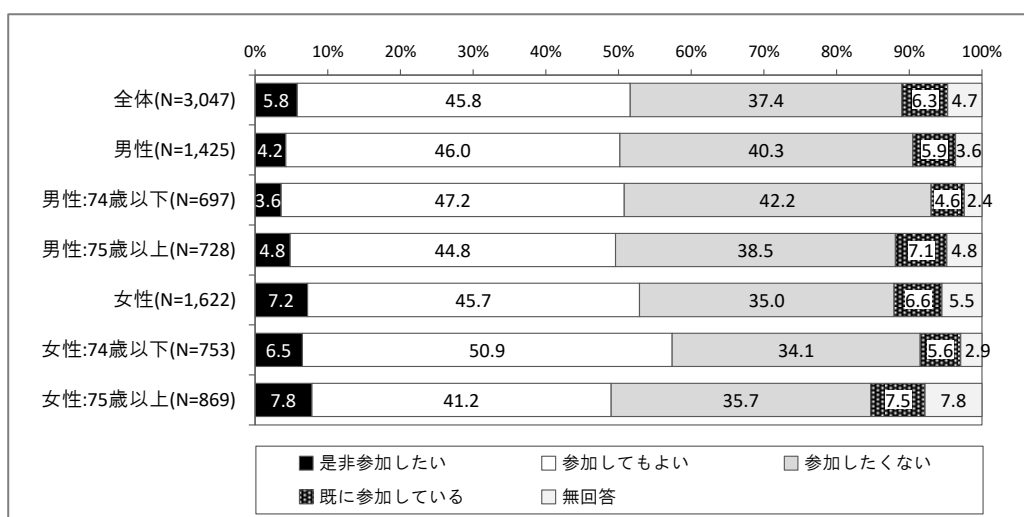
市全体でみると、「参加してもよい」の割合が45.8%、「参加したくない」の割合が37.4%、「既に参加している」の割合が6.3%となっている。



【性別・性年代別】

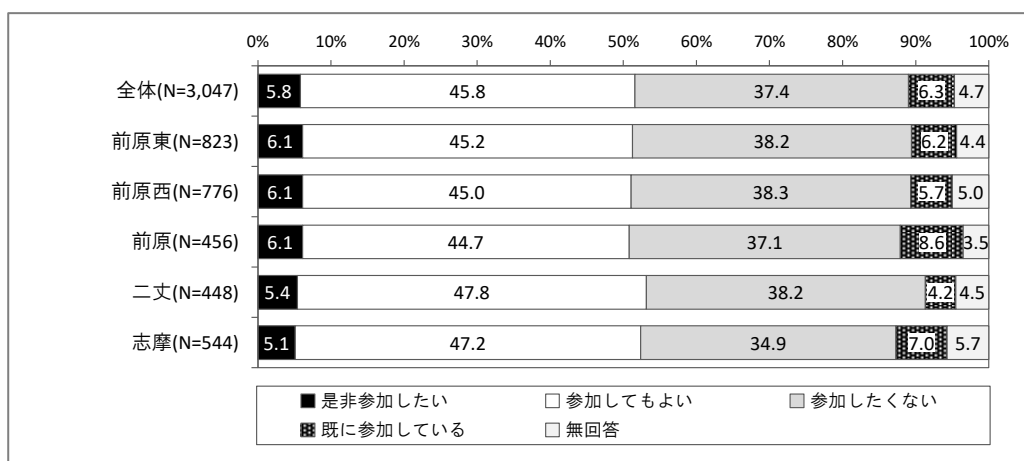
性別にみると、女性の方が「是非参加したい」の割合が高く（男性は4.2%、女性は7.2%）、「参加したくない」（男性は40.3%、女性は35.0%）では男性の割合が高くなっている。

性年代別にみると、「参加してもよい」の割合は年代が上がるほど男性では割合が低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、前原西圏域では「参加したくない」の割合が38.3%で他圏域と比較して最も高く、一方で、志摩圏域では34.9%で他圏域と比較して最も低くなっている。

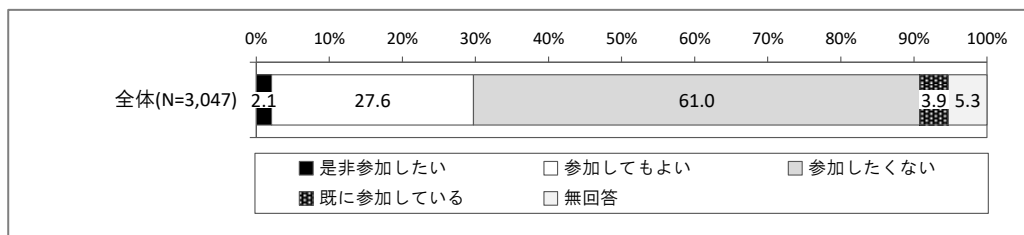


(10) 健康づくり活動や趣味のグループに企画・運営（お世話役）として参加したいか

地域住民の有志によって行われる健康づくりや趣味等のグループに企画・運営（お世話役）として参加したいかを尋ねた。

【市全体】

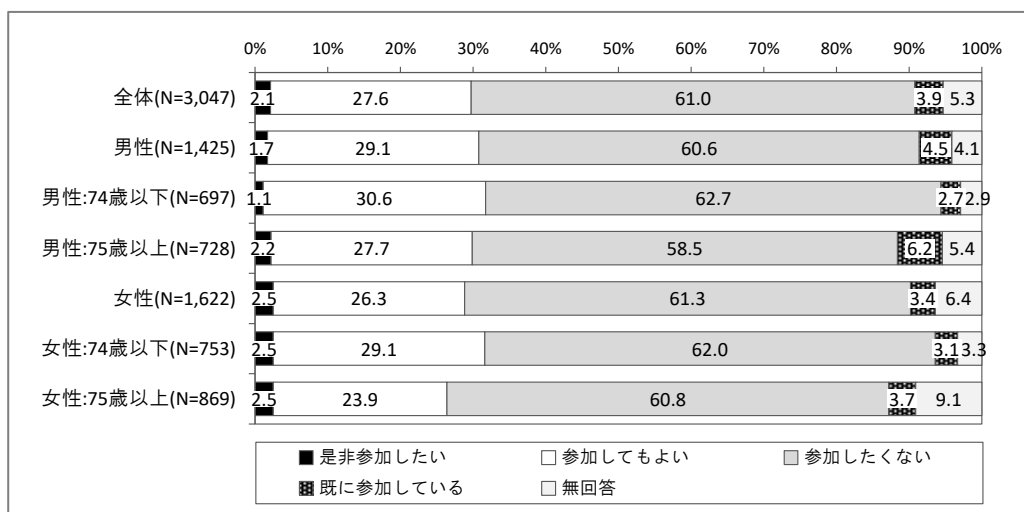
市全体でみると、「参加したくない」の割合が61.0%で最も高く、次いで「参加してもよい」が27.6%、「既に参加している」が3.9%であった。



【性別・性年代別】

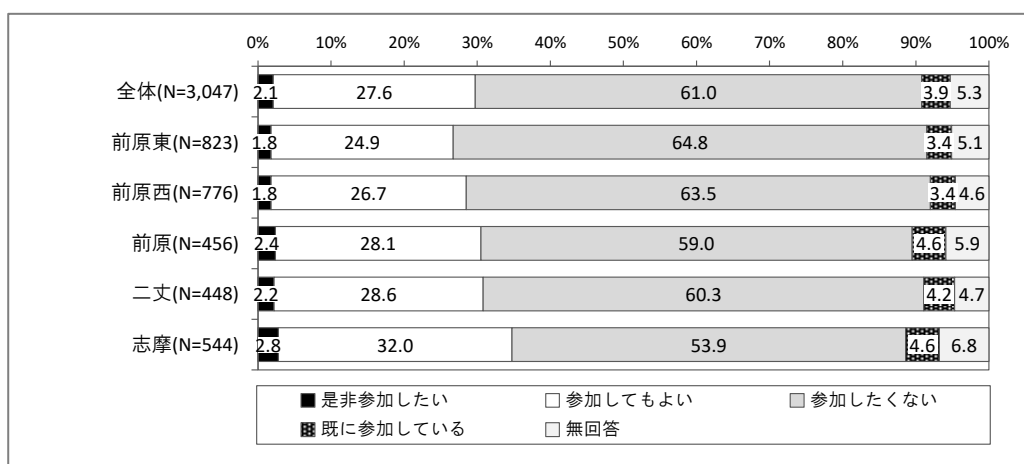
性別にみると、男性は女性よりも「参加してもよい」の割合が高く、男性が29.1%、女性が26.3%であった。反対に「参加したくない」については女性が61.3%、男性が60.6%であった。

性年代別にみると、年代が上がると男女ともに「参加してもよい」の割合が低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「参加してもよい」の割合は、志摩圏域が32.0%で他圏域と比較し最も高く、「参加したくない」の割合は、前原東圏域が64.8%と最も高くなっている。



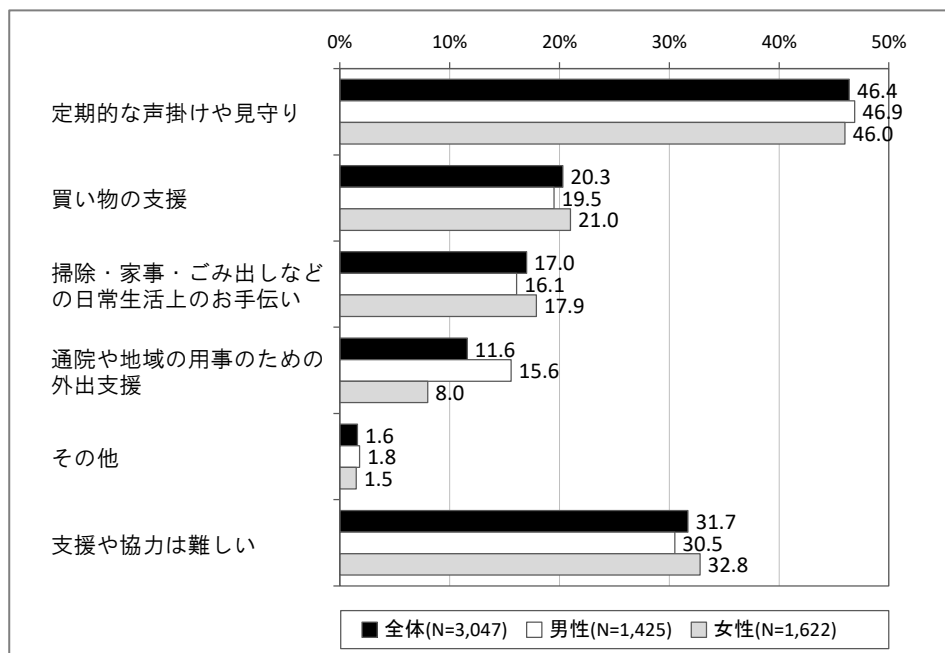
(11) あなたができる地域支援や協力（複数回答）

地域で支援や協力をするとしたら、どのようなことができると思うか尋ねた。

【市全体・性別】

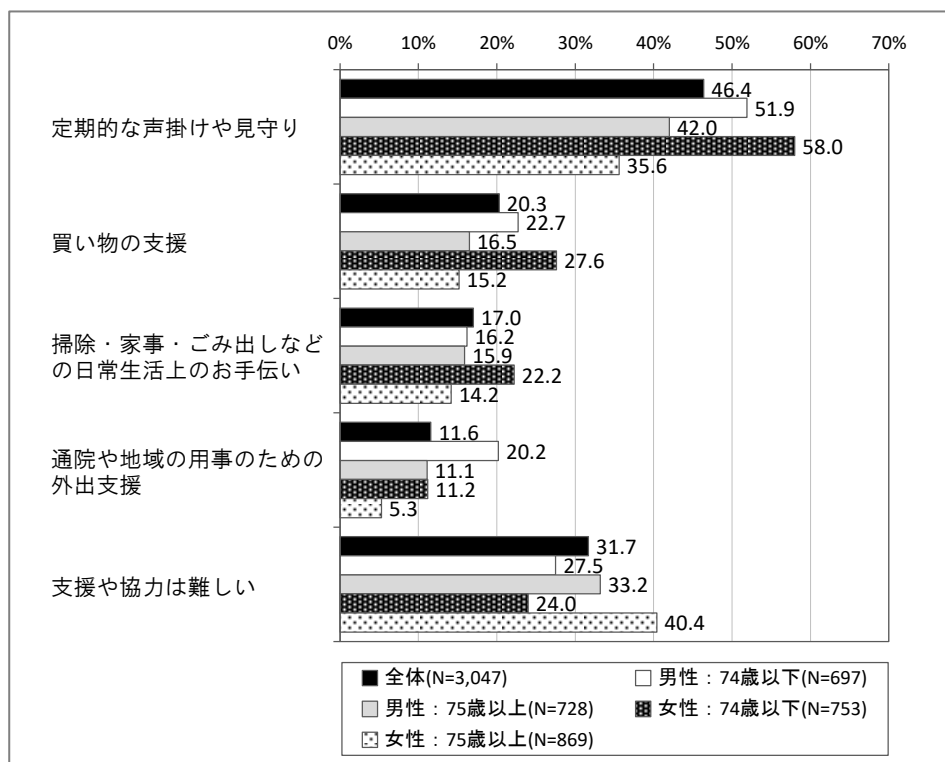
市全体でみると、「定期的な声掛けや見守り」の割合が46.4%と最も高く、次いで「支援や協力は難しい」が31.7%、「買い物の支援」が20.3%、「掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝い」が17.0%となっている。

性別にみると、「通院や地域の用事のための外出支援」は男性が15.6%、女性が8.0%と男性の割合が高くなっている。



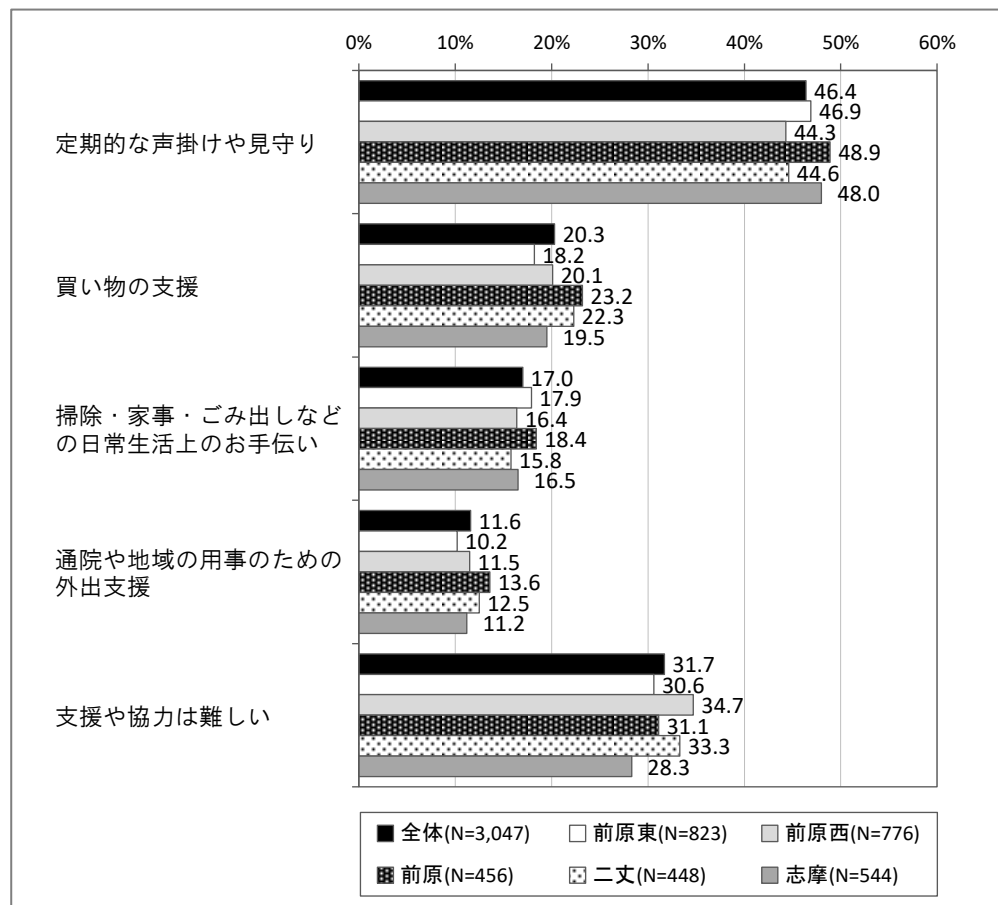
【性別・性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、年代が上がるほど、「支援や協力は難しい」の割合が高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「定期的な声掛けや見守り」の割合は前原圏域で48.9%と高くなっている。一方で前原西圏域は44.3%とやや低くなっている。「支援や協力は難しい」の割合は前原西圏域で34.7%と高く、志摩圏域では28.3%と低くなっている。



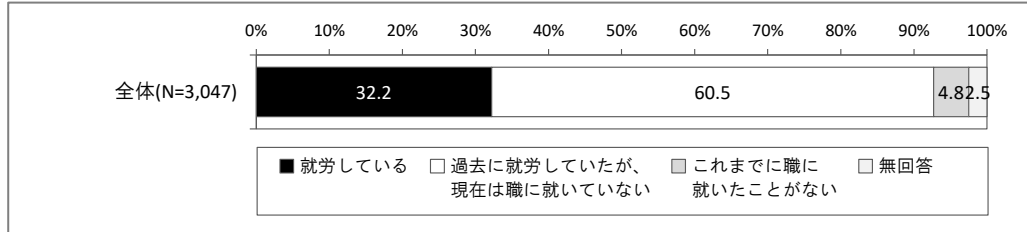
8 就労

(1) 現在の就労状況

現在の就労状況の有無について尋ねた。

【市全体】

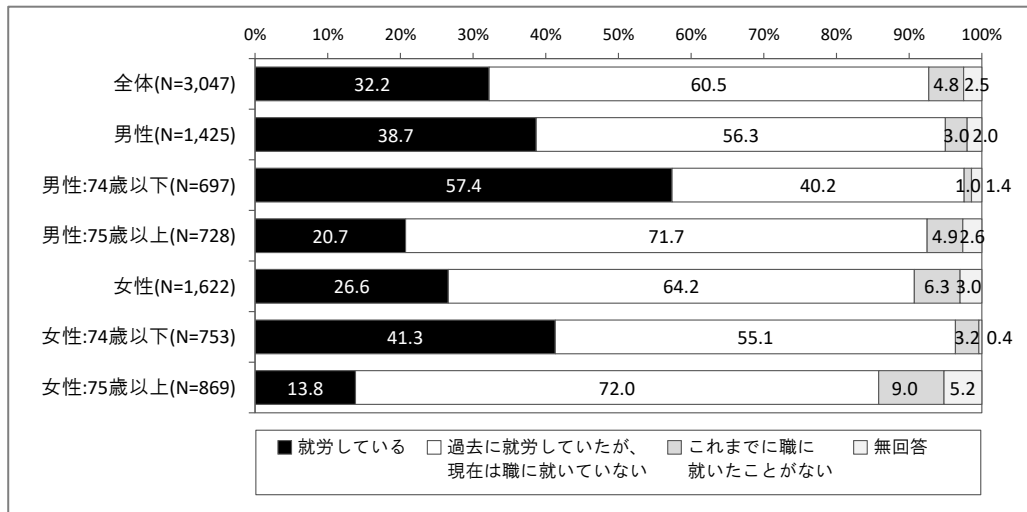
市全体でみると、「過去に就労していたが、現在は職に就いていない」の割合が 60.5%で最も高く、次いで「就労している」が 32.2%、「これまでに職に就いたことがない」が 4.8%となっている。



【性別・性年代別】

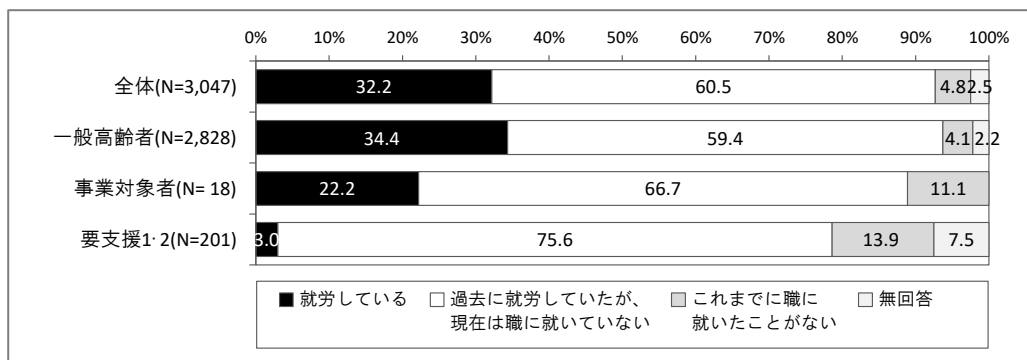
性別にみると、「就労している」の割合は男性が 38.7%であるのに対し、女性は 26.6%と低くなっている。一方「過去に就労していたが、現在は職についていない」の割合は男性が 56.3%であるのに対し、女性は 64.2%と高くなっている。

性年代別にみると、「就労している」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方「過去に就労していたが、現在は職についていない」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「就労している」の割合は、一般高齢者が 34.4%であるのに対し要支援 1・2 では 3.0%と 31.4 ポイント低くなっている。



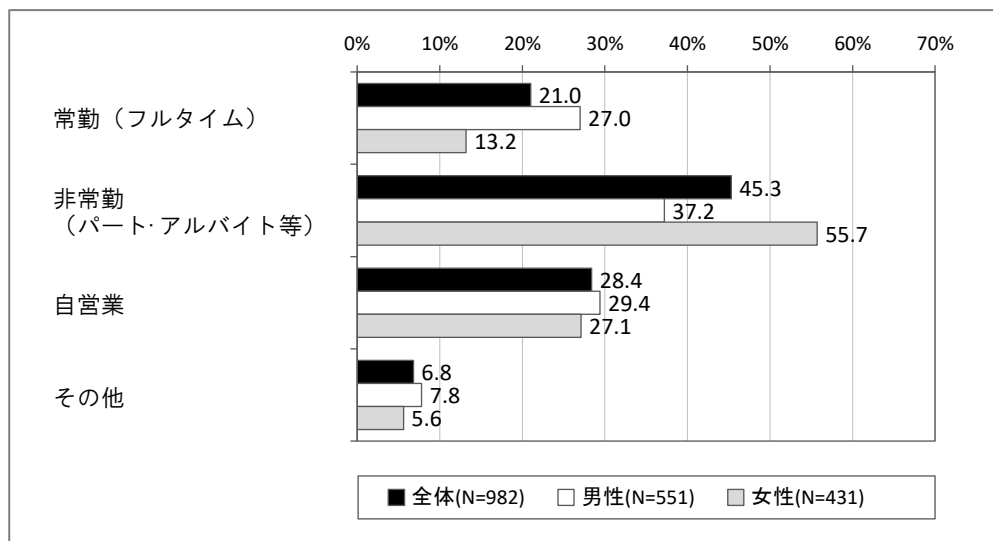
(2) 就労形態（複数回答）

前問にて「就労している」と回答した人に対し、現在の就労形態について尋ねた。

【市全体・性別】

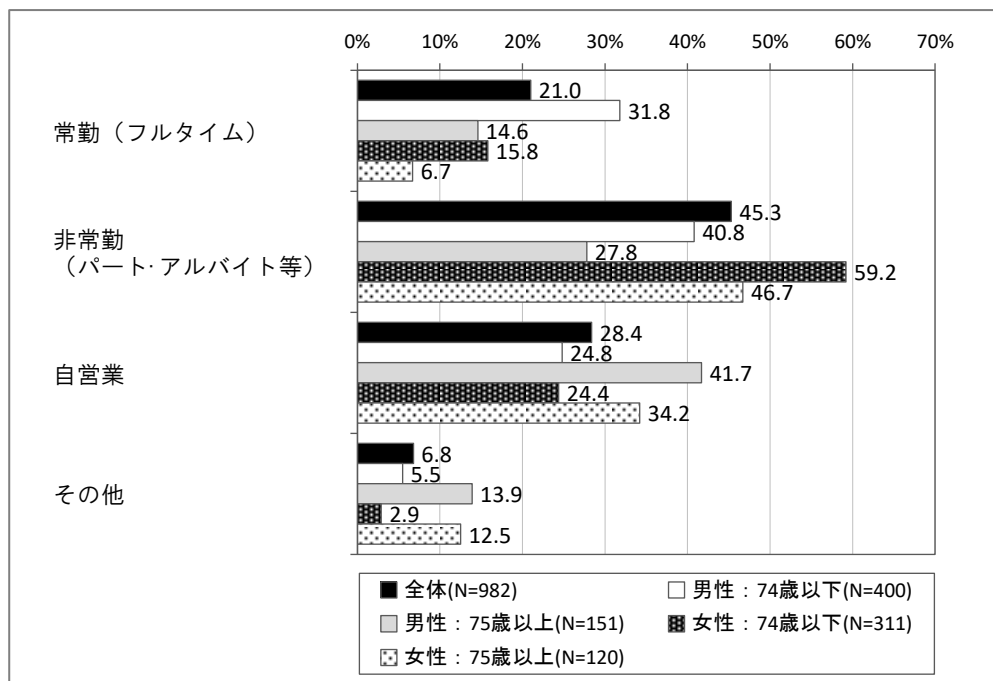
市全体でみると、「非常勤（パート・アルバイト等）」の割合が45.3%で最も高く、次いで「自営業」が28.4%、「常勤（フルタイム）」が21.0%となっている。

性別にみると、「常勤（フルタイム）」の割合は男性が27.0%であるのに対し、女性は13.2%と低くなっている。一方「非常勤（パート・アルバイト等）」の割合は男性が37.2%であるのに対し、女性は55.7%と高くなっている。



【性年代別】

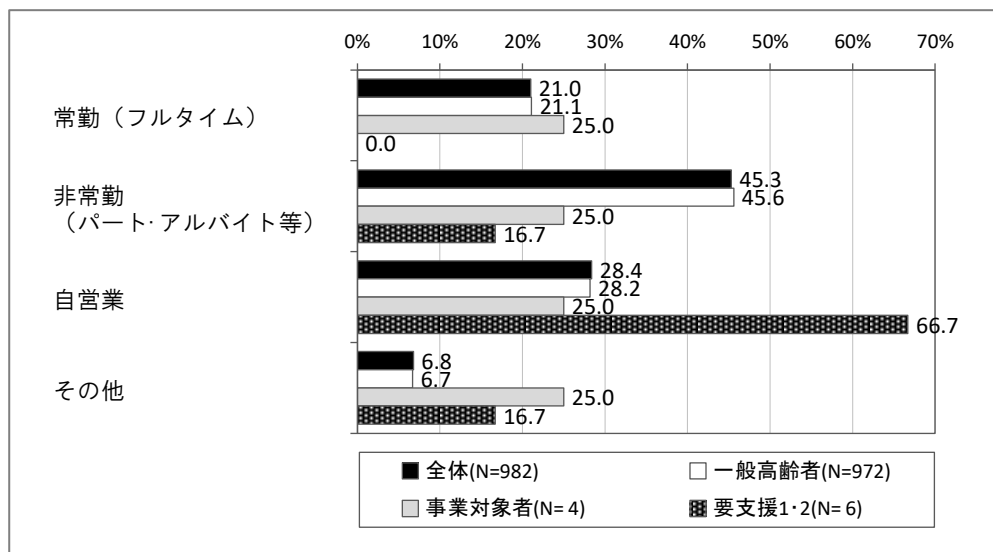
性年代別にみると、「常勤（フルタイム）」「非常勤（パート・アルバイト等）」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方「自営業」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



【要介護度別】

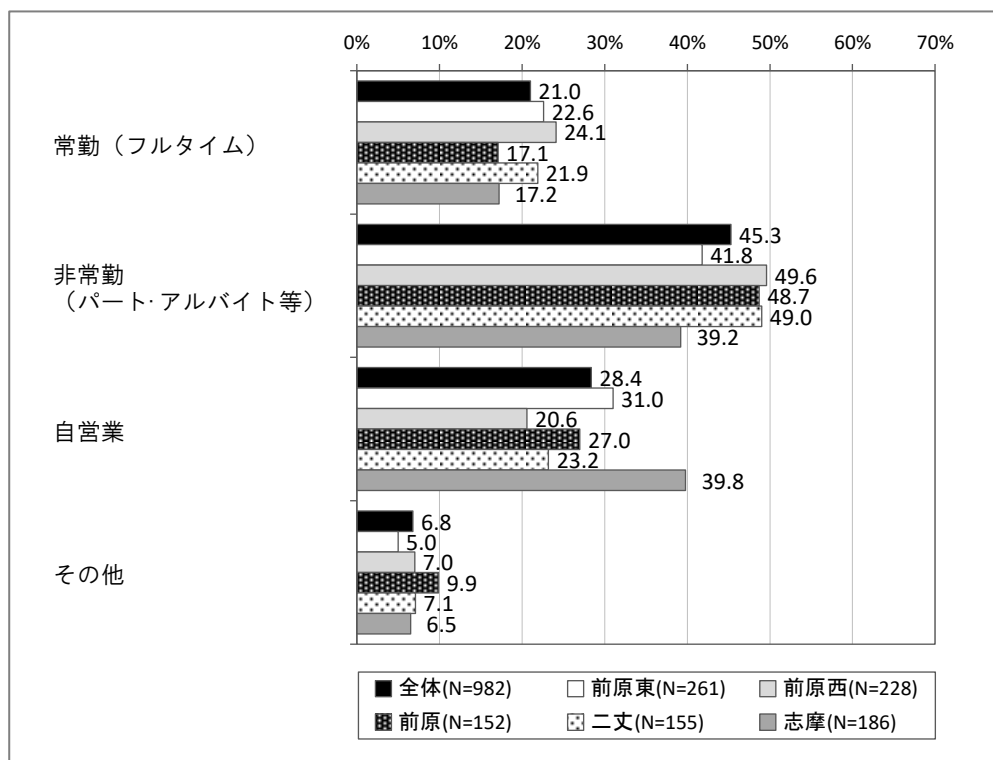
以下の分析は一部分分析項目の回答者数が少ないため参考程度に留める必要がある。

要介護度別にみると、「自営業」の割合は一般高齢者が 28.2%であるのに対し、要支援 1・2 では 66.7%と高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「自営業」の割合は志摩圏域が 39.8%で他圏域と比較して最も高くなっている。一方、「常勤（フルタイム）」「非常勤（パート・アルバイト等）」の割合は志摩圏域が他圏域と比較して最も低くなっている。

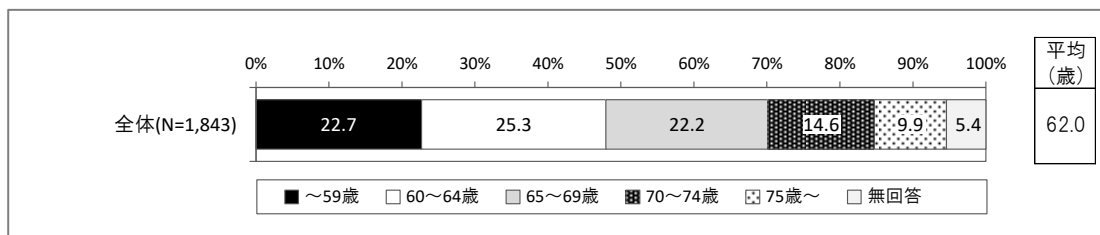


（３）引退した年齢

前問（就労状況について）にて「過去に就労していたが、現在は職についていない」と回答した方に対し、引退した年齢について尋ねた。

【市全体】

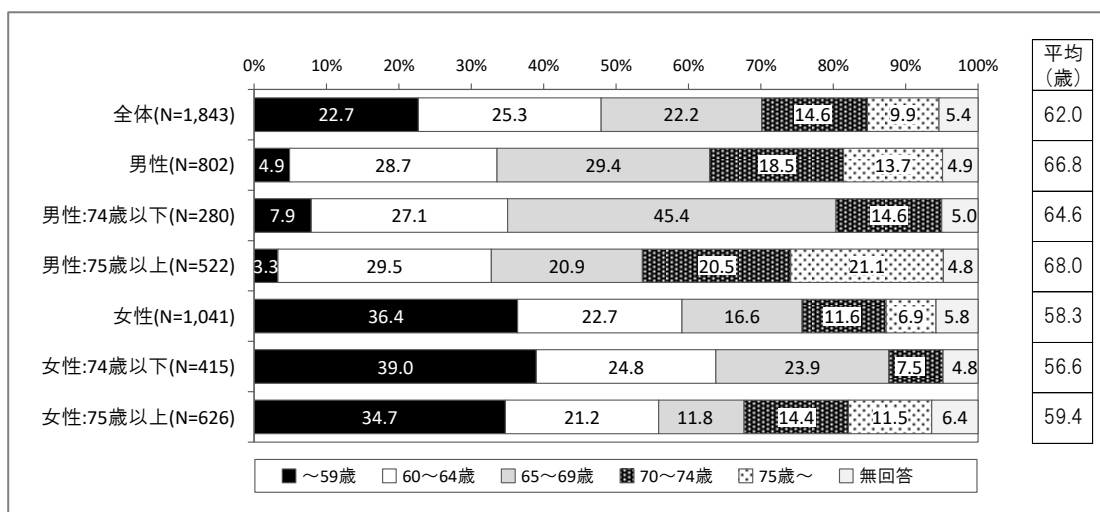
市全体でみると、「60～64 歳」の割合が 25.3%で最も高く、次いで「～59 歳」が 22.7%、「65～69 歳」が 22.2%となっている。



【性別・性年代別】

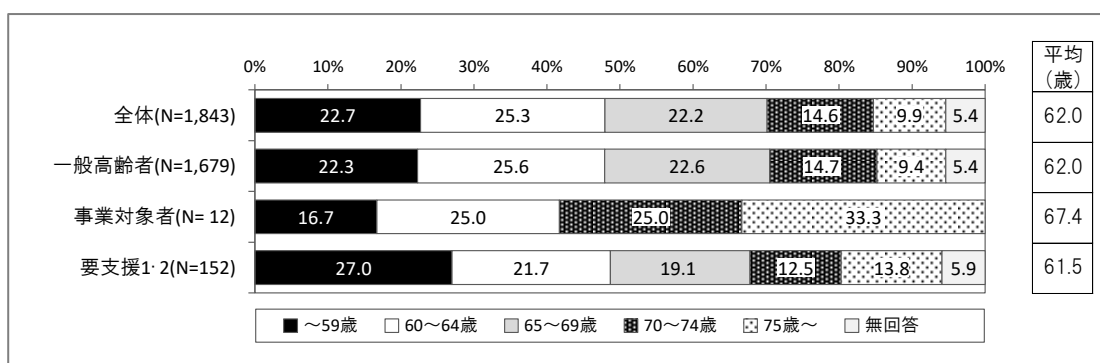
性別にみると、「～59 歳」の割合は男性が 4.9%であるのに対し、女性は 36.4%と高くなっている。一方「65～69 歳」の割合は男性が 29.4%であるのに対し、女性は 16.6%と低くなっている。

性年代別にみると、「65～69 歳」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方「70～74 歳」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「～59 歳」の割合は一般高齢者が 22.3%であるのに対し要支援 1・2 では 27.0%と高くなっている。

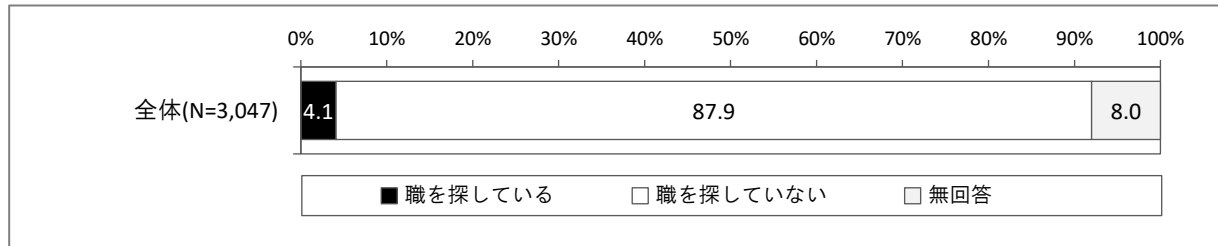


（４）求職状況

現在の求職状況について尋ねた。

【市全体】

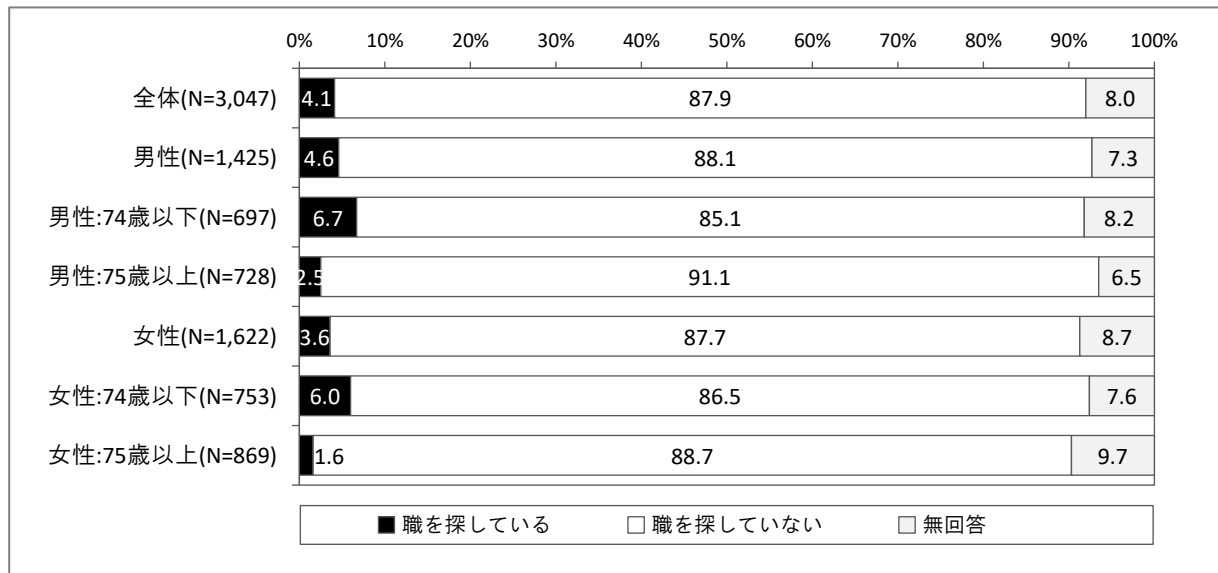
市全体でみると、「職を探している」の割合が4.1%で、「職を探していない」が87.9%となっている。



【性別・性年代別】

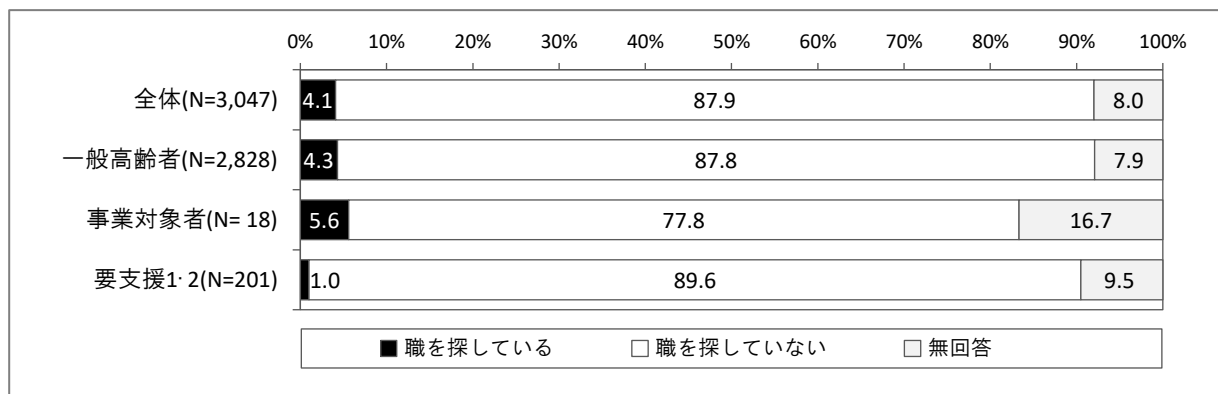
性別にみると、「職を探している」の割合は男性が4.6%であるのに対し、女性は3.6%とやや低くなっている。

性年代別にみると、「職を探している」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「職を探している」の割合は一般高齢者が4.3%であるのに対し要支援1・2では1.0%と低くなっている。



9 移動（外出）支援

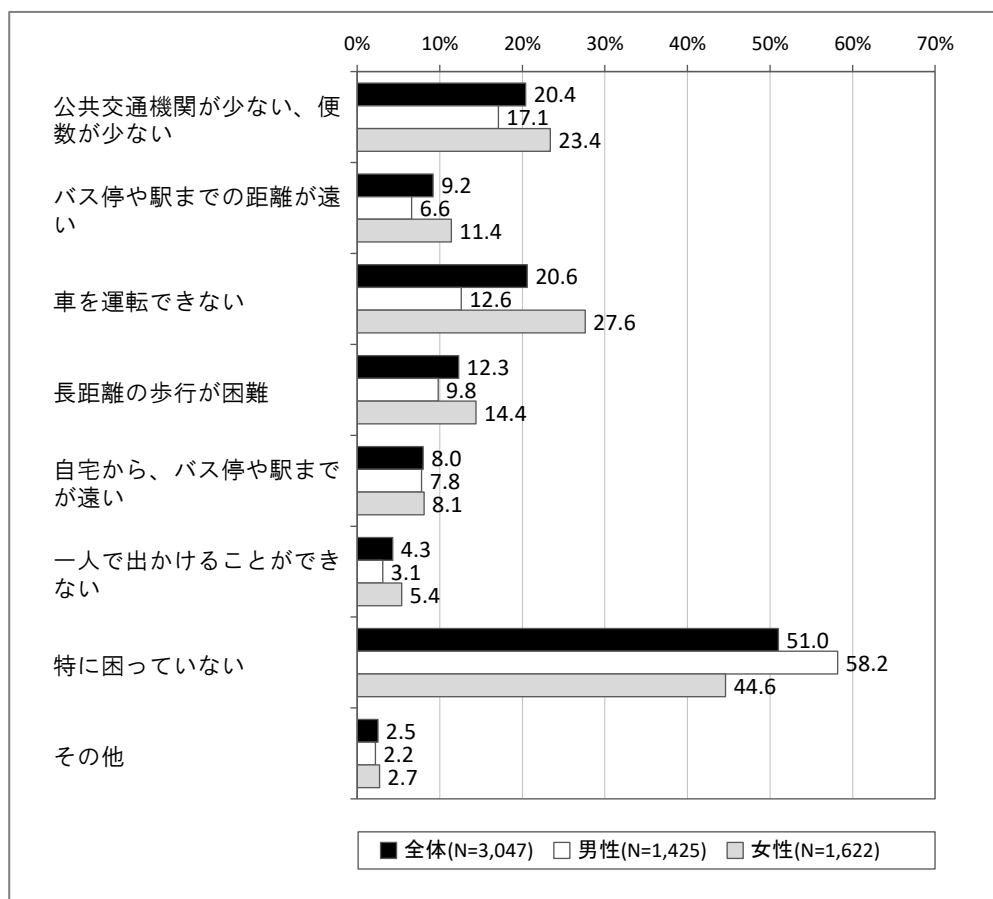
（１）外出する上で困っていること（複数回答）

外出する上で困っていることについて尋ねた。

【市全体・性別】

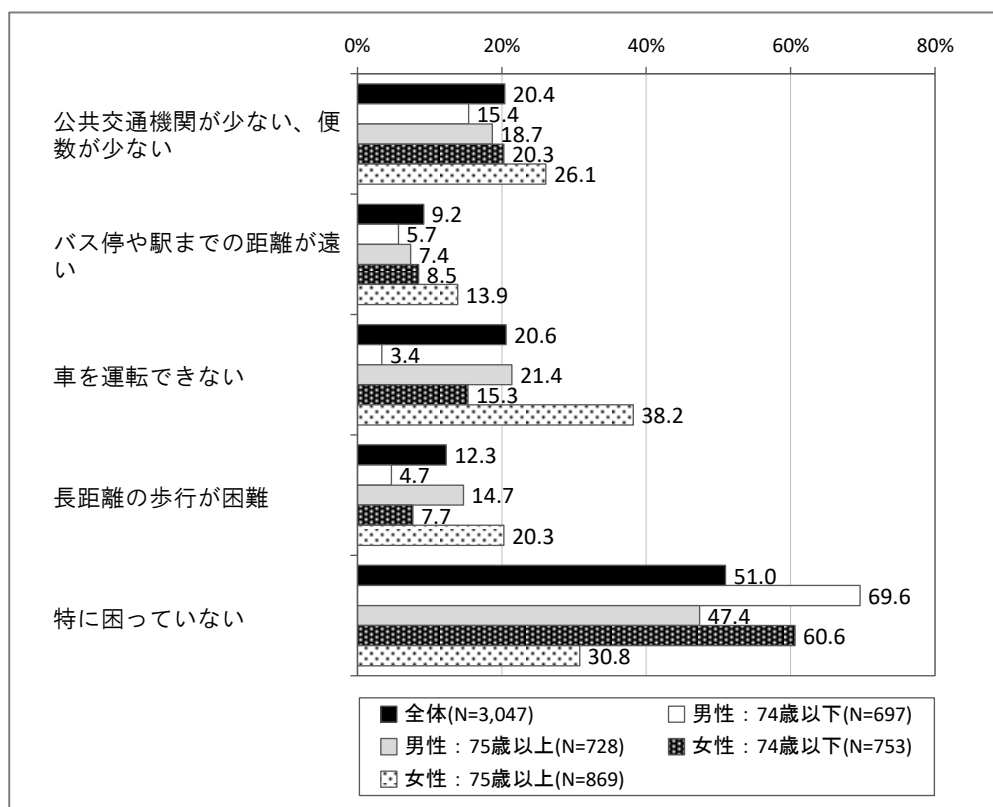
市全体でみると、「特に困っていない」の割合が51.0%で最も高く、次いで「車を運転できない」が20.6%、「公共交通機関が少ない、便数が少ない」が20.4%、「長距離の歩行が困難」が12.3%となっている。

性別にみると、「特に困っていない」の割合は男性が58.2%であるのに対し、女性は44.6%と低くなっている。一方「車を運転できない」や「公共交通機関が少ない、便数が少ない」、「長距離の歩行が困難」等の割合は女性が男性より高くなっている。



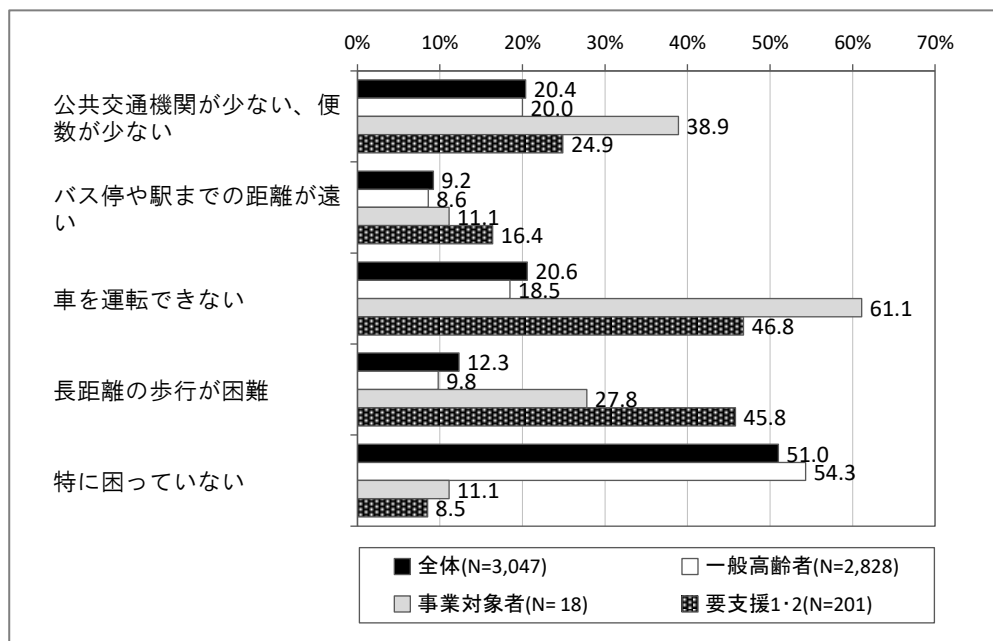
【性別・性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「特に困っていない」以外のすべての項目の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっており、「特に困っていない」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



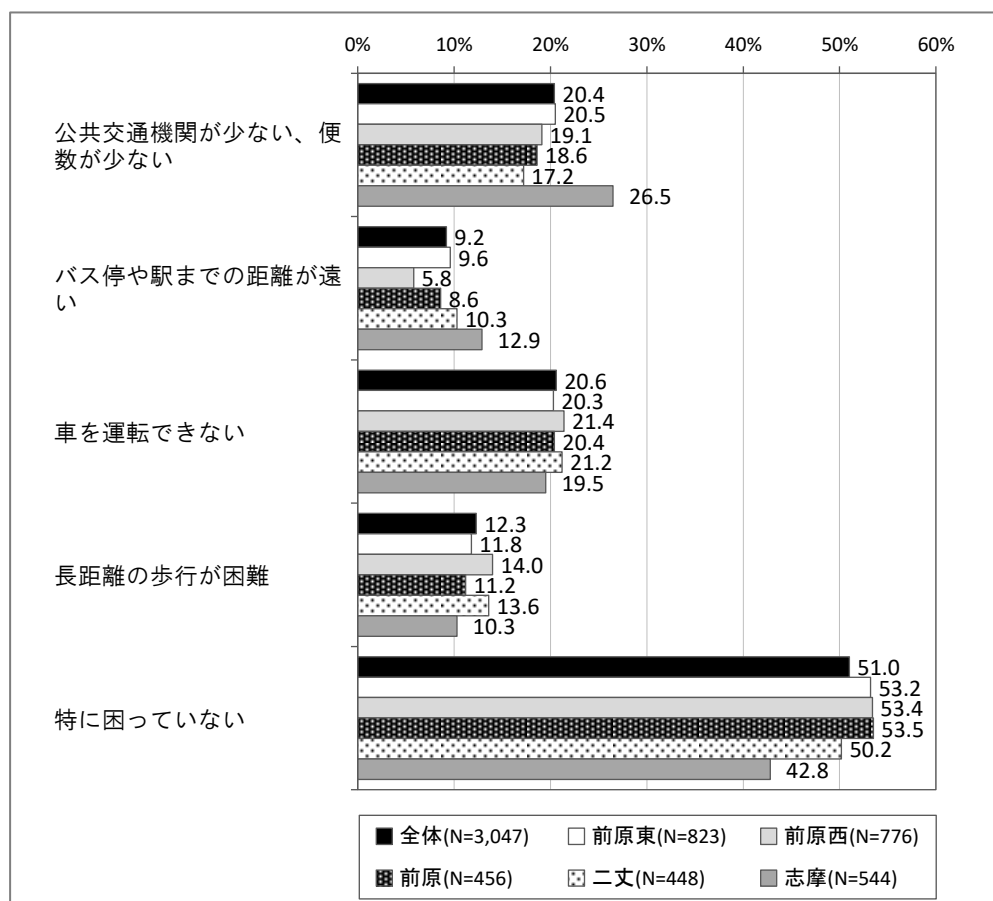
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「車を運転できない」の割合は、一般高齢者が 18.5%であるのに対し要支援 1・2 では 46.8%と 28.3 ポイント高くなっている。また、「特に困っていない」の割合は、一般高齢者が 54.3%であるのに対し要支援 1・2 では 8.5%と低くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「公共交通機関が少ない、便数が少ない」の割合は志摩圏域が 26.5%で他圏域と比較して最も高くなっている。また、「特に困っていない」の割合は志摩圏域が 42.8%と他圏域と比較して最も低くなっている。

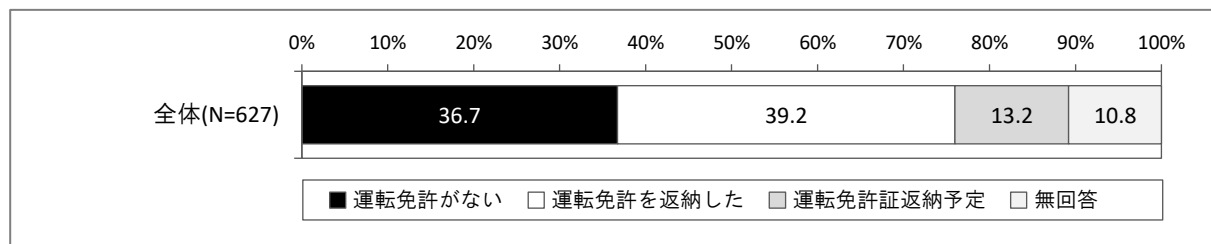


（２）車を運転できない理由

前問（外出する上で困っていること）において「車を運転できない」と回答した方に対し、その理由を尋ねた。

【市全体】

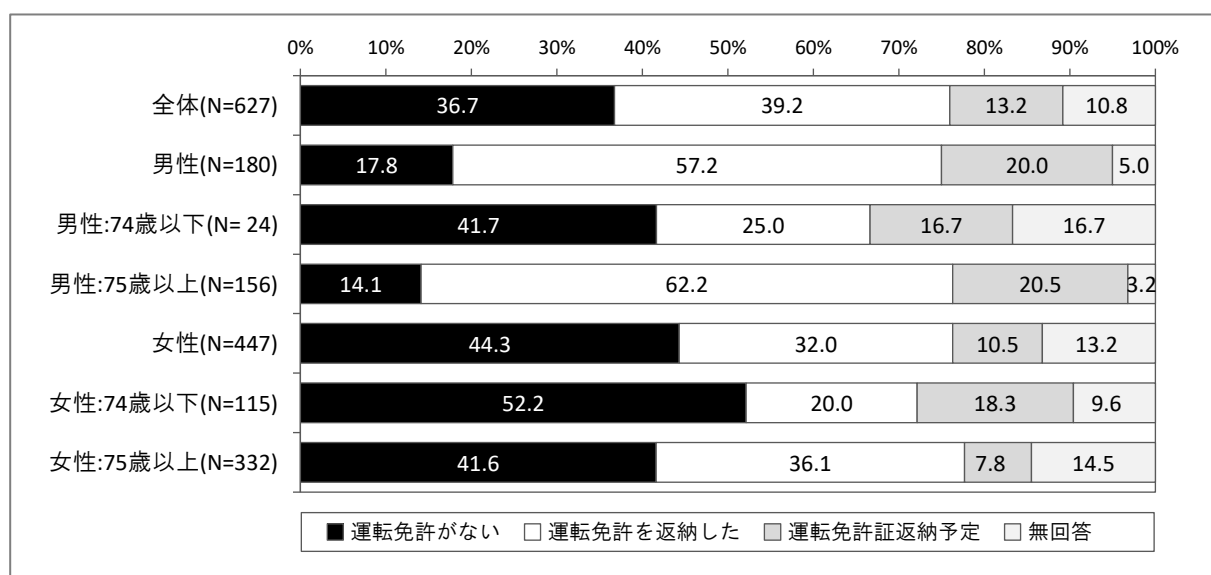
市全体でみると、「運転免許を返納した」の割合が 39.2%で最も高く、次いで「運転免許がない」が 36.7%、「運転免許証返納予定」が 13.2%となっている。



【性別・性年代別】

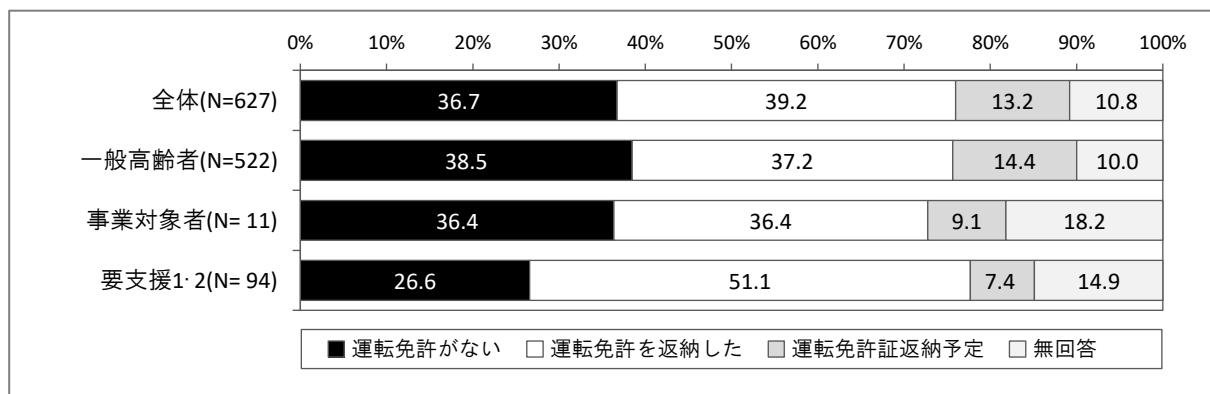
性別にみると、「運転免許を返納した」の割合は男性が 57.2%であるのに対し、女性は 32.0%と低くなっている。一方「運転免許がない」の割合は男性が 17.8%であるのに対し、女性は 44.3%と低くなっている。

性年代別にみると、「運転免許を返納した」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。一方「運転免許がない」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



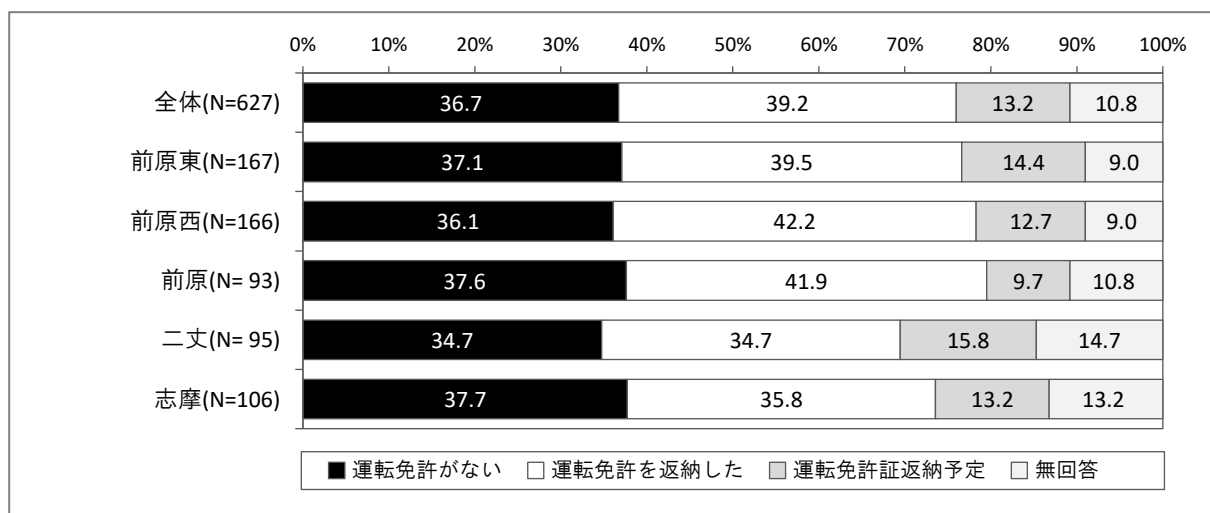
【要介護度別】

要介護度別にみると、「運転免許を返納した」の割合は一般高齢者が 37.2%であるのに対し要支援 1・2 では 51.1%と 13.9 ポイント高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「運転免許を返納した」の割合は前原西圏域が 42.2%で他圏域と比較し、最も高くなっている。

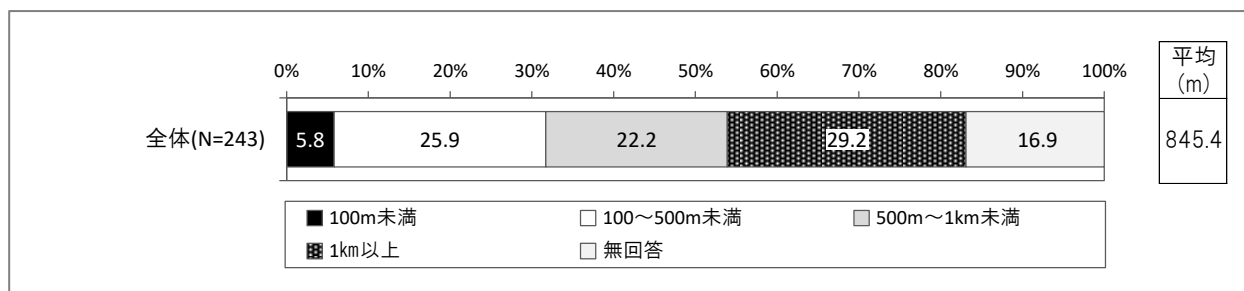


(3) 一番近いバス停や駅までの距離

前問（外出する上で困っていること）において「自宅からバス停や駅までの距離が遠い」と回答した方に対し、実際の距離を尋ねた。

【市全体】

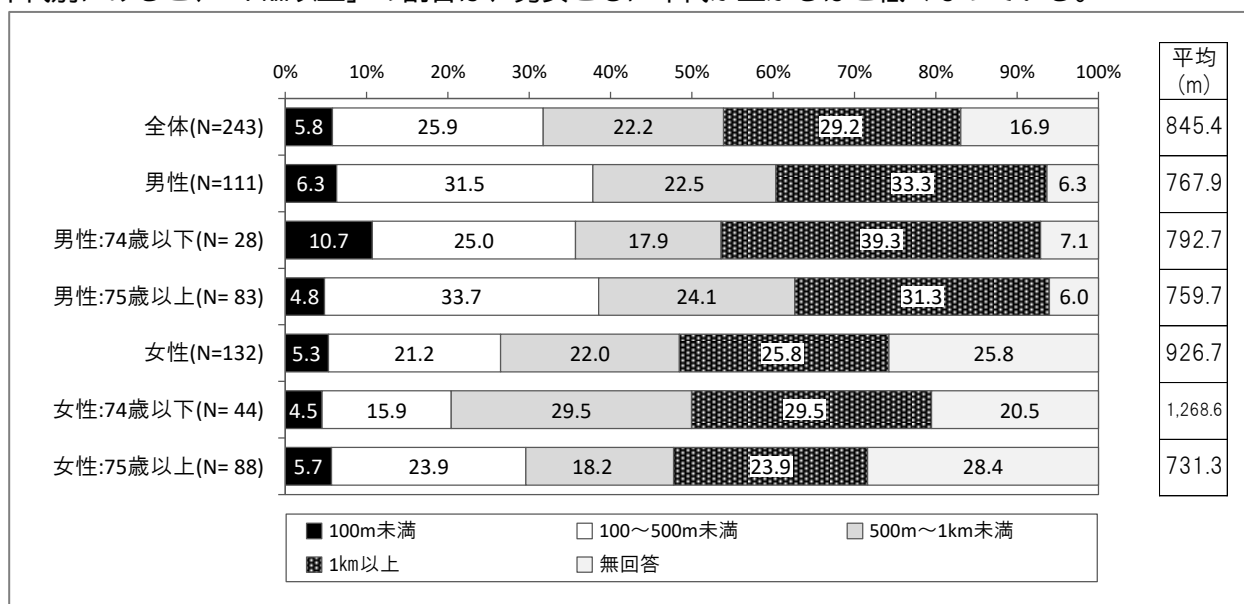
市全体でみると、「1km 以上」の割合が 29.2%で最も高く、次いで「100～500m 未満」が 25.9%、「500m～1km 未満」が 22.2%となっている。



【性別・性年代別】

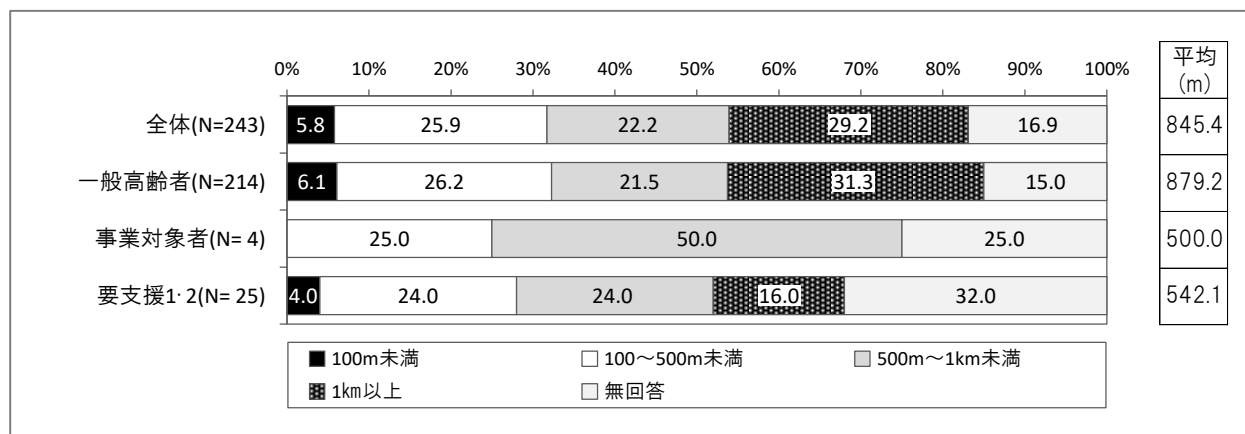
性別にみると、男女ともに「1 km以上」の割合が最も高く、次いで男性では「100～500m 未満」が 31.5%、女性では「500m～1km 未満」が 22.0%で高くなっている。

性年代別にみると、「1 km以上」の割合は、男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



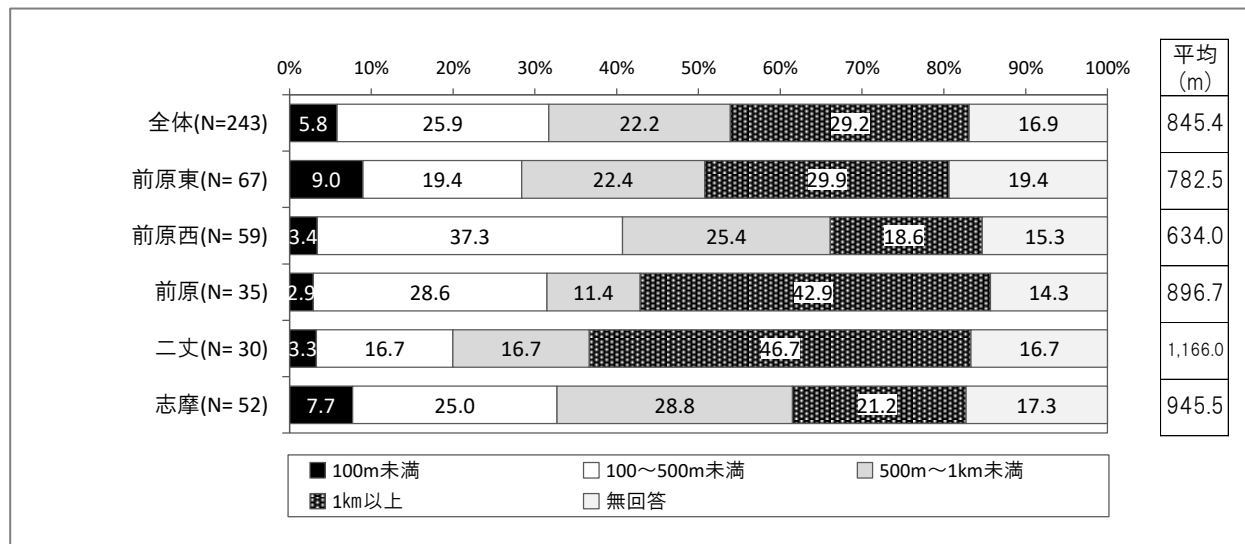
【要介護度別】

要介護度別にみると、「1km 以上」の割合は、一般高齢者が 31.3%であるのに対し要支援 1・2 では 16.0%と 15.3 ポイント低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「1km 以上」の割合は二丈圏域が 46.7%、前原圏域は 42.9%と他圏域と比較し、高くなっている。

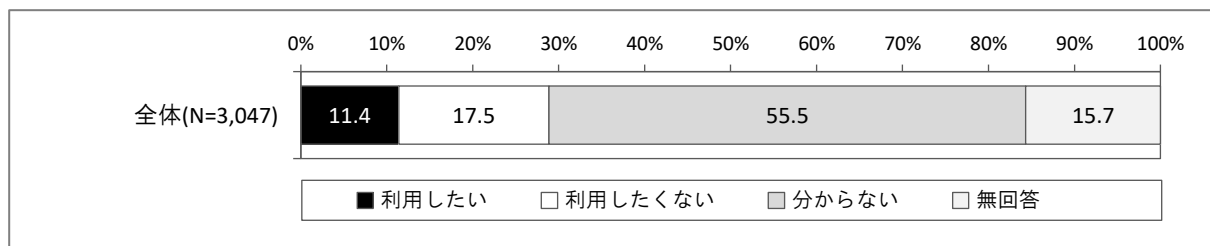


（４）住民どうしの移動支援についての利用意向

住民どうしの移動支援についての利用意向を尋ねた。

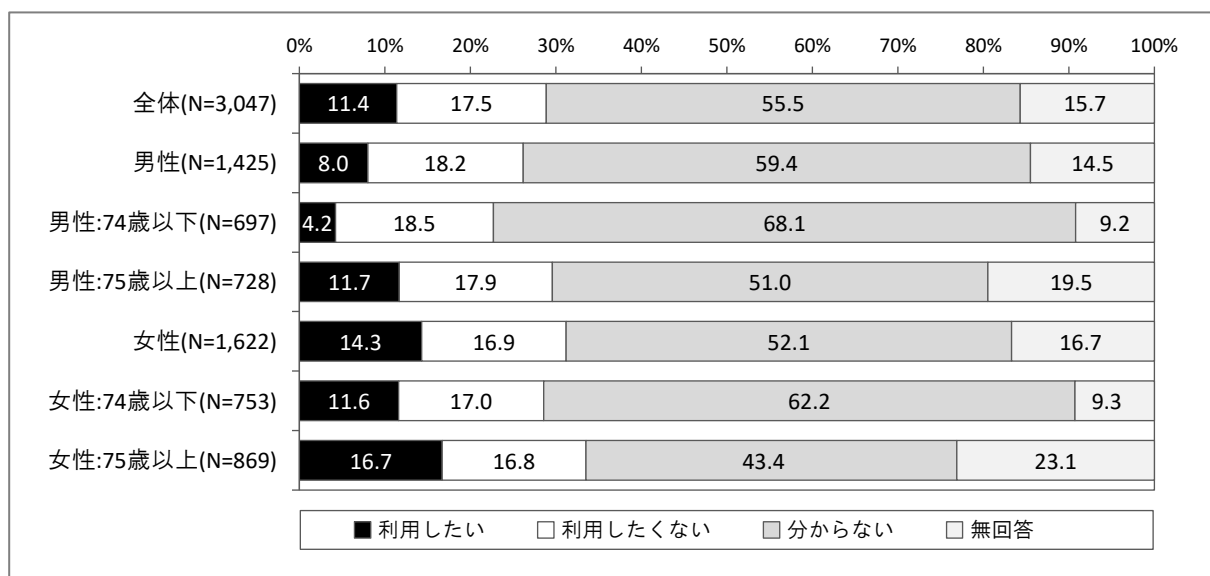
【市全体】

市全体でみると、「分からない」の割合が 55.5%で最も高く、次いで「利用したくない」が 17.5%、「利用したい」が 11.4%となっている。



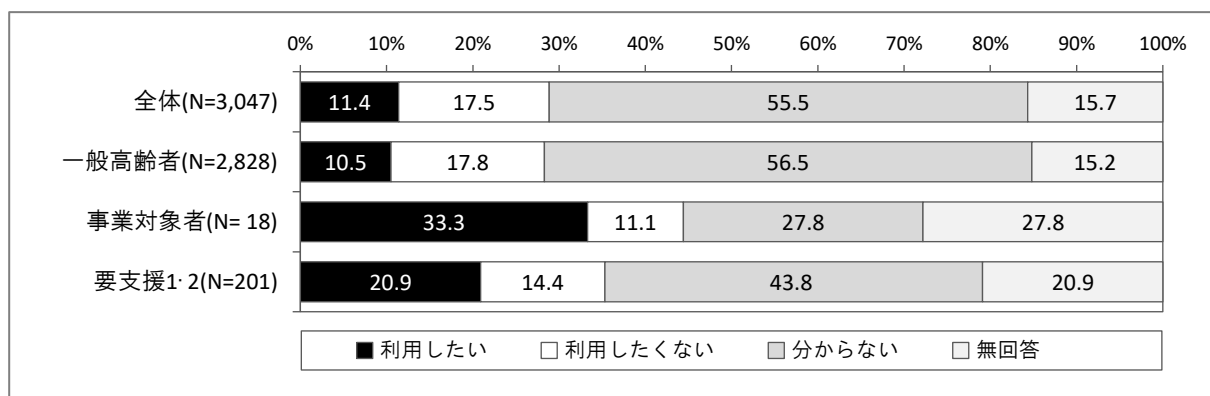
【性別・性年代別】

性別にみると、「利用したい」の割合は男性が 8.0%であるのに対し、女性は 14.3%と高くなっている。性年代別にみると、「利用したい」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



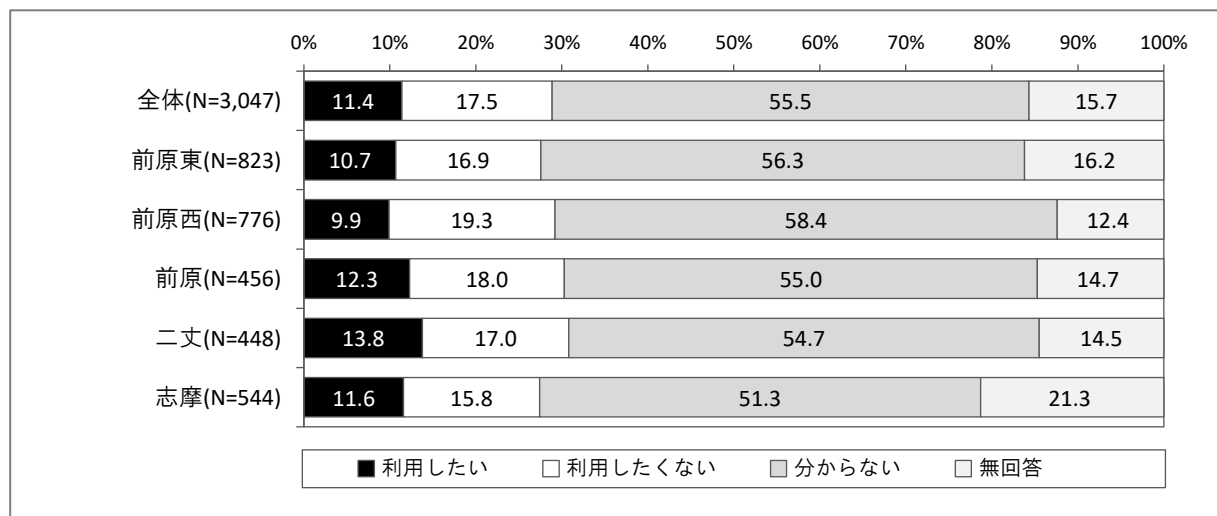
【要介護度別】

要介護度別にみると、「利用したい」の割合は、一般高齢者が 10.5%であるのに対し要支援 1・2 では 20.9%と 10.4 ポイント高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「利用したい」の割合は二丈圏域が13.8%で他圏域と比較して最も高くなっており、前原西圏域は9.9%で他圏域と比較して最も低くなっている。



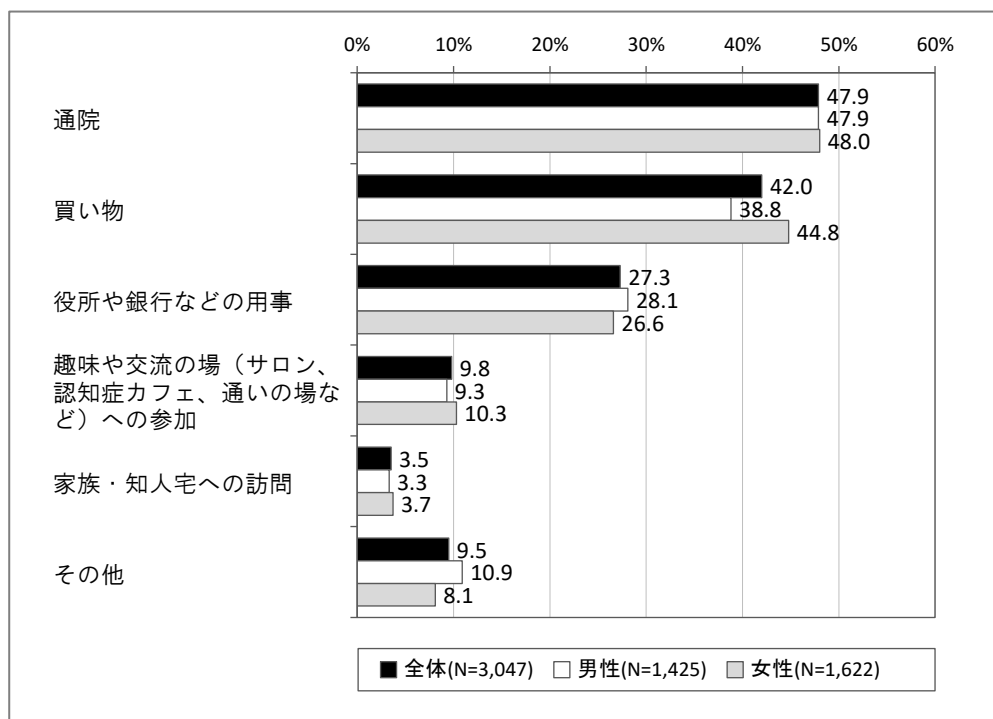
(5) 住民どうしの移動支援を利用したい場面（複数回答）

住民どうしの移動支援を利用したい場面について尋ねた。

【市全体・性別】

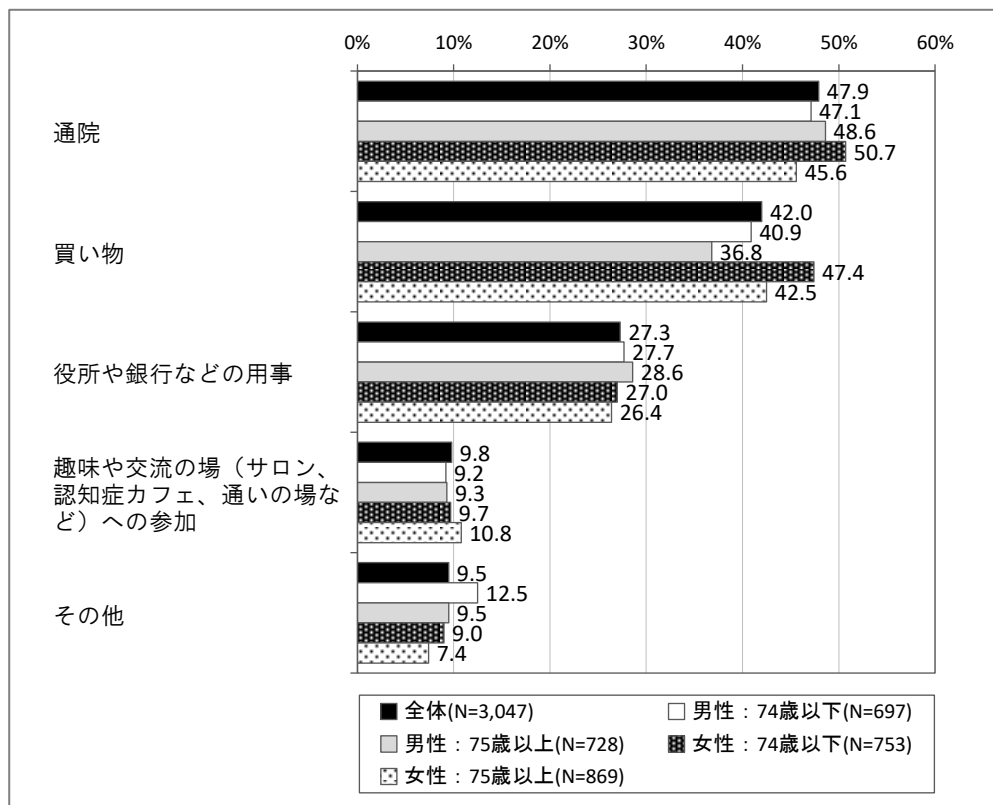
市全体でみると、「通院」の割合が47.9%で最も高く、次いで「買い物」が42.0%、「役所や銀行などの用事」が27.3%となっている。

性別にみると、「買い物」の割合は男性が38.8%であるのに対し、女性は44.8%と高くなっている。



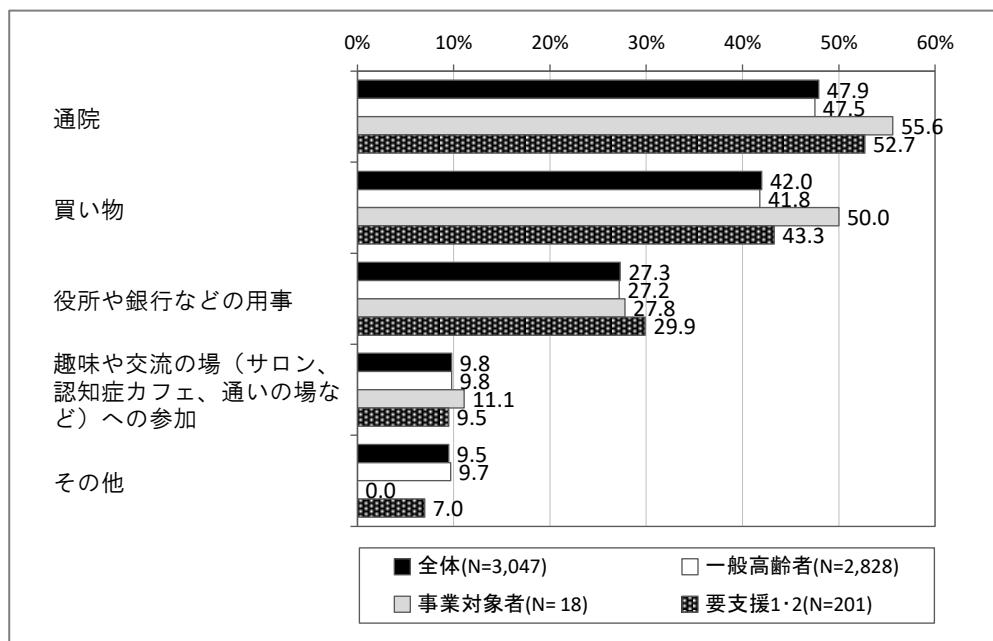
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「買い物」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



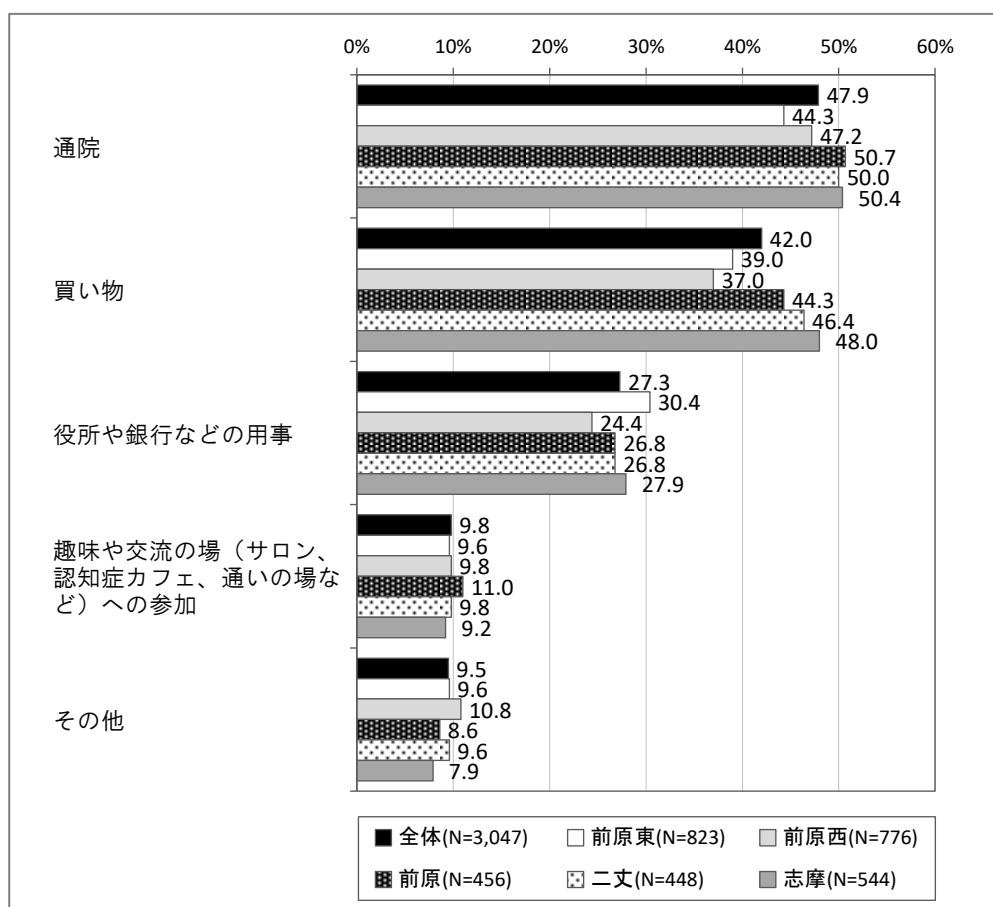
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「通院」の割合は、一般高齢者が 47.5%であるのに対し要支援1・2では 52.7%と 5.2ポイント高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「買い物」の割合は志摩圏域が48.0%で他圏域と比較して最も高くなっており、最も低い前原西圏域37.0%と比較して11ポイントの差がある。



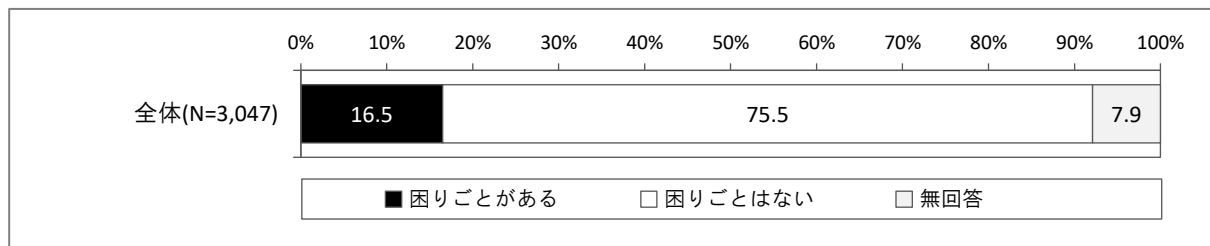
10 居住支援

(1) 住まいに関する困りごと

住まいに関する困りごとの有無について尋ねた。

【市全体】

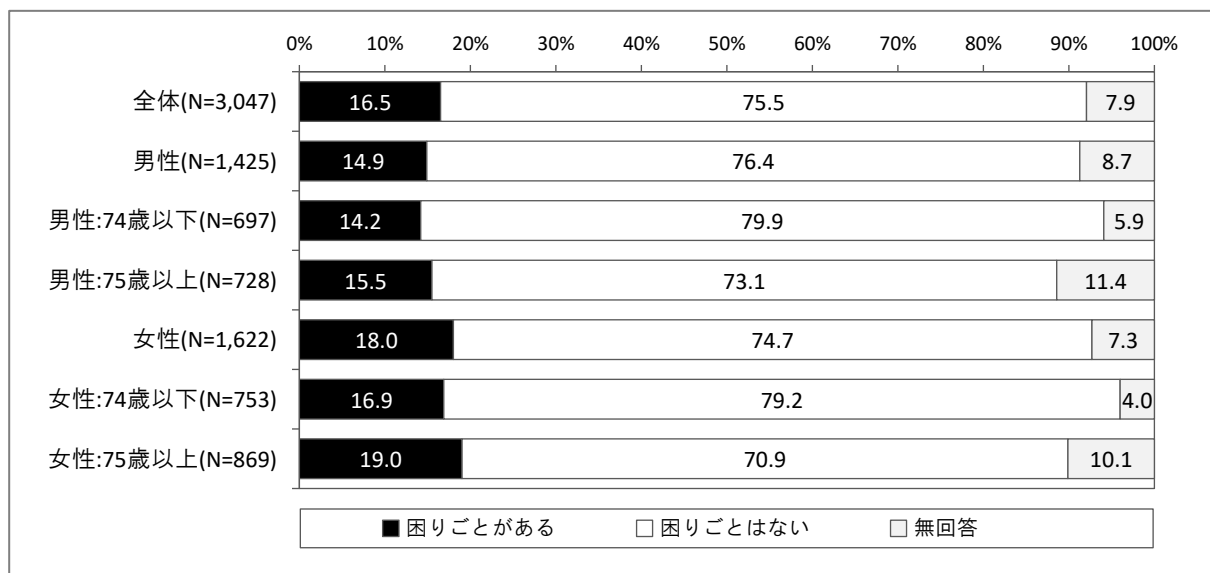
市全体でみると、「困りごとがある」の割合が16.5%、「困りごとはない」の割合が75.5%となっている。



【性別・性年代別】

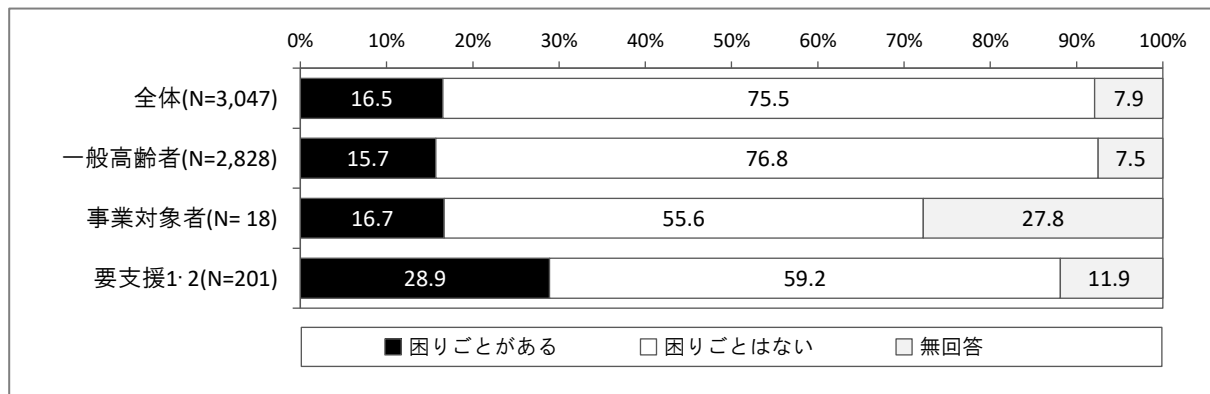
性別にみると、「困りごとがある」の割合は男性が14.9%であるのに対し、女性は18.0%と高くなっている。

性年代別にみると、「困りごとがある」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



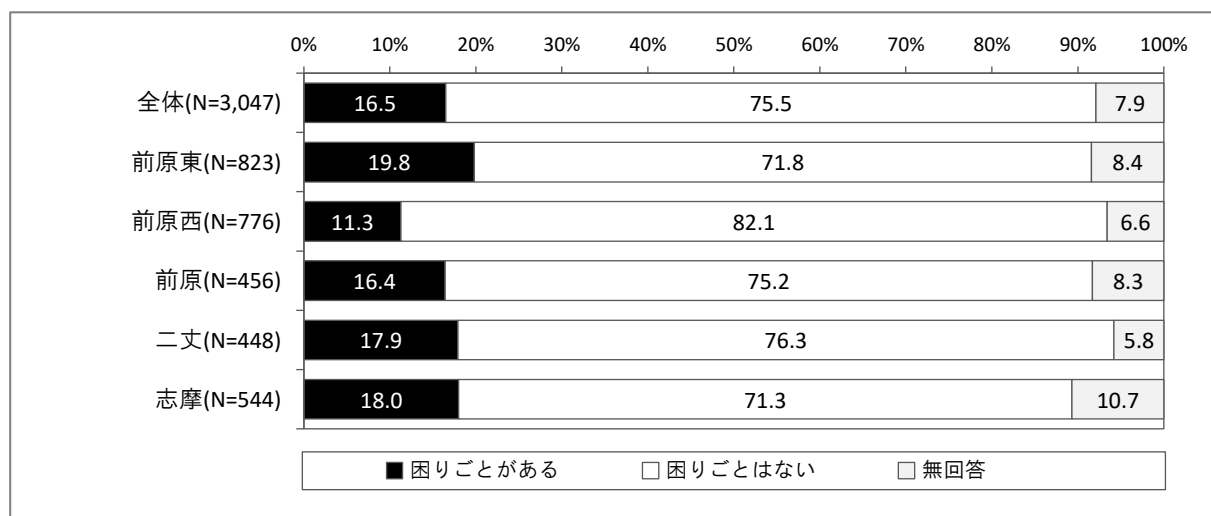
【要介護度別】

要介護度別にみると、「困りごとがある」の割合は、一般高齢者が15.7%であるのに対し要支援1・2では28.9%と13.2ポイント高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「困りごとがある」の割合は前原東圏域が 19.8%で他圏域と比較して最も高くなっており、最も低い前原西圏域 11.3%と比較して 8.5 ポイントの差がある。



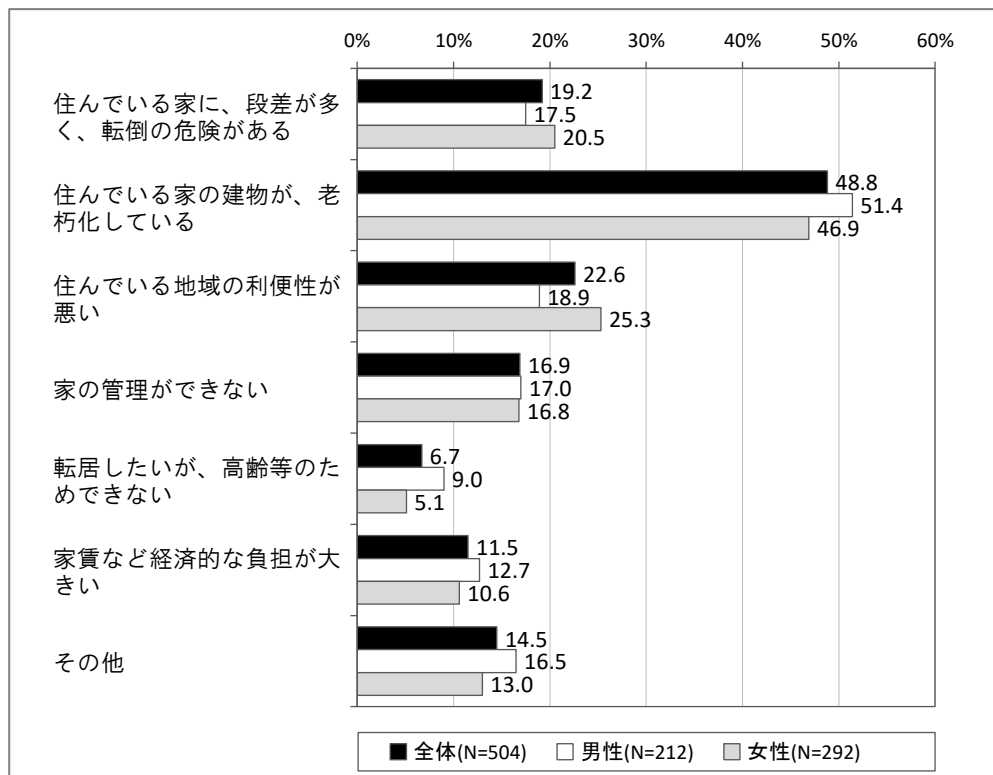
(2) 住まいに関する困りごとの内容（複数回答）

前問にて「困りごとがある」と回答した方に対し、困りごとの内容について尋ねた。

【市全体・性別】

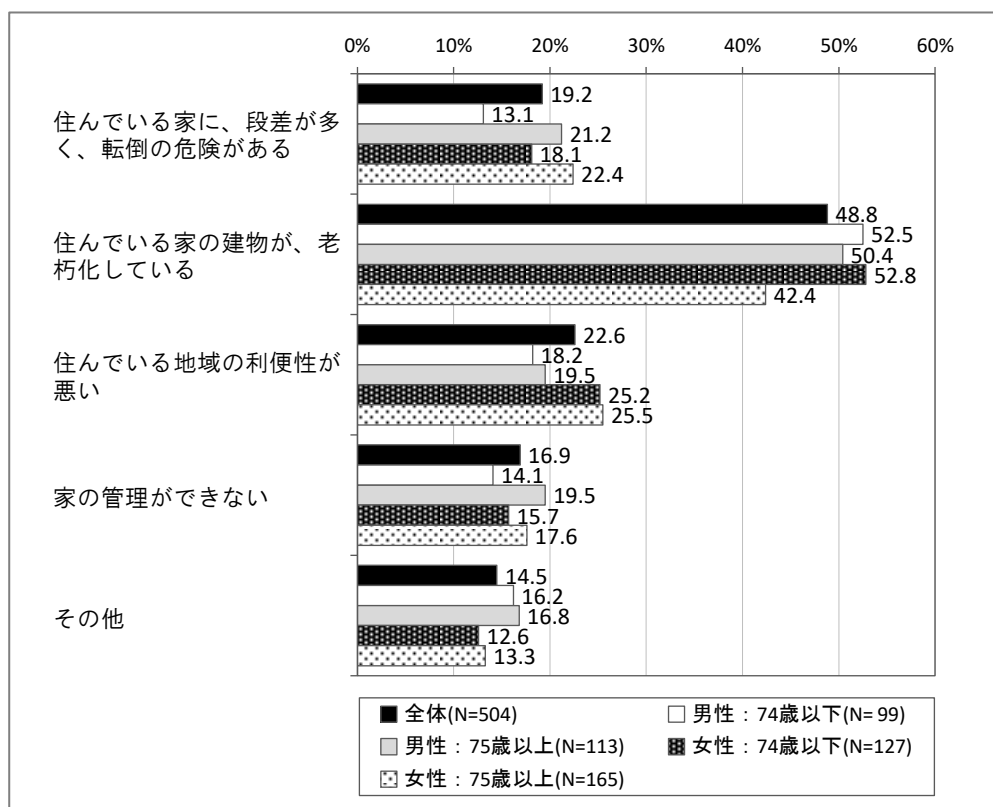
市全体でみると、「住んでいる家の建物が、老朽化している」の割合が48.8%で最も高く、次いで「住んでいる地域の利便性が悪い」が22.6%、「住んでいる家に、段差が多く、転倒の危険がある」が19.2%となっている。

性別にみると、「住んでいる家に、段差が多く、転倒の危険がある」や「住んでいる地域の利便性が悪い」の割合は男性より女性がやや高くなっている。



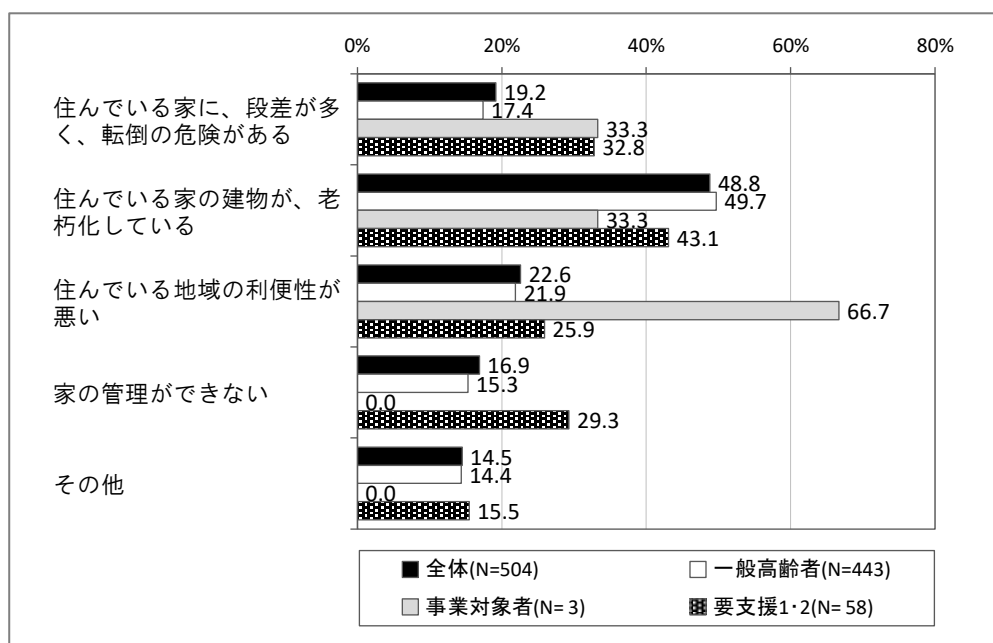
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「住んでいる家に、段差が多く、転倒の危険がある」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



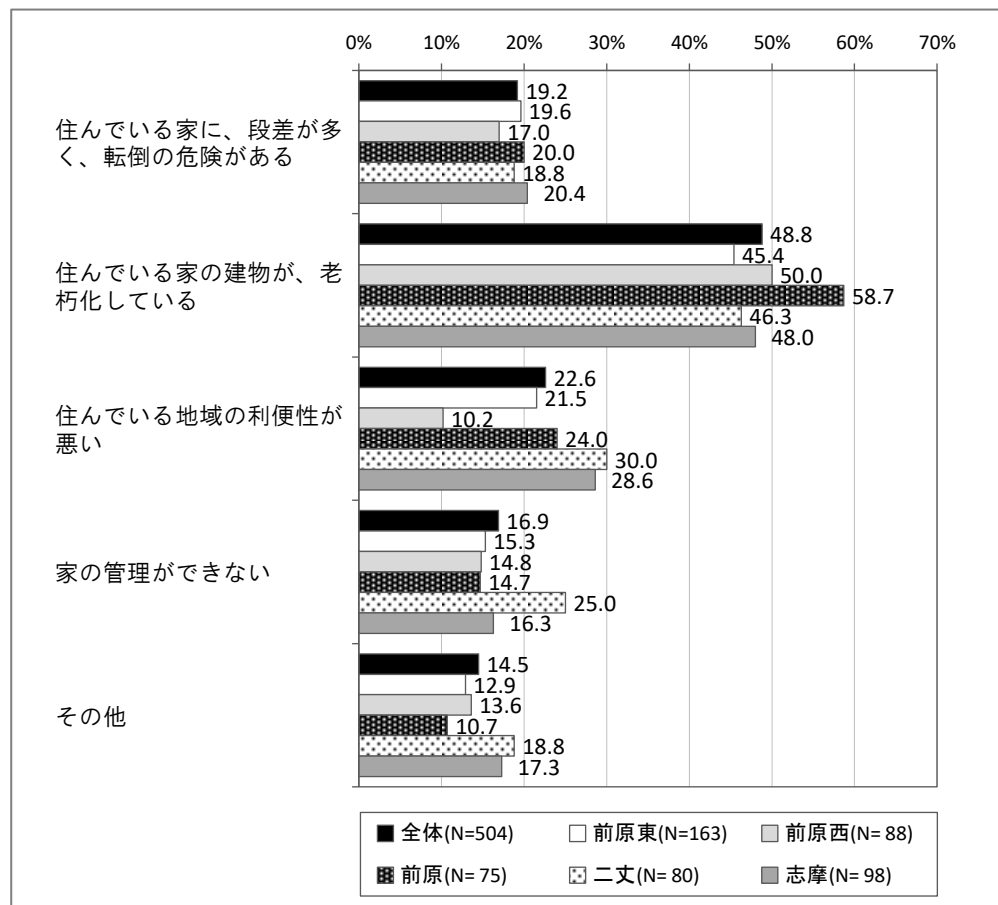
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「住んでいる家に、段差が多く、転倒の危険がある」や「家の管理ができない」の割合は、一般高齢者に対し要支援1・2が10ポイント以上高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「住んでいる地域の利便性が悪い」の割合は二丈圏域が 30.0%で他圏域と比較して最も高くなっており、最も低い前原西圏域 10.2%と比較して 19.8 ポイントの差がある。「家の管理ができない」の割合は二丈圏域が 25.0%で他圏域と比較して最も高く、他圏域とはそれぞれ 10%前後差がある。



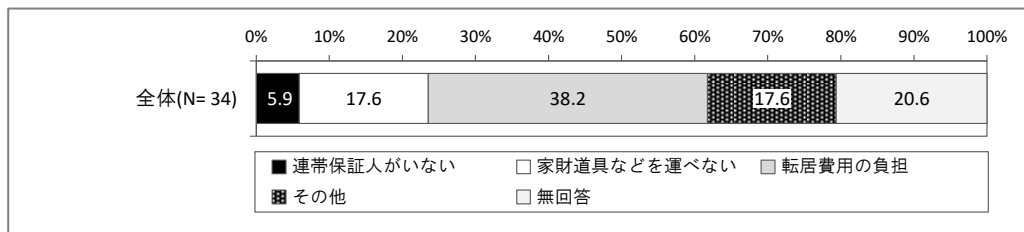
（３）転居したいができない理由

前問にて「転居したいが、高齢等のためできない」と回答した方に対し、転居したいができない詳細の理由について尋ねた。

以下の分析は回答者数が少ないため、参考程度にとどめる必要がある。

【市全体】

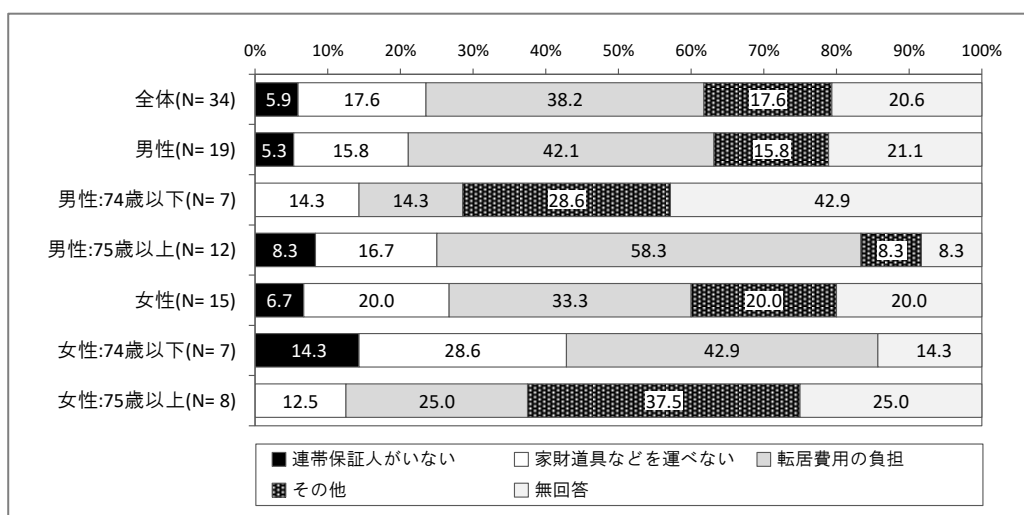
市全体でみると、「転居費用の負担」の割合が 38.2%で最も高く、次いで「家財道具などを運べない」と「その他」が 17.6%、「連帯保証人がいない」が 5.9%となっている。



【性別・性年代別】

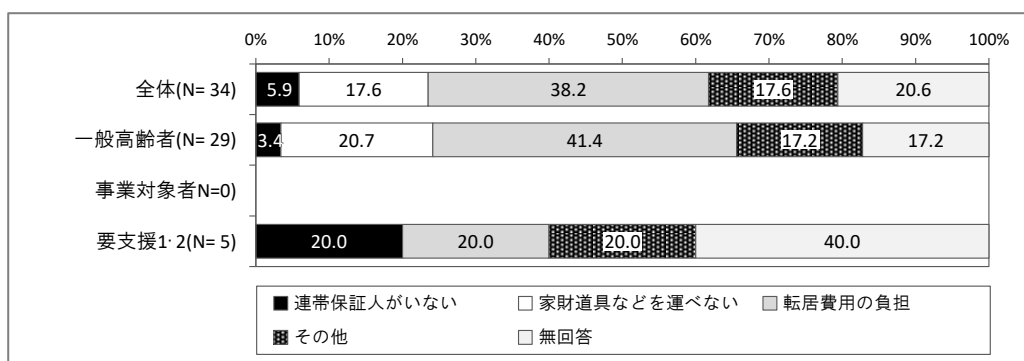
性別にみると、「転居費用の負担」の割合は男性が 42.1%であるのに対し、女性は 33.3%と低くなっている。「家財道具などを運べない」の割合は男性が 15.8%であるのに対し、女性は 20.0%と高くなっている。

性年代別にみると、「転居費用の負担」の割合は男性 74 歳以下では 14.3%であるのに対し、男性 75 歳以上では 58.3%と高くなっている。



【要介護度別】

要介護度別にみると、「転居費用の負担」の割合は、一般高齢者が 41.4%であるのに対し要支援 1・2 では 20.0%と低くなっている。



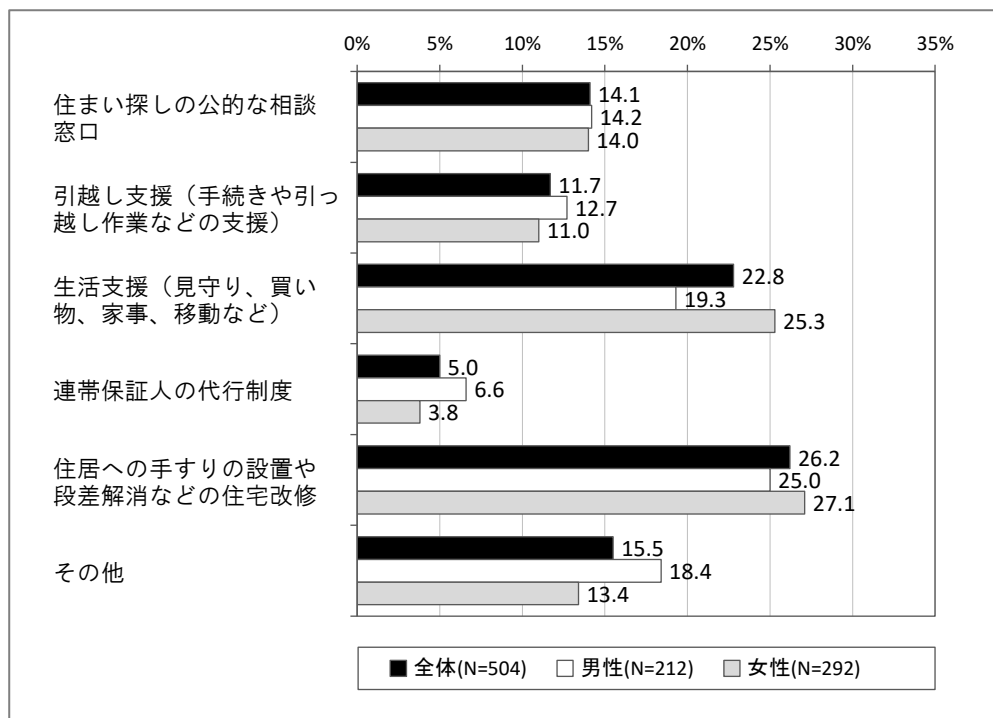
(4) あると良い居住支援（複数回答）

前問にて「困りごとがある」と回答した方に対し、あると良い居住支援について尋ねた。

【市全体・性別】

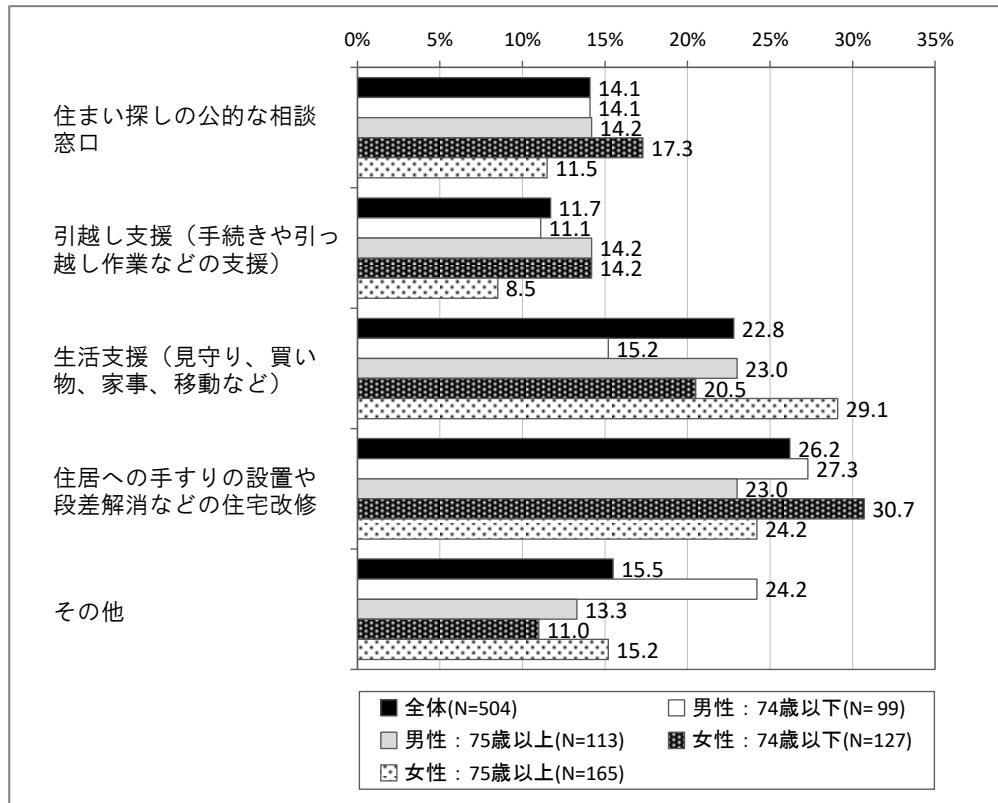
市全体でみると、「住居への手すりの設置や段差解消などの住宅改修」の割合が26.2%で最も高く、次いで「生活支援（見守り、買い物、家事、移動など）」が22.8%、「その他」が15.5%となっている。

性別にみると、「生活支援（見守り、買い物、家事、移動など）」の割合は男性が19.3%であるのに対し、女性 は25.3%と高くなっている。



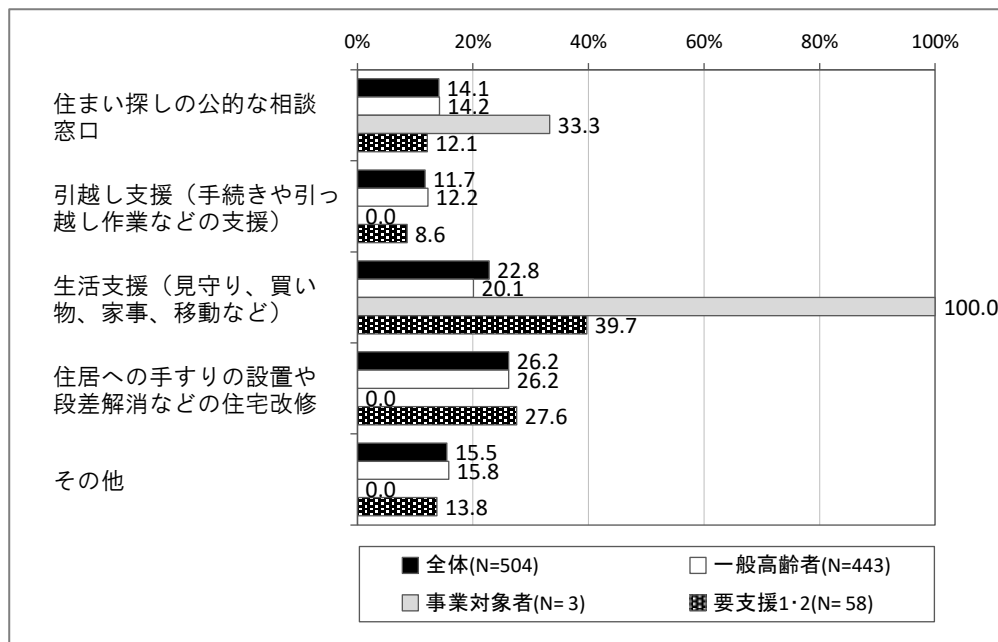
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「住居への手すりの設置や段差解消などの住宅改修」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。一方で、「生活支援（見守り、買い物、家事、移動など）」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



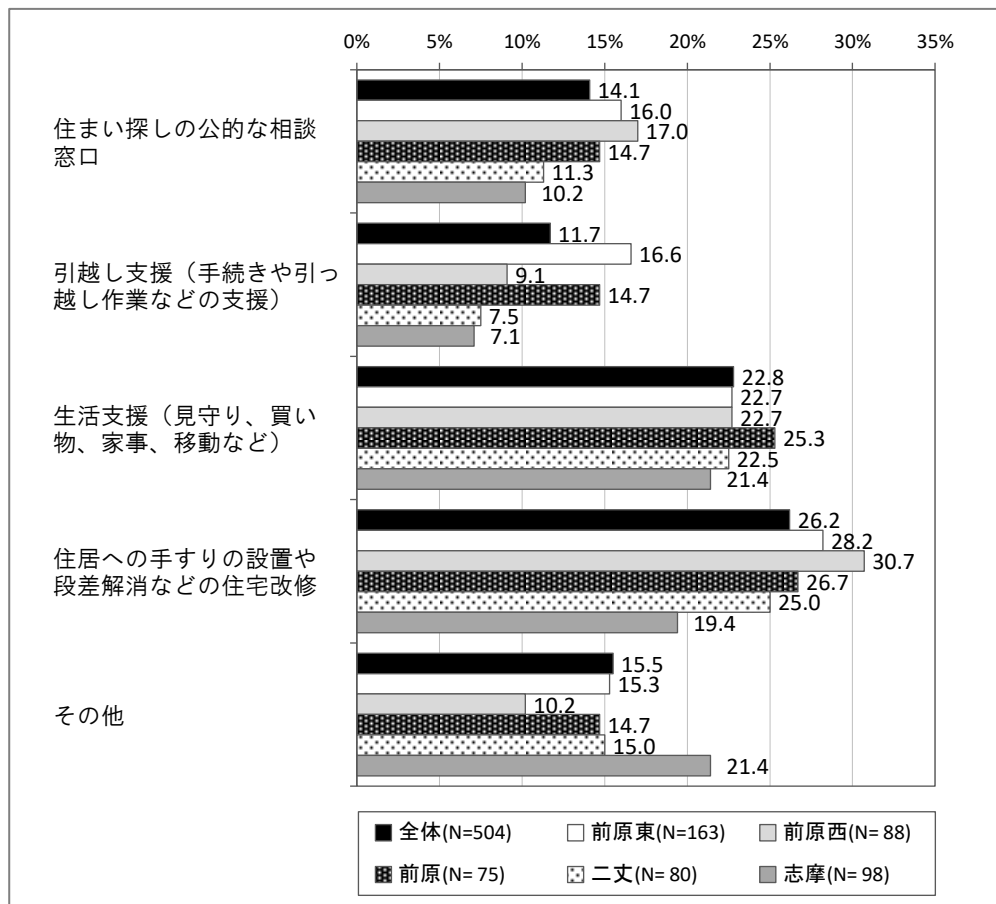
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「生活支援（見守り、買い物、家事、移動など）」の割合は一般高齢者が 20.1%であるのに対し要支援1・2では 39.7%と 19.6 ポイント高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「住居への手すりの設置や段差解消などの住宅改修」の割合は前原西圏域が 30.7%で他圏域と比較して最も高くなっており、最も低い志摩圏域 19.4%と比較して 11.3 ポイントの差がある。



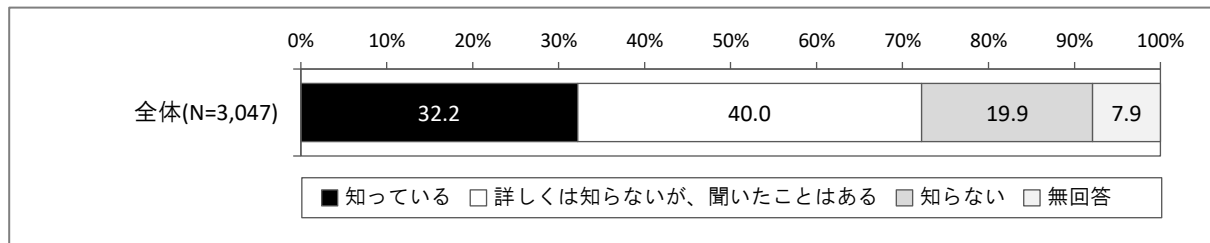
11 終活支援

(1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度について尋ねた。

【市全体】

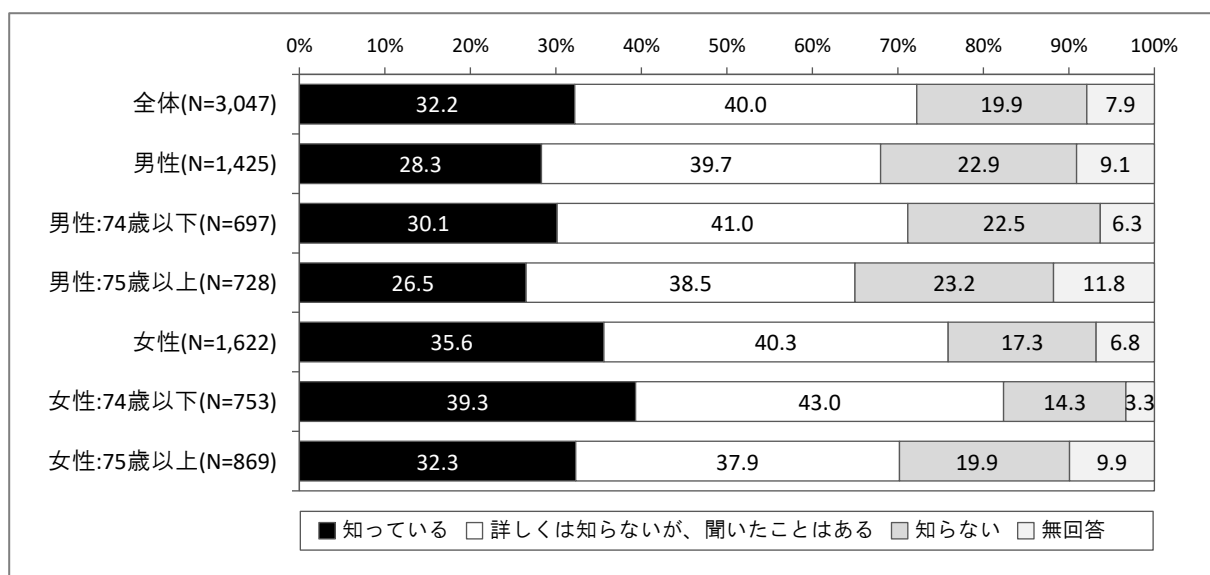
市全体でみると、「詳しくは知らないが、聞いたことはある」の割合が40.0%で最も高く、次いで「知っている」が32.2%、「知らない」が19.9%となっている。



【性別・性年代別】

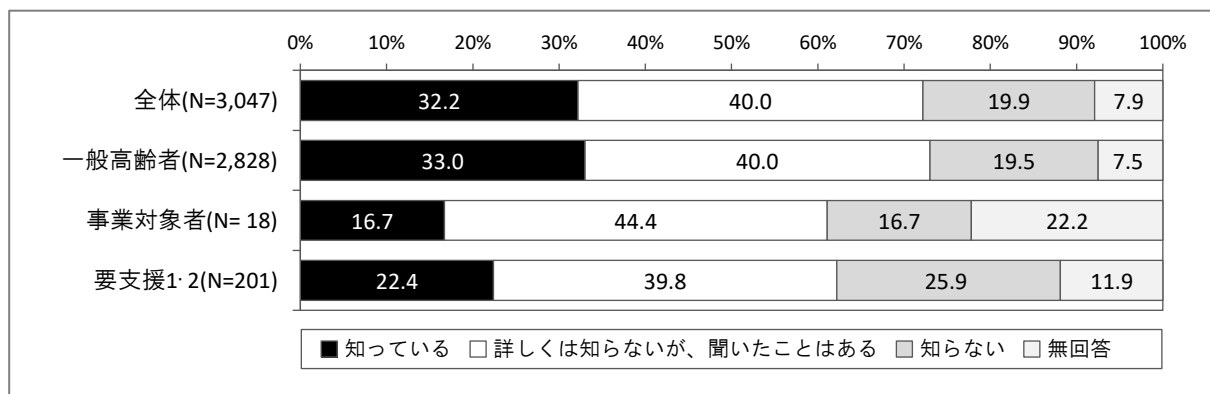
性別にみると、「知っている」の割合は男性が28.3%であるのに対し、女性は35.6%と高くなっている。一方「知らない」の割合は男性が22.9%であるのに対し、女性は17.3%と低くなっている。

性年代別にみると、「詳しくは知らないが、聞いたことはある」、「知っている」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっている。



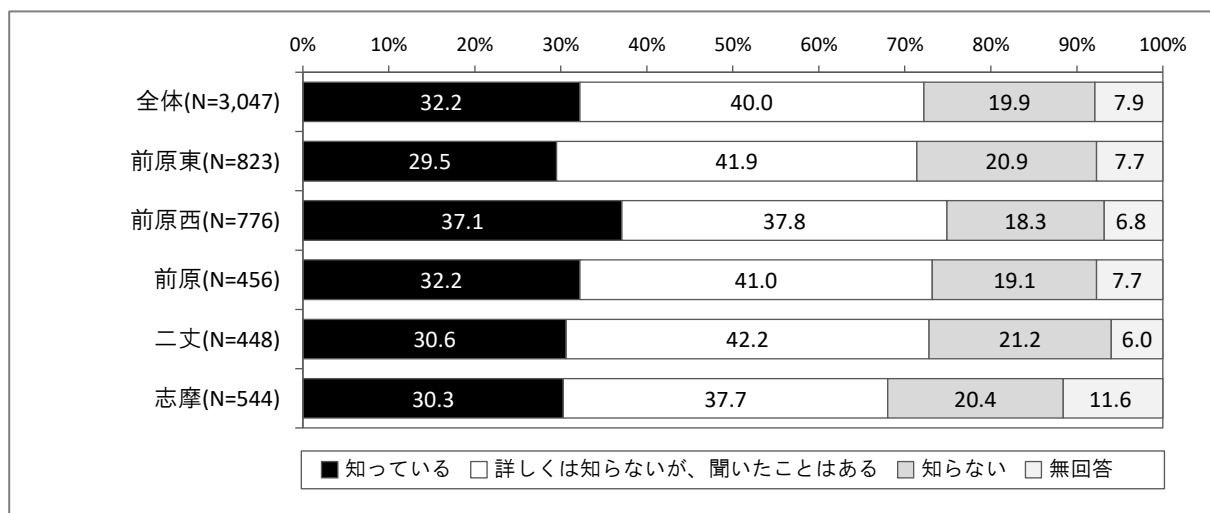
【要介護度別】

要介護度別にみると、「知っている」の割合は一般高齢者が 33.0%であるのに対し要支援 1・2 では 22.4%と低くなっている。一方「知らない」の割合は一般高齢者と比較し、要支援 1・2 が高くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「知っている」の割合は前原西圏域が 37.1%で他圏域と比較し、最も高くなっている。一方「知らない」の割合は前原西圏域が 18.3%と他圏域と比較して最も低くなっている。

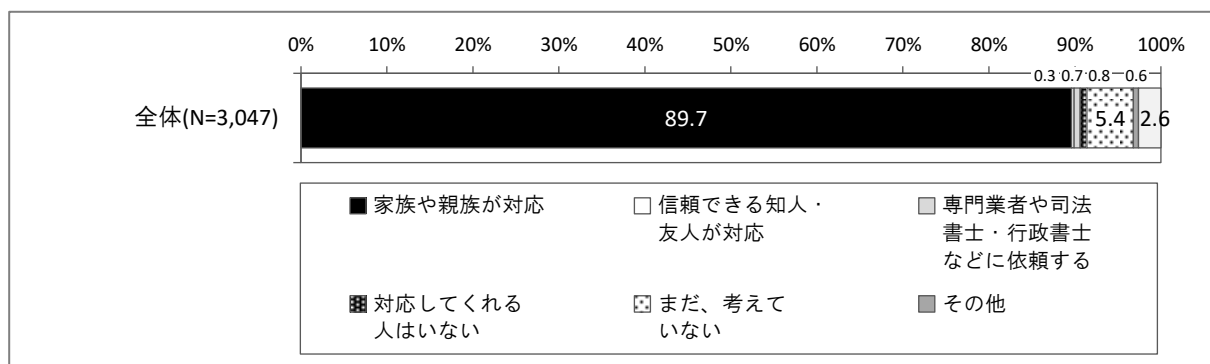


(2) 亡くなった後の諸手続きをしてくれる人の有無

亡くなった後の諸手続き（葬儀、財産整理など）をしてくれる人の有無について尋ねた。

【市全体】

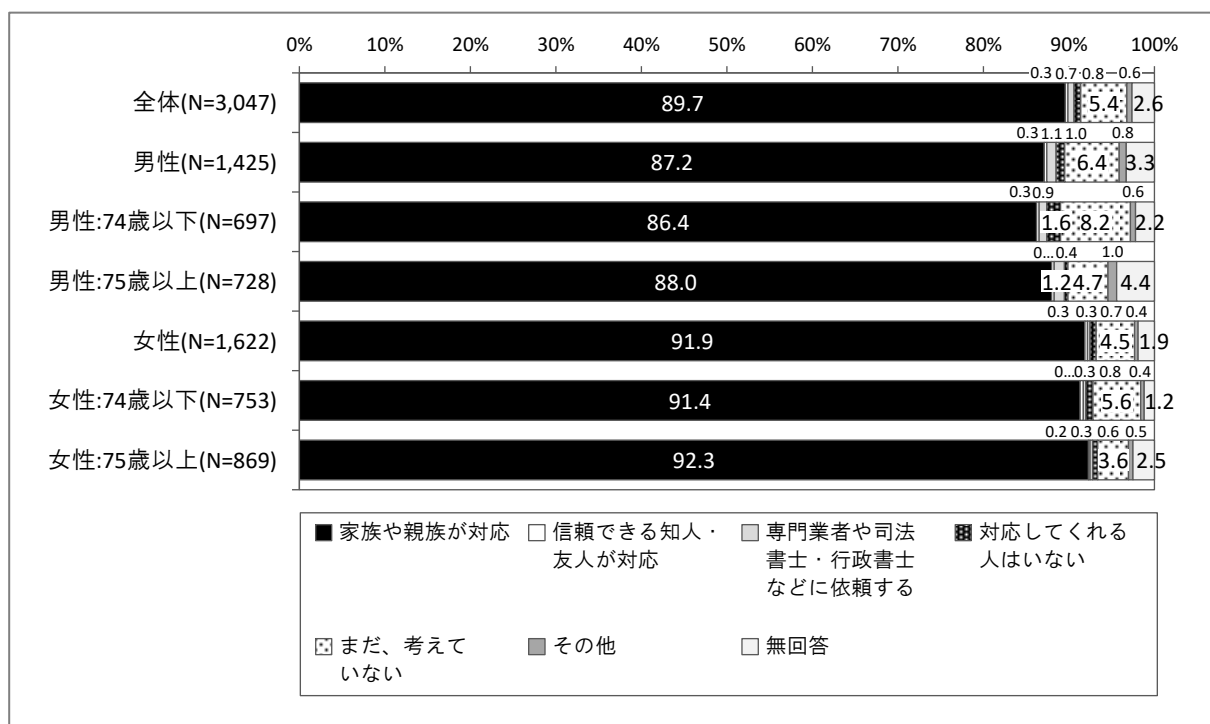
市全体でみると、「家族や親族が対応」の割合が 89.7%で最も高く、次いで「まだ、考えていない」が 5.4%となっている。



【性別・性年代別】

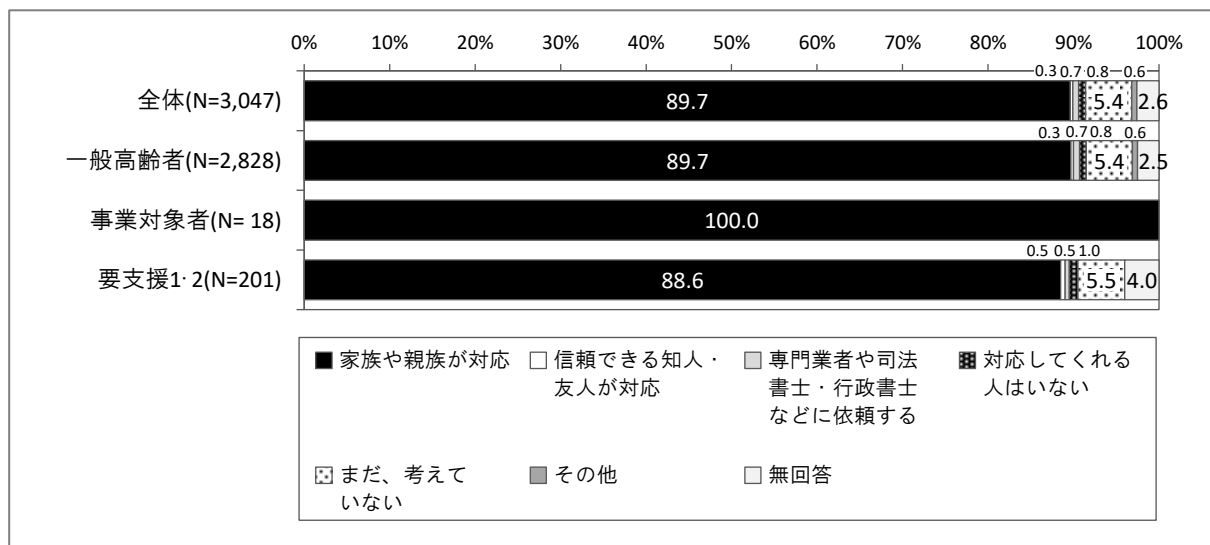
性別にみると、「家族や親族が対応」の割合は男性が 87.2%であるのに対し、女性は 91.9%とやや高くなっている。一方「まだ、考えていない」の割合は男性が 6.4%であるのに対し、女性は 4.5%とやや低くなっている。

性年代別にみると、「家族や親族が対応」の割合は男女ともに年代が上がるほどやや高くなっている。



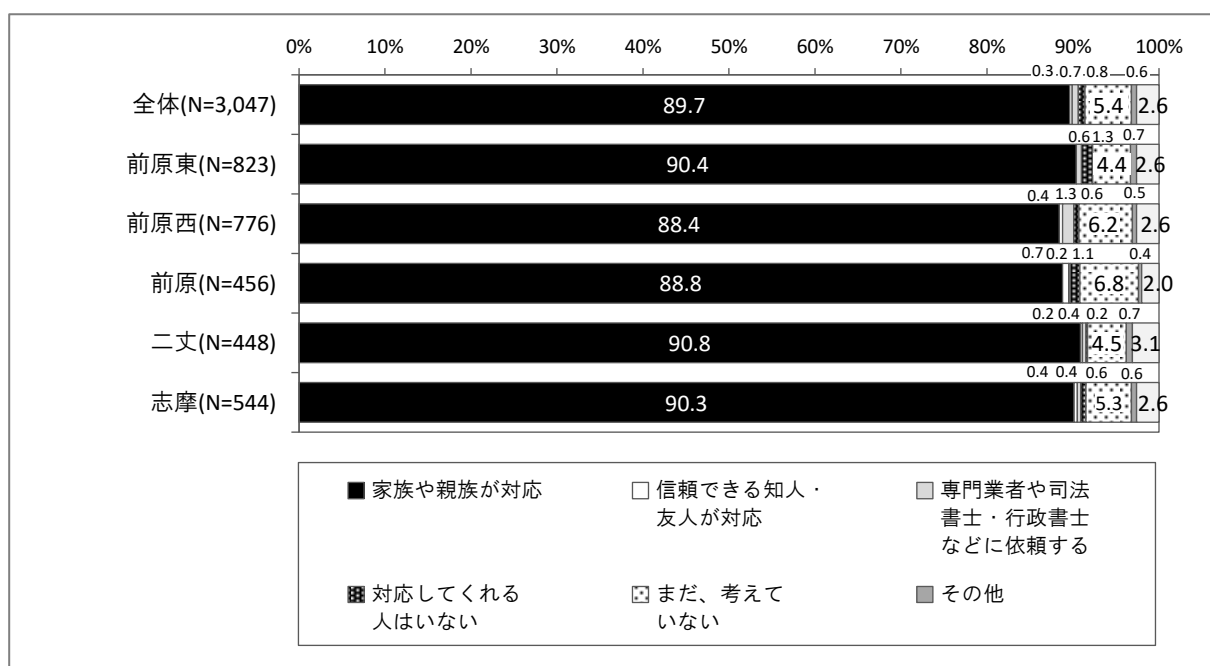
【要介護度別】

要介護度別にみると、「家族や親族が対応」の割合は一般高齢者が 89.7%であるのに対し要支援 1・2 では 88.6%とやや低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「まだ、考えていない」の割合は前原圏域が 6.8%で他圏域と比較し、最も高くなっている。



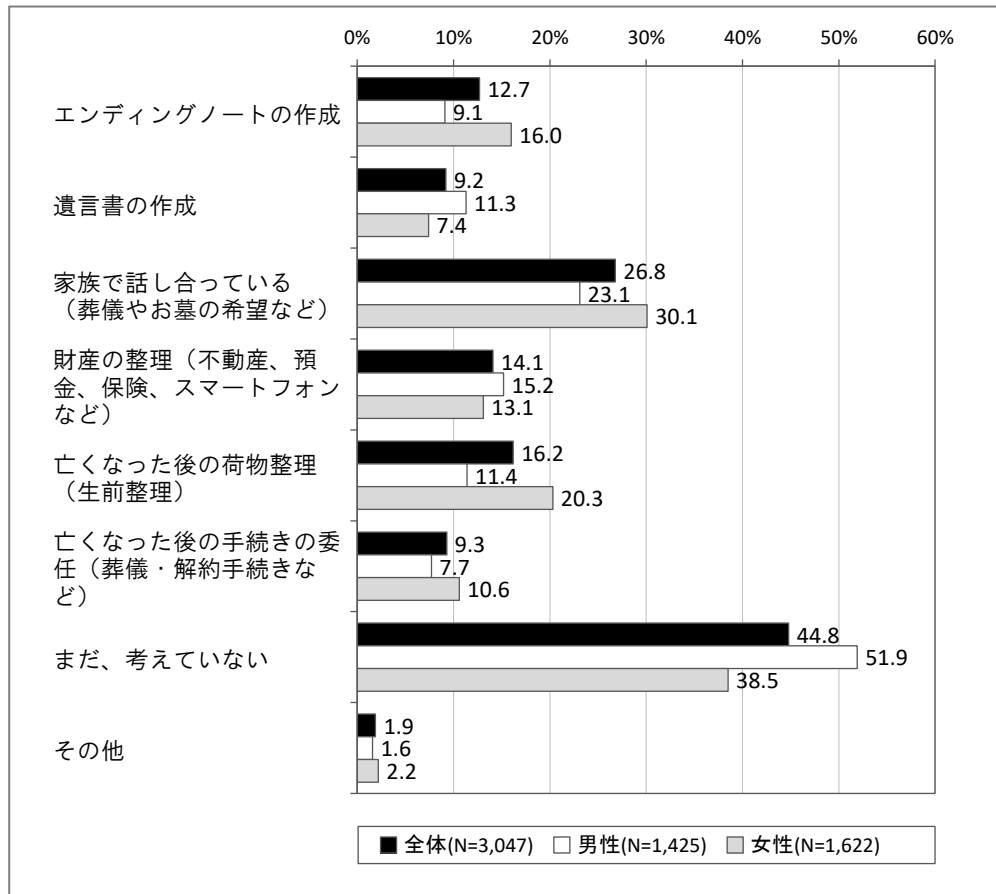
(3) 終活について検討していること（複数回答）

終活について検討していることについて尋ねた。

【市全体・性別】

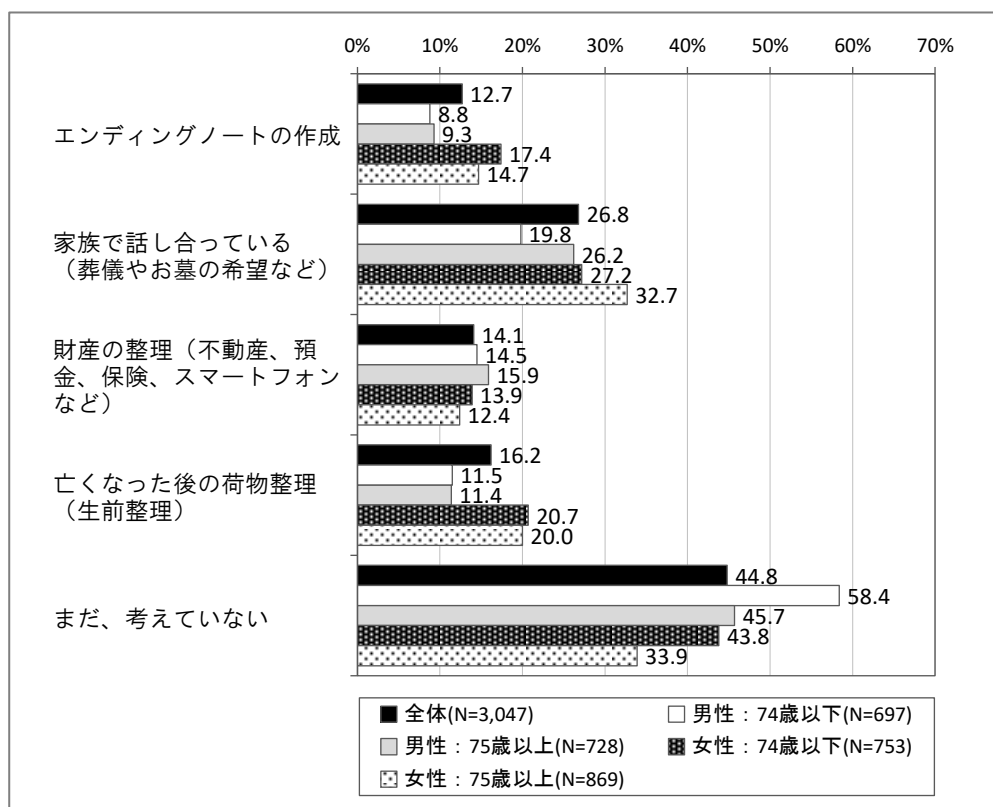
市全体でみると、「まだ、考えていない」の割合が44.8%で最も高く、次いで「家族で話し合っている（葬儀やお墓の希望など）」が26.8%、「亡くなった後の荷物整理（生前整理）」が16.2%となっている。

性別にみると、「まだ、考えていない」の割合は男性が51.9%であるのに対し、女性は38.5%と13.4ポイント低くなっている。一方「家族で話し合っている（葬儀やお墓の希望など）」や「亡くなった後の荷物整理（生前整理）」の割合は男性より女性が7ポイント高くなっている。



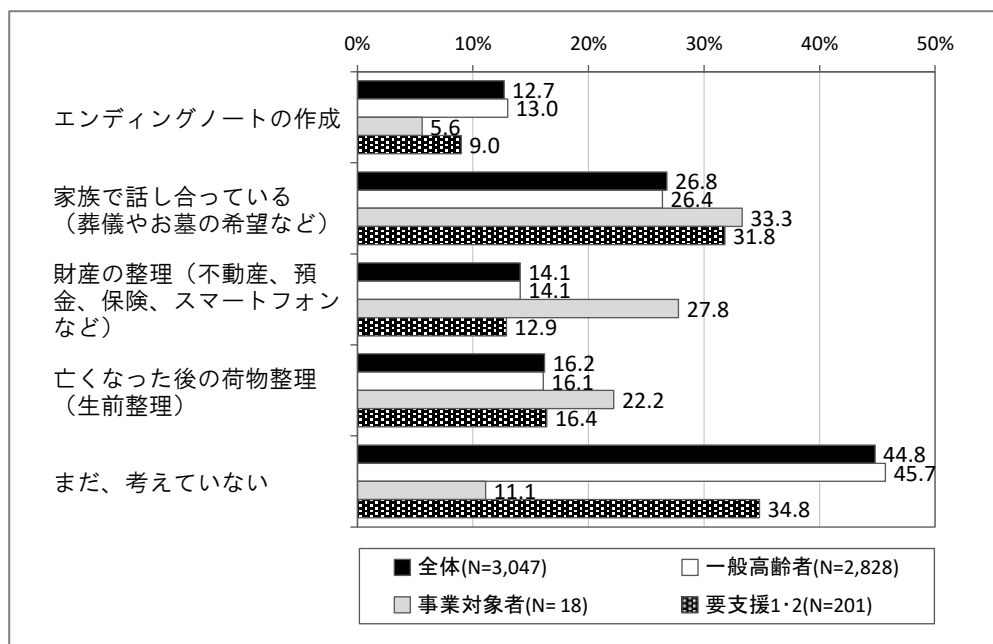
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「まだ、考えていない」の割合は男女ともに年代が上がるほど低くなっており、「家族で話し合っている（葬儀やお墓の希望など）」の割合は、男女ともに年代が上がるほど高くなっている。



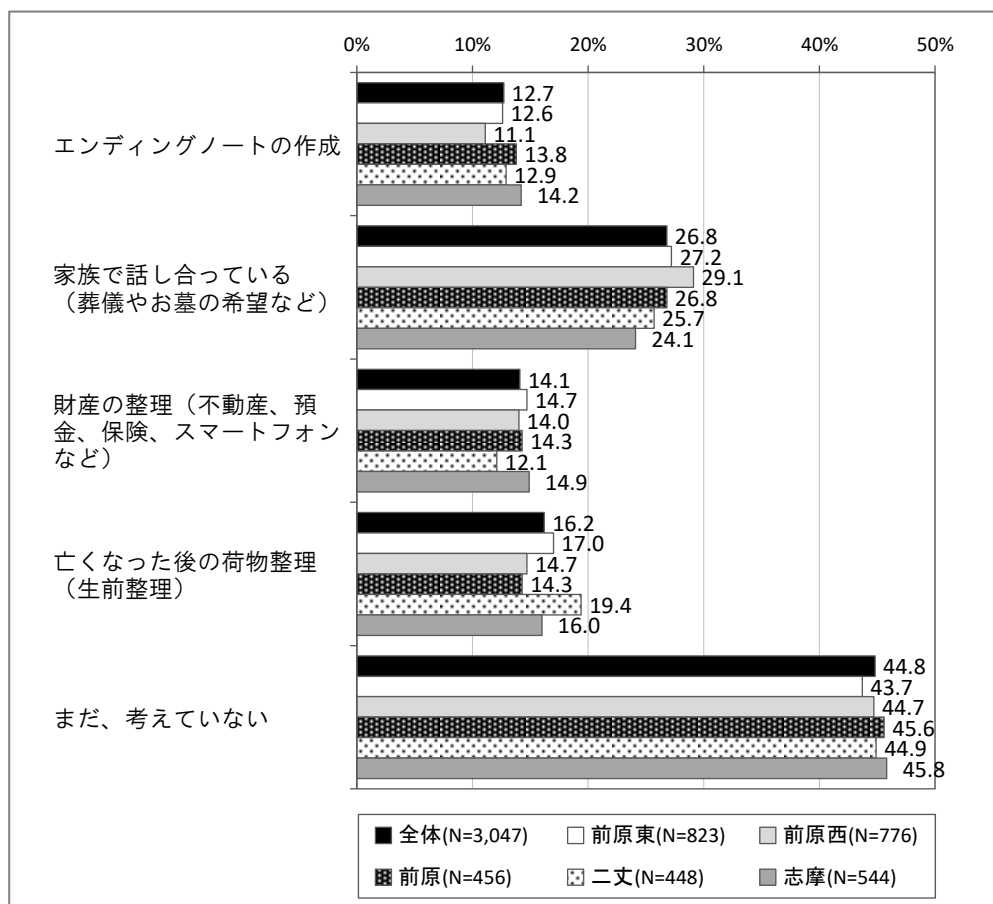
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「まだ、考えていない」の割合は一般高齢者が 45.7%であるのに対し要支援1・2では 34.8%と低くなっている。一方「家族で話し合っている（葬儀やお墓の希望など）」の割合は一般高齢者と比較し、要支援1・2が高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「家族で話し合っている（葬儀やお墓の希望など）」の割合は前原西圏域が 29.1%で他圏域と比較し、最も高くなっている。一方「まだ、考えていない」の割合は前原東圏域が 43.7%で他圏域と比較し、最も低くなっている。



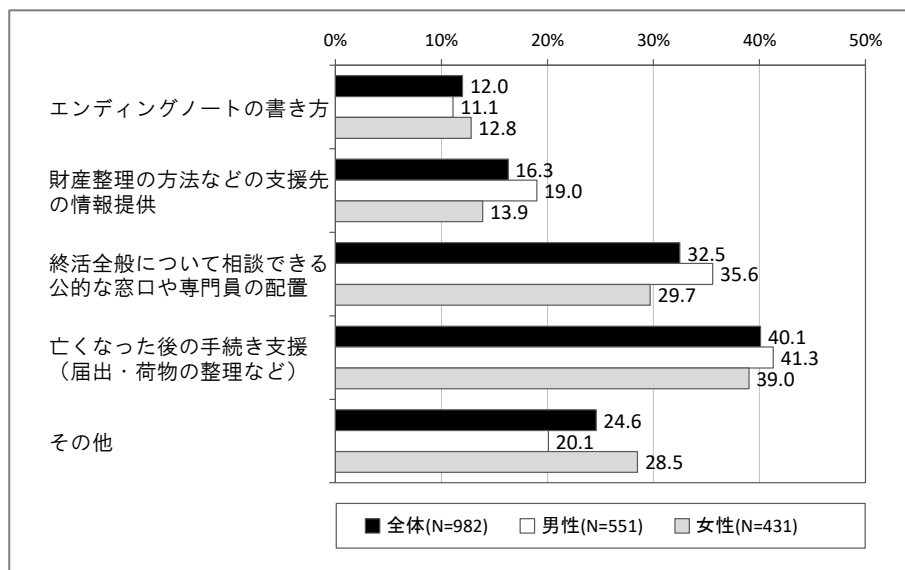
（４）あると良い終活支援（複数回答）

あると良い終活支援について尋ねた。

【市全体・性別】

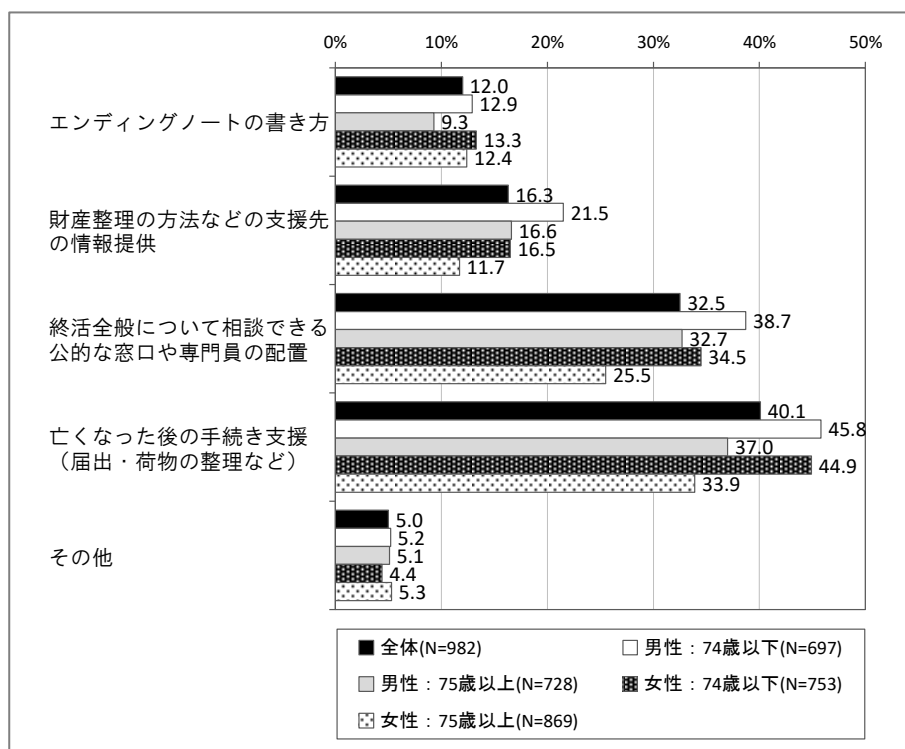
市全体でみると、「亡くなった後の手続き支援（届出・荷物の整理など）」の割合が 40.1%で最も高く、次いで「終活全般について相談できる公的な窓口や専門員の配置」が 32.5%、「その他」が 24.6%となっている。

性別にみると、「終活全般について相談できる公的な窓口や専門員の配置」や「財産整理の方法などの支援先の情報提供」の割合は男性より女性が低くなっている。



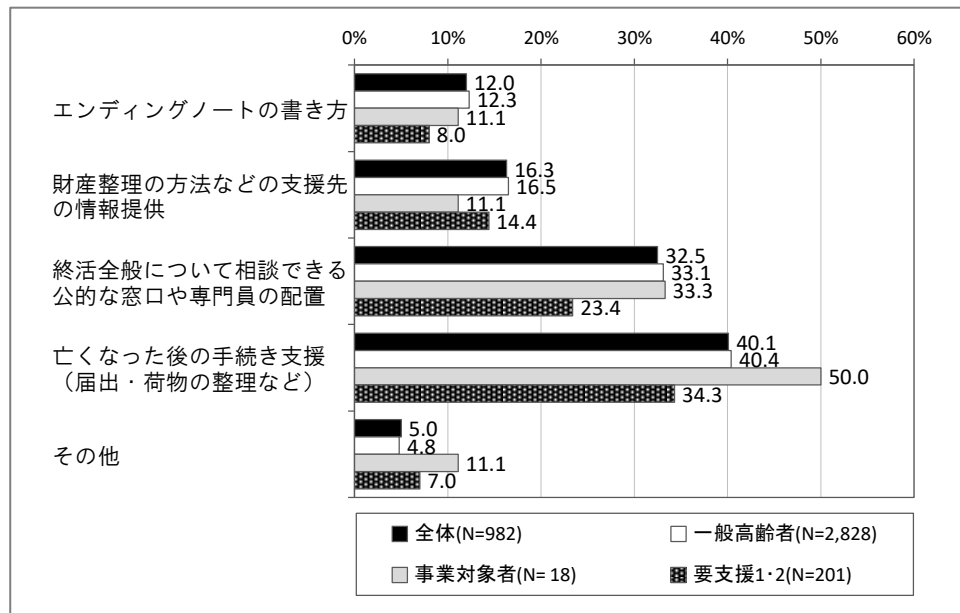
【性年代別】

性年代別にみると、「その他」を除いたすべての項目で、男女ともに年代が上がるほど割合は低くなっている。



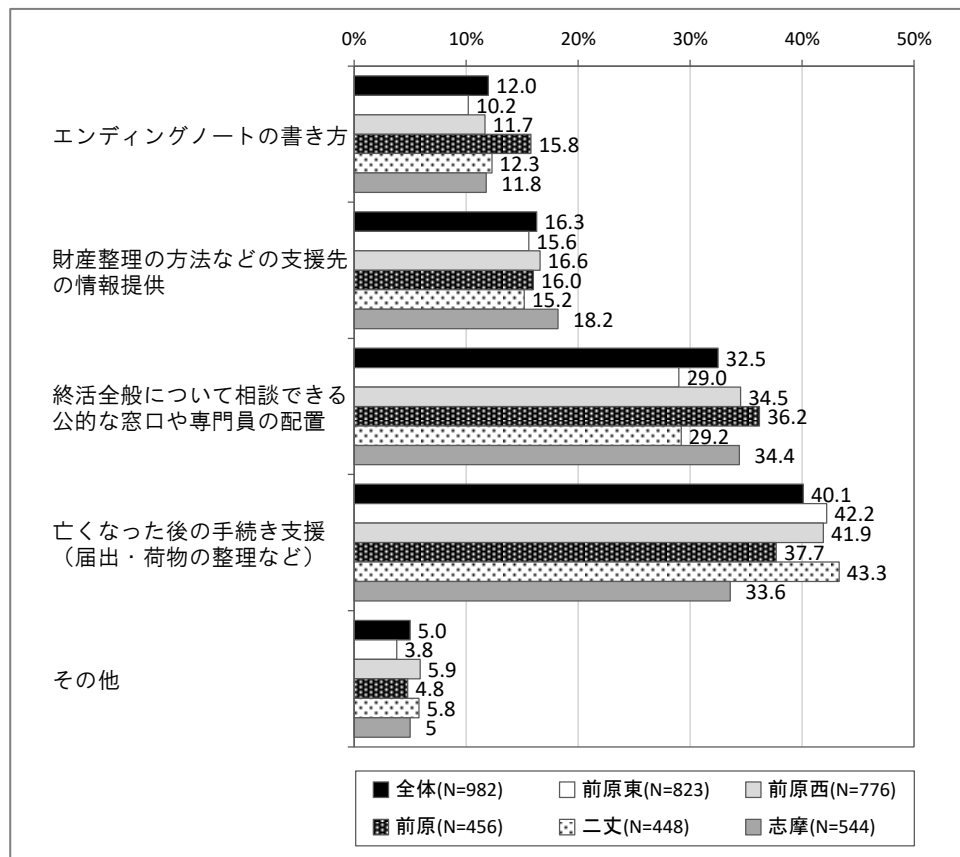
【要介護度別】

要介護度別にみると、「その他」を除いたすべての項目で、一般高齢者より要支援１・２の割合が低くなっている。



【圏域別】

圏域別にみると、「亡くなった後の手続き支援（届出・荷物の整理など）」の割合は二丈圏域が 43.3%で他圏域と比較し、最も高くなっており、最も低い志摩圏域の 33.6%と比較して 9.7 ポイントの差がある。



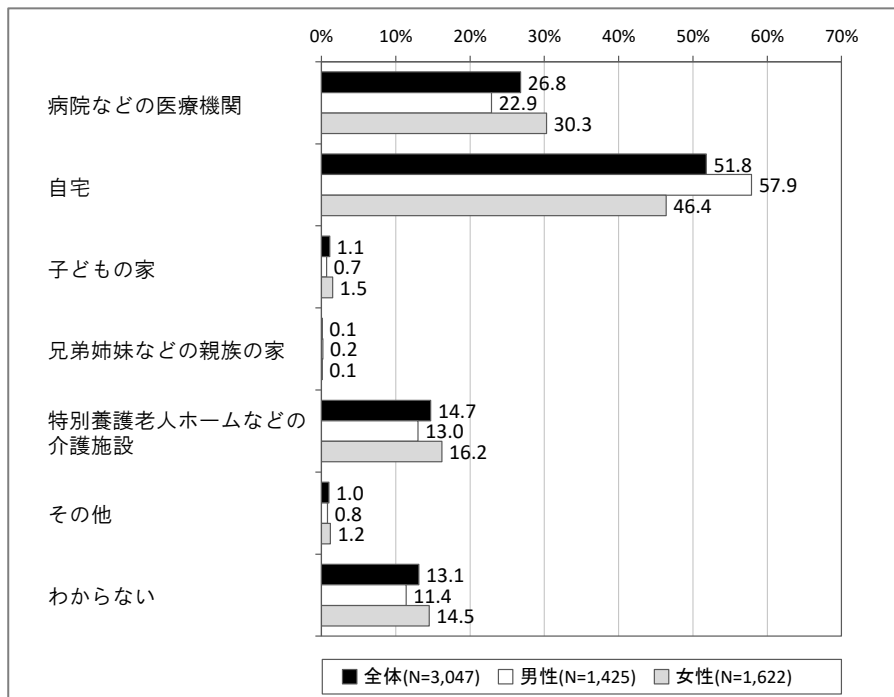
(5) 人生の最期を過ごしたい場所（複数回答）

人生の最期を過ごしたい場所について尋ねた。

【市全体・性別】

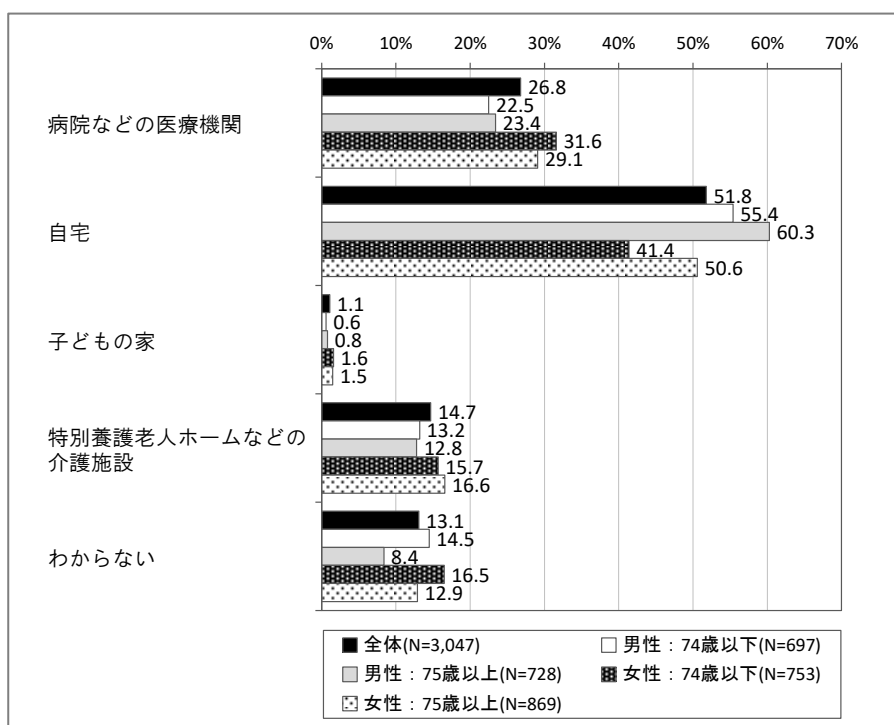
市全体でみると、「自宅」の割合が51.8%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が26.8%、「特別養護老人ホームなどの介護施設」が14.7%となっている。

性別にみると、「自宅」の割合は男性が57.9%であるのに対し、女性は46.4%と低くなっている。一方「病院などの医療機関」の割合は男性が22.9%であるのに対し、女性は30.3%と高くなっている。



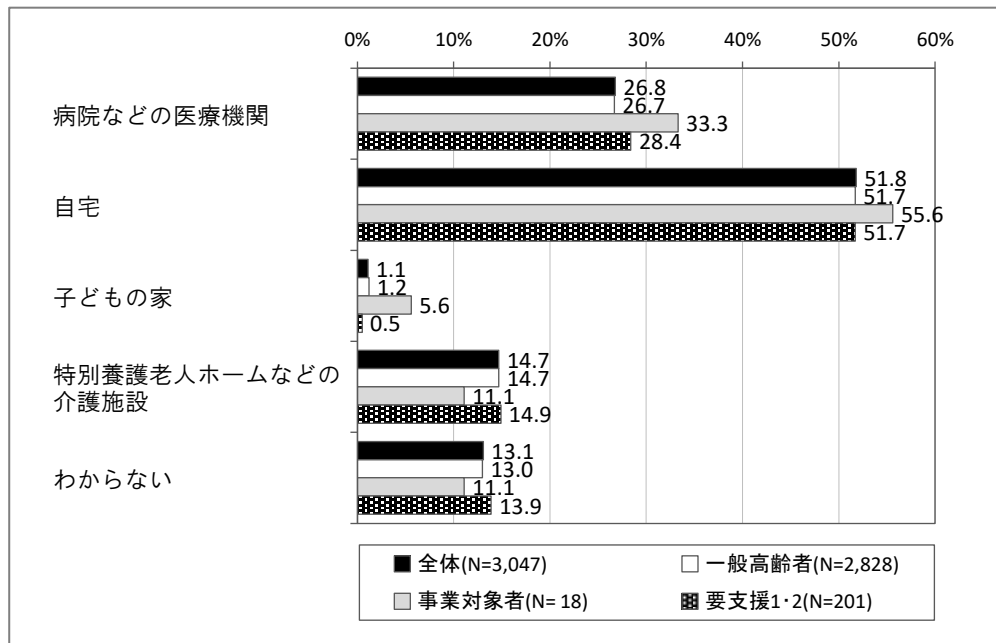
【性年代別（上位5項目）】

性年代別にみると、「自宅」の割合は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。一方「特別養護老人ホームなどの介護施設」の割合は年代が上がるほど男性ではやや低くなっているが、女性ではやや高くなっている。



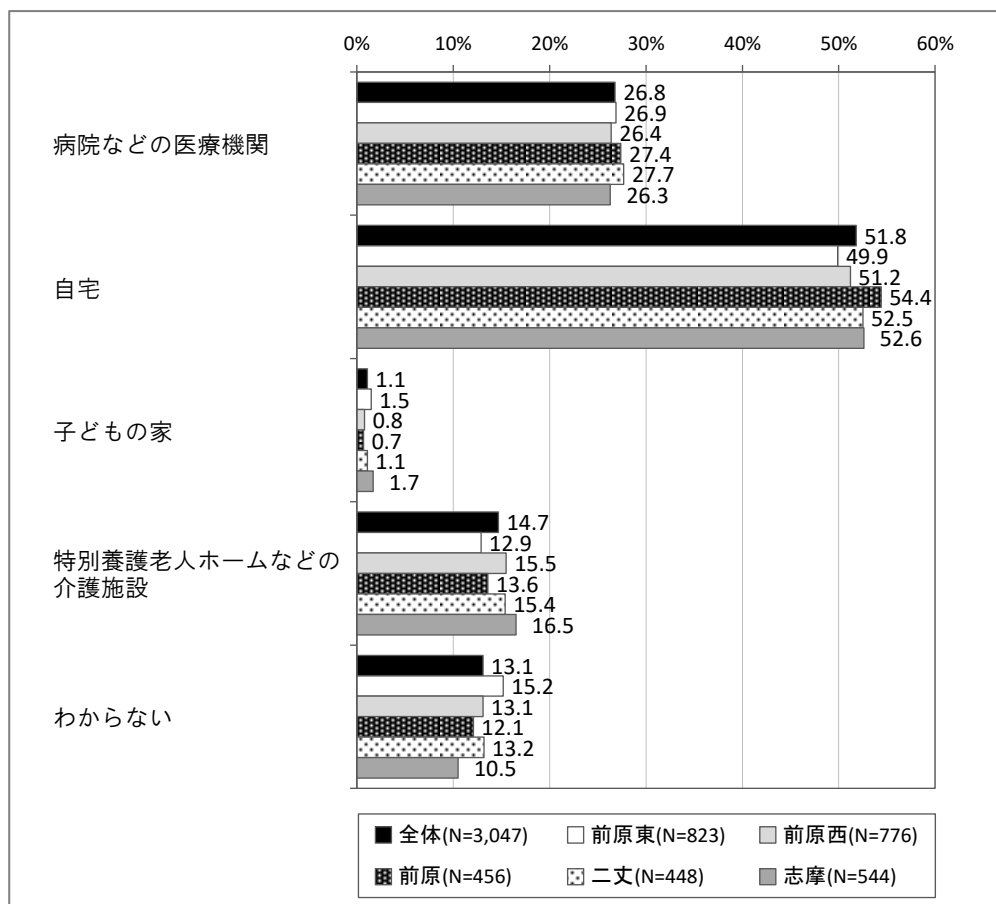
【要介護度別（上位5項目）】

要介護度別にみると、「病院などの医療機関」の割合は一般高齢者が 26.7%であるのに対し要支援 1・2 では 28.4%とやや高くなっている。



【圏域別（上位5項目）】

圏域別にみると、「自宅」の割合は前原圏域が 54.4%で他圏域と比較し、最も高くなっており、最も低い前原東圏域の 49.9%と比較して 4.5 ポイントの差がある。



Ⅲ 日常生活圏域の特性



日常生活圏域の特性

調査結果に基づいて、日常生活圏域ごとに、市全体との比較を通して、高齢者の特性と課題について整理した。

1 前原東圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

住まいの形態について、「持家(一戸建て)」の割合は他圏域と比較すると、最も低くなっている。一方で、「持家(集合住宅)」の割合は市全体より高くなっている。本圏域の家族構成の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高くなっている。市全体と比較するとやや「一人暮らし」の割合が高い地域でもある。暮らしの経済状況は、「ふつう」の割合が59.7%で市全体と比較しやや高くなっている。

外出時の移動手段の内訳は「自動車(自分で運転)」か「徒歩」が主である。市全体と比較して「タクシー」利用の割合がやや高く、「自転車」の割合は18.8%と他圏域と比較し最も高くなっている。

行政区・自治会への参加状況は「参加していない」の割合が46.7%と市全体の未参加率と比較して高い。一方、看病してくれる人として「近隣」と回答した割合は3.0%と市全体よりもやや高くなっている。

新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「高い」と判定された対象者の割合は42.0%と市全体よりやや高く、盛んな情報収集を行う回答者が比較的多い地域である。

主観的健康感をみると、「まあよい」の割合が68.2%と市全体よりやや高くなっている。本圏域の有病率は「高血圧」の割合が44.8%、次いで「目の病気」が17.6%となっている。ただし「目の病気」の割合は市全体と比較すると低い。

「生活機能低下」の該当率は他圏域と比較して最も低くなっている。「口腔機能低下」等の該当率についても市全体よりも低くなっている。一方で、「認知症リスク」等については該当率が他圏域と比較して最も高くなっている。

介護・介助の必要状況は、「介護・介助は必要ない」の割合が86.8%と市全体よりやや高くなっている。また「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が5.6%と他圏域と比較し最も低くなっている。

介護予防を目的とした事業の参加状況では、「参加したことがある」の割合が市全体よりやや低くなっている。参加したことのある事業については、「しあわせ教室」の割合が27.2%と他圏域と比較して最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式について、前原東圏域内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が35.2%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が16.5%の順となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【波多江小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、波多江小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 57.9%で最も高くなっているものの、市全体の平均と比較するとその割合は低い(市全体の「持家(一戸建て)」は 80.3%)。一方、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合は市全体よりも高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」の割合が 55.2%となっている。市全体と比較すると「ややゆとりがある」の割合が市全体より高くなっている。

外出する際の移動手段としては「徒歩」の割合が最も高く 64.1%、次いで「自動車(自分で運転)」が 52.6%である。市全体と比較すると、「自動車(自分で運転)」の割合は市全体の平均より 8.9 ポイント低い。一方で、「電車」の割合は 37.0%で他小学校区と比較して最も高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 66.3%で最も高くなっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が最も高く、次いで「目の病気」となっている。また「腎臓・前立腺の病気」の割合が 8.4%と、市全体よりも高くなっている。肥満度は「肥満体重」の割合が 23.7%で市全体の平均と比較するとやや高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は一般高齢者が 27.3%で市全体よりも 4 ポイント近く低い。「閉じこもり」、「口腔機能低下」、「認知症リスク」などでも市全体より低い該当率となっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 46.5%で最も高い。生きがいを感じるときについて、区内の内訳は「趣味やスポーツに熱中している時」の割合が 54.0%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が 49.6%となっている。

介護に関する希望

介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 88.0%となっている。健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 46.0%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が 45.1%となっている。介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 32.0%で最も高いが、市全体と比較すると 5 ポイント低くなっている。

【東風小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、東風小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 67.8%で最も高くなっているが、市全体の平均 80.3%と比較すると低い。また「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合が市全体の平均より高い地区である。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が最も高く 40.2%となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 62.8%、次いで「やや苦しい」が 21.6%となっている。外出時の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が 56.3%、次いで「徒歩」が 55.3%となっている。市全体と比較すると「徒歩」、「電車」、「自転車」等の割合が高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 64.3%で最も高くなっており、次いで「あまりよくない」が 23.6%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 48.7%で最も高く、次いで「ない」が 16.1%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は一般高齢者が 39.2%で市全体よりも 7.5 ポイントほど高い。「運動器機能低下」、「閉じこもり」、「転倒」、「栄養改善」、「口腔機能低下」、「認知症リスク」等も市全体より高い該当率となっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 36.2%で最も高く、次いで「十分感じている」が 32.2%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「趣味やスポーツに熱中している時」と「友人や知人と食事、雑談している時」の割合がともに最も高く、52.9%となっている。参加したい活動について、区内の内訳は「健康・スポーツ」の割合が最も高く 35.2%となっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要性について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 85.4%となっている。健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 46.7%で最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 33.7%で最も高くなっている。

【怡土小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、怡土小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が最も高く96.2%となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が63.4%で最も高く、次いで「やや苦しい」が22.6%となっている。市全体と比較すると「やや苦しい」の割合が市全体より低くなっている。

外出時の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が69.8%で最も高い。一方、「徒歩」の割合は38.5%と市全体より低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康状態について、区内の内訳は「まあよい」の割合が73.6%で最も高くなっている。次いで「あまりよくない」が12.8%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が42.6%で最も高く、次いで「ない」が20.0%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は25.7%であり、市全体より低くなっている。また、「閉じこもり」「認知症リスク」の割合も市全体より低くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が43.0%で最も高く、次いで「十分感じている」の35.8%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」と「孫など家族との団らんのとき」の割合が49.3%で最も高くなっている。「趣味やスポーツに熱中している時」(44.0%)や「おいしい物を食べている時」(40.7%)、「夫婦団らんの時」(31.1%)などは市全体と比較して低い割合となっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要性について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が86.0%で最も高くなっている。健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は、「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が44.9%で最も高く、次いで「認知症の予防について」の割合が42.3%となっている。介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が40.8%で最も高くなっている。終末期を迎える場所の希望について、区内の内訳は「自宅」の割合が60.0%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が21.5%となっている。

2 前原西圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

住まいの形態について、前原西圏域内の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 75.6%で最も高くなっている。また、「持家(集合住宅)」の割合が 12.4%と他圏域と比較して最も高い圏域となっている。家族構成については「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が市全体より高い圏域であり、経済状況は「大変ゆとりがある」、「ややゆとりがある」と回答した方の割合が市全体より高い圏域でもある。

外出時の移動手段として「徒歩」や「電車」、「タクシー」などを利用する割合が他圏域と比較して最も高くなっている。

行政区・自治会への参加状況は「参加していない」の割合が 51.7%と他圏域と比較して最も高くなっており、愚痴を聞いてくれる人として「近隣」と回答した割合は他圏域と比較して最も低くなっており、地域づきあいが市全体の中で比較的少ない圏域と考えられる。

主観的健康感では「とてもよい」の割合が他圏域と比較して最も高くなっている。有病率では「高血圧」の割合が市全体と比較してやや低くなっているが、「高脂血症(脂質異常)」の割合は他圏域と比較して最も高くなっている。一方で肥満度については、「普通体重」の割合が 69.1%と他圏域と比較して最も高くなっている。

「生活機能低下」の該当率は 32.1%となっており、市全体よりもやや高くなっている。一方で、「閉じこもり」、「転倒リスク」、「認知症リスク」等は市全体より低くなっている。

介護・介助の必要状況についてみると、「介護・介助は必要ない」の割合が 86.9%であり、これは他圏域と比較して最も高くなっている。

介護予防を目的とした事業の参加状況では、「参加したことがある」の割合が 13.3%で他圏域と比較して最も低くなっている。参加したことのあつ事業については、「しあわせ教室」、「はつらつ体操教室」等の割合が市全体の平均より高くなっている。

将来介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 39.8%で最も高い。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 14.3%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【前原小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、前原小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が最も高く、58.8%となっている。また、「持家(集合住宅)」の割合が26.2%と市全体の平均8.5%と比較して高い地域である。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高く45.4%となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が55.2%で最も高くとなっている。移動手段について、区内の内訳は「徒歩」の割合が最も高く、68.3%で、次いで「自動車(自分で運転)」が57.0%となっている。「徒歩」で68.3%、「電車」で32.6%の割合となっており、それぞれ市全体の平均より高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が69.5%となっており、市全体と比較するとやや高い。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が最も高く43.3%で、次いで「目の病気」が24.7%となっている。肥満度について、区内の内訳は「普通体重」の割合が最も高く69.5%で、これは市全体よりも高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は30.8%であり、市全体より低くなっている。「うつ傾向」該当率は43.0%で市全体よりもやや高くなっている。

地域活動 生きがい

感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が44.8%で最も高く、次いで「十分感じている」が31.1%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「趣味やスポーツに熱中している時」の割合が53.0%で最も高い。

介護に関する希望

介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が88.4%となっている。健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が47.6%、「認知症の予防について」が35.1%となっている。

介護が必要になった際の生活様式の意向について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が39.0%で最も高く、次いで「自宅で家族中心に介護を受けたい」が12.8%となっている。

【南風小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、南風小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 85.4%で最も高くなっている。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が 42.7%で最も高く、次いで「息子・娘と 2 世帯」が 18.9%となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳では「ふつう」の割合が 61.7%と最も高いものの、市全体と比較すると「ややゆとりがある」の割合が 9.7%と他小学校区と比較して最も高くなっている。外出する際の移動手段について、区内の内訳は「徒歩」の割合が 58.7%で最も高くなっている。「徒歩」(58.7%)、「電車」(34.0%)、「路線バス」(20.9%)は市全体と比較して割合が高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 67.0%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が 15.5%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 40.8%で最も高く、次いで「目の病気」が 17.0%となっている。市全体と比較すると「ない」の割合が 16.0%と市全体より高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 31.1%と、市全体より低くなっている。他のリスク判定については「運動器機能低下」や「閉じこもり」、「転倒リスク」、「口腔機能低下」、「認知症リスク」、「虚弱」等該当率が市全体よりも低くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 47.6%で最も高く、次いで「十分感じている」が 34.0%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 54.2%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」と「孫など家族との団らんの時」がともに 50.6%となっている。市全体と比較すると「勉強や教養などに身を入れている時」の割合が 20.2%で他小学校区と比較して最も高くなっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要性について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 85.9%で最も高くなっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 48.5%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が 40.8%となっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 44.7%と最も高くなっている。市全体と比較すると「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 44.7%と市全体より7ポイント以上高くなっている。

【加布里小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、加布里小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 90.1%で最も高くなっている。家族構成については「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が回答者の 42.0%を占めている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 56.8%で最も高くなっている。

外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」の割合が 58.4%、「徒歩」の割合が 55.6%となっている。また、「タクシー」が 13.2%で他小学校区と比較して最も高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感については「まあよい」の割合が 65.4%と最も高くなっており、次いで「あまりよくない」が 17.7%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 50.2%で最も高い。次いで「目の病気」が 22.2%となっている。肥満度は「低体重」の割合が 6.6%であり、市全体より低くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 34.6%で市全体よりも 2.9 ポイント高くなっており、「運動器機能低下」(15.6%)、「閉じこもり」(17.3%)、「転倒リスク」(35.0%)、「栄養改善」(2.9%)、「口腔機能低下」(25.1%)、「認知症リスク」(56.0%)等でも市全体を上回っている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が最も高く 45.3%となっている。次いで「十分感じている」が 28.4%となっている。市全体と比較すると「あまり感じていない」の割合が 16.0%で市全体より高くなっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「孫など家族との団らんの時」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」で 50.3%となっている。

介護に関する希望

現在の介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 85.6%と最も高くなっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 41.6%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が 36.2%となっている。また、「特に知りたいことはない」は 26.3%で他小学校区と比較して最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 36.6%で最も高くなっている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 16.9%となっている。

3 前原圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

住まいの形態について、前原圏域内の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 78.1%で最も高くなっている。また、「持家(集合住宅)」及び「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合が市全体の平均とほぼ同程度の地域であり、「公営賃貸住宅」の割合は他圏域と比較し最も高くなっている。また、家族構成について、前原圏域内の内訳としては「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高い地域でもある。暮らしの経済状況は、「大変苦しい」と「ふつう」の割合が他圏域と比較し最も高くなっており、「やや苦しい」は他圏域と比較して最も低くなっている。

外出時の移動手段については「病院や施設のバス」の割合が他圏域と比較して最も低くなっている。また、「電車」、「路線バス」の割合は市全体よりやや低くなっている。

主観的健康感では「あまりよくない」、「よくない」の割合が市全体より高く、有病率では「高血圧」、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」、「心臓病」、「がん(悪性新生物)」等のいくつかの項目において、他圏域と比較して最も高くなっている。また、肥満については「肥満体重」の割合が 23.9%で他圏域と比較して最も高くなっている。

「生活機能低下」の該当率は他圏域と比較して最も高く 34.0%となっている。加えて、「うつ傾向」該当者の割合は全圏域の中で最も高くなっている。

介護・介助の必要状況についてみると、「現在、何らかの介護を受けている」の割合が 5.7%と市全体よりもやや低くなっている。

介護予防を目的とした事業の参加状況では、「参加したことがある」の割合が 16.2%で市全体よりやや高くなっている。一方で参加したことのある事業については、「はつらつ体操教室」や「地域ささえあい通いの場」の割合は他圏域と比較して最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式について、前原圏域の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 40.6%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 15.1%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【前原南小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、前原南小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 68.2%で最も高くなっているが、「持家(一戸建て)」の割合は市全体の平均 80.3%と比較すると低い。一方で「持家(集合住宅)」や「公営賃貸住宅」、「民間賃貸住宅(集合住宅)」等の割合が市全体の平均より高い。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が最も高く 48.3%となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 61.0%で最も高くなっている。次いで「やや苦しい」が 24.7%となっている。

外出時の移動手段について、区内の内訳は「徒歩」の割合が 61.4%で最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」が 58.4%となっている。市全体と比較すると「徒歩」(61.4%)や「電車」(26.6%)は市全体より高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 69.7%で最も高くなっている。次いで「あまりよくない」が 19.1%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 48.3%で最も高く、次いで「高脂血症」が 18.0%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 34.1%で市全体よりも 2.4 ポイント高くなっており、「運動器機能低下」(16.5%)、「口腔機能低下」(24.0%)等でも市全体を上回っている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 46.4%で最も高く、次いで「十分感じている」が 33.0%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「趣味やスポーツに熱中している時」の割合が最も高く 55.7%、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が 50.0%となっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要性について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 85.8%、次いで「現在、何らかの介護を受けている」の割合が 6.4%となっている。健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 45.3%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が 37.1%となっている。

介護が必要となった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 39.0%と最も高くなっている。

【長糸小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、長糸小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 93.2%で最も高くなっている。市全体の平均と比較すると、「持家(一戸建て)」は 12.9 ポイントほど高い。民間賃貸住宅(一戸建て)の割合も市全体より高く、持家・賃貸を問わず一戸建てが多い地域であると言える。家族構成について、区内の内訳は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が 28.4%で最も高くなっている。一方で市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合は市全体より低く、「息子・娘との 2 世帯」の家族構成が市全体より高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」の割合が 63.5%で他小学校区と比較して最も高くなっている。

外出時の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が 68.9%で最も高い。一方、「徒歩」(27.0%)や「電車」(4.0%)は他小学校区と比較して最も低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 60.8%で最も高くなっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 52.7%で最も高く、次いで「糖尿病」が 25.7%となっている。また、「心臓病」は 16.2%で市全体と比較して高くなっている。肥満度は「肥満体重」の割合が 41.9%と市全体と比較してやや高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 40.5%で市全体よりも 9 ポイントほど高くなっており、「運動器機能低下」(20.3%)、「閉じこもり」(24.3%)、「転倒リスク」(39.2%)、「口腔機能低下」(24.3%)、「認知症リスク」(62.2%)等でも市全体を上回っている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「十分感じている」の割合が 36.5%で最も高く、次いで「多少感じている」が 35.1%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「孫など家族との団らんの時」の割合が 60.4%で最も高く、次いで「おいしい物を食べている時」が 49.1%となっている。市全体と比較すると、「仕事に打ち込んでいる時」の割合が 34.0%で市全体よりも高くなっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 86.5%で最も高く、市全体と比較すると「現在、何らかの介護を受けている」の割合は 6.8%で市全体よりやや高くなっている。健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「生活習慣病(高血圧や糖尿病など)の予防や治療について」の割合が 44.6%で最も高く、次いで「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」が 41.9%となっている。

介護が必要となった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 39.2%で最も高くなっており、次いで「特別養護老人ホームなどに入所し、施設で介護サービスを受けたい」が 17.6%となっている。

【雷山小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、雷山小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 91.2%で最も高くなっている。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が最も高く 50.0%となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 57.9%、次いで「やや苦しい」が 24.6%となっている。外出の際の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が 67.5%で最も高く、次いで「徒歩」が 38.6%となっている。

健康状態

主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 66.7%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 17.5%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 48.2%で最も高く、「目の病気」が 17.5%となっている。市全体との比較では「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(13.2%)は3ポイントほど高くなっている。肥満度について、区内の内訳は「普通体重」の割合が 59.6%で最も高いが、市全体と比較すると「普通体重」の割合は市全体より 5.9 ポイント低くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 29.8%で市全体よりやや低くなっており、「運動器機能低下」(11.4%)、「転倒リスク」(25.4%)、「認知症リスク」(47.4%)でも市全体より低くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 46.5%、「十分感じている」が 28.1%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「孫など家族との団らんの時」の割合が 57.6%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が 50.6%となっている。市全体と比較すると、「孫など家族との団らんの時」の割合が 57.6%で市全体よりも 7.6 ポイント高くなっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 87.7%で最も高くなっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「認知症の予防について」の割合が 48.2%で最も高く、次いで「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」と「生活習慣病(高血圧や糖尿病など)の予防や治療について」が 42.1%となっている。

介護が必要となった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 45.6%で最も高くなっている。

4 二丈圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

住まいの形態について、二丈圏域内の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 87.5%で最も高くなっている。家族構成については、「一人暮らし」の割合が 17.9%と他圏域と比較して最も高い地域である。暮らしの経済状況としては「やや苦しい」の割合が 32.8%であり、他圏域と比較して最も高くなっている。

移動手段について、二丈圏域内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が最も高く 65.0%で、「電車」の割合は市全体よりもやや高くなっている。一方で、「路線バス」、「タクシー」等の割合は他圏域と比較して最も低くなっている。

行政区・自治会への非参加率は 42.2%であり、市全体よりもやや低くなっていることから、比較的行政区・自治会への参加が行われている地域であると考えられる。

新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「低い」と判定された対象者の割合は 29.9%であり、他圏域と比較し最も高い。

主観的健康感では「とてもよい」、「まあよい」の割合が市全体より低く、「あまりよくない」の割合は 22.5%で他圏域と比較して最も高くなっている。有病率については「ない」の割合が 13.6%と市全体よりもやや低くなっている。一方、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」の割合が 11.4%、「目の病気」の割合が 22.8%とともに他の圏域と比較して最も高くなっている。肥満度は「低体重」の割合が 9.6%と他圏域と比較して最も高くなっている。

「生活機能低下」の該当率は 33.9%となっており、市全体より高くなっている。また、「運動器機能低下」、「閉じこもり」、「転倒リスク」、「栄養改善」、「口腔機能低下」、「虚弱」等の割合は他圏域と比較して最も高くなっている。

介護予防を目的とした事業の参加状況では、「参加したことがある」の割合が 15.2%で市全体よりもやや低くなっている。参加したことがある事業については、「ふれあいラボ」「フレイルチェック」の割合が 35.3%と他の圏域と比較して最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 31.0%で他圏域と比較して最も低い割合となっている。一方で、「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」や「特別養護老人ホームなどに入所し、施設で介護サービスを受けたい」の割合は他圏域と比較して最も高くなっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【一貴山小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、一貴山小学校区内(以下、「区内」)の内訳は、「持家(一戸建て)」の割合が 94.4%で最も高くなっている。家族構成について、区内の内訳は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が 36.0%で最も高い。市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」の割合が 1.6%で市全体より低くなっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 48.0%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 43.2%となっている。他小学校区と比較して「やや苦しい」の割合は最も高くなっている。外出する際の移動手段について、区内の内訳は、「自動車(自分で運転)」の割合が最も高く 72.0%、次いで「徒歩」が 36.8%となっている。市全体との比較では「路線バス」の割合が 4.0%で市全体より低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 64.8%で最も高くなっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 42.4%、次いで「目の病気」が 23.2%となっている。肥満度については「低体重」の割合が 13.6%であり、他小学校区と比較して最も高くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 32.0%で市全体よりやや高くなっている。また、「転倒リスク」、「栄養改善」等の該当率は市全体よりも高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 52.0%で最も高く、次いで「十分感じている」が 24.0%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 48.4%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」の 46.3%となっている。

介護に関する希望

介護・介助の必要性について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 88.0%で最も高い。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「認知症の予防について」の割合が 41.6%で最も高く、次いで「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」が 35.2%となっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 30.4%で最も高い。市全体との比較では「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が 20.0%で市全体よりも高くなっている。

【深江小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、深江小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 82.3%で最も高くなっている。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が 45.8%で最も高くなっている。市全体と比較すると「1 人暮らし」の割合が 18.8%と市全体よりやや高くなっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 48.4%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 33.9%となっている。

外出時の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が 59.4%、「徒歩」が 51.6%となっている。市全体と比較すると「電車」の割合が 31.3%と高くなっている。一方、「路線バス」の割合は 6.8%と低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 62.0%で最も高い。次いで「あまりよくない」の 20.8%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 49.5%で最も高く、次いで「目の病気」が 23.4%となっている。市全体と比較すると「ない」の割合が 11.5%と低くなっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 35.4%で市全体よりやや高くなっており、「運動器機能低下」(18.2%)、「閉じこもり」(16.7%)、「転倒リスク」(35.4%)、「口腔機能低下」(26.0%)、「認知症リスク」(53.6%)、「虚弱」(10.4%)等で市全体より高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 45.3%で最も高く、次いで「十分感じている」が 32.8%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 59.3%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が 50.7%となっている。

介護に関する希望

回答者の介護・介助の必要性について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 83.3%で最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が 9.4%となっている。市全体と比較すると「現在、何らかの介護を受けている」の割合は市全体より 3.5 ポイント高くなっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 47.9%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が 45.3%となっている。

介護が必要となった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 34.4%と最も高くなっている。

【福吉小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、福吉小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 88.5%で最も高くなっている。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が 45.0%で最も高く、市全体と比較すると「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合は市全体よりやや高い地区となっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 58.8%で、次いで「やや苦しい」が 21.4%となっている。

外出する際の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が 66.4%で、次いで「徒歩」が 42.7%となっている。市全体と比較すると「病院や施設のバス」の割合が 6.9%とやや高くなっている。一方、「徒歩」(42.7%)、「自転車」(7.6%)等の割合は市全体と比較して低くなっており、自動車移動が習慣化した地区であると言える。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 66.4%で最も高くなっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 43.5%で最も高く、次いで「目の病気」が 21.4%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 33.6%で市全体よりやや高くなっており、「運動器機能低下」(16.0%)、「閉じこもり」(19.8%)、「口腔機能低下」(26.0%)、「虚弱」(9.2%)等でも市全体より高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 44.3%で最も高く、次いで「十分感じている」が 31.3%となっている。生きがいを感じる時について、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 54.5%で最も高く、次いで「孫など家族との団らんの時」が 53.5%となっている。市全体との比較では「仕事に打ち込んでいる時」の割合が 33.3%で市全体より高くなっている。

介護に関する希望

介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が最も高く 81.7%となっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」と「認知症の予防について」の割合が 36.6%で最も高く、次いで「生活習慣病(高血圧や糖尿病など)の予防や治療について」が 32.1%となっている。

最期を迎える場所の希望について、区内の内訳は「自宅」の割合が 47.3%で最も高くなっている。「病院などの医療機関」は 32.8%で市全体と比較して高くなっている。

5 志摩圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

住まいの形態について、志摩圏域内の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が市全体より高い地域であり、回答者の94.5%が「持家(一戸建て)」となっている。家族構成について「息子・娘との2世帯」の割合が市全体より高い地域となっている。暮らしの経済状況について、志摩圏域内の内訳は「ふつう」の割合が58.5%で最も高くなっている。

外出時の移動手段について、志摩圏域内の内訳は、「自動車(自分で運転)」の割合が67.5%で最も高く、「自動車(自分で運転)」の割合は他圏域と比較して最も高くなっている。また、「路線バス」の割合も19.9%で他圏域と比較して最も高くなっている。一方、「徒歩」の割合は39.5%で他圏域と比較し最も低くなっている。

自治会・町内会への参加状況は「月1～3回」の割合が11.0%と他圏域と比較して最も高くなっており、他圏域と比較すると頻繁に自治会・町内会活動へ参加する人の多い地域であると考えられる。

主観的健康感について、志摩圏域内の内訳は「まあよい」の割合が69.5%で最も高くなっている。有病率では「糖尿病」の割合が17.3%で他圏域と比較して最も高くなっている。肥満の状況をみると「肥満体重」の割合が22.1%であり、市全体より高くなっている。

「生活機能低下」の該当率は30.5%と市全体より低くなっており、「運動器機能低下」や「閉じこもり」等の該当者も市全体よりもやや低くなっている。

介護予防を目的とした事業の参加状況では、「参加したことがある」の割合が22.1%で他圏域と比較して最も高くなっている。参加したことのあつる事業については、「ふれあい生き生きサロン」の割合が54.2%と他の圏域と比較して最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式はおおむね市全体の傾向と同様となっているが、「医療機関に入院して介護を受けたい」の割合は4.6%で他圏域と比較して最も低くなっている。

(2) 小学校区ごとの特性

【可也小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、可也小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 94.5%で最も高くなっている。また、市全体と比較すると「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合が低い地区である。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が最も高く 59.2%、次いで「やや苦しい」が 23.2%となっている。

外出する際の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が最も高く 65.7%となっている。市全体と比較すると「路線バス」の割合が 24.2%と市全体より高くなっている。一方、「徒歩」や「自転車」は市全体より低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 75.4%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 11.8%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 46.7%で最も高く、次いで「目の病気」が 17.3%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 26.3%と市全体より低くなっている。「運動器機能低下」、「閉じこもり」、「口腔機能低下」、「認知症リスク」等の判定では、該当率が3ポイントほど市全体よりも低くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 39.4%で最も高く、次いで「十分感じている」が 33.6%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 56.9%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が 53.6%となっている。市全体との比較では「夫婦団らんの時」の割合が 44.1%で市全体より高くなっている。

介護に関する希望

介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 87.2%で最も高くなっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 43.9%で最も高く、次いで「認知症の予防について」が 40.5%となっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 37.4%で最も高くなっている。また、「住宅型有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護サービスを受けたい」の割合は 9.0%で市全体よりやや高くなっている。

【桜野小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、桜野小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 98.5%で最も高く、他小学校区と比較しても「持家(一戸建て)」の割合が最も高い地区である。家族構成について、区内の内訳は「息子・娘との2世帯」の割合が最も高く 29.9%となっている。市全体と比較すると「息子・娘との2世帯」の割合が市全体より 10 ポイント以上高くなっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 52.2%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 35.8%となっている。

外出時の移動手段について、区内の内訳は「自動車(自分で運転)」の割合が最も高く 58.2%となっている。市全体と比較すると「病院や施設のバス」の割合が 14.9%で市全体より高く、「徒歩」(35.8%)、「自転車」(10.4%)は市全体よりも低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 64.2%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 17.9%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 44.8%で最も高く、次いで「ない」と「目の病気」がともに 17.9%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 38.8%であり、市全体と比較しても7ポイントほど高くなっている。「閉じこもり」(29.9%)、「認知症リスク」(64.2%)では市全体より 10 ポイント以上高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 43.3%で最も高く、次いで「十分感じている」が 34.3%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「孫など家族との団らんの時」の割合が 57.7%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が 55.8%となっている。市全体との比較では「趣味やスポーツに熱中している時」の割合が 28.8%で 20 ポイント以上低くなっている。

介護に関する希望

介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 83.6%で最も高くなっている。市全体と比較すると「現在、何らかの介護を受けている」の割合は 10.4%で市全体より 4.5 ポイント高くなっている。

健康維持や介護予防について知りたいことについて、区内の内訳は「筋力や歩行機能を維持・向上するための運動について」の割合が 49.3%で最も高く、次いで「生活習慣病(高血圧や糖尿病など)の予防や治療について」が 40.3%となっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 43.3%で最も高くなっている。

【引津小学校区】

暮らしの状況

住まいの形態について、引津小学校区内(以下、「区内」)の内訳は「持家(一戸建て)」の割合が 92.9%で最も高くなっている。家族構成について、区内の内訳は「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が 35.0%で最も高いものの、市全体と比較すると「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合は市全体より低くなっている。一方、「息子・娘との2世帯」の割合は 21.9%で市全体と比較すると高くなっている。暮らしの経済状況について、区内の内訳は「ふつう」の割合が 59.6%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 24.6%となっている。

健康状態

回答者の主観的健康状態について、区内の内訳は「まあよい」の割合が 62.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.6%となっている。有病率について、区内の内訳は「高血圧」の割合が 44.3%で最も高く、次いで「糖尿病」が 18.6%となっている。

生活機能

「生活機能低下」の該当率は 33.9%で、市全体と比較してやや高い。市全体と比較して「転倒リスク」、「口腔機能低下」、「うつ傾向」は3ポイントほど高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度について、区内の内訳は「多少感じている」の割合が 41.5%で最も高くなっており、次いで「十分感じている」が 35.0%となっている。生きがいを感じるタイミングについて、区内の内訳は「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が 58.6%、次いで「おいしい物を食べている時」が 52.9%となっている。

参加したい自主的活動について、区内の内訳は「活動・参加したいものはない」の割合が 36.1%で最も高く、次いで「健康・スポーツ(体操、歩こう会、グランドゴルフなど)」が 31.1%となっている。市全体との比較では「地域行事(地域の催しものの世話など)」の割合が 13.1%で市全体よりもやや高くなっている。

介護に関する希望

介護・介助の必要状況について、区内の内訳は「介護・介助は必要ない」の割合が 88.0%で最も高くなっている。

介護が必要になった際の生活様式について、区内の内訳は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」の割合が 36.6%で最も高くなっている。

最期を迎えたい場所の希望について、区内の内訳は「自宅」の割合が 53.0%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が 21.9%となっている。市全体との比較では「特別養護老人ホームなどの介護施設」の割合が 20.2%で市全体より5ポイント以上高くなっている。

令和7年度 糸島市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
調査結果報告書
発行年月 令和8年3月

発行：糸島市 健康福祉部 介護・高齢者支援課
〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目
TEL：092-323-1111（代表）
FAX：092-321-1139